

自明治三十七年四月
至同年五月

清韓兩國經界
劃分建議
書範
件

名 芑

清
韓
國
經
濟
學
關
於
建
言
雜
件

目次

一 中井喜太郎

二 釜山日本人商業會議所

三 澤末太郎

四 立花某

五 博多商業會議所會款古田清藏

六 中西讓一

七 同仁會會長大隈重信

此件係
同仁會
所存
古田清藏
手書

七

戰後滿洲經營
關之聲東兵站監
見上中四

八 安田善次郎

九 岩永覺重

十 早川龍介

十一 根津一

十二 湯山成三

中井喜太郎

MT

11233 00003

敬啓

別紙韓國經營ノ関スル意見
拜呈仕候間何卒御一覽ニ預リ
度此段奉願候也

京城日本居留民長

三月三十一日

中井喜太郎

小村外務大臣

閣下

MT

11233

00004

韓國經營十策

一 韓國政府ヲシテ文官登用試験ヲ設ケテ
文明ノ學術ト日本語ヲ試験ニ提供セシ
メ以テ官吏ノ腐敗ヲ矯正シ政治ノ改善
ヲ誘導シ且ツ日本の思想ヲ深ク韓人ノ
腦裏ニ注入シテ保護ト同化ノ實ヲ舉ゲ
ルニ勗ムベキ事

一 韓國政府ヲシテ日本ト貨幣同盟ヲ結デ
日本ノ貨幣ヲ韓國ノ貨幣ニ代用セシメ
又我國ハ之ニ依テ多額ノ補助貨ヲ韓國

ニ輸入散布シテ以テ日韓貿易ノ圓滑ヲ
圖リ且ツ韓國ニ於ル經濟上ノ實權ヲ全
然掌握スベキ事

一韓國政府ヲシテ日本ノ如ク永代借地權
ヲ外國人ニ付與セシメテ生産限局人口
増加ニ困難セル日本人ニ向ヒ廉價ナル
土地ノ收得ニ便利ナラシメ以テ大ニ東
亞大陸ニ我が民族ノ膨脹ヲ企圖スベキ
事

一日本政府ハ將來製鐵所ノ製鐵原料トシ

テ韓國ノ鐵鑛ヨリ鑛石ヲ輸入スル方針
ヲ執リ又韓國政府ヲシテ稷山金鑛ヲ放
棄セシ代リニ咸鏡道定平金鑛ノ採鑿ヲ
特許セシメ以テ韓國ニ於ル日本人ノ鑛
業ヲ盛大ニセシムベキ事

一韓國政府ヲシテ鴨綠江口ノ龍岩浦豆湍
江口ノ雄基灣ヲ開港セシメ又平安道黃
海道沿海ノ漁業ヲ外國人ニ公許セシメ
此ノ兩港ヲ根據トシテ滿韓貿易ノ咽喉
ヲ扼シ且ツ大ニ日本海黃海ニ於テ漁業

ヲ營ムベキ事

一京義鐵道ハ途中其線路ヲ變更シテ寧邊
ヨリ鴨綠江ノ上流楚山ニ至ラシメ又義
營鐵道ノ計劃ヲ廢メテ楚山ヨリ滿州ノ
懷仁興京ヲ經テ奉天ニ達スル鐵道ニ替
ヘ以テ滿韓最上ノ富源地ヲ拓殖シ且ツ
韓國ト歐羅巴西比利亞滿州トノ交通ニ
最近捷路ヲ開クベキ事

一軍事費ヲ以テ京城ヨリ朔寧江界帽兒山
(マオエルシヤン)ヲ經テ吉林ニ直通

スル道路并ニ京城ヨリ元山會寧琿春ヲ
經テ、ニコリスノ直通スル廣濶ノ道路
ヲ築造シ以テ軍用的大道ヲ開キ且ツ我
ガ國民が東亞大陸ノ内地ニ於ル旅行住
居營業ニ向テ大ニ便利ヲ與フベキ事
一軍事費ヲ以テ京城電氣會社ノ電車電燈
ノ造營物并ニ其ノ電話架設權水道布設
權ヲ買収シ電話架設ハ政府事業タラシ
メ電車電燈ノ營業水道ノ布設ハ之ヲ京
城居留地ニ付與シ以テ韓國十三道ノ中

樞タル京城ヲシテ日本人が東亞大陸ニ
活動スル根據ノ日本的大都會ヲラシム
ヘキ事

一韓國政府ヲシテ其ノ電信局ニテ日本假
名ノ電信文ヲ取扱ヒ日本内地ノ電信局
ト電信ノ直通ヲ開キ電柱ニ日本電信線
ハ添架ツ許シ又韓國ニ於ル日本電話ト
朝鮮電話ノ直通ヲ開カシメ以テ日韓兩
國間ニ横ハル通信上ノ障礙物ヲ一時ニ
排除スヘキ事

一 韓國政府ヲシテ開港場ヲ有シ又ハ之ニ
接近スル河川并ニ外國行商ノ多數滯留
スル嶗崎港灣ニハ韓國ノ開港場ヨリ外
國船舶ノ航行ヲ許可セシメ以テ日本人
ノ韓國移住商業ニ便利ヲ與フベキ事

追加

一 日本内地ノ資本ヲ以テ不動産抵當長期
貸付ヲ主トスル銀行ヲ京城ニ其支店ヲ
各開港場ニ設立シ日本人ヲシテ全朝鮮
ノ耕地ヲ買収セシムル便利ヲ開クベキ

釜山日本人商業會議所



11233 00013

改正せし、之般に便宜トスルニ至テハ、明細ノ説明
ヲ欠キ美ノミナシ中ニ其如何ナル点ノ改正ヲ希望スル
要ニ明確トス又、單ニ自己ノ便宜ヲ考ヘテ
蓋シ、要求ト見做ル事モアリ或ハ事ノ概ハ此細ナル
海關手續ヲ規定シタル條目ニ止マリ、格別改正ハ
要ヲ認メサルモノモ有之ヲモ、所謂防穀令ノ基礎
タル第三十七款ノ改正、如キハ、夙ニ議論ヲ有之ヲ所
在降何方ハ考慮相煩度義ヲ有之ヲ
二、外國人ノ土地ヲ租借ヲ獲得セシムル
問題ニ關シテモ事既ニ多年ノ問題ト相成居其利益
必要ニ至テハ、何人モ肯クハ所ニ有之阻時、余全
道條路延長ト共ニ邦人ノ内地ニ移住スルモノ日
益多シ膏粱輻輳故ニ於テモ既ニ三千人ニ上リ美而

之、右等ノ内、土地家屋等：投資者ノ既ニ不敷
殊ニ昨今、農事：増田：内地人仕事、目的ヲ以テ
渡来スル有志者、毎便、數千ヲ數候様、趨勢
ニ付、於今、是等、投資者ノ權利、或程度
迄、公然：認定スルノ手段ヲ講スルヲ得ハ、吾國、經
済上：一大利便ヲ得ヘク、若シ直：所有權ヲ
認めタルノ義、困難ナリトモ、他ノ安當ナル權利
名、下：多少、公然、權利ヲ認めシテ、事、最も
望マシキ所、有之矣

三、海關長并、關吏採用方針

要點

一、日本人、或ラ之ニ充テントスルヲ：有之想フ、事情
許ス限リ、既ニ、銜、待遇、ニ上リ居、義、ト、思惟ス
ル、所、有之矣

四、韓國農事、改良爲ノ條件 將來

因習ノ久、惠ト、新政策依然トシテ改メザル今日
ニ於テハ、其實ニ頗ル困難ハ思惟重父ナルヲ覺テ
我移民政策ニ應用シテ各郡又各道ニ日韓
兩國政府保護ノ下ニ農事試驗田ヲ設置セシム
カ如キモ其ノ一法ニ可有之是カ細目ノ意見ニ至テハ
重シク南中ノ可及美

五、内地雜居ヲ容認セシム件 若シ内地雜

居ヲ容認セシムルセバ何レ國ノ法律ニ服從セシム
ヤ事ノ内題ニ至テハ未ダ意見ノ見合キモテハ唯現
時續々我邦民ノ内地ニ移住スルモノ多キヲ歟
皇ラ事實ニ認メシムルニ至リ 抑モ内地解放ノ後
將來朝鮮ノ一部ニ唱道セシ居美所ニテ土地

所有權問題、人團體として之を實行、利益を至す、
何人トモ異議ナキ所ナルモ是より起て起る中各種、
利害關係に至り、少くモ審議ヲ要す、又ナキ、且又
一時急遽、開放ヲ迫る如キ實行、点之困難
少カランヤキニ付、自見ニ依り成る、多ク、開港場
及内市場ヲ全国ノ要地ニ設ケシメ、其附
近、事實ニ於テ我邦民ノ移住を所ト相成る
ハ、昔前ノ事蹟ニ徴シテ明カナル以テ、後令現時
ニ於ケル必要ノ如何、ヲ不問、内市場、又開港場、
数ヲ多カラシメ、之ニ事ヲ希望スルモノニ有之、又、而シテ
之カ政府ノ設備トシテ、各内市場ニ特別ノ公銀
ヲ設置スル事ノ必要ニ差支リ、有之内敷現
設ノ領事館ヲ以テ管轄セシメ、又テ遺憾

ナカヘシ敬テ多額ノ經費ヲ要ス能ク其實ヲ
算ルルヲ得ヘシトスモノニテ

六 殖産興業ノ機關銀行ヲ置ク事 各種

ノ計劃ニ三有方者乎ニ於テ計劃セヨト云フ趣

既ニ周知致居早晚實現致候所ナルキモ卑

見ニ依テ各種銀行ノ多ク我政府ニ於テ監督

指揮ノ必要アリ將又或程度ニ於テ政府ノ保

護ヲ得ニ非ラハ十分ノ成功ヲ見ラズ能ハル

ベシ我外國貿易ニ於テ横濱正金銀行ノ如ク

韓國經濟上各種銀行ノ設テ見ルベキ直接

間接ニ政府補助及干渉ノ必要ヲ認ルモノニテ

七 日本債ヲ韓國ニ適用セシム件 韓國

經濟上一大ナル故障ニ韓債ノ不使ニ由リ申ス迄モ

無之時、貿易上ノ障礙多クミナシク多ク地方ノ如キ
白銅ノ流通ヲ見ス葉錢ノミヲ通貨トス地方ニ
在リ韓人收税上通極ノ不便不遇之地方實更ハ
其間ニ介シテ益、收斂ヲ恣ニセザル得サルニ至リ特ニ
葉錢ノ漸次廢減又ハ七失モ多キ其高
漸次不足ヲ告ケ取引上ノ不便ヲ醸シ其日債ナ
ホホ如キ地方ニ依リ高低異常ナリ不便名状スバ
カ不近ク空金無道ニ落成後ハ至ラハ其債主
ノ支拂又ハ貨物聚散ノ取扱等ニ今日ヨリ一屬
甚重ノ不便ヲ生スルニ至ルヘシト認メテ夫レ然現時ニ
在テ我債主救済ヲ以テ直ニ韓國一般ニ流通ヲ欲セ
ハ蓋シ至難ノ業ニ屬シ夫レ事ナルヨキ付漸ク逐ク
之カ目的ヲ達シ夫レカ少

一 韓國政府ヲシテ其貨幣ヲ名目上我貨
幣ト同一量目ニ改メテ地方收稅等ニ我貨
幣ヲ納入スルヲ許可セシメ、
地方ニ於テハ郡衙ニ於テ舊錢ヲ日貨ニ
換算シテ我邦人ノ手形又ハ小切手ヲ以テ納入セシ
ムノ便法ヲ執ルモアリ

二 京釜鐵道會社ニ於テハ債主ヲ斷然日本
債ト一定シ韓人ノ爲ニ特ニ停車場ニ西替
店ヲ設ケテ韓債ヲ時相場ニ依リ日貨ト交
換セシメ韓人ヲシテ日債ノ差支ナリ韓債ト同
一購買力ヲ有スルヲ知ラセ、
漸次日債ノ便利ナルヲ悟ラセ、
舊所ノ必要ナキニ至ルヲ思惟スルモノニ至

三、第一銀行、小額銀行、爲に限り、東洋爲に、時價
ニ依り、轉貸ト引替ニ由リト、第一銀行ハ
漸次必要ニ應じ、内地ニ出張所ヲ設ケ、計
劃ニ據テ、開及、所至、處、高、地方ニ於テモ、大
邱、下所、近々、設置、都、合、字、由、有、之
其、六、之、等、出張所ニ於テ、小額銀行、爲
即、最近、發行、五十、圓、二十、圓、十、圓、券、紙、幣、ニ
限リ、轉貸、引替、ヲ、モ、テ、キ、該、備、ヲ、充、テ、モ、多
少、業務、ノ、煩、シ、キ、ト、打、消、ノ、損、失、ハ、免、シ、難、シ、ト
ス、モ、轉、入、ヲ、モ、テ、因、紙、幣、ニ、慣、シ、シ、ノ、漸、次
之、カ、流、通、ヲ、見、ん、ニ、至、ラ、ン、ト、モ、キ、便、法、ト、思、惟、ん
モ、有、之、現在、当、地方ニ、流、通、ス、ル、京、金、銀
道、請、負、組合、ハ、發行、ス、ル、轉、入、手、形、ノ、引、替

多クシテ流通少ク多少結果ノ面白カラシム
但今信用ナカニテ設備ノ方法便敷ヲ
得カニ基固ニモテ一銀行ニ於テ之カ煩ヲ
厭フナリテ引換ヲ實行セバ左程ノ敷ヲ
得テ能ク其流通ノ見合ニ要すナリト存
在モノニ有之矣

右等ノ方法ヲ採用シテ可成速ニ我貨幣ノ流通ノ事
實上見合ヲ得ルニ至ル彼我ノ便利不少ト爲スルモ
右別紙建議書進達書及重要件ニ其敬具
同文林後便ニモ申進置ス

明治三十七年五月二十四日

在金山

領事 有吉明



外務大臣男爵小村壽太郎殿



11233 00024

建議書



11233 00025

甲第百六號

建議

對韓經營、現状不安ズベカラザルハ愚者モ尚之ヲ知ル然レモ現在
以上ノ發展ヲ期セントセバ或時期ヲ見テ經營ニ伴フ幾多ノ
法律規定ヲ改正シ又ハ更ニ幾多ノ新事業ノ施設ヲナサザル
可ラサルハ勿論義ト確信仕候吾商業會議所ハ夙ニ其必
要ヲ認メ日韓條約中改正ヲ要スベキモノ若クハ新施設タル
農事ノ改良ヨリ海關吏員任用ノ件其他種々請願若クハ
建議スル處有之閣下ニ於テハ之ニ對シテ失々御盡瘁被下
候事ハ當所ノ多謝スル所ニ有之候去レドモ時期未タ到來セザ
リシガ故ニ右ノ希望ハ現實スルニ至ラズ今日ニ至リ候ハ遺憾
至極ニ候ヘ共不得止ノ事ト存候然ルニ今ヤ端ナクモ日露ノ

開戦トナリ皇軍連戦連捷ハ旺ニ勢力範圍ヲ擴張シ現ニ
其結果トシテ日韓兩國協約ナルモノ交換セラレ韓國ハ恰モ
我日本ノ保護ノ下ニ行動スル事ト相成候ハ我對韓經營ヲ
進ル千載一遇ノ時期ニシテ此期ヲ逸セズ我利權ヲ積極
的ニ發展セシメ我利權ヲ擴充スルト同時ニ韓國ノ福利ヲ
開展セシメザル可ラス而メ這般ノ大方針ヲ事實化セントセバ此
際日韓條約ヲ改訂シス農事ノ改良土地所有權ノ獲得其他
諸般事業ノ經營施設ヲ容易ナラシメザルベカラズト存候嘗テ某
等、此事ヲ在韓日本人商業會議所聯合會附議セントスル
ヤ林駐韓公使ハ某等ニ演說セラレテ曰ク日韓條約ノ改正ヲ
行フベキ時期ハ過去ニ於テ確ニ之レ有リシナリ即チ明治二十七
年其時期ニシテ交戦ノ止ミ平和克復サレテ後ハ韓國ニ於ケル

日本利益ヲ保護スベキ利器ハ唯一條約アルノミ故ニ當時ニ於テ
能ク其條約ヲ吟味シ改正スベキ之ヲ改正シタリシナランニハ日本ノ
利益ハ安全ナリシニ當局者モ人民モ共ニ皆條約改正ノ事ニ思
ヒ到ラザリシカ爲メニ好機空シク逸シ去リテ今ヤ大ニ至難トナレ
リ故ニ之ヲ改正センニハ再ビ來ルベキ時機ヲ待タザルベカラスト
爾リ寔ニ公使ノ言ノ如シ故ニ某等ハ遺憾ヲ忍ビテ所謂時
期ノ到來ヲ待テツ、有之候處日露ノ開戦ハ列國ヲシテ我ノ對韓
政策ヲ是認セシメ韓國モ亦タ進ンテ我レニ信賴スルニ至リ候
息フニ公使ノ所謂廿七八年ノ時期ヨリモヨリ一步ヲ進メタル
最好時期ト確信仕候依テ此際出來得ル限り我利權
ヲ擴張シテ其勢力ヲ永久ニ確保セシメ度候付茲ニ閣下ノ
御同情ヲ得別紙提案ニ付十分ノ御盡力ヲ仰キ一日モ早ク

本案實行ノ日ヲ見シコト希望ニ不堪候猶ホ本建議ニ付テハ
一々具體的ニ上申可致答候得共前述候通り本建議ノ
大部分ハ既ニ當所又ハ他ノ會議所ヨリ再三建議請願候事
項ニ有之候ノミナラス現條約ノ如キハ根本的ニ改正ノ必要ヲ相認
ノ候付態ト具體的ノ成文トナサバリニ次第ニ御座候間左様
御承知被下度候

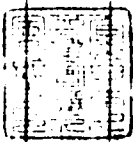
右本所ノ決議ヲ以テ謹テ及建議候敬具

明治三十七年五月十八日

在韓國釜山日本人商業會議所

會頭 生尾久治

外務大臣男爵小村壽太郎殿



一日韓條約改正件

理由

日韓貿易ノ發展資シ對韓經營ノ良善ヲ圖ラントセバ須ラク
之伴フ條約規定ノ完璧ヲ期セサルベカズ今日吾々が其目的向ツ
テ自由行動ヲ爲スニ妨ケサル權利ヲ獲得スルハ焦眉ノ急務ナル
ベト信ス今ヤ我邦人韓國經營ニ力ヲ致サントスルモノ多ク陸海ニ
新事業ヲ施設經營シ亦將サニ之レヨリ着手セントスルモノナキニ
アラスト雖モ彼日韓間ニ規定サレタル條約ニ往々吾々ノ行動ヲ妨
害シ自由ヲ拘束スルモノアルヲ以テ中途ニ之ヲ放擲シ又ハ條約保障
薄弱ナルニ危惧心ヲ惹起シ初志ヲ翻スモノ少ナカラズ之レ寔對
韓經營上憂フべき現象ニアラズヤ試ミ條約中ノ一ナル通商章
程中差當リ改正スべき項目ヲ列記スルモ猶ホ左ノ十數項ヲ舉ゲ得

一第 三十七款 (防穀令件)

二第 十五款 (手荷物通関税件)

三第 十八款 (内地通商件)

四第 十八款 (海関規定件)

五第 十七款 第二十三款 (爆發質危險質貨物件)

六第 十一款 第二十三款 (検査場及借庫件)

七第 十二款 (通関監定價格件)

八第 四十款 (海関税金件)

九第 十二款 (監定不服件)

十 税率改正

十一第 十六款 (無税貨物件)

十二第三十二款（不開港商賣件）

十三第四十一款（漢業件）

右外

一上屋暫貯規則第四條改正件

二輸出入品通關願書改正件

三外國全土地家屋所有權ヲ擴張スル件

四紅參ノ自由賣買ノ件

五開市場増設件

六輸出入税領収証發給件

單通商章程ニテ此ノ如シ若夫他ノ諸條約ヲ仔細ニ研究セバ
寧ろ根本的改正ヲ行ヒ更ラニ時世相當ノ條約ヲ締結スル必要ヲ
見ルベシト信ス之ニ本案ヲ提出セシ理由ナリトス

二外國人ノ土地所有權ヲ獲得スル件

理由

韓國地味膏沃シシ其農業國タル事ハ内外一般認ル所ナリ夫然シ
トモ從來ノ狀態ヲ以テ之ヲ見ル其畧具ハ整備ヲ欠ク其耕作方法ノ
幼稚ナル全國至ル所荒廢サレタル天然ノ寶庫ヲ開拓スル望ハ到底之
ヲ韓人ニ屬スベカラス善隣國トシテ實ニ慨惜堪ヘサル所ナリ當今在韓
日本國民が租界外一里以内ニ於テ土地家屋所有權ハ僅カニ英韓
條約第四款ニ均霑スルモノニシテ假令農事ニ志スルモノト雖モ是等ノ小區域
ハ既ニ韓人ニ於テモ相當施設ヲシツアリ其窮屈狹隘ナル殆トシ我邦人
手ヲ下スニ餘地ナシ而シテ我政府ハ移民規則ヲ改正シ本邦人韓國ニ渡
航スルモノヲテ頗ル自由ヲ得セシメタル結果挽回各地居留民ノ増加ハ實ニ驚
クベキモノナリ其渡者ノ目的タル固ヨリ區々ナルベト雖モ將來年々追テ増加

一、我邦人對シテ各其職ヲ得セシメ其業ヲ就カシムニ充分發達ノ餘地ヲ
 有セシムルベカラズ故ニ土地所有權ノ如キハ英韓條約均霑スルカ如キ狹隘ニ
 範圍ヲ定ム可キ宜シク之ヲ擴張シテ全國ニ及ボシ耕田原野未ダ耕
 サルヲ耕ヤシ山林將枯渴乏蘇ラントスルヲ栽培シ以テ韓人指導者ヨリ
 大農事改良ト山林培養力ヲ致サシメ一渡來邦民希望抱負トシ
 充分遂行スル得セシメ一ハ渡韓者ノ獎勵上至大關係ヲ生ズルニ至ル可ク以テ彼
 我人民ノ利産業ヲ發達セシム有資ノ邦人亦資本ヲ投下スル躊躇スル事
 ナル可シ故ニ際土地所有權ヲ獲得スル最大急務ノコトナリト信ス

二、韓國貿易額ニ最多額ヲ占ム外國人ヲ以テ關長及

官吏採用セシム件

理由

韓國貿易ノ大部分ハ日本人ノ經營スル處タリ而ルニ税關吏ノ多數ハ實

際貿易ニ甚ク關係薄キ國民ヨリ採用セラタリ故ニ平素百般事ニ
意思疎通セズ且ツ生産地ノ物價ヲ詳悉セサルカ故ニ其鑑定價格ニ公平
ヲ失テ常ニ隔靴搔痒ノ嘆多シ如此ハ日韓貿易發展ヲ阻害スルコト甚シ
依テ海關長以下吏員ハ韓國貿易額自最多額ヲ占ム外國人ヲ任用ス
ルコトモハ以上ノ遺憾ナルベト信ス

四 韓國農事ノ改良實行ヲ促ス件

理由

韓國農事改良ニ付テハ本所屢々請願スル所ニシテ其方法ノ如キモ嘗
テ詳シク駐韓公使ニ稟議セリ然ルニ韓廷ニテハ毫モ之ヲ實行セズ隨テ國
民從前ノ慣行ヲ改ムルコトヲサハルカ爲ニ年々被ル所ノ損失ハ幾許ナルヤヲ知
ラザラシ先來韓國ノ國本ハ農事ニシテ之ヲ發達ハ直接韓國ノ富強通
商發展ニ資スル大ナル故此際速ニ韓廷ヲシテ嘗テ本所ヲ始メ在韓國日

本人商業會議所聯合會ヨリ建議セル方法ヨリ之ヲ一般ニ實行セル様更
 う催生ロウ妙方ヲ執ラレシコトヲ切望ス

五韓内地雜居ヲ公認セル件

理由

韓内地ヲ開放シテ外人ノ雜居ヲ公認セルハ韓國ノ發達ニ多大ノ好機ヲ與
 フルモチリト信ス例セバ多數外人ノ住居セル居留地若ク外人ノ多シ雜居セル内地
 附近韓人ト毫モ外人ノ接セザル韓人ト比較セバ其發達ノ度合大懸隔セ
 ルモアリ之ヲ以テ見ルモ外人ノ内地雜居ヲ許スノ利益ナルハ勿論其雜居ヨリ
 受クルノ刺激ハ人智ヲ啓發スルコト歟ナラザルベシ況ニヤ刻下内地條約上
 雜居ヲ公認セスト雖モ事實於テ之ヲ默許セル姿ミナルハ故此際断然
 内地ヲ開放シテ外人ノ雜居ヲ自由ナラシムルノ方法ヲ講セシムコトヲ希望ス

六殖産興業ニ機關銀行ヲ設置セル件

理由

對韓經營殖產興業ニ重キヲ置カサルベカラズ而シテ殖產興業的經營ヲ
 進ムルハ長年月ト巨多資本ヲ要スルヲ以テ隨テ又ラ容易ナラシムル機關ナカル
 ハカラス則テ農工銀行若クハ勸行銀行の性質ヲ有スル銀行設置之ナリ
 由來韓國ニ第一五十八八三銀行支店アリ雖モ三行共上記ノ方面ニ放資
 スル機關トシテ其性質上之ヲ許サルモノアルカ故對韓經營發展シ圖ラニ
 ハ別不動産ニ對シテ長期貸出ヲナス機關ヲ設クル要アリト信ス之殖產興
 業的機關銀行ノ設置ヲ必要トスル所以ナリ

七韓國通貨改善ノ方法トシテ日貨ヲ韓國ノ共同

貨幣タラシムル件

理由

韓國貨幣制度ノ不完全ナルハ喋々ヲ要セザル所ニシテ之ヲ通商貿易上ニ及

ボス影響日決少シアラス。就中日銅貨ノ如キ信用最も薄弱ナルハ勿論多數
行使ヲ肯ゼズ交換自由ナラザルガ故ニ殆トハ區域貨幣タル過ヤズ而シテ金銀
貯蓄ニ不便ナリ帶困難ナル何レモ貨幣タル性質ヲ缺漏セリトスフモ誣言ニアズ
隨テ貨幣制度改善必要アルハ明白ナラ然レドモ現時韓國根本的改善ヲ
説クモ實行甚シク覺束キナリ爰以テ改善ノ容易ミテ且ツ日韓兩國利益ト便
益得ルノ方法タル日本通貨ヲ以テ共同貨幣トシ韓國一般ニ流通行使セシムベキ
トシ同時ニ金銀銅貨ノ通用ヲ禁止セシムバ其本位モ亦タ日本同一ニ金本位タル
實ヲ舉ゲ得バ旁々一舉兩全ノ策ト信ス而シテ生スル結果ハ相互ノ經濟
思ヒ多ク大ノ福祉ヲ與フル外何等ノ害トナレバキモノヲ認メズ依テ速ニ此方法ヲ
採ラレシコトヲ希望ス

澤末太郎

11/28/1904

警秘第五五二號

生
Hart 14

縣下選出衆議院議員澤末太郎(憲政本党)
負(時局政策ニ関シ總理大臣及外務大
臣ニ建言スル所アラントス其論述スル處、
別紙草案ノ如クニシテ尙未段ニ滿韓交
換ニ関シ日露間ニ交渉ヲ遂クル必要アリ
トノ意見見ヲ追加セントスル情况アル
モ考察未定ニ属セリ而シテ右ハ建言書
トシテ不日郵送ス一キ模様アリ
右及報告候也

明治三十七年六月廿二日

宮城縣知事田邊輝實



MT

11233 00040

外務大臣男爵小村壽太郎殿

MT

11233 00041

建言書

謹テ一書奉呈上候未夕親シク警咳ニ接スルノ榮ヲ
 不得候處軍國多事ニ際シ益御勇壯邦家ノ為
 ニ御盡瘁被下候般感佩至極ニ奉存候持ニ戰
 時ニ於ケル外交ノ至難ハ之ヲ平時ニ比シ一層御
 困難ノコト、恐察罷在候不肖素ヨリ其ノ器
 ニ非ス候モ東邦問題ニ関シ夙ニ憂慮スル所有
 之去ル三十四年清韓ノ兩國ニ遊ヒ聊カ彼國情
 ニ就テ密カニ視察スル所アリ帰朝直今ニ書ヲ裁
 シ時ノ國民同盟會首唱近衛公爵並ニ伊藤侯爵
 ニ對シテ愚見ヲ呈シタリシモ時至ラス機熟セ
 ス遂ニ之ヲ現實ニスルヲ得サリキ然ルニ今ヤ端
 ナク日露干戈相見ル、時ト相戕不肖往年ノ宿論

之ヲ現實ニスルノ時ト確信仕候ニ付茲ニ拙案ノ要
領ヲ掲ケテ惡意ノ存スル所ヲ述ヘ保セテ萬一、
御参考ニ奉供上候

顧フニ東洋和乱ノ繫ル所ハ清ニアラス又露ニアラ

スレテ全ク韓ノ一國ニ存スルユトト被存候是ノ故

ニ東洋問題ヲ解決セント欲セハ須ラウ先ツ對

韓ノ策ヲ確立セサルヘカラス而シテ對韓ノ策ヲ立

ント欲セハ須ラウ又露ト戰ハサル可ラサルハ自

然ノ勢ヒト存候然リ東洋問題ノ解決全ク我ノ

韓國ニ處スルノ如何ニアリトスレハ對韓ノ策至

テ輕少ナルカ如クニシテ而モ其關スル所ヤ重且大ナリ

ト言ハサル可ラス案スルニ從来我國朝野政事

家ノ言議ニ束レル所謂對韓ノ策ナルモノ區々

有之候得共之ヲ総フルニ左ノ三策ニ過キス候

一飽マテ韓國ノ独立ヲ扶植スヘシ

二強カナル干涉ノ下ニ保護國タラシムヘシ

三略シテ以テ全然我屬邦タラシムヘシ

然ルニ第一策ノ勞シテ効ナキ今更言フヲ俟タス

而シテ其第二策ニ至リテハ彼ヲシテ独立セシメ

タル以來屢々試ミテ屢々失敗シタルノ實跡ニ

徴スルモ到底不可能ノコトニ屬ス是ニ由テ之ヲ

觀ルニ日韓議定書ノ前途モ亦々知ルヘキノ

ミト存候而シテ又其第三策ニ至リテハ廿七

八年役ニ於ケル我ノ宣言ニ鑑ミ寧ロ背信沒義

ノ極ト被存候以上ノ三策既ニ殆ント絶望的廢

棄ナリトスレハ更ニ以外ノ策ヲ講シテ之レニ處セ

サル可ラサルハ蓋ニ當然必至ノ要下奉存候茲ニ
於テカ不肖ヲ顧ルニ違フラス敢テ愚案ヲ呈シテ
御高覽ヲ煩ハレ奉ルノ止ムナキ次第ニ御座候
然リ而シテ不肖ノ所謂對韓ノ策之レニ若カストナ
スモ、ハ之ヲ要スルニ断シテ日韓ノ聯邦ヲ期スルノ一
途アルノミニ御坐候而シテ之ヲ期セント欲セハ固ヨ
リ巧妙ナル外交ノ手段ニ待タサル可ラス巧妙ノ手
段ヲ講ヘント欲セハ又其術ヲ施スニ最モ適應セル
好機ニ取セサル可ラス恰モ好シ今ヤ日露干戈
ヲ交テヨリ救軍ノ向フ所連戰連捷殆ント前ナシ
君レ夫レ戰勝ノ餘威以テ外交ニ資スヘキモノアリト
セハ正ニ之レ千載一遇ノ好機ト被存候此時ニ際
シ閣下ノ聰明ナル風ニ御賢慮ノ存セラル、事ト

奉忍察候得共伏テ冀クハ此ノ好機ヲ逸スルコト
ナク依テ以テ東洋禍乱ノ根本タル韓國ニ對シ速
カニ日韓聯邦ノ實ヲ期セラレシコトヲ祈萬精ノ至
リニ不耐候改メテ申述候迄モナク聯邦ハ彼我主
權任意ノ發動ニ出ツルモノニシテ決シテ第三國
ノ容喙若クハ干渉ノ餘地ナキモノト確信仕候唯
其レ東洋永遠ノ平和ヲ保持センカ爲メニ彼我
聯邦スヘシト云フノ提議ハ之ヲ我ヨリ爲サスシテ
彼ヨリ爲サシメサル一カラス而シテ之レヲ爲サシムルハ
事態甚至難ニ屬スト雖臣閣下ノ御聰明ナル優ニ
方寸ノ間ニ存セラル一キ儀ト深ク信認スル所ニ
御坐候言意ヲ盡サス書外他日拜謁ノ榮ヲ得テ
具サニ可奉陳述候恐惶頓首

月日

衆議院議員澤末太郎

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿
外務大臣男爵小村壽太郎殿

閣下

MT

11233 00047

立花集

MT

11233 00048

上
税関

三花抄付

下
花

内田公使（呈出せし第五回意見書）

日魯戦争終結後ニ於ケル清國税関内日本人
配置案 明治三十七年四月三日稿 立花

立

日魯戦争終結ノ時機ハ固ヨリ豫知スル能ハガレ
ヲナリト雖モ今ヨリ戦勝後清國税関ニ於ケル日
本人配置ノ事ヲ講ズルモ決シテ早計ニ非ガレ
ヲ確信ス蓋シ税関ニ於テハ外部ノ者ヲ直ニ
税関長ノ地位ニ採用スルハ未タ其先例ナ
ク而シテ現時在職ノ日本人ハ概シテ下級ニ
アルヲ以テ一躍税関長タルハ到底之ヲ望ム
ベカラザレバナリ
漢口税関長ノ地位ハ大抵英人ニ與フル
牛莊税関ニハ魯國人ヲシテ税関長ノ

MT

11233 00049

事務ヲ執ラシムル膠州税関ニハ殆レト
皆獨ニ人ノミヲ用ユル上海税関長又ハ
副税関長二名ノ内一人ハ大抵佛人タル
一等ハ注意ヲ要スル件ナリト思考ス
税務司(税関長)副税務司(副税関長)日
本人六名

(一) 戰勝當然ノ結果トシテ九ノ四ヶ處ノ内
少クモ二ヶ處ニハ其税関長又ハ副税
関長トシテ必ズ日本人ヲ採用スル

(附) 九ノ四ヶ處ノ税関長又ハ副税関長ノ
地位ハ魯佛兩國人ニハ決シテ之ヲ
與ヘス可成日英米三國人ニ限ル

牛莊

安東縣

奉天府

天東溝

ノ内二名

(二)

日本が關キタルノ縁故ヲ以テ虎ノ四ヶ處

ノ税関長又ハ副税関長ニハ关ス日

本人ヲ採用スル

沙市

長

沙

蘇州

杭

州

四名

幫辦

(Assistant)

日本人十六名

貿易上ノ關係ヨリ虎記ノ如ク幫辦

ヲ配置スルヲ要ス

牛莊

奉天府

安東縣

ノ内第二項記載ノ日本税関長又ハ副税

関長アラザル他ノ二ヶ處ニ一名宛

計 幫辦	厦門	杭州	漢口	天津	大東溝
	二名	一名	二名	二名	(
又ハ	福州	蘇州	重慶	上海	
	二名	一名	一名	三名	
副税関長	十六名	十六名	十六名	十六名	

假令此案ヲ精確ニ實行スルハ困難ナレベ
 キモ此方針ヲ以テセバ違算ナキニ
 庶幾カラレカ
 以上



博多商業学校
太田吉蔵

MT

11233 00053

牧四卷六二一。号

一三七八

戰時及戰後、經營、関元義、付博多商業
會議所會頭太田清藏、別紙之通関申
書提出候、付及進達候也

明治三十七年十二月十四日

福岡縣知事河島 醇

外務大臣羅爵小村壽太郎殿

MT

11233 00054

戰時及戰後ノ經營ニ関スル義ニ付開申

現下我帝國ハ隣強ト文戦ニ現ニ連捷ノ功ヲ奏セリ
終局ノ必スヤ我全勝ニ歸シ隨テ大ニ世界ノ通商ニ
資益スヘキハ本會議所ノ疑ハサル所ナリ此際商工業
者タルモノハ堅忍持久進ミテ戰時及戰後ノ經營
ヲ立テ他日世界ノ市場ニ向テ大ニ新勝國民ノ勢力
ヲ振張スルノ計ヲ為サルヘカラス仍テ茲ニ其方策ニ付
意見ヲ開申シ以テ政府當局ノ採擇ヲ請ハント欲ス
資本ノ充實

凡ソ國家ノ健全ナルヲ發達ヲ期セントスルニハ先ツ資本ヲ
充實シ以テ國力ヲ涵養セサルヘカラス而シテ資本ヲ
充實スルノ方法一ニシテ是ラスト雖特ニ重要ナル

モノハ左ノ如シ

一、法律命令ヲ改正シ内外資本ノ共通ヲ容易ナ
ラシムルヲ

立産業ノ獎勵

立産業ヲ獎勵スルノ手段ハ或ハ國家經濟ノ方針ト
題シ或ハ保護政策ト稱シ全國商業會議所カ
常ニ政府當路ノ參考ニ供シタルモノナリ今ハ唯タ之カ
獎勵ノ要旨ヲ掲ケテ當局ノ着々實行セラレシヲ
望マントス

一、輸入品中内國ニ於テ生産シ得ヘキモノ、工業ヲ發
達セシメ輸入ヲ防遏スルヲ

一、輸出ニ適當ナル工業ヲ獎勵シ輸出ノ増加ヲ圖ルヲ

一、政府需用ノ物品ハ内國産ニ頼リ内國産保護ノ精神ヲ助成スルヲ

一、現行協定稅率ヲ廢止スルヲ

一、現行條約上實行シ得ヘキ海關稅率ノ改正ハ速カニ實行シテ以テ内國ノ生産ヲ獎勵スルヲ

一、重要輸出品ニ對シ鐵道運賃ヲ遞減シ及遞送速達ノ制ヲ設クルヲ

一、航海獎勵法ノ保護ヲ受クル船舶ニ對シ特別運賃ノ制ヲ設ケ内國生産ノ輸出ニ便利ナラシムルヲ

一、製造原料ノ輸入ニ對シ為替取組其他ノ便ヲ計ルヲ

一、工業試驗所ヲ擴張シ且新ニ工業品模範

工場ヲ設立シ技術ヲ練磨シ製造ノ發達ヲ

獎勵スル

一、輸出貿易品共進會ヲ開催シテ内國産業ヲ

獎勵スル

一、萬國博覽會ヲ開催スル

一、巡航商品陳列船ヲ設クル

一、實業學校ヲ増設シテ高工業者ノ智識ヲ啓發

スル

一、高工練習ノ為ノ有為ノ青年ヲ海外ニ派遣シ及

視察ノ為メ渡航スルモノヲ保護シ以テ海外ノ

事情ヲ熟知セシメ高工ノ事業ニ練達セシ

ムル

一、重要物産同業組合ヲ督勵補助シ其業務ヲ

釐革シ其弊害ヲ矯正スルヲ

滿韓ノ經營

戰後我商工業ハ之ヲ海外ニ擴張セサルヘカラズ就中
滿韓各地ニ對シテハ今ヨリ之カ着手ヲ為シ戰
線ノ擴張セラレテ秩序ノ回復ミタル地方ニハ速ニ相
當ノ施設ヲ為シ以テ我商工業發展ノ地歩ヲ立テ
ラレンヲ望マントス

一 東洋銀行ヲ創設スルヲ

一 滿韓兩地ノ幣制ヲ改良スルヲ

一 滿韓兩地ノ警察制度ヲ改良スルヲ

一 漁業權ヲ擴張スルヲ

一 滿韓ニ於テ新タニ開港市場ヲ設ケ貿易ヲ自

由ナラシムル」

一、滿韓ニ於ケル鑛道其他通信事業ハ可成本邦人ヲシテ經營セシクル」

一、滿韓ニ於ケル沿海及河川ノ航運事業ハ可成本邦人ヲシテ經營セシムル」

一、滿韓ニ於ケル鑛山採掘其他製造工業ヲ自由ナラシムル」

一、滿韓ニ渡航スルモノニ便宜ヲ與ヘ營業ノ安固ヲ圖ル」

一、海外ニ於ケル會社組織ヲ容易ナラシムル為メ商法其他ノ法令ニ相當ノ修正ヲ加フル」

一、滿韓經營ニ関スル調査機關ヲ設クル」

一、政府ハ滿韓各地ノ高工業其他ノ實況ヲ汎ク
一般商工業者ニ知ラシムル

殖民ノ獎勵

我カ労働者ヲ海外ニ移殖スルノ必要ナルハ今更言
フヲ俟タス今ヤ我國民ハ海外各地ニ歡迎セラレ
殊ニ滿韓各地ノ我カ勢力ノ範圍トナルニ於テハ一層其
必要ヲ認ム政府ハ此降速カニ殖民政策ヲ確立
シ以テ之ヲ保護獎勵セラレシムルヲ望ム

外人來遊ノ勸誘

來遊外人ノ我内地經濟及外國貿易ニ多大ノ関
係アルハ又多辯ヲ要セス而シテ之ヲ勸誘セントセハ
先ツ旅館其他ノ設備ヲ充分ナラシメサルベカラス故

ニ差當リ通稱人旅館營業者外人向商品小賣
商等ノ不正行為ヲ嚴重ニ取締ルノ必要ヲ認
ム政府ハ此等ニ對シ適當ノ制度ヲ設ケラシム
望王ム

之ヲ要スルニ戰捷ノ効ヲ收ムノ手段トシテ今日ニ實行
スヘキモノハ内ニアリテハ資本ヲ充實シ産業ヲ獎勵
之外ニ在ツテハ海外就中滿韓ニ必要ノ施設ヲ爲シ
且ツ殖民ヲ獎勵シ以テ商工業發展ノ地歩ヲ作ルヨ
リ急ナルハナレ是レ時局ノ發展ニ伴ヒ益之レカ施設
ノ急ヲ要スル所以ナリ願ハクハ賢慮ヲ垂レ給ハシム

右本會議所ノ決議ニヨリ謹ニテ開申仕候也

明治三十七年十二月五日

博多商業會議所

博多商業會議所

業田藏

會頭太田清藏

博多商業會議所
會頭之印

限山田

外務大臣田力爵小村壽太郎殿

MT

11233 00063

滿韓に於ける施設經營、固る義に由建議

滿韓に於ける富源ヲ開發シテ利權ヲ扶植スルハ帝國戰後ノ經

營上最モ緊要ノ事ナリト信ス此ハ於テ政府ハ夙ニ之ヲ獎勵セシ

民間亦進ンテ大ニ之ヲ經營シ行ハントシ前途ノ成功期ヲ待

ツベキモノアルカタルヲ雖モ其實際落ッ查察スルハ滿韓に於ける

企業ハ未ク彼國ノ法制及實業設備ノ不完不備ナルカ爲メ

充分ノ發展スルニ至ラズ故ニ邦人ノ企業ハ往々之ヲ豫想ニ反

シテ蹉跌失敗ノ不幸ニ陥リ其結果將來ニ於ける滿韓ノ經

營ヲ阻喪傾圯セシムルハ慮ナレトセザルナリ依テ我政府ニ於テハ此際

滿韓ニ於ける富源開發ノ利權扶植ハ最モ緊切ノ關係ニ

在記事項ニ對シ急速改善ヲ加ヘ以テ邦人ノ施設經營ニ

便益ヲ與フニ爲メ宜ニ機關ヲ措置ヲ執リシテ切望ニ堪

一 滿韓各港々灣設備シ改善スル

二 滿韓各開港場、税関設備シ改善スル

三 滿韓ニ於テ我邦人ノ土地家屋ノ所有シ公認セシムル

四 滿韓ニ於テ殖産興業、放資スル金融機關ヲ設クル

五 滿韓ニ於テ輸出税ヲ廢止スル

六 滿韓内地極要ノ道路橋梁ヲ改善スル

七 滿韓連絡ノ鐵道ヲ完成スル

之ヲ要スルニ戰後經營ノ急務トシテ今日ニ實行スベキモノ内、

アリテハ資本ノ充實ヲ謀カ、産業ヲ獎勵シ外ニ、滿韓

必要ノ施設ヲ為シテ我商工業發展ノ地歩ヲ確立スルヨリ急

ナリナキナリ故、這般長崎佐賀久留米熊本博多下関

韓團元山等各國係商業會議所役員聯合會ヲ当地ニ開催シテ之ヲ要望意見ヲ決議スルに至リ願ハク閣下輿論ノ在所ニ同察セリ採納ノ榮ヲ給ハシム

右謹ミ建議仕候也

明治三十九年二月五日

博多商業會議所

會頭 大田清

藏

外務大臣加藤高明殿

中西讓一

MT

11233 00068

穀物輸入税、關スル請願書

韓國群山農事組合組長中西讓一謹而農商務大臣男爵清浦奎吾閣下、請願ス

第二十一帝國議會提出ノ新稅計畫ヲ案ズル、在韓帝國臣民ノ經營上、多大ノ影響ヲ及ボスベキモノ一事アリ即チ輸入穀物稅ノ増徴是ナリ近年本邦内地ニ於ケル食料品ノ不足ハ最モ顯著ナル現象ニシテ今ヤ海外諸國ヨリ米穀類ノ本邦ニ輸入セラル、モノ毎年二千萬圓乃至五千萬圓内外ノ巨額ヲ示シ之ヲ最近五年間ノ貿易年表ニ徴スル、毎年ノ輸入平均額ハ優ニ參千萬圓ヲ超過セリ而シテ是等輸入米穀類ノ一半ハ韓半島ヲ以テ其主產地トナス現、我群山地方ヲ中心

トシテ仁川水浦釜山等ノ諸港ヨリ本邦ニ供給スル米穀類ノ數量ハ年々少ク凡百萬石ヲ降ラス夫レ韓半島ハ純然タル農業國ニシテ其主要物産ハ云フ迄モナク米穀類ナリ近時日韓兩國間ノ通商次第ニ旺盛ニ赴キ其貿易額大約二千五百萬圓ニ上ルニ至リタリト雖モ要スルニ彼我貿易上ノ關係ハ韓國產ノ米穀ヲ供給シテ本邦產ノ諸商品ヲ需要スルニ過ギズ即チ日韓兩國間ニ於ケル貿易ノ消長ハ一ニ米穀類ノ趨勢如何ニ歸着スルモノトス且ツヤ輒近半島經營ノ上ニ顯著ナル進歩ヲ來シタルモノハ農事發展ノ現象ニアリ試ニ我が群山地方ニ於ケル最近一ケ年間ノ農事成績ヲ以テ之ヲ見ルニ本邦人ノ買収セル耕地ノ面積四千町步其

投資金額四拾余萬圓ニ達シ之が耕地ノ所在郡教十八
郡ノ廣キニ亘リ群山農事組合ニ加盟セル同胞地主ノ
人負六拾餘名ヲ數フルニ至シリ近時群山地地方ニ於テ
ハ資本家ノ渡來月ヲ逐フテ頻繁ヲ加フルノ傾向ヲ呈
シ近キ將來ニ於テ其經營更ニ數倍ノ新發展ヲ見ント
スルノ現況ニアリ之ト共ニ木浦釜山方面ヲ始ノトシ
京釜沿線ノ農事經營亦遠カラズシテ長足ノ進步ヲ來
スベキハ疑ヲ容レザル所ナリ韓半島ニ於ケル農事ノ
發展斯ノ如ク顯著ナルニ伴ヒ農產物ノ供給益々増進
ヲ來シ日韓双互ノ貿易マテ愈々發達ヲ呈シ彼我ノ関
係層一層ノ密接ヲ加フルニ至ルベキハ必然ノ結果ナ
リ以時ニ當リ本邦輸入ノ米穀類ニ對シ一割五分ノ重

稅戶課セテ、アランニハ忽ニシテ日韓貿易上ニ
至大ノ影響ヲ蒙リ近來漸ク發展ノ端緒ヲ開ケル農事
經營ノ上ニ於テモ非常ノ打擊ヲ蒙ラザルヲ得ズ事モ
シ茲ニ到ラバ對韓實業的ノ經營モ爲ノニ一大頓挫ヲ
來タスニ至ルベシ熟々今期議會ニ提出サレタル新稅
ノ收入ヲ見ルニ輸入稅ノ増率ニ依リテ國庫ノ收入ト
ナルベキモノ三十八年度ニ於テ僅ニ百五十萬圓ヲ計
上スルニ過ギズ此內穀物稅ノ増率ニヨリテ收入トナ
ル可キモノ未ダ其金額ヲ詳記セズト雖氏蓋シ百萬圓
ヲ出デザルベシ戰時歲入ノ急ヲ要スル今日ト雖氏以
微細ノ收入ヲセンカタノニ對韓經營ノ上ニ多大
ノ傷害ヲ及ボス事ヲ顧ミザルニ至テハ事ノ緩急得失

ヲ誤ル。最モ甚クシキモノトス

翻テ此新税ノ實施ニ依リテ内地人民ノ蒙ルベキ負擔額ヲ見ルニ現時本邦内地ニ於ケル米穀類ノ需要額ハ米四千万石雜穀二千餘万石此價額六億圓以上ニ達ス此多大ナル穀物が輸入税増徴ノ影響ニ依リテ其價額ノ上ニ一割以上ノ昂進ヲ来スニ至テハ同胞五千萬人ノ消費者ハ當サニ六千万圓以上ノ負擔ヲ増加シタルモノニシテ少数ノ地主獨リ其利益ヲ壟斷スルノ結果ヲ来タサ、ルヲ得ズ輸入穀物税ノ増徴モ茲ニ至ツテ其影響實ニ多大ナリト謂フベ

今ヤ振古未曾有ノ秋ニ際シ戰時ノ財政ヲ處理セニガタノニ新税ヲ起スハ素ヨリ止ヲ得ザル所ニシテ舉國

一致進ニテ戰費ノ供給ニ應ズベキハ言ヲ俟タズ吾輩
在外臣民ニ於テモ專心奉公ノ至誠ニ訴ヘ以テ終局ノ
勝利ヲ全フセンヲ希望スルヤ實ニ切ナリト雖モ如
何セン今期議會ニ提出サレタル輸入穀物税ノ如キハ
大多數ノ國民ニ甚大ノ負擔ヲ與フルト同時ニ今日最
モ其急ヲ要スル對韓經營ノ上ニ非常ノ打撃ヲ加フル
モノナルヲ確信ス而モ之ガタノ國庫ノ収入トナル
ベキモノ僅ニ百万圓ノ少額ニ過ギズト云フニ至テハ
斷ジテ之ニ賛同スルヲ能ハザル所ナリ仰ギ願タハ速
ニ周到ナル審査ヲ遂ゲ代ルニ適當ノ良税ヲ以テセラ
レンコトヲ

右群山農事組合ノ決議ニ依リ請願候也

明治三十七年十二月

群山農事組合組長

中西讓一

農商務大臣男爵清浦奎吾殿

同仁會長大仁堂

本會同仁會由係張家子力

MT

11233 00077

⑦

戰後滿洲經營之
兵站之意見
上申件
遼東

MT

11233 00078

王急

明治三十八年六月六日接受

陸軍省 密發第一三三三號

明治三十八年十月五日

陸軍大臣寺内正毅

外務大臣伯耆桂太郎殿

我々滿洲經營に及ぶに於ては、東亞諸國の意見
 各項トモ違ふ處ト有るに付、右各意見、直に
 本府に呈し、白紙に附して、
 直に本府に呈見せしめ、其の意見に付する
 事項、現狀より繼續して、其の方法より、
 我々、何れに於て、其の意見に付する

MT

11233 00079

27

示

明治三十八年九月二十四日

滿洲軍總參謀長男爵兒玉源太郎
參謀次長長岡外史殿

別紙井口兵站監ノ意見具申最モ適當ト認メ候
間及移牒候也



明治三十八年九月二十三日

遼東兵站監井口省吾
滿洲軍總司令官侯爵大山巖殿

左ノ四件ハ刻下ノ狀況上最急ニ處置相成ヘキ事項ト
認メ候間意見及上申候也

一我軍滿洲撤退後各國爭テ有爲ノ領事ヲ各居
留地ニ派遣シ利權ヲ擴張セントスルハ明ナル所
ナルヲ以テ我國ニ於テモ今日ヨリ適當ノ外交官
ヲ安東縣及奉天ニ派遣シ戰後經營ノ準備ヲ
ナサシムルコト但シ領事等ノ名稱ヲ附セス唯
外務省ノ派遣負タルヲ要ス

MT

11233 00081

二、我軍撤退後營口ヲ如何ニセントスルヤ之ヲ續テ占領
スルトキハ可ナリト雖モ若シ清國ニ還付スルトキハ
何レノ時期ニ於テセラル、ヤ此方針確定セサルトキ
ハ我軍政執務者實施ノ計畫ヲ立ツル能ハサル
ノミナラス目下同地ニハ殆ント七千ノ我居留民アリ
是等ノ者多クハ浮足ニシテ安堵經營ニ着手ス
ルモノ尠シ故ニ前述ノ方針ハ一日モ速ニ確定セ
ラルヲ望ム

三、滿洲就中營口經營ニ関シ歐米各國人ノ利益ヲ保
護シ且ツ之ヲ擴張スル爲ノ目下既ニ各國領事等
ハ諸種ノ準備計畫ヲ爲シツ、アリ而シテ媾和條
約批准後ニ於テ我軍事行動ノ終リヲ告クルヲ俟チ
直ニ其實施ニ着手スルナラン從テ今後ニ於ケル

我營口領事ハ最モ實驗ニ富ミ國力發揚ニ熱心
ニシテ且ツ以上ノ諸計畫ニ對抗シ得ル手腕ヲ有ス
ル者ヲ選ハレ度然ラサレハ他日彼等ノ爲ノ我營
口經營ヲ沮害セラレ多數ノ邦人ハ彼等ノ壓迫ヲ
受ケテ驥足ヲ伸フル能ハサルニ至ルヤモ知ル
ヘカラス

四、日露媾和條約批准ニ繼テ來ルヘキ日清間ノ悞
約ハ我公私既得ノ權利ヲ放棄セサルノミナラス
進テ各種利權ヲ獲得シ殊ニ軍事行動間ニ
於テ爲シタル諸種ノ施設ヲシテ清國政府ノ證認
ヲ得セシムル等勉メテ實際的ニシテ且ツ我國ニ有
利ナルヘキハ喋々ヲ要セスト雖モ之レカ爲メニ我軍
撤退前適當ノ外交家ヲ滿洲ニ派遣シ軍事上



ノ價值ヲ顧慮シテ實地ノ調査ヲ為サシメ協約ニ際
シ遺算ナキ様準備セラル、コト緊要ナリ



11233 66684

明治三十八年八月二日

官政務



副臨第三八号

明治三十八年十月三日

次官

參謀總長侯爵山縣有朋

外務大臣伯爵桂太郎



別紙為御參考及御送付限也

機密 第250号

大本營

MT

11233 00085



明治三十八年九月二十四日

滿洲軍總參謀長男爵兒玉源太郎
參謀次長長岡外史殿

別紙井口兵站監ノ意見具申最モ適當ト認メ候
間及移牒候也



11233 00086

明治三十八年九月二十三日

遼東兵站監井口省吾

滿洲軍總司令官侯爵大山巖殿

左ノ四件ハ刻下ノ狀況上最急ニ處置相成ヘキ事項ト
認ノ候間意見及上申候也

一我軍滿洲撤退後各國爭テ有爲ノ領事ヲ各居
留地ニ派遣シ利權ヲ擴張セントスルハ明ナル所
ナルヲ以テ我國ニ於テモ今日ヨリ適當ノ外交官
ヲ安東縣及奉天ニ派遣シ戰後經營ノ準備ヲ
ナサシムルコト但シ領事等ノ名稱ヲ附セス唯
外務省ノ派遣負タルヲ要ス

MT

11233

00087

ニ我軍撤退後營口ヲ如何ニセントスルヤ之ヲ續テ占領
スルトキハ可ナリト雖モ若シ清國ニ還付スルトキハ
何レノ時期ニ於テセラル、ヤ此方針確定セサルトキ
ハ我軍政執務者實施ノ計畫ヲ立ツル能ハサル
ノミナラス目下同地ニハ殆ント七千ノ我居留民アリ
是等ノ者多クハ浮足ニシテ安堵經營ニ着手ス
ルモノ尠シ故ニ前述ノ方針ハ一日モ速ニ確定セ
ラル、ヲ望ム

三滿洲就中營口經營ニ關シ歐米各國人ノ利益ヲ保
護シ且ツ之ヲ擴張スル爲ノ目下既ニ各國領事等
ハ諸種ノ準備計畫ヲ爲シツ、アリ而シテ媾和條
約批准後ニ於テ我軍事行動ノ終リヲ告グルヲ俟テ
直ニ其實施ニ着手スルナラン從テ今後ニ於ケル

我營口領事ハ最モ實驗ニ富ミ國力發揚ニ熱心
ニシテ且ツ以上ノ諸計畫ニ對抗シ得ル手腕ヲ有ス
ル者ヲ選ハレ度然ラサレハ他日彼等ノ爲ノ我營
口經營ヲ沮害セラレ多數ノ邦人ハ彼等ノ壓迫ヲ
受ケテ驥足ヲ伸フル能ハサルニ至ルヤモ知ル
ヘカラス

四、日露媾和條約批准ニ繼テ來ルヘキ日清間ノ悞
約ハ我公私既得ノ權利ヲ放棄セサルノミナラス
進テ各種利權ヲ獲得シ殊ニ軍事行動間ニ
於テ爲シタル諸種ノ施設ヲシテ清國政府ノ證認
ヲ得セシムル等勉メテ實際的ニシテ且ツ我國ニ有
利ナルヘキハ喋々ヲ要セスト雖モ之レカ爲メニ我軍
撤退前適當ノ外交家ヲ滿洲ニ派遣シ軍事上

ノ價值ヲ顧慮シテ實地ノ調査ヲ為サシノ協約ニ際
シ遺算ナキ標準條セラル、コト緊要ナリ



11233 00090

安田善次郎



11233_00091

次下 邦

明治三十八年九月四日
奉内閣府事務官

田島長

七、八、九、十、月、の、理由、
中、心、を、以、て、信、任、を、被、
力、を、以、て、信、任、を、被、

大連及營口の經營に就て

大連 兼 營口、經營に就て

大連及營口に於ける我經濟的施設頗る多し
ト虽モ就中急要ノモノハ左ノ三者トス

一 我居留人ノ營業スヘキ家屋店舗建設

一 倉庫業

一 銀行業

右ノ如キノ設備ヲ迅速ニ遂行スルハ之ヲ各人ノ自由意思、放任シテ能クスヘキヲナス故ニ此目的ヲ達スルニハ

一 信用アル會社ニ適宜ノ條件ヲ附シ一任スル事

二 大連及營口に於ける戦利ノ土地建物ハ軍用

其他官用ニ充テ、外總テ之ヲ會社ニ無償下渡シ

許可スル事 但政府ニ於テ買上ノ土地ハ元價ニ下渡

三 會社政府ノ命令ヲ從ヒ三者經營ノ竣功期ハ約一年
及至五ヶ年間ヲ以テ完成スル事

四 建物ニ成ヘク居住者ノ望ヲ容レ注文ニ應シタル貸
家ヲ建築スル事

理由

大連營口トモミ不日一大貿易市場トナルハ推想スルニ
難カラス 平和恢復ノ後滿州開放ト共ニ我國人ノ
移住スルモノ多大ナルヘシ依テ此際兩地ハ勿論滿州ニ
於テ商業ニ適當ノ日本市街ヲ建設スルノ必要ヲ感ス
ルナリ

其市街ノ建設タルヤ位置ニ商業ニ適シ構造亦
商業ニ便シテ而モ日本市街トシテ、体面ヲ維持スルノ
資格ヲ俱有スルヲ要ス

然レニ我國人ノ海外ニ事業ヲ營ムモノ、從來ニ徵スルニ
多クハ當初ヨリ相當ノ資本ヲ以テ着手スルモノ、尠ク漸ク
其商品ヲ仕入ル、ノ資本ニ止ルノ狀アリカニ小資本者ニ
シテ其家屋店舗ヲ彼地ニ所有シ營業スルカ如キ
到底能スヘカウサル所ニシテ皆外人ノ家屋店舗ヲ借り
僅カ、其營業ヲナスニ過ス故ニ是等ノ人々ニ便宜ヲ
得セシムルノ途ハ適當ノ家屋ヲ建築シテ比較的低廉
仕貸ノ方法ヲ立テ若クハ其型ニヨリテ之ヲ賣買シ又ニ年
賦月賦等我高工業者ヲシテ其居所營業場欠乏ノ
憂ヲ免レシメ又倉庫業銀行業ニ於テ金融ノ便宜ハ
其事業計營ヲ容易ナラシムコト 此三者機關設備ヲ
急須トスル所以ナリ

此機關タル政府自ら當ルヨリハ寧ろ之ヲ相當ノ會社ニ任スルヲ

優レルト爲スヘシ又之ヲ各人ノ自由意思ニ任セシカ彼等ハ
競ニテ市街地ノ占得ヲナシ只其土地ノ權利ヲ保有スル
止リ家屋店舗ノ建設ヲユナスコトナク他人ノ羨リテ高ク
購ハシコトヲ待ツノ實情ナキニアラス近クハ其地ノ如キ土地
ノ貸下ケアルヤ其權利ノ移轉ヲ許サレサルモ抱クス之ヲ出願
スルノ實ニ數倍ノ多キニ達シタリト云フ而モ其大部分ハ
之ヲ經營スルノ資力ナキモノニナリト

此、如クニシテ該地を達ヲ妨ケ又真正ノ事業家ノ
行動ヲ阻礙スルコト甚クナリトセズ此等ノ弊ヲ禦ク、
於テモ會社ニ命シ十分監督ノ下ニ公平ニ其利便
ヲ頒タシムルヲ得策ト思考スルモノナリト

山石永興見重

MT

11233 00096

由見

明治三十七年六月二十四日起草

岩永覺重

日露戦争ノ終局ニ對スル私議

(大西)

附

東清鐵道ノ處分案



11233 00097

日露戰爭ノ終局ニ関スル私議

日露戰端ヲ開ヒテヨリ我軍連戰連勝ノ功ヲ奏シ今
ヤ旅順ノ運命ハ愈々旦夕ニ迫リ遼陽奉天ノ要害モ日
ナラスシテ我軍ノ攻略ヲ期スヘキ時運ニ向ヘリ
惟フニ今回ノ戰役ニ於テ我政府ノ畫策内外共ニ宜
ニ適ヘルト海陸將卒ノ忠實勇武ナルトハ終始一貫
優ニ勝者ノ位置ヲ保持シ得ヘシト雖モ尚滿州ニ於
ケル露國ノ大軍ヲ掃蕩シ露領南烏蘇里ノ要鎮ヲ陷
レ以テ極東ニ於ケル露國ノ兵力ヲ潰倒シテ極東恒
久ノ平和ヲ保持セント欲セハ更ニ幾多ノ歲月ヲ要

スルノミナラス戦局ノ發展ハ日一日ヨリ戦線ノ擴
張ヲ來シ從テ尚多大ノ人命ト鉅額ノ軍費トヲ賭セ
サル可カラサルハ勿論戦時ニ件フ一切ノ困難ハ共
ニ能ク之ヲ排除スルニ非サレバ極東恒久ノ平和ヲ
望ム可ラス戦局ノ前途尚未ク遼遠ナリト謂フ可シ
蓋シ戦争情態ノ永續ト否トハ國家民人財力負擔ノ
輕重ノ岐ル、所タルハ彼我共ニ異ル所ナシト雖モ
抑、軍ノ強弱ト國力ノ充否トハ實ニ戦争前途ノ運命
ヲ左右スルノ動力ニシテ兵強ク國力豊カナルモノ
ハ勝チ否ラサルモノハ遂ニ敗戦ヲ免レサルナリ
余熟、戦争ノ經過ヲ觀察スルニ幸ニシテ我軍毎ニ捷
利ヲ博シ露軍毎ニ戦敗ヲ累ネ我ハ内外債三億万圓
ヲ募集シ彼亦外債八億法ヲ募集セリト傳フ此一事

未タ以テ彼我財政ノ豊窮ヲ判定スヘカラスト雖モ

彼ハ懸軍萬里ノ難アリ其費ス所ノ軍費ハ我ノ軍費

ヨリモ遙ニ増大スルノミナラス其敗軍ノ爲ノニ失

フ所ノ戰費

(例)

爭ニ大隊ノ兵員ヲ歐露ヨリ輸送シテ戰

ノト假定ヤンニ敗戰ノ爲ノ一大隊ノ死傷ヲ生スル時ハ補充ノ必要
アルカ故兵員軍需品ノ損失ノ外六十萬円ヲ失フノ類ナリ

既ニ幾千萬ナルヤヲ知ラス加之戰爭ノ歐露經濟界

ニ及ホス影響ノ甚大ナルヘキハ今日ニ於テモ既ニ

露國商工業ノ中心地ニ於テ數個ノ企業家倒産スル

等經濟上ノ恐慌ノ兆ヲ發シタルヲ見テモ明ナリト

ス

(本年ノ農作凶作ニ終ラ
バ其慘一層甚シカルヘシ)

殊ニ生産力微弱ナル西比利

境域ニ於テハ交通運輸杜絶スル爲メ住民ノ食糧品

ノ暴騰ヲ來セルノミナラス地方ニ依リテハ大ニ之

ガ缺乏ヲ生シタルノ事實ヲ表顯セリ西比利境域ニ

於ケル戦争ノ慘禍ハ蓋シ歐露ニ幾倍スルモノアラ

シ

露國ハ經濟上斯ノ如キ弱点ヲ有スルノ外從來ノ經
過ニ於ケルカ如ク其兵力ハ今後克ク我ニ拮抗シ能
ハストスレバ勝敗ノ歸スル處自ラ分明ニシテ戦争
終結期ノ到來意外ニ迅速ナルヘシトノ想念ヲ喚起
シ得ヘシ然リト雖モ今回ノ戦争ノ如キ空前ノ大事
件ニ對シテハ斯ノ如キ楽天觀ニ安ンス可カラス宜
シク遠大ノ計畫ヲ以テ交戦ノ事ニ從フヘキハ言ヲ
俟タス若夫レ露國ニシテ愈々敗戦ニ終ランカ三百年
來ニ亘ル露ノ進歩的極東經營ハ一朝ニシテ水泡ニ
歸シ外ハ列強ニ對スル自國ノ地位ト勢力ノ均衡ト
ヲ失墜シテ外侮ヲ免ル、ノ遑ナキニ至ルヘク内ハ

多年制壓ニ苦メル國內不平分子ノ爲メニ絶ヘス治
安ヲ攪乱セラル、ニ至ルヘキ虞アルト恐ルヘキ戰
後ノ恐慌ハ數年來不振ノ經濟界ニ來襲スヘキ危懼
アルカ故露國政府ハ國力ヲ賭シテ交戰ノ情態ヲ繼
續シ以テ最終ノ勝利ト之ニ伴フ利益トヲ獲得シテ
外ハ國家ノ軀面ヲ保チ内ハ國民ノ不平ヲ鎮壓慰藉
セントスルモノ、如シ露國政府ノ決心果シテ斯ク
ノ如クナルヤ將國內ノ事情ハ果シテ之ヲ遂行シ得
ル乎否乎

抑モ帝國ガ露國ト戰端ヲ開キタル所以ノモノハ帝
國政府カ半歲ノ久シキ和衷坦懷極東ノ時局ヲ友好
的ニ露國ト協定センコトヲ熱望シタルニ拘ハラヌ
露國ハ一モ交讓ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス却テ急ニ

海陸ノ戰備ヲ修メテ我ヲ壓セントシ露國カ曾テ其
清國トノ條約及滿州地方ニ利益ヲ有スル他ノ列國
ニ對シ累次與ヘタル保障ノ存在スルニ拘ハラス依
然トシテ占領ヲ繼續シ滿州領土保全ノ尊重及帝國
ノ利益ヲ無視シ且ツ帝國カ累世ノ關係ヲ有シ帝國
ノ康寧及安全ノ爲メ最モ緊要トスル韓國獨立ノ地
位ヲ不安ナラシムルノ行動ヲ敢テシ帝國ノ利權ヲ
侵迫シテ極東ノ平和之ガ爲メ攪乱セラレ、ニ至
リタルヲ以テ已ヲ得ス外交關係ヲ斷絶シテ自衛ノ
道ヲ講シ極東永遠ノ平和ヲ企圖スルノ處置ニ出テ
タルナリ即チ對露交戰ノ目的ハ東洋恒久ノ平和ヲ
確立シ韓滿ニ於ケル我利權ヲ扶植スルノ外他ニ何
等目的ヲ有セサルナリ故ニ此目的ノ爲メハ一切

得利手及蒙古地方
 二教箇ノ統領事
 領事館ヲ有
 スル列國中何リ
 露國丁ルミ

ノ困難ヲ排除シ露國ヲシテ極東ニ於ケル海陸一切
 ノ兵備ヲ撤去セシムルヲ以テ限度トシテ交戦ヲ繼
 續スヘシ苟モ姑息ノ媾和條件ノ下ニ和ヲ講シ彼ヲ
 シテ再ヒ極東ニ海軍根據地ヲ有セシムルカ或ハ陸
 兵常駐ノ餘地ヲ與ヘ又清韓ニ對シ彼ニ勢力圈ヲ保
 留セシムルニ於テハ極東ニ於テ恒久且鞏固ノ平和
 ヲ確立スル望絶無ト云フモ不可ナシ試ニ過去ニ於
 ケル露國ノ東方經略ヲ考フルニ露國ノ東方經略ハ
 歴史上明ニ系統ヲ有スルモノニシテ其起原遠クネ
 ルチンスク條約(千六百八十九年)以前ニ在リニコラ
 ス第一世時代ニ至リ此經略主義(東方經畧ニ三面アリ
 滿州蒙古及伊犁地方)
 ハ著シク進歩的ニ變シ更ニ日清戰役前後ニ於テ此
 系統的東方經略ハ再變シテ急進主義ニ轉セリ千八

百九十六年以降ノ歲月ハ實ニ此急進主義ノ實行期
 ニシテ遼東以北約九十餘万キロノ地域ハ現實ニ露
 國ノ勢力範圍内ニ區劃セラレ露國ノ實權實力ハ一
 瀋千里ノ勢ヲ以テ全滿洲ニ扶殖セラレ清朝宗廟ノ
 地遠カラスシテ好名辭ノ下ニ露國ノ併有ニ歸セン
 トシタリ之ヲ過去ノ事蹟ニ徴シ將來ノ計畫ヲ推考
 スルニ露國ノ極東經畧ハ實ニ五期ノ階級ヲ經テ之
 ヲ完結セムト試ミラレタリ(韓國及日本ニ對シテハ第四
 期ヨリ之ヲ試ムルノ計畫ナリ)
 之ニ伴フ諸權利ノ獲得ハ滿洲併有策ノ第一期ニシ
 テ千八百九十八年旅大ノ租借及附帶條約ハ其第二
 ノ實行期ナリトス而シテ千九百年ノ拳匪事件ハ露
 國カ滿洲ヲ併有スルノ第三期即チ終結期タリシト

云フ可シ

夫レ斯ノ如ク露國ノ極東經畧ハ間断ナキ系統ト階
壇トヲ有シ階梯毎ニ鞏固ナル地盤ヲ固メ來レリ幸
ニシテ此經略主義實行ノ第三期ニ於テ日露干戈ヲ
交ユルニ至リタルハ帝國及人文ヲ同フスル隣國ノ
爲メ至大至幸ノ好機會到來セルモノト云フ可シ故
ニ帝國ハ此機會ニ乘シ飽クマテ滿州ノ露軍ヲ掃蕩
シ浦潮及旅順ノ海軍根據地ヲ失ハシメ千八百九十
六年以降露國カ滿州ニ於テ獲得シタル一切ノ利權
ヲ放棄セシメ帝國ハ代テ滿州ニ於ケル優勝權ヲ掌
握スベシ万一露國ヲシテ依然滿州ニ或種ノ權利ヲ
保留セシムルカ如キハ將來再三紛糾ヲ重ネシムル
ノ病根ヲ存スルト同一ナルカ故徹頭徹尾我ハ滿州

以外ニ露ノ勢力ヲ驅逐シ帝國ノ勢力ヲ以テ滿州ニ
於ケル施政ノ改善及日本ノ忠告ニ信賴セシムルノ
策ヲ執ラサル可カラズ

然リ而シテ日露ノ戰爭ハ何ノ日如何ナル時ヲ以テ
終結スベキヤ又如何ニシテ之ヲ終局セシムルヲ以
テ得策トナスカ戰爭ノ命運ハ實ニ戰捷國ノ意思ヲ
以テ左右セサル可カラズ蓋シ我軍旅順ヲ陥落シ遼
陽奉天ヲ占領セバ露國ハ少クトモ戰爭繼續ノ非ヲ
悟ル可ク英獨二國或ハ居中調停ノ申出ヲ為サンヤ
モ知ル可カラズ但シ將來ノ成行ハ今後ノ戰局ヲ見
サレバ孰レトモ判シ難シト雖モ假ニ露國ニシテ前
顯ノ戰局ヲ以テ和ヲ請フ事モアラニカ我帝國ハ如
何ニ之ヲ處決セントスル乎

惟フニ戦争ハ國家が或種ノ目的ヲ達スベキ最後ノ
手段ニ過キスニテ戦争ヲ永續スルノ不可ナル事固
ヨリ言ヲ俟タス故ニ露國カ前頭ノ戦局ニ於テ眞實
ニ和ヲ求ムルニ意アラバ帝國ハ喜テ之ニ應スルヲ
以テ内外ノ形勢ニ適ヘル良好ナル体度ト認ムルヲ
得ベシ其媾和條件ニ至テハ戦局ノ大小ニ依リ自ラ
差異ナキ能ハスト雖モ上來縷述シタル戦争最後ノ
目的ハ決シテ之ヲ逸ス可カラズ須ク我ハ左ノ案件
ヲ主張スヘシ

媾和談判開始ノ爲メニ休戦ヲ約スルノ必要アル
時ハ帝國政府ノ指定スル談判地ニ媾和使ノ到着
後一週間ヲ限り滿州ニ於テノミ休戦ヲ約シ日本

軍ノ沿海州及薩哈連島進軍ハ決シテ拘束ヲ受ケ
サル事

媾和條件案

一、露國ハ韓國ノ獨立及領土保全ヲ尊重シ同國ニ於
テ日本ノ政府及臣民ノ有スル一切ノ優勝權ヲ確
認シ韓國ニ於ケル施政ノ改革及改善ノ爲ノ日本
ガ必要ナル施設ヲ行ヒ且ツ同上ノ目的ヲ以テ助
言及援助(軍事上ノ援助ヲ含ム)ヲ與フルハ日本ノ
專權ニ屬スル事ヲ承認シ且ツ同國ノ獨立又ハ領
土保全ヲ不安ナラシメ又ハ本年二月二十三日日
韓兩國ノ間ニ締結セラレタル協約ニ背戾スヘキ
行動ハ國家團體及個人其他如何ナル名義ニ於テ
モ之ヲ爲サ、ル事

二、露國ハ滿州ニ於ケル一切ノ兵備ヲ撤シテ全然滿
州ヲ清國ニ還付シ滿州領土保全ヲ尊重シ日本ノ
國家及臣民ノ現ニ有スル權利及利益並ニ將來日
本ノ同地方ニ有スヘキ利權ヲ損傷妨害セサル事
但シ滿州還付ノ際ハ日本ノ相當官吏ヲ立會ハシ
メ露國政府ノ有ル財產ハ無條件ニテ同時ニ清國
ニ還付スル事兵備ノ撤回ハ本約調印後直ニ着手
シ二月以内ニ之ヲ完了スル事又兵備ニ関スル砲
台要塞及兵營等一切ノ施設物ハ帝國軍隊ノ占領
ニ歸シタルモノ、外一切無條件ニテ清國ニ還付
スル事

三、東清鐵道ハ鐵軌車輛其他ノ建設物一切ト共ニ全
部無償ニテ日本ニ讓與シ且ツ鐵道租借地ハ露國

が清國ヨリ得タル條件ノ儘其權利ヲ日本政府ニ讓與スル事

四、日本軍ノ占領ニ歸シタル遼東半島ハ日本ノ指揮ニ從ヒ清國ニ還付スル事

五、償金五億留ヲ日本ニ支拂フ事

(但シ年賦又ハ相當ノ條件ヲ附スルモ妨ナシ)

六、薩哈連島及附屬島嶼ヲ日本ニ讓與スル事

七、沿海州全沿海及沿岸並黑龍江下流及其沿岸ハ全部日本人ノ漁獵ヲ許可シ且ツ之カ爲メ日本人

ハ相當ノ施設ヲ爲スノ權アルモノトス
(別ニ漁業條約ヲ結フヲ可トス)

八、西比利ニ於テ日本人ハ鑛山採掘權ヲ有スル事

九、日本ノ軍艦ハ漁船及漁民保護ノ爲メ何時ニテモ

上記ノ地方ニ航行又ハ碇泊シ得ル事

十、露國ハ日本ノ為メニ最惠國主義ヲ基礎トスル通

商航海條約ヲ締結スル事並談條約ニハ日本政府

ノ指定スル露國稅目三十種ヲ限り現行露國々定

稅率ヨリ五割減ノ約束稅ヲ設クル事

十一、沿海州黒龍州及後貝加爾州ノ三カハ本條約締結

後十五ヶ年間ハ千九百年末ニ至ル狀態ノ下ニ外國

輸入品ヲ無稅トスル事（本項ハ尙精査ヲ要ス或ハ不利ノ要求ナルヤヲ知ラス）

十二、浦潮其他西比利ニ於テ日本臣民百名以上在留ス

ルノ地ニハ日本政府ハ其領事官ヲ駐在セシムル

ノ權アル事

注意 露國ト境界ヲ接スル亞細亞諸國トノ間ニ

現存スル陸上貿易ニ関スル規定ハ通商條

約締結ノ際日本ハ之ヲ均霑スルノ處置ニ

出ツルヲ必要トス但シ本項ハ我ヨリ提議
スルヲ要ヤス彼レヨリ進ンテ廿八年日露
別約第一條ノ如キ條件ノ設定ヲ提出シタ
ル時ヲ以テ之ヲ拒絶スレバ可ナリ

而シテ前記第一項乃至第四項ハ極東永遠ノ平和ヲ
確立スヘキ大眼目ニシテ其第一項ハ露國ヲシテ韓
國ニ於ケル日本ノ地位ヲ侵サシメサルニ在リ第二
項ハ滿州ニ於ケル露國ノ兵備ヲ撤去セシメ同地方
ノ統治權ヲ清國ニ還付セシメ日本カ現在同地方ニ
於テ享有シ又ハ將來獲得セントスル利權ヲ保留ス
ルニ止ムルニ在リ極言スレハ東洋永遠ノ平和ヲ確
立セント欲セバ滿州一圓モ亦韓國ニ對スルカ如ク
日本ノ保護權ヲ執行スルヲ以テ萬全ノ策ナリトス

ルモ同地方ニ於テハ露國ハ從來我國ニ比シ遙ニ優
勝權ヲ有シタルガ故我帝國ガ將來同地方ニ雄飛ス
ルノ基礎ヲ設クルト同時ニ彼ガ有スル根本的動力
タリ策源地タル東^清鐵道及遼東地方ヲ棄ヒ去リテ
表面上我ト對等ノ權利ヲ保留セシメ我ハ戰勝ノ威
勢ヲ以テ別ニ清國政府ニ開談シテ滿州統治ニ關ス
ル帝國ノ指導權並鐵道鑛山等ニ關スル利權問題ヲ
協定スルヲ得策ナリトス第三東清鐵道第四遼東半
島ヲシテ依然露國ノ有ニ歸セシムル時ハ彼ハ再ビ
暴威ヲ擅ニスルヤ必セリ現ニ今日極東ニ一大慘劇
ヲ惹起シタル所以ノモノ亦實ニ露國ノ東清鐵道ヲ
敷設シ遼東半島ニ海陸ノ根據地ヲ得セシメタルニ
職由セスンバ非ス故ニ今回ノ戰爭ヲ機トシ飽クマ

テ此二個ノ禍根ヲ露國ノ手中ヨリ棄去セサル可カラサルモノトス第五項及第六項ハ戰償トシテ我ニ收ムヘキ條件ニシテ説明ヲ要セス第七項以下ノ各項ハ平和克復後露國ニ對スル我利權ヲ永久ニ保持スル爲メ特ニ媾和條約中ニ之カ基礎ヲ定メ置ク所以ナリ惟フニ今日以後ノ國際關係ハ東洋ニ於テハ尙幾多紛糾ヲ重ヌヘキ政治問題ノ横ハレルアリト雖モ可成ハ之ヲ避ケテ平和的ニ國際上ノ利益ヲ増進スルヲ以テ主義ト爲サバル可カラズ故ニ特ニ以上ノ條件ヲ媾和條約中ニ設定シテ通商航海條約締結上ノ難ヲ避ケントスルモノナリ

以上ノ條件ハ未タ極東恒久ノ平和ヲ確立スルニ足ルヘキ完全無缺ノ鐵案ナリト云フヲ得サルモ前記

假定的戰局ニ於テ媾和談判ノ機會アルモノト假定
スル時ハ暫ク訣案ヲ以テ基礎トスルノ外ナカルベ
キカ

右ハ媾和條件ニ関スル卑見ノ大要ヲ陳述シタルニ
過キズ清韓兩國ニ對シテハ媾和成立ノ前後克ク適
當ノ機會ヲ捉ヘテ帝國ノ利權ヲ設定シ併セテ實力
扶植ノ途ヲ講セサル可カラス韓國ニ對シテハ帝國
政府既ニ六ヶ條ノ協商ヲ結ヒ今ヤ當ニ之ヲ實行ノ緒
ニ就ケルガ如シト雖モ清國ニ對シテハ未ダ研究ノ
裡ニ在ルガ如シ然リ而シテ對清問題ハ日露戰爭ノ
關係上滿州問題ヲ先ニ漸次他ニ及ホスヲ必要ト
セン余ハ此目的ヲ以テ以下數項ヲ擬セント欲ス
一、日本ハ清國ノ領土保全ヲ尊重シ滿州全域ハ日本

ノ助言及忠告ニ從ヒ政治ノ改善及改革ヲ為ス事
馬賊ノ跋扈ハ滿州ノ治安及開發ニ大害アルカ故
速カニ之ヲ掃蕩スル為メ及國防ノ安全ヲ鞏固ニ
スル為メ日本ノ士官ヲ聘シテ軍隊ノ訓練ヲ為サ
シムル事

二、清國ハ日本ノ承諾ナクシテ第一項ノ趣意ニ悖ル
ヘキ約束ヲ第三國ト締立セサル事

三、東清鐵道ハ日本之ヲ所有スルガ故清國ハ同鐵道
ニ關シ露國ニ與ヘタル特權及將來同鐵道ト連絡
スヘキ鐵道布敷權ヲ我ニ讓與スル事

四、鐵道沿道ノ外盛京吉林二省ヲ各國貿易ノ為メニ
開放スル事

五、日本臣民ノ滿州移住及礦山採掘ニ關シ特權ヲ與

フル事

六、滿州各地ニ於ケル税関長及其他ノ高等幫辦ニハ日本人ヲ採用スベキ事

七、遼東半島ハ清國ニ還付ス但シ必要ノ地區ハ日本之ヲ占有ス

前記ノ中第一第二第三第五第六ノ各項ハ滿州ヲシテ全リ我勢力圈ニ編入スルモノトノ故障ヲ提起スルモノアランモ盛京吉林ノ開放ハ帝國政府カ機會均等ノ主義ヲ尊重スル所以タルノミナラズ滿州ノ現狀ニ對シ領土保全ノ主義ヲ實行シ秩序ヲ治メ保安ヲ維持シ以テ各國商業上ノ利益ヲ増進セント欲セハ帝國政府ノ外他ニ適當ナル指導者アルナク又滿州統治權ノ回復者秩序ノ回復者トシテ帝國政府

ハ當然ニ其最優ノ任務ニ與カルベキ權アリトス然
リ而シテ滿州各地ニ於ケル稅関管理權ヲ帝國ニ收
ムルノ一事ハ滿州貿易ノ大部分が常ニ帝國臣民ニ
依リテ經營セラレ牛莊貿易ノ年額一千四百餘万兩
ノ中一千餘万兩ハ日本トノ貿易ニ屬スルヲ知ラバ
帝國ノ要求ハ寧ロ當然ノ事理ナラズトセンヤ故ニ
前顯ノ數項ハ露國ト媾和條約締結ノ前後好機ヲ索
メテ之ヲ貫徹スルノ必要切ナリトス

右ハ日露事件ヨリ立論シタル卑見ノ梗概ニ過キサ
ルモ之ヲ清國ニ於ケル列強ノ均勢ニ鑑ミルニ列強
各ノ利權範圍ヲ定メテ自ラ分割ノ輪郭ヲ畫ケリ

(但し列強ノ支

那ニ對スル政策ニ各々別アリ露佛ハ勢力範圍ヲ擴張スルヲ以テ方針ト
シ獨ハ利益ト勢力ヲ併立セントシ英ハ利益主義ヲ持スル事從來ノ政
策之ヲ證スルノミナラス最近對威海衛方針ノ
如キ著シク此傾向ニ向ヘリト云フベシ

其今日ニ至ルモ

未ダ清國領土保全主義ノ列國ニ重シセラル、ハ一ニ
東洋ニ於ケル兵力ノ均衡アルガ爲メナリ然リト雖
モ今日ノ形狀ハ恰モ朽索ヲ以テ一群ノ猛犬ヲ連鎖
セルニ異ナラス故ニ一朝列國ノ間ニ利害ノ衝突起
リ兵力ノ均衡ヲ失センカ極東ノ平和ハ必ヤ再三攪
乱ノ不幸ヲ見ルベシ帝國ノ滿洲支持ハ豈啻ニ日露
事件ニ於テノミ必要トスルニ非スシテ列國トノ均
勢上實ニ帝國ノ勢力ヲ支持スル唯一ノ支柱ニシテ
且ツ極東ニ於ケル恒久的平和ノ保障タルベケレバ
ナリ
以上畧述スル所ハ我軍旅順口ヲ陥レ遼陽及奉天占
領ノ後露國ノ媾和使來朝スルモノトノ假想的局面
ニ對シ媾和條件及對清要求ノ梗概ヲ示スモノニシ

テ前記ノ局面ニ對シ露國カ請和ニ意アルヤ否ヤ同
國政府二回ノ宣言ニ依レハ未ダ甚ク疑ハシト爲ス
加之露國ノ現狀ハ容易ニ我媾和條件ニ屈從スルモ
ノニ非サルベキヲ以テ結局兩國ノ戰爭ハ其終局前
途遼遠ナリト云フベク我ハ尙長驅シテ浦潮ノ要鎮
ヲ陷落シ滿洲ノ中原ニ最終的ノ決戰ヲ行ハサル可
カラサルニ至ルベシ然リ而シテ最後ノ一戰ニハ我
陸軍ハ能ク一切ノ困難ヲ排シテ猛然電擊敵軍ヲシ
テ再ヒ我ニ抵抗シ能ハサラシムルノ打撃ヲ與ヘザ
ル可カラザルモノトス如何トナレハ交戰情態ノ永
續ハ國家ニ不良ナル影響ヲ與ヘ易ク且ツ戰爭永續
ノ爲メ國民及出征軍人ニ倦怠ノ念發生スル時ハ士
氣ノ潰喪遂ニ戰鬪ニ堪ヘサルノ失敗ヲ來スノ虞アリ

ルハ古今東西ノ戦争ニ於テ屢見ル所ナレバナリ斯
ノ如クニシテ我軍滿州ノ中原ニ露ノ大軍ヲ潰滅セ
ンカ露國ハ遂ニ和ヲ請フノ已ムナキニ至ルヘク万
一執拗ニモ尚我ニ抗スルニ於テハ我ハ必シモ長驅
シテ之ヲ滿州境外ニ窘逐スルノ必要ヲ見ス徐ニ防
守ノ策ヲ講シテ適當ノ時機マテ軍事的占領ヲ繼續
スベシ此時ニ至ラバ英國ハ兩國ノ間ニ調停ヲ試ム
ルノ處置ニ出ルナルベシ蓋シ英國ハ中央亞細亞ニ
於テ露國ノ南侵ヲ懼ル、事一日ノ故ニ非ス近ク千
九百一年露曆十月二十七日波都テーランニ於テ調
印セラレタル露波通商條約ノ如キハ慥ニ露國南下
ノ勢力増大セルノ證ヲ示スモノニシテ英國ノ恐怖
措カザル所ナルガ故英國ハ中央亞細亞ニ於ケル露

國ノ南進ヲ阻止セシガ爲メ極東ニ於テ尚露國ニ一
部ノ立脚地ヲ與フルノ策ニ出ツ可キ歟然リ而シテ
日露戰爭ノ終局ニ對シ若シ列國ノ干涉起ランカ我
ハ断然之ヲ排斥セザル可カラサルモ我ニ利スベキ
友好的調停アル時ハ之ヲ利用シテ戰局ヲ結フヲ可
トス但シ媾和ノ條件ハ徹頭徹尾極東恒久ノ平和ヲ
目的トスヘク而シテ戰局ノ發展ト共ニ我が損失ノ
度ハ著シク増大スルヲ以テ我要求ハ益々増大ヲ要ス
ルモ最前陳述ノ媾和條件ヲ基礎トシ更ニ沿海州ノ
割讓ト償金ノ額ヲ増加シ内河ノ交通權ヲ得ルヲ以
テ足レリトセン

要スルニ日露ノ戰爭ハ戰局ノ大小如何ニ拘ハラス
極東恒久ノ平和ヲ確立スルニ足ルヘキ條件ヲ以テ

媾和ノ基礎ト爲サバ、ル可カラザルト同時ニ將來可
成平和的ニ國際上ノ利益ヲ増進スルヲ以テ主義ト
シ此目的ニ適フベキ基礎ヲ定メ且ツ交戦情態ノ永
續ヲ避クルノ方針ニ出ルヲ以テ得策ナリト思考ス

東清鐵道處分案

戰後ニ於ケル東清鐵道ノ處分ハ蓋シ帝國政府ノ考量ヲ要スベキ案件ノ一ニシテ諛鐵道ヲ依然露國ノ有タラシムルニ於テハ第二ノ滿州問題ヲ紛生セシムヘキヲ疑ハス故ニ余ハ媾和條件ノ基礎トスベキ案件中ニ左ノ一項ヲ擬シタリ

東清鐵道ハ鐵軌車輛其他ノ建設物一切ト共ニ全部無償ニテ日本ニ讓與シ且ツ鐵道租借地ハ露國カ清國ヨリ得タル條件ノ儘其權利ヲ日本政府ニ讓與スル事

前項ハ未タ一種ノ懸案ニ過キサルヲ以テ其條件ニ

多少ノ修正ヲ加フルノ已ムヲ得サル事アリトスル
モ同鐵道ノ所有權ハ是非共我ニ收メサル可カラス
幸ニ同鐵道ヲ我ニ收受スルヲ得ハ更ニ之ヲ如何ニ
處分スルヲ以テ最良ノ策トナスカ

東清鐵道ハ其延長二千三百九十一露里ニシテ西ハ
國境滿州里ヨリ東ハ沿海州ノ境ニ達シ南ハ營口青
泥窪及旅順ニ通スル事世人ノ知悉スル所ノ如シ然
ルニ同鐵道ハ開通後僅カニ一年ヲ經過シタルノミ
ニシテ停車場其他ノ造營未タ整備スルニ至ラス其
車輛ハ千九百三年四月末ニ於テ機關車四百六十五
輛各種客車九百七十三輛各種貨車(水溜車共)八千四
百五十輛ヲ有シタルモ同鐵道ハ今回ノ戰役ニ於テ
橋梁及線路ノ破壞セラル、モノ大ナルベク又車輛

及其他ノ營造物ハ大半潰滅ニ歸スベキヤ必セリ故
ニ戰後同鐵道ヲ舊体ニ復セント欲セハ少クトモ數
千万円ヲ支出セサレハ鐵道ノ用ヲ爲スニ至ラサル
可シ是豈戰後ニ於ケル帝國經濟ノ容ス所ナランヤ
加之同鐵道ハ假令之ヲ舊体ニ復スルモ近キ將來ニ
於テ之カ運輸上ノ利潤ヲ見ル能ハサルハ勿論線路
ノ營繕及運轉ノ爲ソニハ是亦多額ノ經費ヲ要スヘ
キヤ火ヲ睹ルヨリモ明ナリトス故ニ同鐵道領有ノ
曉ニハ可成之ヲ外國ノ資本ヲ以テ共同經營スルヲ
得策ナリトスルモ英國又ハ米國ノ如キ滿州貿易ニ
利益ヲ有スル國民ニ於テモ恐ラクハ戰後直ニ出資
ヲ肯スル者蓋シ稀ナルベシト考フ斯クノ如ク同鐵
道ノ經營ニ英米ノ資本家ト共同スルノ途ナシトセ

バ帝一縷ノ望ハ清國ト共同スルニ在リ然リト雖モ
同國政府財政ノ困難ハ到底囑望ノ餘地ヲ存セサル
カ故是非共民間資本家ヲ勸誘シテ之ニ出資セシム
ルノ方法ニ出ラサル可ラス是亦成功ノ望アルヤ否
ヤ未ダ俄ニ断言スヘカラサルモ同鐵道戰後ノ出資
者ハ盖シ清國人ノ外他ニ求メテ得易カラサル可シ
然リ而シテ同鐵道ノ經營ハ他ノ媾和條件ノ成否如
何ニ依リ自ラ其方法ニ差異ヲ生スベク又同鐵道ヲ
我ニ領有スルニ至ラバ露國ハ漸次黑龍江岸鐵道ノ
敷設ニ着手スルニ至ルヘキニ付帝國ハ可成巧妙ナ
ル鐵道政略ニ出ラサル可カラサルモ當分ノ中ハ同
鐵道中滿州里齊々哈爾間(六百二十三露里)ノ線ヲ撤
去シ露國ノ後見加爾鐵道支線ヲ孤立不用ノ地ニ陷

ル可シ之レ露國カ滿州南下ノ途ヲ杜絶スルノ効アルノミナラス前記兩地間六百二十三露里ノ線路ニ於テ多額ノ經費ヲ縮少スルノ利益アルガ故ナリ更ニ他ノ一線ハ哈爾濱ノ東方阿什河驛ヨリ沿海州ノ國境バゲラニイチナヤニ至ル線路(四百六十四露里)ヲ撤去シ烏蘇里鐵道本支線ヲ孤立セシメ沿海州ト滿州トノ經濟關係ヲ断絶セシメ沿海州地方ハ悉ク日本ト經濟關係ヲ連結セシメ且ツ兩地間四百六十四露里ニ對スル經費ヲ縮少スルニ在リ但シ此二線ノ撤去ハ媯和案件第十一即チ黑龍江沿道地方ヲ十五ヶ年間自由貿易ノ狀態ヲ保タシムルノ精神ニ悖ルノ嫌アリト雖モ東部西北利及北滿州現今ノ狀態ハ前記ノ二線ヲ撤去スルモ貿易上著シキ影響ヲ與フ

ベシト云フ可カラス故ニ必要ノ時期ニ達スルマデ
ハ前記二線ヲ撤去シ之ニ代フルニ義當鐵道及吉林
鐵道ヲ敷設スルヲ以テ經濟及政治上ノ政策ニ適ス
ルモノト思考ス

早川龍介

MT

11233 00131



謹啓 對露戰捷の餘波韓國に於ては我國の勢力日々月々發達
 して從テ韓地に向テ事業ヲ經營スルモノ大ニ増加スルノ傾キヲ相成
 美ハ悦ヲ可キ事ナリテ實力布殖ノ結果ハ我が西門の鎖鑰又
 ラシト不可疑ナリ有之矣 韓地ニ縱貫ノ鐵道ヲ布設スルニ當リ
 運搬上陸海ノ聯絡最モ必要ノコト、存スル此ノ聯絡上最モ重
 要ナルハ中央ニ仁川港ニ有之矣 和俄追日來當港ニ滞在致シ
 此港灣ノ現状ヲ察スルニ當港ニ於ケル日本人ノ居留地ハ頗ル狹隘
 ニシテ漸次各國居留地ニ向テ溢居スルノ不得止ニ立至リ居テ夫ノニ
 地稅ヲ外國人ニ收得セラル、コト數多ナリ由傳聞仕テ夫當港ニ於ケ
 ル高層なる空氣清淨風光佳絶、土地ハ尽ク獨米其他外人

ノ專有ニ歸シ、管工幾多ノ金錢を擲ツモ容易ニ得ル能ハサルモ
の如ク、又加之市街連續ノ地ニ於ケル海面埋立ヲ企圖スルモ各
國居留地ノ價格ヲ損スルノ懸念ヲ以テ故障多シトノ事ニ有之矣
抑モ漢江ノ水流及港口ノ潮流ヲ察スルニ港灣ニ淤塞スル處ノ砂
泥ハ漢江ヨリ吐出シ潮流及波浪ノ為メ之ヲ灣内ニ打寄セ來ルモ
ノナレハ大浚渫ヲ為スニ非サレハ小ナル船舶ノ出入ヲモ止ムルニ至ルハ
必然ノコト、被存矣將來ニ於テ此ノ自然ト戰テ夥多ノ浚渫
費用ヲ擲シヨリハ寧ろ口鋪地ニ接近シタル月尾島南ニ築港突
出ノ利ナルヲ信シ、又此計畫ヲ就テハ月尾島并ニ小月尾島ヲ領
有セサレハ甚タ妙ナラス此ノユ元ヨリ韓國政府ノ事業ナリト

虽无識無氣カナル韓政府ノナレ能ハサル処ナレハ日本政府ハ此ノ
工事ヲ起シ其利ヲ得ルニ如カサルモノト奉存ス而シテ月尾
島上ニハ韓國ノ炮台アリ是實ニ兇戲ニ均シキモノト虽无國防
ノ名アルヲ以テ之ヲ排除スルノ道ナカル可キ歟不得止ハ炮壘ノ
一部分ヲ除キ其他ヲ以テ尽ク永久ノ租借地又ハ買収シ此島
嶼ヲ護得シテ而シテ釜港否テ埋立ヲナシ我が專有居留市街
ヲ建設セハ後東海陸ノ聯絡上我國人ノ利益少クナラス矣起工
資ノ如キハ其名軍用ニ充ルヲ以テ成切ノ上ハ道ニ償却ノ方法
ヲ立ツル容易ナルヲ以テ永遠ノ利益タルモノナリ 敬白

明治三十七年六月

工費

埋立面積凡十萬坪

工費金冬拾萬圓

但し凡二哩鐵道延長加設費ヲ除ク

右ハ大潮升二丈九尺七寸五分ニシテ埋立スヘキ処ニ於テ

干潮ニ露出セル砂泥一丈二尺乃至一丈五尺アルヲ以テ海面

石垣高三間延長凡八百十間埋立地坪凡五萬坪

償却

埋立及別世三町三反三畝拾步

但十萬坪

内凡二萬坪道路官用倉庫建物船入場ホニ云ル

七萬坪

金四圓廿八匁五厘ヨ



老坪金六田トスレ 露拾貳万田ヲ得

一月一坪冬ノ地代ヲ得レハ其利子ハ朱四厘ハ五ノ
ヲ得レハ老割四分ト云ん

月尾島ノ収支ヲ算サス

韓國に於ける鐵道布設費償却法並に殖民策

韓國に於ける釜山より京城を経て義州に至る鐵道總路線沿
ノ處ノ土地は三十五年ヲ不出シテ其價平均三倍スルハ日本
ニ於ける既往ノ事實ヲ證明スル現今ノ情況ニテハ此多
額ノ資本ヲ以テ鐵道ヲ布設シ之が爲め騰貴スル土地ノ
利益ハ頑固ニ韓人ノ利益タル可シ故ニ其騰貴スル處
ノ利益ヲ以テ資本ノ償却ヲ爲サハ何人ノ怨恨モナク國利
ルノ良策ナラト信候

日本國ハ謂テ曰ク韓國政府ノ承諾ヲ得テ某会社及軍用ノ爲メ
釜山より義州に至る鐵道ヲ布設シマアリ該條工事中及ヒ
成切ノ后々ニ於テ時々頑固ニ韓國民ノ蠻行アリテ線路
ヲ妨害スルノ恐レアリ鐵道元々韓國ノ交通上大利益アリ之ヲ

嚴に政府当然ノ責任ナリ後來其被害損失ノ責任ヲ保證
セヨト申サハ取ラウハ爲シ能ハル可シ 然ラハ線路保護ノ爲メ
線ノ土地ニ日本人ヲ移住セシメ保護ノ助カラ爲サセトスルヲ以テ
線路ノ左方拾町右方拾合二千町(千五百間)巾山林、原野、耕地(宅地ハ
特別ノ規定ヲ受クルトシ)ハ金山ヲ義列近(市街ヲ不得モノヲ除ク)徵發的最
低價格ヲ以テ買収(代金ニ五年以上ノ年賦)(官地ハ永久租借ホ)シ日本農
民ヲ移住セシムルコト

自金山 至義品 線路凡五百五十哩 (貳百六四里) 巾貳千町

此及別 拾九万三千八百町歩 平均一反金貳拾圓 耕地ニト見ルモノナリ

價金叁千八百七拾六万圓

三年后地價ノ騰貴ニヨリ二倍スルモノトセハ販賣(取歸)オ諸経
費ヲ除却スルモ鉄道布設費ノ半ヲ得ルモノナリ

實拂ノ方法

日本人民ニシテ韓國ニ移住若クハ出稼ニテ農ヲ以テ專業ニセシ
 トスルモノハ金山ヨリ義加ニ至ル鐵道沿線ノ土地一戸ニ廿三町
 歩ヲ當方ノ定ル價格(壹反歩ニ拾町以上五拾町以下)ヲ以テ
 三ヶ年置据向フ拾ヶ年賦ヲ以テ拂渡スコト

一戸ニ付耕地三町歩

附近ニ山林原野所在ノ地ハ其反別并ニ價格ハ實
 地ニ就キ指定ス

三町歩ニ對スル代金三ヶ年置据利子ヲ含シ

金千四百三拾町ト仮定シ四ヶ年目ヲ第壹期トシ向フ

拾ヶ年ニ年々金貳百町ヲ收護ヨリ償還ニ滿

期ニ至リ其土地ヲ得ル事 (是ハ大体ノ標準ニテ)

全戸後住セバシテ桑園ヲ閉キ養蚕期ノミ出稼シナシ又ツ茶
園菓樹ノ類ヲ植甘平時留守番又ハ家内ノ中ニ三人住居
スルモノハ契約ノ時地價ノ十分ノ一ヲ支拂フ事

韓國ノ米田ニ依テ得ル処ノ概算

三町歩ノ内五畝歩ハ宅地其他野菜ホニ當テ

貳町五反歩ハ護米四十石 (米及米石六斗。中田より)

内拾貳石 家内六人ノ食料 但シ貳石

差引貳拾八石 此金三百貳拾貳圓 米石拾米圓五十米

地稅七拾五圓 (米貳圓半米) 四年目ヨリノ年賦金貳百圓

差引五拾圓ノ殘金ト千田ホニテ得ル米作ボヲ以テ年費ニ充ツ

渡航費 米ニホカ屋ヲ設ケル費用ハ前々年中得ルリヲテス

MT

11233 00140

一 日本政府自ラ之ヲ行フハ難キモノトスルモ勸業銀行又ハ日
韓銀行ヲ設立シ若クハ他ノ銀行ヲ以テ之ヲ行ハシムル事

一 賣下ケ價格ハ買入代金ノ二倍(毫)及歩金貳拾圓ト仮定シ
三町歩ノ代金^{有價音四}壹千貳百圓トスル事

一 日本ノ農民ガ三町歩ノ耕地ヲ有シテ年貳百圓ノ年賦
金ヲ又辨スルハ甚タ易キ事ナリ

一 又別拾九萬三千八百町歩一戸三町宛ニ割當セハ六萬四
千六百圓ニシテ一戸六人トセハ三拾八萬七千六人ナリ

一 前記ハ大略ノ標準概算ニシテ大要ノ事ニ有之矣
一 殖民ヲ爲スト同時ニ鐵道建設費ノ償却ヲ爲スハ隨今

處ノヨキ方法ナレハ此ノ方法ヲ以テスレハ応募者充分得ラ
ルヤニモ考メ尤モ是ヲ以上ニ恩典ヲ與フハ易キ事也

違算毛可有之許
カレ可也

大
次
野
田
製

MT

11233-00142

耕地三所步拂渡金年賦償却法

開元年

置据

元 金千二百四

利元 金千二百四

金元年

置据

利元 金千二百四

金千二百四

金元年

置据

利元 金千二百四廿二

金千二百四

金元年

初年

利元 金千二百四廿二

金千二百四

金千二百四

利元 金千二百四廿五

金元年

二

金千二百四十九

金千二百四

二百四

百廿四十九

金元年

三

金千二百四十九

金千二百四

二百四

百廿四十九

金元年

四

金千二百四十七

金千二百四

二百四

百三十四十七

金元年

五

金千二百四十四

金千二百四

二百四

百四十四廿四

金元年

六

金千二百四十二

金千二百四

二百四

百五十二四十九

MT

01293 00143

金年

金年

金年

金年

七

六百三十四年

三十四年

二百四

百六十四年

八

四百七十四年

三十四年

二百四

百七十四年

九

二百九十四年

七十四年

二百四

百八十四年

十

百七十四年

七十四年

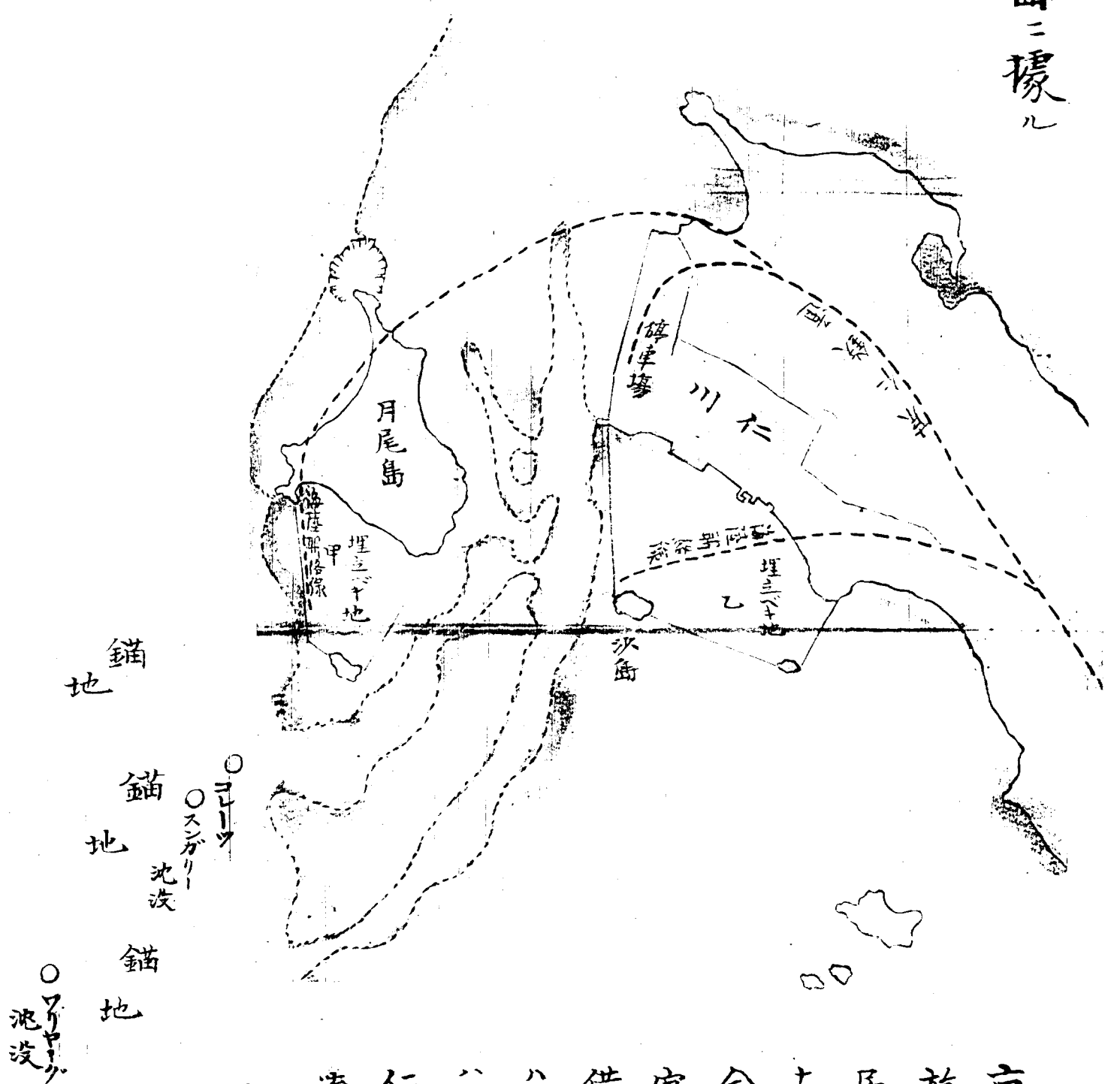
二百四

百九十四年

MT

11233 00144

海面ニ據ル



京釜京義ノ兩鉄道韓國ヲ貫通セハ必スヤ中央ニ
 於テ海陸ノ聯絡ハ仁川港ヲ以テ最ト入日本人多数
 居留ヲ為スモ其八分ハ各國人居留地ニシテ殊ニ高層
 ナル佳良地ハ獨ニ其他各國人ノ所有ニ歸ス我國人
 今後ノ居住ニ土地ノ為メ他國人ニ利益ヲ與フルモノ
 實ニ少々ナラス故ニ月尾島ヲ韓國ヲ買収若クハ永久
 借地ヲシ同島南方ヲ埋築シテ日本人居留地ト為サ
 ハ軍事ニ商業ニ永遠ノ利益タルモノナル可シ其資金
 ハ何レノ方法ニ據ルモ容易ナルモノナラン歟

仁川港灣ノ不良ナルモノハ漢江ヨリ吐出スル砂泥ヲ潮
 流及ヒ海波ニヨリ打寄スルモノナレハ今後十數年ヲ經ハ
 仁川港ハ埋塞スルモノニシテ自然ト戰テ没深センヨリ

寧ロ月尾島南ニ埋築セハ百年ノ計ニ
 可シ實測ノ急ナルモノ也

(士)

根津一

卜
齊
會

11233 00146

第
25
門

要目付

對清經營案

作
軍事三月以來和議自是已提

楊

四十四年六月二十七日記錄一部發

文臣司

對清經營案

對清經營トハ國家カ左ノ諸項ヲ精査、
統合、勸奨、遂行スルヲ云フ

第一清國現未ノ大勢

別冊清國憲政籌備事項表及中央
各部施設表ニ考ヘ又既往革新實施
ノ情勢并ニ別冊清國財政狀態ニ照セ
ハ畧煥ハ現未ノ大勢ヲ見徹シ得ベシ

第二對清教育政策

本政策ハ清人教育及對清經營實行ニ
從事スベキ邦人教育ノ二トナスヲ得ベ
シ本政策ハ對清經營ノ實施上列國共
最モ重要視シ居ルモノトス

第三對清軍事政策

清國既定計畫ノ三十八個師團ノ將校
下士兵卒ヲ本邦軍人ノ手ニテ訓練シ置
クガ如キハ平時對清政治上經濟上重大
ナル關係ヲ有スルモノニシテ殊ニ強固前途愛
乱ヲ生シ我陸兵ヲ彼地ニ使用スルヲ要スル
場合アリトセバ此等ノ軍隊ハ恰モ愛親覺
羅氏ノ支那併吞時ニ於ケン綠旗兵ノ如キ
有様ニテ我使用ニ供シ得ルノ關係ヲ蘊蓄
スルモノトス

第四對清貿易政策

列國共ニ支那革新ノ實施終了ヲ期シテ
對清經濟經營ノ大飛躍ヲ試ミントシ今其

準備ニ汲々タル場合ニシテ我對清經濟經
營ノ陸替モ亦此時期ニ決スルモノトス故ニ
我國ノ準備トシテハ彼等ニ先チ附圖記上
ノ七十餘處全部ニ小規模タリトモ經濟
經營ノ基礎ヲ樹立シ置クヲ要ス尚其詳
細ハ別冊對清貿易政策ニ譲ル

第五對清外交方針

露國ト協約ノ結果清國ヲシテ力ヲ對露
蒙古伊犁方面ニ注ガシメ、米國ノ對清經
濟陸梁ヲ抑ユルニ努メ、清政府ニ對シ
テハ毎ニ名ヲ捨テ實ヲ收ムルノ處置ヲ取
リ、前途ノ為メ國民的親交ノ道ヲ獎メ、
國際放資ニ関シテハ政治上ノ顧慮ニ基キ

各ニ其位伴ヲ離レズ、前途支那ニ於ケル
列國々民の帝國主義ニ依ル經濟的尚
進ニテ政治的解決ノ場合ヲ覺悟シ置クヲ
要ス

第六對清宗教政策

各省少クモ一個ノ佛教ヲ經トシ科學ヲ
緯トスル僧學堂ヲ起シ支那僧侶ノ改良
ヲ圖リ以テ平時ハ談話下層社會ノ改善
ニ裨補シ變時ハ其數十萬ノ僧輩ハ收
メテ我便用スラシムルヲ期スベシ

第七對清調查事業

十八省及滿蒙伊藏ノ各要地ノ實地ヲ
詳密ニ調査シ置クハ平變兩時共ニ最モ

必要ナルコト論ヲ待タズ

第八對清最後ノ覺悟

談國平和ノ場合ニ於テハ其經營實施ハ
主トシテ經濟事業ニアルベキモ前途談國ノ
政黨發生政權ノ爭奪ヨリ軍隊之ニ
加リ一部ノ内乱アリトスルモ其處分ハ我
邦ノ力ニ待タザンベカラザルコト團匪事件
時ノ場合ニ鑒ミテ明カナリ殊ニ之ヲ動機
トシテ全部大内乱ニ至ルガ如キアラバ彼老
帝國ハ我國ノ大料理ヲ待タザンベカラズ
シテ我國東洋全經營ノ天職ヲ盡スハ
此時期ヲ以テ始メテ一段落ヲ告グバク國
家ノ存亡盛衰モ此場合ニ於テ決スバク今

目其覚悟アルヲ要ス



11233 00153

對清經營助成施設案

MT

11233 00154

對清經營助成施設案

立 旨

將來十年後支那ノ改革セル新天地ニ於テ歐
米列國カ經濟的大經營ヲ施行セントシ銳意
其準備ニ汲々タルハ識者ノ齊シク認ムル所ニ
シテ就中米國ノ如キハ無慮三十萬圓ノ賠償
金ヲ支那ニ返還シ今又滿洲鐵道中立ノ案ヲ
提唱シ以テ對清經營ノ大任掛ナル準備ヲ為
シツ、アル場合ニ於テ我國タルモノ須ラテ
進ンテ之ニ對抗スルノ策ヲ講セザル可ラズ
然レトモ投資ノ多少ヲ較シテ其對抗ヲ策ス
ルガ如キハ到底我國カノ耐ユル處ニアラス
顧フニ彼ハ彼ノ長所アリ我ハ我特便アリ我

ニ於テハ宜シク彼ノ願フテ得ヘカラサル我時
便ニ基キ費ス所少ニシテ效果ノ倍スマキ、方
法ニ由リ以テ對清經營ノ進達ニ資シ歐米列
國ト競争角逐スルヲ圖ラサルベカラズ今此
主旨ニ基キ差當リ左ノ諸案ノ實施ヲ希望ス
一、對清通商誘導館ノ設置案

説明

我邦人ノ對清通商ノ發展ヲ妨障スルモ
ノ主トシテ清國通商港ニ於ケル邦人ノ
宿泊、通譯、調査及委託賣買、倉庫運
送取次、税関ニ関スル不便不確ナルニ同
ル故ニ如上事項ノ便易安心ヲ圖ルハ對
清通商誘導上最モ必要ノ一ナリトス是

本館ヲ漸次支那全通商港ニ布設シ以テ
歐米人等ノ内地諸港ニ發展スル能ハザ
ル時期内ニ於テ我邦人ヲシテ遍ク右諸
港ニ經營ノ基礎ヲ建テシメント希圖ス
ル所以ナリ而シテ此種ノ設備ヲ如何ニ
遠東ノ人士ニ利シテ商工業者ニ裨益ヲ與
フルノ大ナルヘキカハ 彼支那會館ノ
効用ヲ鑑ミテ知ルベシ

ニ支那各支部ノ所轄トシテ支那學生養成商
工業學校ノ設置案(但上海ハ東亞同文書院
内ニ於テス)

説明

支那方面本會支部員ハ日清人ノ合同ヨ

リ成ル、事情ヲ利シ支那ノ事業トシテ
中等高工學校ヲ設立シ其地ニ於ケル重
ナル支那實業家ノ子弟ヲ教養シ一ハ以
テ西國人頭腦ノ知識系統ノ近似ニ由リ
漸次日清人合同經濟經營ヲ恰適ナリシ
ムベキ素地タラシメントス

附言右學校ノ設立アルトキハ多少其
地ニ於ケル日本人子弟教育上ニ大
ナル便宜ヲ與ヘテ其對清通商誘導上
ノ裨益タルヤン

三、同文會事業ノ各義ノ下ニ一大漢字新聞ノ
新管案

説明

有カナル一大漢字新聞ヲ上海スハ漢口
ニ興シ每弭諮議局議員資政院議員及知
縣以上ノ支那官吏ニ寄贈シテ之ニ讀マ
シメ一面低價ヲ以テ廣ク購讀者ヲ得ル
ニ務メ以テ日本ノ對清外交其他ノ諸經
營ニ於ケル誤解ヲ氷釋シ且ツ間接國家
社會ニ関スル諸事ニ就キ彼等ヲ指導誘
掖シ延テ邦人通商發展ノ便ニ資スベシ
顧フニ米國ノ如キ前途在米支那留學生
ノ卒業歸清ノ曉ヲ期シ彼等ヲ提ケ支那
ノ各地ニ新聞ヲ興シ我對清經濟政治發
展ノ妨害ヲ試ミントスハキハ現ニ上海
ニ於ケル米人ノ大株主タル新聞報ノ所

作ニ鑑ミテ明ナル事實ニシテ乃チ今ニ
及テ此種事業ノ新營ヲ急務トスル所以
ナリ

四、支那各省城ニ駐在員常派案

但日本領事館所在地ヲ除ク

説明

昨年来諮議局ノ開設アリ明年ヨリ地方
稅國家稅ヲ分テ地方費豫算ヲ開議スベク
各地方共官民是ヨリ漸ク多事ナラント
ス殊ニ諮議局ハ日本ノ府縣會ト異リ昨
年議事ノ例ニ照スニ國家ノ内治、外交
財政、法律等迄ニ容喙論議スルノ情勢
ナルガ故ニ自今各省城ニ派遣員ヲ常駐

シテ其諮議局ノ動作ヨリ生スル諸事情
ヲ列國ニ先々刻々詳カニ知了シ置クコ
ト對清經營ノ参考上極メテ切要ノ一ナ
リトス且此情報ノ如キ之ヲ我同盟國
ル英國ニ通報シテ我恩惠ニ浴セシムル
カ如キ特種利用ノ價值アルモノナルヲ
信ス其他觀光團ノ勧誘諮議局議員及ビ
其省内各方面ノ有力者ニ知己ヲ造リ置
クカ如キハ兩國々民の交際ニ資シ又未
來變時ノ場合ノ如キ極メテ有力ナル使
用ノ根基ヲ胚胎シ得ルモノトス

五、第二次支那内地旅行計畫案

說明

支那ハ我國ト相隔ツル一葦帶水、ミ而シ
テ我邦人ノ對清事業ニ於テル年所ヲ經
ルノ割合ニ發展セサルモノ主トシテ我
邦人ノ談國々情ヲ知ラサルニ依ル故ニ
我邦人ヲシテ遍ク談國ノ事務實情ヲ知
悉セシムルハ對清經營發展ノ最急務
トスル所ニシテ同文書院ノ支那内地旅
行ノ企圖ハ之レカ爲ノナリ而シテ第一
次三年旅行計畫ハ昨年ニテ豫定ノ如ク
遂行シ得タルモ談國版圖ノ廣キ事物ノ
繁キ二等地點以下尙實地調査ヲ要スル
緊要ナル事項甚タ多シ故ニ更ニ本年ヨ
リ三年計畫ヲ以テ此種ノ調査旅行ヲ繼

續實施セシコトヲ希圖ス而シテ其結果
タル未來變時ノ場合ノ如キ更ニ重要ナ
ル價值ヲ加ヘ來ルモノトス

六、上海東亞同文書院ニ農工科設置案

説明

從來、政商二科ノ外更ニ農工科ヲ新設シ
中學程度ノ農工學校卒業生ニ一般學科
ノ外農產製造學工藝化學等ヲ教授シ卒
業後清國ノ殖產工業ノ事ニ從ハシメ且
ツ内地旅行中ニ彙集セル各種原料ヲ試
驗研究ノ上其結果ヲ世ニ公ニシ日本内
地ノ事業家ヲ誘導スルト同時ニ其從業
者ヲ養成シ以テ清國ノ富源ヲ開發セシ

ト欲ス殊ニ農科卒業生ニ於テハ未來變
時ノ場合アルカ如キハ其前途ニ於テ極
メテ必要ヲ感スルモノトス

七、上海東亞同文書院内ニ外務書記生養成部
ノ附設案

説明

支那ノ政教民物ノ特種ナル同國派駐ノ
外交官領事ヨリ以テ書記生ニ至ルマデ
特種ノ養成ヲ要スルコト各國ノ齊シク
認ムル所ニシテ殊ニ我國ノ支那ニ於ケ
ルカ如キ利害關係ノ格別重大ナルモノ
ニアツテハ最モ重キヲ茲ニ置カサルベカ
ラス而シテ書院本科卒業ノ希望者ヨリ

之ヲ撰擇シテ外務留學生トナシ尙ホ二
年間語學其他必要、教育ヲ施ストキハ
人物モ精撰シ得學力モ優秀ナル而モ在
清修學ノ久シキ其政教民物ニ通徹シ在
清勤務ニ恰適セル良書記生ヲ得ハク更
ニ年所ヲ經テ領事トナリ外交官トナル
ニ從ヒ益々其效能ヲ發揮スヘキナリ
八、在東京支那學生ノ指導方法案

説明

在東京支那學生等カ談國ノ中央大官又
ハ地方ノ官紳ニ對シ内治外交等ニ関ス
ル意見ヲ提議運動シテ重要ナル結果ヲ
發作セルヲ從來屢々見聞スル所ナリ而

シテ諮議局ハ既ニ奏會シ資政院ハ將ニ
本年ヨリ開設セントスル今日ノ場合將
来如上ノ事情ニ一層勸力ヲ加フルヲ湖
北鐵路借款問題ニ鑒ミルモ明カナリ故
ニ該學生等ヲシテ成ルベク多ク本會員
タラシメ會報ヲ精讀シテ内外事情ノ真
相ヲ悉シ利害ノ所在ヲ明カナラシメ以
テ事ノ誤解ヲ未然ニ杜キ又時々懇親會
等ヲ開キ親睦且扶掖誘導シ間接對清經
營ニ裨補アラシメ且ツ前途國民的交際
政策ノ基礎トナスヲ得ベシ

九、北京駐在員派遣案

— 說明 —

清人ノ畏敬親愛スルキ高潔ナル有力者
ヲ北京ニ常駐シ置キ各方面ノ官民ニ交
際シ政府及官中其他重要諸事情ノ真ヲ
極メ又資政院議員ト交際シ中央地方ノ
關係情況ヲ知り又彼等ノ心事ニ通徹シ
テ彼國現未ノ趨勢ヲ推斷スルニ資スベ
シ
此ノ如キ派遣員ハ時トシテ外交官ノ爲
メニ將來紛錯ヲ致スルキ問題ノ爲メニ
居中調停ニ極メテ便ナルノ利ヲ併有ス
十日清俱樂部創設案

說明

日清兩國人ノ居常集團シテ吉凶相變

早レ彼我ノ意志ヲ疏通シ以テ其交情ヲ
温ムルニハ日清俱樂部ヲ設備スルニ若
クモノナカルベシ殊ニ彼國觀光團ノ多
數來朝スルカ如キ場合ニ於テハ其幹旋
機関トナサバ極メテ便ナリ

別冊十案ニ對シ補助ヲ要スル費用ヲ合計ス
ル時ハ左ノ如レ

第一年ニ要スル補助費 五〇二、四七九 円

第二年ニ要スル補助費 一六七、四一七 円

第三年ニ要スル補助費 一六五、五四〇 円

第四年以下ハ之ヲ畧ス

右内譯、左ノ如シ

一、對清貿易誘導館之部

第一年補助費

二、四二、五三四円

創立費

七九、二九〇

但シ、家屋

一〇〇、〇〇〇

經常費

六三、二四四

第二年以下補助費ヲ要セス

二、支那學生養成商業學校設置ノ部

上海

創立費

二、七〇〇円

補助費

六、一八〇円

漢口

但一 經常費
收入

七、八三。〇 月
一、六五。〇

創立費

四、四五。〇

補助費

九、三五。〇

但一 經常費
收入

一、〇〇。〇
一、六五。〇

天津

創立費

四、四五。〇

補助費

八、七五。〇

但一 經常費
收入

一、〇四。〇
一、六五。〇

廣東

創立費

四、四、五〇、四

補助費

八、一、三〇、〇

但し 經常費

九、七、八〇、〇

収入

一、六、五〇、〇

創立費計

一六、〇五〇、〇

第一年以後毎年補助費計三二、四一〇、〇

合計

四八、四六〇、〇

三、漢字新聞、部

第一年補助費

八、四、五五六、四

創立費

一、九、一〇四、〇

但し 經常費

一、二、七、四五二、〇

収入

六、二、〇〇〇、〇

第二年補助費

五、三、五三二、〇

經常費

一三七、五三二、四

但之收入

八四、〇〇〇、〇

第三年補助費

五二、二五二、〇

經常費

一四四、二五二、〇

但之收入

九二、〇〇〇、〇

四、支那各省駐在員常派、部

第一年補助費

三五、〇〇〇、四

第二年以後每年補助費

三一、二〇〇、〇

五、第二次支那內地旅行、部（三年經画）

第一年補助費

一〇、二七九、四

第二年補助費

一〇、一七〇、〇

第三年補助費

九、五七八、〇

六、上海東亞同文書院農工科設置、部

MT

11233 00172

第一年補助費

一三、八五〇円

第二年以後毎年補助費

七、三〇〇

七、上海東亞同文書院内ニ外務書記生養成部ノ

附設ノ部

特ニ經費、増加ヲ要セス

八、在東京支那學生指導ノ部

第一年以後毎年補助費

三、八〇〇円

九、北京駐在員派遣ノ部

第一年補助費

三四、〇〇〇円

第二年以後毎年補助費

二九、〇〇〇

十日清俱樂部ノ部

第一年補助費

三〇、〇〇〇

第二年以後補助費ヲ要セズ

湯
山
成
三



11233 00174

肅啓

唐突に拙書を呈上する次第に似たり
まはるる清書と梅の日本学校に在籍中
閣下が永瀧徳助の殿と该校には
立案のことも即 相談の案を得しこと
あるのらえすに彼の地滞在中別冊の
如き材料を求め居る交を以て各地に
行はし先中止する事情にまみれ就
つは未だ見ずともは高の足をはねひ
かへぐの程のものには各々其の信冊子
といふ方々は又閣下されははるま
まの 敬具

晩香坡市共立日ある氏を待

明治三十四年四月六日

湯山成之

倉知鐵吉殿

諸君垂目錄一

明治四十三年四月終稿

東方論

湯山成三



11233 00176



東方論

第一 東方問題研究の必要

第二 列國の對清政策と日本人の覺悟

第三 清國の禍原

(1) 利權回收に就きて

(2) 滿漢畛域の化除

(3) 北京政局の變移

(4) 革命派の將來

第四 清國系統問題と政權紛争の注目點



11233 00177

第五 清國の外交政略

第六 獨逸の清國に對する態度

第七 獨清接近の側面觀

第八 膠州灣と日本

第九 山東と獨逸

第十 獨逸經營の鐵路と楊子江航運

第十一 露國の極東政策

第十二 東露露の現況

第十三 黑龍江と清露路移民



11233 00178

第十四 露國の滿洲に於ける商的消長

第十五 西藏と英露との關係

第十六 英佛二國の南清に對する對度

第十七 雲南鐵道に就きて

第十八 米國の清國に對する批判

第十九 大平洋と日米

第二十 日清米と極東

第二十一 結論



11233 00179

一、東方問題研究の必要

凡そ一國の興亡する所以のものは、素より一定の尺度を以て豫め知すべきにあらずと雖も、過去に徴して將來を考察するときは大略其の前途を推定し得べきものなり。而して古に強盛なるものも今は衰弱し、古に壓倒せられしものも今は却つて他に向つて侵略を計る等、其の跡青史の上に彰かなり。故を以て近世の所謂富強と稱するものと雖も、悉そ他日の貧弱ならざるを知らんや。又今日野蠻

未開と目せらるる者も焉そ後來の文明開化な
らざるを知らんや。今試みに東西兩洋古今の
歴史を採つて對照し来らば、豈に亦斯の如き
の觀なしとせんや
抑支那は位置東亞の中心に居り、土地の大
人口の多き、物産の饒多なる、宇内之に比す
べきなく、加ふるに二千有餘年前に於て既に
文明の光華を放ちしことは世人の齊しく知れ
る所にして、禹桀一盛一衰ありしと雖も、大
勢よりして之を通觀すれば、二千年以後の形

勢は漸次退歩の姿にして、今日に於て先づ極
まりりと云ふべし。然れども今や世界の問題
は東洋に集注し、殊に其の列國の競争舞臺は
實に支那大陸にあるか如し。故を以て支那の
一衰一盛は直ちに東亞の局面に偉大の關係を
及ぼし、延いては東西洋間の大問題となり、
以て世界の活舞臺に波瀾を起すべきことは
實に炳手として彰かなり。是を以て列國は
心の注意を拂ひて、着目凝視、以て遠大な
方計を立て、之に接し来りしは勿論今や瞬



11233-00182

時に眼を放す能はざる問題となれり。
最近数年間、列國は對清政策に一大變革を為
すの止むなきに至れり。即ち曾て支那分割思
想の盛なりし時代でありては、列強の鐵道権
要求は極めて手荒く、露國の滿洲に置ける、
獨逸の山東に於ける佛國の雲南に於ける等其
の鐵道権によりて所謂勢力範圍を確定し、以
て分割の下地を作らんとせしが如し。而して
分割思想漸次其の勢力を失ひ、保全主義未だ
確立せざる過渡の時代に於ては、列強は種々



11233 500183

の外交によりて幾多の鐵道権を獲得せしむが
列強間の各種の協約により、支那領土保全主
義の確定するや、清國の政府及び國民は其の
領土の他力によりて安全なるを恃み、外國に
對して極めて強剛なる態度を持し、所謂利権
回收運動なるものも起し、一方に於ては出来
得る限り既締の鐵道契約の破棄を圖ると同時
に、他方に於ては清國人の手によりて、清國
の鐵道なる語を作りて、今後外國人の鐵道は
一哩も清國の領内に現出するを許さざらん

セリ・然れども新たに大鐵道を敷設して、國
勢の進歩を圖らざるべからざる時に當て、資
力の薄弱なる清國が到底よく豫定通りに此の
主義を遂行する能はざるは疑ふべからざる所
なり。然かも清國の傲慢なる態度と、此の新
排外思想の前に於て、諸外國が各自單獨にて
支那の大鐵道の經營に當りんとするは、極め
て困難なるものあり。而して此の困難の必^然
の結果として、今や大資本國の聯合によりて
清國の鐵道經營を進めんとするの現象を見る



11233 00185

に至れり。而して此の新現象の裡に、支那に
對する列強の活動の新形勢が現はれつゝある
は、蓋し烟眼なる觀察者の之を知れりのみに
あらざるべし。

今や獨逸は清國の鐵道問題に於て大活動を試
みんとし、英佛も又此の時に於て大に成す所
なからざるべからざるの位置に在り。而して
米國は其の巨大なる資本の勢力を振びて、新
たに大いに支那の鐵道に向つて活動を開始せ
んとし、北京政府も全力を此の鐵道問題に於

四



1123300186

ける外交に傾注せざるを以て、此問題は極東に
於ける最も重大なる問題となり来れり。蓋し
極東政局の將來を語るものは、清國に於ける
鐵道關係の形勢なり。故に此の形勢に於て優
越的地位を占むるものは、又是に關聯して諸
種の利権を獲得するものといふべし。而して
我國の對清政策は、昨夏安奉線問題解決以來
頗る進捗して、我の面目を發揮せしめんと雖
も、列強に對する關係上滿洲に限局せろが如
く、然れども今後我の注目せざるべからざる

は、北清よりも寧ろ南清珠に楊子江の流域に
あり、蓋支那の富源は實に該江の流域にあり
ばなり。然るに一筆帶水を隔てたり我邦人か
之に向つて深刻の注意を拂ふもの少なくして
徒らに對岸の火災視しつゝ、列強の活動を傍觀
するが如きは、誠に憂憤に堪へざる所なり。
之を要するに、我國の清國を識ることの浅く、
上下共に深く其の奥想に通ぜざるもの、少な
きは、寔に浩歎すべきものなりと同時に、亦多
大の危険を知らざるものと云ふべし。吾人は

此の際國民が充分の研究と注意とを以て、之
れに對し以て清國通商をも、多からんこと
を希望するもの、而して清國の事情に通ぜ
るは、又一面に於て現下の世界に通ぜるもの
に、我國民が漸く清國を知る時は、既に
其の後れたるの時にあらざるなきか
然りと雖も、今日にては最早彼是言議を上下
するまでもなく、滿洲は我帝國の獨立を鞏固
ならしむる障壁にして、揚子江の長流は我帝
國の大陸問題に發展の進路を示せる水道なり。

MT

11233 00189

加のみならず 該江の兩岸一千哩四方の沃野
は、我邦人の活躍すべき地なるを知らず共に
奮つて之に移住し、以て清人を善導しつゝ、無
盡藏なる天恵の利を獲得するの覺悟なかる
からざるなり。



11233 00190

第二 列國の對清政策と日本人の覚悟

眼を瞞まかして東亞の大勢を觀察するに、最近五
十年の間に於て英は緬甸を略して香港を奪ひ、
佛は南支那を占めて暹羅を割き、露はウラジオ
ストークより滿洲横断の東清鐵道を敷きて封
豕長蛇の勢を作り、獨は山東の一角を占めて
中原の鹿を得んことに努め、米はフィリッピ
ン群島を領して猶且つ支那内地に進まんとす
而して是等は何れも過去之事に属し、今や是
等の列強は此些の躊躇なくして深甚なる辣手を



振はんとす。即ち鐵道政束に於ては、英は南方より佛國と雲南及び四川に向はんとし、獨と聯合しては津浦及び川漢鐵路により、支那本部の利源を楊子江に導きて猶且つ印度に連絡せしめんとし、獨は山東省を根據とし、津浦鐵道によりて楊子江に出で、川漢鐵道によりて四川の富源をも掌中に握らんとせり。而して佛は安南より比較的競争少ない雲南及び廣東に出でんとし、露は北邊に蹣距して北方經營に熱中せり。蓋し鐵道政策につきては列國



11233 00192

は數年來種々の樺組折衝によりて、漸く清國
人と提携するを得しと雖も、翻つて經濟狀態
を省みれば、猶大いに研究せざるべからざる
あり。即ち最近十年間列強の支那にありて、
貿易に従事する店数と人員とは共に倍加し、
リ、貿易額亦非常の増加を示し來れり。然れ
ども支那内地は未だ交通不便にして、釐金の
制度と盜賊の横行とは、更に其の不便を増さ
しむるを以て、内地に無益の鑛山無邊の沃野
あるも、拓く能はず、爲めに庶民購買力に乏し。



11233 00193

是れ外清貿易の進々たる主因なるが如し。而
して彼等の高習慣度量衡及び貨幣等は一市内
にても區々として一定せらるゝ。又會館公所
に加盟せざるものは事業を営むこと難く、特
に外國人が此の間に立ちて商務を営むること
甚だ難し。加之、みづから清國にては金銀比
價の変動頗る劇しく、爲に思はざる損失を蒙
りて産を破るもの甚だ多く、又外人の支那買
場に從ふや、其の言語高習慣度量衡貨幣等に
通ぜざるため、止むを得ず英語に通ぜらる支那



11233 00194

人も雇傭して、買辦ハクワンとなし、以て一切の賣買を司らしむるが故に、彼等は外國人が自己の内情を知らざるを奇貨とし、私腹を肥すに汲々たるを以て、主人の利益は半ば彼等のため、に壟断せらるゝあり。故に外國人も又是等の原因があるところを知り、専心之が排除に努めて貿易の進歩を計りつゝあるも、未だ容易に其の根柢を免除すること能はざらるゝ。思ふに支那を啓發誘導して、其生産力と購買力とを増進せしむるの策は、先づ交通を便な

九



11233 00195

らしむるに若かざるなり。是を以て列國は本
國と支那間及び支那各港間の航路を創めて、
水上の交通を便にし、又之に次ぎて其領土よ
り支那内地又は重要なる通路に鐵道を敷設せ
んとしつゝ、あることは前述の如し。故に以今
にて十年も経過せば、是等の鐵道約一萬哩に
下らざらべく、陸上の交通も亦略備はりて、
諸種の産業又發達するに至るべし。
然れども支那人は薄資拙技なり。即ち生産業
の進歩を計るは至難にして、外人の力と財と



11233 00196

を借らざるべからず。而して外人も亦其の餘
財を以て、支那内地の採掘業其の他の工業を
営みつゝ、あるを以て、諸種の産業は交通の發
達と共に益々榮ゆべく、又交通機關完成の曉
には、今日の面目をも全然改むるに至るべし。
今や諸外國が支那貿易の進歩を容易ならしめ
んとせば、須らく諸種の障害を排し、諸般の
設備をなして其の進路を拓かざるべからず。
而して列強は新條約を締結する毎に、支那度
量衡貨幣及商習慣の統一を促し、或は金貨本



11233 00197

位を採用せんことを迫る。然れども清國は
假令政府が法を定むるも、地方同業者の同意
なくんば、即ち行はれず。商業上の事項も亦
之を會館公所に諮らざれば、其の効なく、而
して會館公所は自家獨占の便宜上、故らに其
の制度の複雑を望みて統一を肯んぜず。釐金
税は支那政府の重要な財源にして其の國庫
の空望甚しき今日、之を撤去せんことは當分
難かるべし。斯の如き事情なるを以て列強が
從來の買辦を廢して、自ら商務に當らんこと



11233 00198

も、亦日獨を、除くの外前途猶遠なるべし
之を要するに、今後列国利害の衝突は腦争高
戦を徑とし、武力を緯としたる者の單位とな
りて起るふるべく、殊に留意すべきは獨米人
の行動なり。国際關係に於ては親善を標榜す
と雖も清國の各都市に於ては、印人を嫌忌し
且つ將來につきて非常に恐怖せるが如し。而
して佛露も亦内心我勢力の増大を好む者に
あらず。他の列強間の感情も、支那問題に對
ては大同小異のみ。されば我國は將來益々多



事、所謂國歩艱難の時代に向つて進める者な
りと雖も、武力の充實せば、豈他國の容喙す
べき餘地ありん。而して餘が所謂武力とは、
單に兵士と武器とのみを云ふにあらず。外敵
に對する國民の志氣と、財力との二事をも含
む。嗚呼一葦帶水の彼方には、常に此の注
目すべき伏魔殿あるを以て、邦人たる者日夜艱
閑、以て細心の注意を拂ひつゝ、之に對する
の覺悟なかるべからざらなり。



11233-00200

第三 清國の禍原

余は前節に於て列國の對清政策を論じ、以て列強の清國に對する態度を究めたり。然るに之に對する清國は、列國が注目せる程自重せず、且つ現下自國の實力をも過大視せるが如し。是を以て種々憂ふべき禍原の存するあり。而して之を究めざれば、未だ以て東方論の根據をなす能はず。故を以て左の數項に分ちて論ぜんとす。

(1) 利権回収に就きて



最近數年間に於て清國政府のとりし利権回収
政策は、寧ろ豫想以上の成功を博し得たるが
如し。常に吾人の之を目して豫想以上の成功
と爲すのみならず、恐らくは清國彼れ自身と
雖も又豫想以上の成功たりしことを自覺せる
をるべし。抑清國の利権回収説が概ね先づ民
間有志及び漢字新聞によりて唱へられ、政府
者之に従つて動きつゝありしは、清國の政治
及び外交に注目せる者の直ちに認識し得べき
所なり。されば利権回収説は、急作的政策に



11233

00202

あらずして国民全体時代精神とも見ざるべき
もたなり。而して歐米列強の爲めに数十年来
殆んど獨立國としてつ總ての體面と權利とを
蹂躪され居たる又動として、利権回収説の一
代を風靡せしは決して異むべきにあらず。否
な寧ろ當然の主張として吾人は清國官民の意
を諒とするものなり。而して又此の回収説は
當局一時の姑息的政策に非ず、官民上下を通
じたる國家的大政策なるを以て、豫想以上の
成功を博し得たるなり。然りと雖も一面より



之を見れば、清國の利権回収説は、一時薪に
添ふるに油を以てし、安全辦の如何にか、は
らず、只管其の汽力を加へんことにのみ焦慮
いたるが如し。而して汽力の高熱を加ふるに
從ひ、危險の度も亦之に伴ふは謂ふまでもな
き所なり。試みに數年來清國の回収したる利
権其のものに就て謂はんには、

一、米國に對するものとして、

(イ) 粵漢鐵道の贖回。

(ロ) 清國人渡米問題に就き米國の讓歩



11233

00204

二、露國に對するものとして

(イ) 日露戰役の結果として哈爾濱の經營

を放棄せしめたること。

(ロ) 漢河及び觀音山の金礦を贖回し得た

ること

(ハ) 滿洲里税關設置を同意せしめたること

と。

三、英國に對する主なものとして

(イ) 北京シージャケット (福公司) の鑛山

採掘用として、敷設せり修武山中よ

四



11233 00205

リ衛河の上流道口鎮に至る鐵道を買収せしこと。

(四) 數年來引續ける運搬の結果、山西全省の鑛山採掘権を北京シンジケートの手より、山西鑛務局に買ひ戻したること。

(ハ) 津浦鐵道の敷設條件に就て大讓歩をなさしめたること。

(ニ) 西江警榮権問題を清國側の主張通りに解決し得たること。

MT

11233 00206

四、獨逸

(五) 西藏問題に就ても、英國をして最も

清國に利益ある條約に同意せしめた

ること。

(六) 阿片輸入禁止に同意せしめたること。

獨逸に對しては

(七) 北清の駐屯兵を撤退若くは減少せし

めたること。

(八) 津浦鐵道條件の変更に伴ひ、膠州、

濟南府を除き、總ての未設支線に關

する暫定協約を廢棄せしめたること。



五日本に對しては

(i) 關東州租借。

(ii) 東清鐵道支線其他南滿洲に於ける露

是等(iii) 國得權の譲渡を承認したること。
吉會鐵道の敷設一日清合辦)
以外には殆んど見ろに足る報價を與

へざりしのみならず、關東州製塩輸入問

題、鴨綠江伐林問題、本谿湖炭坑問題、

間島韓國民保護問題等、我の視て以て當

然主張し得べき權利とすべきものすらも

我をして大讓歩を為さしめたり。

MT

11233

00208.

而して清國に於ける機會均等政策と列國相
互間の猜忌媚嫉とは、清國をして利権回収を
唱ふるに最も便宜なる位置に立たしめたり。
曾て露國の一時霸を滿洲に稱して、清國の怨
恨を沽ふや日本は清國擁護を爲めに、出来得
る丈の助力と聲援とを與へしため、終に三
十年の戦役となり、清國をして東三省を保
全せしめたり。茲に於てか滿洲に於ける日本
の位置は、當然日露戦役前に於ける露國と同
一なるべき筈なりしと雖も、我國は列國及び

清國に向つて、聲明せる滿洲開放先に機會均
等主義を尊重し、露國と同一の態度に出づる
を欲せず、列國も亦常に猜忌の眼を集注して
我國の滿洲經營を監視せしを以て、清國の我
國に對するや殆んど何等恩義を負荷せざるも
の、如く、動もすれば却つて敵意を我國に扶
み、滿洲に於ける平和的施設をすら妨げん
とせしことありき。西三年來、露獨英米等は、
又只清國の歡心を治はんことに汲々たるより
清國に對する列國の外交政策は、近時大いに



11233 00210

祖懷宏量を加へ来れり。是れ一には従来執り
 来り、たる威歴的政策の、不利益を悟りしもの
 なりと雖も、列国相互間の猜忌媚嫉が、列国
 をして其の歩調を一にする能はざる事情ある
 に職由せしんばあらず。然らば即ち清國の利
 権回収は、此の如くにして長へに其の効果を
 全うすることを得べきや。曰く甚だ疑はさ
 るを得ざらんや。
 而して又清國に外する列國の懷柔政策が
 國にとりて幾何の利益を壟断し得べきや否や

は、目下列國の經驗中に属せり。且又列國は
遠からずして、威壓的政策の不成功に終りし
と同じく、懷柔政策の必ずしも成功を期し難
きを覺るに至るべし。而して列國は今や清國
より何物をも獲得し得ざらんのみか、常て把
握し居たるものすらも喪失しつつあり。是を以
て清國が利權回收に就ての成功は、列國に取
りては又對に不利益にして且つ不成功なり。
又列國が各自の不利益不成功を自覺し来るの
日は、列國が其の歩調を一にして、再び共同

MT

11233

00212

的壓力を清國に加ふる時ならざるべからず。
且清國は利権回収を標榜せし以來、幾多の敵
を作りたり。野蠻くとも味方とすべき者をも
失ひたり。人或は清國の利権回収を以て、國
民の覺醒に伴へる自然の結果として、清國の
ために寧ろ祝すべき現象と爲すものなきにあ
らず。吾人の如きも又当然の主張として、清
國官民の意を諒とするものなりと雖も、理
をのむ基礎として、實力の之に伴はざる利権
回収の果して永遠に其の効果を全ふし得べ
る



11233

00213

きや否やは、蓋し別問題とせざるべからず。
 今や清国は粵漢鉄道を贖回し得たるに拘はら
 ず、紛擾に重めるに紛擾を以てして、今日に
 至るも獨之が敷設を完成し得ざるにあらずや。
 鑛山章程を承認せしめ得べしとせんに、清国
 は果して自国人のみの資本に依頼して、廣漠
 無限の富根を開発するを得べきや否や、利権
 回収は明かに外資に対する富源の開塞なり。
 門戸開放をして無意義に歸せしむるものなり。
 吾人は清国の利権回収を以て理論上之を主張

するの當然なるを信ずると共に、仔細に之が
利害得失をも商量するの喫緊事たるを信ずる
ものなり。然りと雖も極端なる利権回収は、
當に清國をして内地富源の開發を杜塞する
ものならず、列國に向つて却つて之に棄ずる
口實を與へ、以て其の成功と思惟せるもの
却つて將來禍原の一として恐れざるを得
ざるなり。

(2) 滿漢畛域の化除
一 昨年、滿漢畛域化除の詔諭一たい下るや、
支那新聞は筆を極めて其の事に論及せざるを
く、或者は縷々として化除に資すべき主要を
論列し、或者は其の詔諭を以て一時を糊塗す
るの欺瞞にあらざるやと疑ひ、喋々嗷々筆を
めに秃せんとするの觀ありき。即ち滿漢人の
軋轢は如何に清國の政治舞台に重視せらるか
を知らべきなり。然れども公平なる觀察を以
て清國を透視せば、其の滿たり漢たる、敢て

二。

MT

11233 00216

其の間に城郭を設くべき者にあらず。又主宰
者より見たりとて、満漢人に軒輊を附すべき
ものにあらず。大公至正、清国なる国家経営
の上に対しては、満人たり漢人たるを問はず
幹済の資を具し時勢に通ずるの格を有するも
うたれば、何人と雖も之を任用して時局に
膺りあるを以て、能く人を用ふる者と為さ
ざるを得ず。
大清會典によれば、不幸にも上節の論旨は之
も現實に實せしむること能はずして大なる満漢



11233 00217

の畛域を其の間に畫し置けりと云ふ。蓋し會
 典の編纂せられたる當時にありては、滿漢に
 鴻溝を畫したるも實際止むを得ざる場合あり
 しものにして、愛親覺羅氏が朔漢より入り
 武力を以て所謂中國に君臨するに至るや、漢
 人種は其の威力にこそ懾伏したるを以て、辮
 胡服の滿俗は、以て漢族を喜ばしめたるもの
 にあらず。故に志士に於て改俗を潔いとせず
 して、僧道に歸せしもの少なからず。或は其
 の改俗に頑強なる抗拒をなして、身首を異に

せりもの甚だ寡からず。正史は思ひて其の事
を記載せずと雖も、野乘私史、往々之を傳へ
て懾心せしむ。事體妙の如くにして、人心の
帰服未だ定まりざるが故に、各省の要地に駐
屯せしむべき旗官の將軍は、滿人ならざれば
之に任ぜしめず。又最高官の階級は、必ず一
階を空りして、之を滿人に缺ふることとを以て
漢族を遇するには、從來其の所長たる文
筆を以て之を役し、無前の大著述と文士優遇
とを以て彼等を迷眩せしめ、康熙乾隆二帝の



11233 00219

の如きは屢々駕を江南に進められ巡遊を以
 て名とすと雖も、其の實は威令を以て、漢人
 の間教を壓伏せんとしたるに過ぎず。其の時
 に當りて大清會典の編纂を見たるものなり
 西種族の間に多少輕重のあるは、亦止むを得
 ざる術教の存するものにして、他種族より君
 臨して、同化の資を擧げんとするには勢ひ其
 の方策を執らざるべからず。
 由來西種族の間に、時に漢人の登用せられ
 一時代（^粵黒匪の擾亂後）ありしと雖も、大勢

し、生ずるは、時人は常に港人に一籌を輸
したるが如し。
然れども一昨年蔑せられし滿漢畛域化除の詔
諭に對しては、一種其の捕苴糊塗に出で、
世論を融和せしめ人との權策たらざるやを疑
はざるを得ざるなり。九年徐錫麟が一たび滿
人排撃の意見を持し、畏巡撫を我害するに至
るや、清國官憲の驚動と恐慌とは、殆んど筆
にすべからざる程の狼狽にして、為めに無事
者をも鞠逐せしこと甚だ多し。而かも其の

戒嚴は今に急るを得ざるなり。蓋錫麟一鎗の
響は、以て教萬清國官憲の耳慄目駭する所と
なり。一や知るべき也。而して滿漢畛域化除と
稱するものか。果して詔諭によりて薊荒の言
をも採擇して決すべきものなるやにつき、吾
人の見解を以てすれば敢て寧々降詔を煩す可
でもなく、果して之が鳴溝を截徹せんと欲せ
ば、主宰者の特権によりて容易に其の畛域を
除去することを得るならんと想像す。即ち畛
域化除の詔勅よりも寧ろ時世に鑒みて、大清

會典の削正を促し、之を宗旨して滿漢同一の
待遇を與ふるの勝れるに如かざるなり。之れ
に加ふるに、立憲の完備は議會の設立となり、
議會の設立は以て立法の大權を民人に附與す
るものにして、又議會の活動を敏活ならしめ
んとするに由、必ず政黨内閣の組織を見ざる
べからざるものあり。民政議會已に成立し、
政黨内閣組織せらるゝ。曉に至りては、其の滿
たり満ちるを問はず、始めて清國一國の融和
的政治を施すを得るに至るべし。或は曰く議



11233 00223

會の創設を見たれば、以て閣臣を如何と
もすること能はず。日本に於て既に然りと。
然り我國は未だ純正なる政黨内閣にはあらず。
されど我國にも市薩長等の藩閥ありて、一時
は志士の辯難する所となりたりと雖も、議會
開設以來、杳として其の聲を耳にすることな
し。是れ純正黨内閣にあらざるも、幹濟の資と
具するもの、開闢に畫せらるゝことなき明證
たらざるはあらず。
之を要するに、清國にては須らく一日も速か



に立憲の完備を急にし、國民の民度を昂進せしめ、教育の普及を圖り、上下一致以て民政の基礎を確立することに努むるに於ては、滿漢畛域の如きは繁霜の旭光に照らさるゝが如く、一消して痕なきに至らん。然れども現下の如くそのよく為す能はず人は、是れ又清朝の爲めに常に一大禍原をなすものと見て、輕々に看過するを得ざるなり。

MT

11233-00225

(3) 北京政局の推移

西太后殂落後、北京政府に政權争ひの起らん
ことは何人も認識せし所なり。然るに西宮の
崩御せらるゝや、平生嫉妬排を以て満たさ
れたる北京政府の大官連は、却つて一致の姿
を呈せしが、こは人情として当然の事に属せ
しなり。而して当時清國人の最も恐れし所の
者は、列國が内政に干渉するの端を啓くにあ
りしかが如し。故に是等の事由よりして一時は
同一の歩調を取り、張袁兩氏を始め大隈も帝

有りさる袁と錫との間も、假りに能く調和したるが如く、北京政府の態度は事々甚だ敏活にして、滿漢政權爭奪の風をど更に之なきは、さすが大國の襟度なりと列國が嘖々として讃詞を呈せしむ。宿病は遂に醫すべからず、俄かに爆發して彼の袁氏の免官となれり。然りと雖も余輩は之を以て異とし、以て後らに驚くゝ愚をなすものにあらざるなり。蓋かかろ例は支那の歴史に於て殆んど普通の事と見做すべきものなり。曾て棠亭が伊犁條約を



11233

00227

露國とリヴチヤに締結せしや、全權を彼に
委ねしにかゝらず、折衝其の宜しきを得ん
として彈奏續出、爲めに北京政府は忽ち常厚
を新監候に與して、之を關外に謫したり。蓋
新監候の刑は即ち斬罪の候補者にして極刑な
りと云ふべし。而して近くは常熟・翁同龢の
如きも、光緒帝の師傳にして大學士軍機大臣
として比類なき勢力を有し居りしものも、一
朝戊戌の政変に會し、康有爲を延きたりと
事を以て、直ちに免官となり、常熟の故里



に監禁せられ、遂に快々として餘命を終り
にあらすや。斯る例は清朝の歴史を閲みし来
らば幾十も之れあるべきを以て宰相免官の
如きは各國人より見れば重大の如く見ゆと雖
も、北京政府としては餘り異常のことゝは思
考する能はざるなり。故に余輩も其の袁氏免
官の一事は、單に北京権政爭奪の序幕なりと
して、注意を拂はざるべからざる事と信ぜん
とすろのみ。
而して當時諸紙に散見する所の事實に
よれば



11233

00229

袁氏は御史江春霖の参奏により誠りれたる
をりとすと雖も、併し余輩は單純にしかく思
考すること能はざるなり。即ち北京政界は之
によりて、嚴然として権勢の中心點移動すべ
く、役つてニ大黨派に分裂すべし。即ち慶親
王を除けり各親王は、醇親王を始め恭親王南
親王禮親王睿王等々一大聯合を形成し、尚載
澤公其の他の皇族も附屬すべく、且つ張之洞
は以派の元老たりしも昨今逝去せり。然れど
も獨之には鐵良世續陳璧及那桐等も屬すべく

地方にありては端方岑春煊瞿鴻禨盛宣懷等の
有力なる總督巡撫も、又之に附するものと見
ざるべからず。而して之に對抗すべきものは
慶親王久袁世凱の一派にして、中央政局にて
は其の與黨少なく、地方にありても、徐世昌
楊子驤唐紹儀其他二三の巡撫なるも、形勢は
親王聯合派に属する、且西太后の生前は其
の寵遇によりて非常の勢力ありと雖も、今
其の崩殂に遭ふて大いに從來の権勢を減殺
せられし形勢あり。而して兵力の點より云へ

MT

11233 00231

ば、袁は四個師團を擁し鐵良は二個師團を率
ゐる。来りしも、一昨年の変により今後北京政界
の大勢を動かすものは、遂に鐵良にして往年
榮祿の振へるが如き権力を収むるが如き形勢
なりしと雖去る三月病の爲めに其職を辞せり。
入端方は此の際北京に赴^赴きて樞位を占むべき
順序なりと雖も、彼の健康は之れも許さざり
しが如し。且つ諸親王中にありては、醇親王
が頭角を顯はして北京政界の中心點とならば

之を要するに親王聯合派が政界の中心點と
ならば、憲政を九年を期して實施せよとの遺
詔は、此の派の政綱とも目すべきものなるを
以て、清朝が着手し、ありし改革的諸施設は
従来より一層敏治に進捗するなるべきか。然
りと雖も斯かる黨争の現出を以て他方革命
派の活動も聯想するは、少く見當違ならざ
るを得ず。若し地方の總督巡撫中、兵權を握
れるものが、此際起つて叛旗を翻さば一時必
ず大なる變亂も惹起するは勿論なりべきも、

MT

11233 00233

見渡す所地方に於て斯の如き舉動に出づる者
ありべしとも思はれざるなり。由來清國の革
命は、歳甚だ饑饉なるに際し、流賊各処に蜂
起するや、草澤の英雄起つて此の際に乗ずる
によりて、革命成就するは、歴史の常に証明
する所なり。然れども、今日にては古と時代
を異にするを以て、皇帝西太后の殂せしも
尚中央の権力に多大の移動をかるべきが故に
此際革命派は容易に乗ずるに機會をかるべし
之を要するに、今後清國は北京に於て親王



之を要するに、親王聯合派が政界の中心點とならば、憲政を九年を期して實施せよとの遺詔は、其の派の政綱とも目すべきものなるを以て、清朝が着手し、ありし改革的諸施設は、従来より一層敏治に進捗するなるべきか。然りと雖も斯かる黨争の現出を以て、他方革命派の活動を聯想するは、少く見當違をらざるを得ず。若し地方の總督巡撫中、兵權を握れるものが、其際起つて叛旗を翻さば、一時必ず大なる變乱も惹起するは勿論なりべき也。

MT

11233 00233

見渡す所地方に於て斯の如き舉動に出づる者
あるべしとも思はれざるなり。由來清國の革
命は、歳甚だ饑饉なるに際し、流賊各処に蜂
起するや、草澤の英雄起つて此の際に棄ずる
によりて、革命成就するは、歴史の常に証明
する所なり。然れども、今日にては古と時代
を異にするを以て、皇帝西太后の殂せしも
尚中央の権力に多大の移動をかるべきが故に
此際革命派は容易に棄ずるに機會をかるべし
之を要するに、今後清國は北京に於て親王



派と慶派との對抗を演ずるに止まり外に
ありては列國との關係にも紛争を生ずるが如
きことなかるべしと雖も、又列國の對清政策
に影響すること、蓋し尠少にあらざるべきを
以て、又禍原の重大なる根柢として注意せ
ざるを得ざるなり。

(二) 革命派の將來

去る四月我國にては、清國陸軍特使載濤殿下
一行の歡迎に酔ひつゝありし時に當り俄然
北京電報は攝政王邸内に爆裂彈事件ありしを
報じ且つ革命黨員が北京政局の圓滑ならざ
るに乘せしを傳へたるあり又爾人の耳目を從耳動せしめし袁沙の暴動事件あり
り来りしや、未だ容易に論断すべからずと雖
も革命黨に就きては又一言なきを得ざるな
り。

柳清國の革命派と稱すべきは、現今孫逸仙の

一派を主なるものとす。而して此の外に梁啓超といへるありて、多少の黨與を有すと雖も元來梁派は立憲漸進の主義を採り、康有爲一派と氣脈を通じ、一昨年までは光緒皇帝の龍體に萬一あらんことを慮り、之を保護するの意味を以て保皇會の名の下に相團結せしか、昨年に至り名を立憲會と改め、爾來機關雜誌として、新民叢報を發刊しつゝあるものなり。且つ梁は日本にあること既に四年に及ぶと雖も、日本語は毫も解する能はず。居帝机前又

MT

11233 00237

は樹下にて坐禪を組むが如き、宛然たる東洋
流豪傑の模型なり。又極めて博學に―て且つ
文章家なりと雖も惜あらくは其の執る所の
主義多教青年に悦ばるが故に、彼の黨與
は極めて少な―と云ふ。之に反し孫色仙は純
然たる西洋仕立のハイカラに―て、其の人物
は極めて精悍且つ達識なりと雖も、寧ろ峻酷
に―て思ふな―と云ふが如き性行なるを以て、
是に心服する者少な―と云ふ。然れども其の
執る所の主義が民主革命に存するを以て、多

教青年の推戴する所となり。現今東京にある
革命黨は概ね彼の黨派に属す。而して目下東
京にある革命黨中の首領株と稱すべき者は、
嘗て雲南暴動に於て、孫逸仙の股肱として働
き、黄興（昨年末其の所在を詳にせず）並に同
派の機關雜誌に於て、昨年発行を禁止された
る民報の編輯人たる、章炳麟及び宋教仁の三
人なりとす。而して章炳麟は其の人物頗る梁
啓超に似て、博學達文なりと雖も、毫も日本
語に通せずと云ふ。且つ又其の一派に属する



11233 00239 .

革命黨にして其の教希頗る少なからずと傳
ふ。然れども此の輩は皆風雲の變を望み機
を見えて起たんとする後輩にして、必ずしも日
常衷心よりして革命の主義を奉ずる者にあら
ざるなり。曾て某支那通が一官費留學生に語
るに清國皇帝の訃音を以てせしに、彼は首
肯して好々と云へりと云ふ。以て支那人の皇
室に對する感想を察すべし。横濱及び神戸在
留中の清人中には梁黨、孫黨相半す。又支那
本國に於ては從來哥老會及び三合會等、殆ん



ど純然たる革命黨の秘密結社ありと雖も、其
の組織の龐大にして其の會員は極めて多數な
れば、勿論統一的運動に出づるを得ず。且民
主共和の新思想を懷き革命を為さんとする者
よりも、王候將相豈種ありんやの舊思想より
機を見て風雲に乗せんとする輩少なからず。
故に革命黨將來の動静をトセんとせば、先づ
首領なる孫逸仙に注意せざるべからず。而し
て彼は目下新嘉坡附近にありと云ふ。元來同
地には革命黨員極めて多く、且つ富豪少なから



11233 00241

らざるも以て、其の地を策源地とせん事疑ひ
なかるべし。然れども某事情通か、睡蓮仙の久
物を評して、性未極めて臆病にして能く断ず
べき時に断せず、彼らに尤う遠吠を爲すに
過ぎずと言ひしは、一面の真理にして、且つ
前年雲南暴動の際には、佛人より資金の供給を
得たりしも、今や自ら貯蓄したりし資金と共に
に消盡し去り、創疾未だ癒えざらば故に、
果して今後猛然として立ち上るを得るや否やは、
猶深く考究を要すべき問題なり。

三三

MT 11233 00242

之を要するに、將來所謂革命派と目するも
ゝが、大事を爲し得べきや否やは、甚だ疑は
ざるを得ず。只憂ふべきは新たに訓練されつ
ゝある新式軍隊の当事者等が、私曲を恣にし、
以て給與を減殺する等、事ありて、兵乱を醸
成するか否らざれば、目下の大官等が、互に
陰謀を企てつゝ、都部下の兵を率ゐて、雷學生
出身等、其の局に當れる輩と共に、事を起し
たらんには、或は一時革命の成功するやも計
り難しと雖も、又之を是認するの根據甚だ薄

MT

11233-00243

しと云はざるを得ず。故に清國革命黨の騒擾
は、今後各所に於て絶えざるべきも、之れが
ために清朝覆滅の憂は、萬なかるべしと雖も、
又禍源の一たることは忘るべからざるなり。

第四 清国系統問題と政権紛争の注目點

數十年來清国皇室の統緒を考ふるに、文宗顯
皇帝（即感豐帝）は宣宗道光帝第四子を以
て大統を繼承せり。當時内にては長髮賊、捻
匪の乱あり。又外英佛の聯合軍は北京を陥れ
しを以て、帝は憂憤自刃禁ずる能はずして、
遂に熱河の行宮に崩せらる。而して當時嗣子
同治帝猶幼なりし、入つて統緒に就きしが二
論あり。曰く序次よく嗣子（同治帝）を立て
、太后簾政を聽くべし。又一派は國家正に多



銀宜しく長君（道光帝の第一子載治を指す）
を立つべしと。此の同治帝の皇子の紛乱を
経て、遂に同治帝穆宗毅皇帝（即咸豐帝の子）
立つ。同治帝崩じて、皇嗣なし。茲に於てか
血統順序を以て論せば、當に近支の王公を撰
んで同治帝の皇統を継承すべきなり。然るに
當時西太后ふ。本朝の嗣法は賢を立つるに
ありと。遂に前光緒皇帝を立て、同く咸豐
帝の皇統を継承統せしむるが、偶々侍讀吳
可讀荊州の三義廟に殉死し、遺奏して同治帝



11233 00246

の嗣を立てんことを乞ふに會す。是に於てか
流石の西太后も其の忠悃と輿論とを容れ、遂
に懿旨を下して光緒皇帝の子なきを俟つて、
同治帝の嗣となすべきを發表せられしと、後
ち又洪鈞の奏請を容れ、再び旨を降し、光緒
帝が皇子幾人あるを問はず、將來大統を承継
するものは、必ず同治帝の嗣子たるべしと變
改せらる。是れ義和團事変前後より世論紛々
せり皇嗣問題解決根底の由來なりとす。
以上、決論順序なるにより、既に光緒帝に

て子なるとせば、入リて同治帝の嗣となり、
 以て大統を承継するものは、女なくとも光緒帝
 の近支をさるざるべからず。而して今近支中に
 就て調査すれば、溥倫具子溥侗、鎮國將軍既廢
 傳携等重なるものにして、其の血統續きを示
 げ尤の如し。

道光帝

第六子恭忠親王——貝勒載徵——傳 <small>偉</small> 現恭親王 <small>鎮郡王深子</small>	第五子惇親王——瑞郡王載持——傳 <small>倬</small> 既廢皇太子	第四子愍宣帝—— <small>同治帝</small> 光緒帝(醇親王第二子)	第三子隱知郡王——貝勒載洵—— <small>貝子傳倫</small> <small>鎮國將軍傳侗(三月未朝せられ)</small>
--	---	---	---



輔國公載沅(光)

第七子醇邸親王

現醇親王載沅(現攝政王)——傳儀(現皇帝)

輔國公載瀾

輔國公載瀾(三月未朝マールシカ)

第八子鐘郡王

貝勒載瀾(嗣恭親王)——傳倫(載現恭親王)

第九子孚郡王

貝子傳忻(載將軍出)

清、海、多、子

等に——、数年來衆目の注視する所は、傳倫
貝子恭親王及傳儀なりとす。
然るに十数年來、政權爭奪の結果、帝室筆頭
軍機大臣慶親王は、醇王側より皇嗣を出すは
自然醇親王の権柄増大を来すべきを虞り、
つ自己の利害關係上、帝に倫貝子に親めろが



如し。而して袁世凱は殊に慶親王との關係上
毎に倫貝子派と目され、又張之洞は袁との人
物性格を異にするより、毎に醇親王派と目さ
れたリ。其他滿人の軍機大臣及大官に至つて
は、内心倫貝子派なると、漢人袁世凱の近年
著しく権柄を弄して、將來朝庭を傾けんこと
を過慮し、即ち袁に反對するの必要上より、
醇親王派たるの行動を採るに至れり。故に今
回新帝傳儀の即位事件を以て見れば、其内如
何の關係あるを問はず、袁派が宮庭内に於け



11233 00250

る勢力失墜の一階段と見るべきは決して過当
ならざるを信ずるなり。

要するに、西宮崩御の降後、に擾乱を大に
て、各國の干渉容喙起り、爲めに清國の一般
に大不利を来すは滿漢官民の深く認識せる所
なり、されば内心、又目相抗争するあるも、其
の降表面丈けは必ず各派共調和の態度に出
づべしとは、識者の一般に是認せし所なり。
然れども政権争奪上、相互陥排の暗闘は免る
能はずして、遂に袁氏に災せり。而して恭



11233 00251

親王の如きは、一時醇親王の攝政監國に尤も
不満を懐けるものにて、爲めに宮中に大
いに狂吼し、以て醇親王を罵詈せし事などあ
りしと云ふ。素より一片の謠傳信ずるに足り
ずと雖も、恭親王の寧ろ狂敢に近きの氣象を
知るものは、這邊の消息を知るに難からず。
而して茲に最も注目せざるべからざるは、現
皇太后の位置なりとす。抑皇太后は故西太后
の姪女にして、光緒帝とは氷炭相容れざる間
柄、是を以て西太后と光緒帝間の常に圓滿な



11233 00252

らざりしは、中間の關係あればなりとも傳
ふ。
皇太后素と平々凡々の資、才氣の見るべきな
しと雖も、現に一昨年故西太后の懿旨中に於
て、嗣後軍國の政治は均しく攝政王より裁定
し、若し重大の事件に遇ひて、皇太后の懿
旨を請ふものあるときは、攝政王より隨時面
請施行せよとあり。爾來幾少の事件すら、皇
太后の懿旨を奉じて上諭を發せるが如し。故
に將來皇太后を利用するよりは、依然無簾容



系を為すの弊源たるは疑ふべからずして、將
 来大いに注目するに値すべきものなり。
 之を要するに昨年袁氏の敗黜せられたるによ
 り、政權紛争の分岐點は自ら明瞭となりた
 るが如し。即ち袁世凱派は慶親王を始めとし
 て、載振貝子張人駿殷芝貴唐紹儀楊子琦楊子
 驤袁樹勛沈雲沛端方陳璧朱家寶徐世昌とすべ
 く、張之洞派（親獨派）として、醇親王を
 始め、鐵良那桐榮慶~~吳~~傳~~林~~奎俊松壽鐵升允溥
 良梁楚芬とし、亦皇族の大部分は張氏派たる



11233 00254

べく、而して張之洞は既に物故し、袁世凱亦
貶黜せられしを以て、今後西瓜は到底蟬和せ
ざるべく、延いては支那全国に影響するのみな
らず。列國々東方政策にも大關係を及ぼすを
以て今後深き注意を拂はざるべからざるなり。
○

第五 清國の外交政略

抑清國政府の外交は、其の中心の勢力即ち人の代表者によりて行はるゝにあらずして政策の出づる所額る多く、而して之を左右する所の勢力、亦幾多の方面に伏在せることは上未述べし所によりて了察せらるべし。蓋支那外交の歴史を按ずるに、清國は外國に對する折衝毎に常に誠實と慎重とを欠けるが如し。是を以て外國交渉案件の生ずること失敗し、偶々成功するが如き結果のあらはる



と雖も、裏面に於て忽ち不結果の跡を暴露
し、爲めに首体一致の行動を取る能はずして、
無意義に呻吟せらるゝものに似たり。而して之を
我國との交渉案件に徴するに、一昨年北京政
府は南滿鐵道の仕打ちに對する、鸚鵡返しの
報復手既として、命を關内外の鐵路（天津よ
り牛莊に至る）に傳へ、次て我が郵便物の輸
送を差止むるに決し、折角公文の通牒を發せ
しに聞らず、口バートハート氏の朝停ありし
爲め、全然我帝國の抗議を容れ、更に郵便協

MT

11233 00257

約を改正の上、再び役前の如くして讓歩した
ることありき。之れが爲めに種々の紛争を醸
せしことは、少く對清問題に注目せる諸士
の知悉せらるゝ所なり。

而してこは所謂君子の豹變にして、人生の泥
の縁を事物に脱却し、灑々落落、之を芥蒂せ
ざるが如き襟懷は、誠に美にして吾人の點頭
に値ひすべきが如しと雖も、是れ寧ろ頻りに
すべきことならず。由來東洋の爲
政治家には先天的の一種の惡癖あり。即ち豹めて



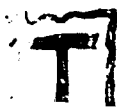
言動を八方美人的なりしめ、曖昧の間就かず
 離れず、所謂敵本主義に其の政見を徹底せし
 め人が為り、知らず識らず、因循に流れ糊塗
 に陥り、結局牆に面して立つの類、自ら其の
 進退に自由を失はしむること多く、巧みなる
 に似て終に巧みならず、識者の眼底には唯丈
 夫の面上紅粉を施したるの觀に止まるのみ。
 且つ脳裏一片の誠意なく、苟し人を玩弄する
 に甘んぜざるを得ざるべし。然るに今や其の
 方針を一転して、理義ありあらず大となくサと



11233

00259

なく毀譽又褒貶之を蒼蠅の満室をるに同じく
し鋭意過ちを改むるに憚らず。刺さへ一昨
年起りし蘇浙鐵路の拒款に對せし時も、又冷
然何等の作為なく、好し亦両省内の富にして、
能く一千五百萬兩の敷設費を供給するの餘力
ありとせば、即時仮契約の取消しも差支なか
ろべかりしなり。而して事は簡單なり、所謂
左せざれば右するの二に過ぎず。資力に乏し
きう故を以て外資に仰ぐ。若し乏しからずと
せば仰ぐの要なし。素より物外に超然たる



能く斯の如くにして始めて経國の材と稱する
 も得べし。想ふに清國の形勢が今日の如く殆
 んど國家として實質^{殆んど}既に列國の伍する能
 はず。有體に言はば吉朔の饒羊に其の形骸を
 存せしむると異なりざるに至らしめしや勿論
 種々の淵源あり。一言にして到底之を約言す
 るを得ざるも、要するに國際關係の宜しきを
 得ずして、其方針に執一不變の定見なく、
 ふろに人口舌の間に屈せしむるも外交の要
 義と誤解し、甚しきは不得要領に一日を姑息

加
MT

11233 00261

以て、以て、控御の術を得たりとなし、遠謀の
深慮の議亦当局者の説法に聞くを得ず。而
して上下共に去就を利害に決し、国交に於け
る大義の存在に着眼せず。人権と国権に對し
てさへ、苟も利と益の伴ふからんか、顧み
ざること弊履の如く亦糞土に同じ。近く之を
日露の満洲戦役に於ける態度と蘇浙人士が西
省の内鐵路の借款強制に、一奔蹶起して其の
抗を大聲疾呼したり。際、袁世凱は昂然進ん
で之が流弊を既倒に橋めんとせしが如きは、

MT

11233 00262

從來に及たる事例たり、而して再來漸く清國
の外交活氣を呈し、昨年来列強との交渉事件
又存りに起り、加ふるに獨逸の中清に於ける
活動漸く鋭く、且つ米國の突飛なる行動も亦
如何に成り行くべきかを知らざるに計し、彼
清政府当局者は如何に切り抜くるか、或算ある
や、聊か不安の念に堪へざるなり。然りと雖
も未だ仔細に是が前途を論断し、躁急其の趨
勢を臆議すべきにあらず。唯吾人は清國政府
が一難を徑る毎に、愈々一難を多くして、所



11233 00263

謂前狼後虎の境遇と異ふ所なきに陷り、氣鋭
有爲の士起つて之を排せんとするも、一事未
だ始末付かざるに一事又来り、宛然廻り燈籠
其底なる遭逢に、一物の同情なきを得ざるな
り。

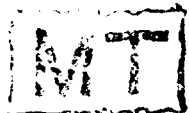


11233 00261

第六 獨逸の清國に対する態度

題して獨逸の清國に対する態度と云ふ。然れども尙りて國際關係を避けて、經濟的狀態に及ばんとす。

抑日露戰役後、有識者の腦裏に深く印刻せられたるものは、獨逸の清國に対する態度の一變なり。蓋獨逸の清國に対する態度が、近來甚しき變態を來せしことは、世人の知れる所而して其變態は鐵道政策を根底とし、且つ又物質的輸入より精神的教養に變化したること



け、著しき事實にして、現に彼等は青島に大學及び上海に一専門醫學校を創立し、其の教官、如き皆本國より之を招徠して、支那人の子弟をして斯學の專攻を恣にせしめ、以て其の成績優等者及び該學校の卒業生には、其の志望により校費を以て本國に留學せしむる等、規模、頗る見るべきものあり。而かも現在多教の生徒を教養しつつありて、其の他長江一帶は言ふに及ばず、苟も機を棄ずべきものに逢はば、直ちに自國人をして清國の教育及び



11233 00266

其、他緊要の地に入り込ましむるなど、漸く
日本。勢力範囲に喰ひ込み来りしたため、目下
我國人は非常の打撃を受けたり、將來益々激
甚なる人とするの傾向あり。蓋我國。清國に
於ける勢力を殺ぐにあらざれば、彼は充分に
活動をなす能はざればなり。
曾て獨逸が日英追加同盟の成立を見るや、清
國は必ず日英を思とするに至るべしと推定し、
自ら進んで山東の撤兵を主張し、以て特殊の
恩を賣り人としたるも、日英同盟は、清國を

て畏視せしむるよりも、寧ろ利権回収の狂熱
を煽起したるが如き事あり。而して日英亦之
れに對して酬由る所あるべしとなし、先年一
旦撤裁に決したる兵員をば、更らに北京に駐
屯せしむることゝなせしも、兩國は此の利権
回収に對して何の爲す所もなく、正々として同
盟の正隆を恪遵するゝみに止まり、且又領土
保全、門戸開放、機會均等等の説も、裏面に
或る消息の伏在するものあらべしと豫想した
りしものか、今や公々然として世界の表面に

其の要意がある所を認めらるゝに至りしかば
自己の豫想は恰も自己の影に驚くと一般に、
全く失敗の態度に陥りし爲め、茲に彼等は従
前の侵略的經營と、物質的輸入とをみに依頼
するの不可なるを覺り、翻然舊規を抛ちて、
一方には益々清國の歡心を買ひ、他方には精
神的教養を以て發展せんとするが如き態度を
示し來れり。

而して先年日本製學校用品の一時清國內地に
輸入するもの甚だ多きを見るや、獨逸官民は



之を壓倒するの第一着歩として、政府の特別
保護の下に、製作出版業者相結托して、清國
向きの學校用品、教科用圖書、理化學機械等
を蒐集して、山東省は勿論樞要なる各省城に
於て、巡廻展覽會を開き、格安便利にして、
且最新式の製品を普く清國各地に照會し、以
て其販路を擴張するの商略を定め、官民一致
共同の事業として、先づ其の第一回を濟南府
高等學堂に同催し、獨逸領事よりは巡撫以下
大官の觀覽を乞ひ、一般公衆にも隨意觀覽を



11233 00270

許し獨人更が主任となり、陳列品につき、一々叮嚀懇切に其の使用方法並びに注意等を説明したり。而して陳列品の重なるものは歴史、地理、修身、算術、圖説、紙製動物解剖、生理衛生諸機械、分解図、博物最新模型、簡易理化機械等にして、大約百二十種千五百餘點なり。而して彼等が是等の製作品に対して、最も留意したる點は、第一運搬及び實驗に簡易なること、第二賣價低廉なること



第三清國現在の風習に能く適合すること

等にして、斯かる巧妙なる手匠と斬新なる製
品とを以てしたれば、今や我が商品是非常の
打撃を蒙る。然れどもこは一の事例に過ぎ
ざるなり。

而して西三年来銀塊下落の爲め、我對清貿易
の大打撃を蒙るや、彼等は巧みに清人の歡
心を買ひしため、今や清國の各都市に於ては
独逸の商品を見ざるなく、殊に寒心すべきは
我國の製品を巧みに模造するにあり。且つ真

MT

11233 00272

正の我が商品が益々壓迫せらるゝにあり。蓋
し我商品の粗製濫造に起因する亦大なるべし
と雖も、獨逸の上下一致、是非共極東の舞台に
於て我が帝國發展の妨碍を企劃するに因ら
ざるを得ず。

殊に數年來彼が対清政策を見るに、其手既に
る殆んど天魔鬼神の觀あるを覺ゆるなり。さ
れど彼等が為す人とすることを遠ぐるまては
吾人は兎や角之を批評するの權利なしと雖も
外界よりの言議に左右さる氣遣なき範圍にあ

るも楯に、悪計毒謀を遠慮なく、吾人に集中
せしむるに至つては、先進國に対する礼讓の
重んずべきを解せる吾人なりとて、宣之を容
赦するの理あらんや。寧ろ吾人は之を看破し、
之を絶叫して以て我が同胞の注意を促すべき
義勢の担当を本分なりと信ずるものなり。

第七 獨清接近の側面觀

最近に於て、獨逸は奥伊西國との三角同盟に
照晴して、其の勢力を地中海上に復活せしめ
東歐問題、巴爾幹問題等にも着々として優越



11233 00274

の地位を獲得し、埃伊兩國の背後にありては、
巧みに他の英露佛を控制せり、而して小亞細亞
にありても、亦バルシヤが露疆に露端を啓き
たるを利用して、既に小亞細亞鐵道並にテ
ーラン通路を開闢したる特別の地位をば、更に
擴充するに懈らざるは固より勿論にして、日
露戰役の際一たび暗中の飛躍を敢てし、佛國
の摩洛哥獨占を非認して、地中海上の容喙權
を確立したる以来、南歐、東歐、及北亞弗利加
にまでも及びせり獨逸の勢力は、實に著大な

る者あるを知るべきなり。而して近頃は獨露
瑞下諾威の五箇國間にバルチック海峽を締
結して、現状を維持と領土の保全とを約した
る如きも、實は獨逸が其主盟權を有すべきや
言ふまでもなく、之によりて往々バルチック
海に及ぼさんとする西歐の勢力をば、間接に
該方面より排除せんとするはこれ亦獨逸最近
の一成功と見るを得べし。勿論当年の威望甚
くバルチック海上を壓し、更に巴爾幹海上を
も得せて風靡したりし露國の海軍力が、未だ

MT

11233

00276

恢復せられざる今日、英國をすう、独逸の海軍
擴張をば、恰かも怪物の如くに鉅大なりと驚
歎せしめたる程なり。に徴するも、独逸が斯の
如くにして、陸上には三国同盟の復活せる大
連鎖を以て、東西の西欧を正に中断すると共
に、海上にも亦南は地中海の東部、東部に其勢力線
を延長しつつ、北にはバルチック海をば全く
北歐沿海国の専有圏として、茲に背後の患な
からしめ、且之に依りて北歐の主盟権を把持
するに至りしは、多く怪むを須るざるなり。

MT

11233 00277

斯の如く独逸は各方面にありて成功せる間に
極東にありても、青島を中心とせる独逸の勢
力が、既に旅順大連等の舊露國に代りて、漸
次活動の手を伸ばさんとすゝが如きは、固
り怪ちに足らざらなり。而して津浦鐵道につ
きても山東省の南疆をば、劃然たる英獨兩國
の分界線として、之が敷設の特権を獲得し、
爾學生に對する専門の學校を建て、其の本
國に設備して、清國官邊の手を經由し、公然
独逸留學の勧誘をば、各地方官に試みたらに



11233 00278

至りては、既に清國の關係は歩一步の接近を
来せざるを證すべし。

之に加ふるに、前きに海牙の會議に列強が清
國の位置を第三流に協定するや、北京政府も
其の列席委員に是が抗議を提議する様、電訓
せしは事實なり。然るに当時否として、是が成
行を宇内に宣言すべき時機の到来せざるにか
、けうず、独逸が拔擢けり功名に獨り之を断
言したるに對しては、清國ノ感情又頗に親和
せしことけ、識者の熟知せし所なり。實に力



イゼル眼の烟なり 寸分の油断なく 支那大
陸の人心を収攬す可き機会を捉ふるの敏なる
吾人を以て殆んど天魔鬼神の感を懐かしく
蓋我帝国が列強と漸く対等の地歩を占める迄
に、國々の癸辰を證拠立てしは、近く三十
七年の戦役に、美事月桂冠を戴ける結果に外
ならざるにあらずや。而して六萬の壯丁を機
性にし、戦資二十億、始めて開國以来五十
星霜、寤寐思服の素願を貫徹し得たりなり。
而して既往を回顧すれば、一身其の衝に立ちし



11233 00280

我が同胞の士が、臥薪嘗膽、其々に辛酸を嘗
りたる歴史は、今尚ほ吾人をして慷慨流涕、
之に次ぐに長大息を以てせしむるものあり。
然るに清國は能く三寸の舌だに動かすなく、
外界をして其の一等國たるを承認するに、
争的態度を執りしむるの面目を發揚せり。
是に於てか吾人は少くも茫然たらざるを得ず。
唯四百餘洲をして能く一人の時勢に蒿目あら
しむれば、必ずや浦島の玉手箱と同じく、
真相を看破するの時は、則ち遺形残骸、其の



面影だになく、幽霊然たる江山の空しく夕陽
 に照りさるゝを預期すべきなり。之を要する
 に独逸の飛躍は、あらゆる方面に於て成功の
 幾歩武を進め、若くは方々に進めつゝあり。
 されど斯の如き八方面への猿臂を延ばすは、
 固より相当の高價を拂はざるべからず。曾て
 獨逸議會の豫算委員に對し、政府委員が説明
 したる所によれば、今後五ヶ年（昨年）間を以
 て、五千万磅の國債を越し、之に因りて財政
 の缺陷を補填すべしと云ひ、委員会は因つて



11233 00282

政府が之に對する償却法をば、充分に考究し
おくべしと要求したり。是に因つて之を見れば、
飛躍に伴へる鉅額の國債募集が、遂に避
くべからざるは、必ずしも大戦争のために、
重荷を負へる我日本のみにあらずといふべく、
且つ独逸が近來頻りに極東の好地位を轉しつ
、あるものも、亦決して廉價に買ひ得たるに
あらざるなり。而して独逸が極東に甫かく密
接の關係を有するに至る人とするは、是れや
がて我國とも合併せて友交の今一步を進める

の好^兆たるを希望するも、又獨逸が歐洲の舞台
に於けるが如く、極東に於ても、同様に關係
列國間の巧妙にして、機敏なる一種の幹旋家
たる人とするに對し、吾人は獨逸の歩々東方
局面に成功するの速かなるを括目して、觀察
せざる能はざらなり。

第八 膠州湾と日本

日露の滿洲に於て戦局を估ぶや、同時に吾人
の耳朶に異様之感を促しつゝ、眞個身の戦國
時代に在るを氣附がしめたるものあり。即ち



11233 00284

青島經營の方針變更に關せし獨逸上下の言議
是れなり。吾人素より微力の分際なりと雖も、
豈今日の時代が弱肉強食、所謂生存競争の燒
皿に立てるを知らざるの理あらんや。然れど
も斯くまで陰險を弄する世界なり人とは、夢
想だにも尚之を畫く能はざりしなり。
當時彼等は、曰く青島は要塞たるの位置を有
せず。曰く如何に防備上設備の完全を因るも
到底旅順の相手たるに堪へず。曰く第三流以
下の要塞として之を經營せんや。曰く寧ろ

五十六

MT

11233

00285

武裝を解除して之を純然たる貿易上の施設に
改むべし。曰く上海の居留地制度に倣ひ、同
地の行政及其他を殖民的方針の經營に出でよ
と論ず。甚しきは同地の抛棄までも提議せし
者ありと聞く。何ぞ夫れ俄かに言の囂々たり
しや。曾て伯林なるツァーティング紙は、膠州
湾領有の日清兩國に關する關係を論じたる
もの、よく其の内容を市し居れば、且らく之
を批論せんとす。

抑獨逸の膠州湾租借は、政治經濟の両面よ



11233 00286

照して最も有利なる地域を撰擇せらるゝと
なし、更に論じて曰く、其の後諸事発展の
状況は、千八百九十八年の當時にありては、
獨逸の租借地として、膠州湾以上の良地
點を撰擇し能はざりしを示せり、即膠州湾
は佳良なる港湾を有し、且つ顧客として山
東の夥多なる人口を有せり、而して山東の
地たる石炭地なるを以て、追つては工業發
達し將來輸出入貿易地として極めて有望なり、
加之氣候適順にして健康地たるを以て、

MT

11233 00287

富裕たる清人のみならず、英米人等も又東
遊するに至れり。されば獨逸の膠州湾に對
する位置は、清國をして獨逸が膠州湾に據
るに、其據らざる當時に比して如何に有益
なるかを悟りせしむるを要とす。且獨逸は
日本の勢力を無視して、膠州湾を領有する
能はざる實勢なりが、又日本は膠州湾の故
を以て獨逸を敵視せざることは充分信ず
るに足るべく、今や米露の二強國は公然
たる日本の強敵の如くにして、英國は日本



11233 00288

の同盟國なり。然れども英國の清國に於ける商業上の利害は、日本との勃興の爲に非常なる損害を受くるや否やは今後の大疑問なりとす。又日本は有らぬ手既、有らぬ努力を盡して、清國の市場を占めんとすべく、茲に至りて英國の清國に於ける商勢力は、必ず日本との強的たるに至らん。蓋日本が露國に対して大勝を博せる以来、英國は清國海面並に太平洋上に於て、最優者たる能はざるに至れり。而して佛國も之れと同



時に一の杞憂を増加せり。即ち日本が印度支那の方面に發展せんとするの企望を抱き居ればなり。斯の如く列挙し来れば、歐米の諸強國中一として日本の利害と相容れざる者ならざるに及し、清國に於ける独逸の商業關係は、極めて小(強いて曲言す)なりを以て、決して日本の商業計画と衝突せざること、是れ独逸が東洋關係に於て歐米諸國と特殊の地位に立つ所以なりと一、同紙は更に其末既に於て、清國全般は勿論、假令

MT

11233 00250

山東地方に就て論ずるも、日本の商業は独
逸の先導にして、即ち膠州湾の築港、山東
鐵道に依り、増大しつつあるを以て、日本
は決して膠州湾領有の故を以て、独逸を敵
視するが如きは是ならずと云ふを得べしと。

何ぞ夫れ我田引水の甚しきや、余輩索より
かゝる一新聞の言論を以て、独逸の全敏を推
すの愚をなすものにあらざと雖も、彼等が言
論がつとめて平和に他意なきを示し居るは、
亦何等か一種の魂膽あるべきを推すに難から

五九 事



11233

00291

ず。試みに想へ、三十年來の宿願漸く成就し
て、折角大東洋畔の立脚地たる経営着手の際、
如何に我勢力の凄まじきに意外の感おればと
て、宛然掌を反すよりも易く、何を苦んで其
方針を二三にするの理あらんや。堂々たる列
強中の強にして、苟も此事ありと云ふ。吾人
は信ずる能はざるなり。
聞く要塞の防備たる海上の援護を得るにあ
らずんば、其任務を完ふすること能はず。譬
へき近きに求りて、之を旅順の形勢に見るも、



11233 00292

吾人は之が内容に至理の存在を是認せざるべ
からず。看よ当時君し絶東に於ける露國の海
軍力を以て、制海權を其掌裡に収むるの餘裕
あらしめんか、吾人は攻圍半年、ステッセル
將軍をして容易に降を乞はしむるを得しや否
や。得て知るべかりず。即ち獨逸の烟眼なる
其の實際に得たる教訓を將來に服膺せんと欲
するの意思ありしは、吾人が今尚ほ注意を急
らざる所に於て、青島の防備も又同國の海軍
力と相倚り相俟ちて、漸く其の目的を達する

に至るべきや競ふべからず。而して獨逸が英
國との國際上及貿易政略の關係より、目下極
力造船を急げるを以て、是等の計畫が豫定の
如く進行するの日は、即ち青島の防備完成を
告ぐるの秋にして、同時に又其の東亞經略に
於て、貿易は勿論工業は更なり、將た夫那人
の信仰に、其の兒童教育に一転機を生ずべき
は、日星も喜ばる。故に吾人は大聲疾呼、
國一致の態度を執り、以て須らく彼ら膠州
經管に細心の注意を拂はざるべからざるなり。

MT

11233 00294

第九 山東と獨逸

凡そ表面に現けり、事實は、何等氣遣ふべき
形勢なりと雖も、遠視一番せんか無上の危険
を其前途と背後とに豫測さるゝ場合あり。而
して表面に現はれざる憂患は、其の現はれざる
の度に於て大なるべきは勿論、隠るゝこと久
しければ憂患も又倍加し来りて、之を大なら
しむるに遠慮せざるなり。蓋滿洲の経営に於
ける露國の方針が、露清銀行を策源の機関と
して、其の實行を東清鐵路に托するが如き、

陰謀的の手段に成功の順序を求め、結果は、
帝國を以て出師百萬、糜費二十億、加ふるに
六萬の犠牲を捧げ、挙國一致以て漸く之を及
有し得たるにあらざや。

聞く山東の人士は、独逸の勢力が日に張り、
外交又其抗議に餘地なく、且署撫等は彼らに
拱手して、自國の権能を主張するを知らざる
が如し。而して吾人は好意的に觀察するも、
又之を否定すること能はざるなり。蓋是まで
獨逸の同方面を經營せし形跡や、一として名



11233 00296

を懸け實を収むるの方針に、其歩調を戒飾せ
ざるはなし。之を例するに、嘗て山東省内の
架兵と稱して、各兵營も又無代價の交付に、
地方官吏をして深く厚意を表はさしめたりに
拘はらず、一步僅かに之を膠州湾の租界内に
引上げて、要塞兵の増員に資せしは事實なり。
又先年省内の交通機關を独占せんとし、人事
の便宜を口實に、膠濟鐵路公司をして、先づ
其停車場間に架設せし沿線の電信を公開せし
り当局者の承諾を得るや、何時の間にか官設

信局の電報料と、全然比較すべからざる迄に
其價格を引下げ、以て人心の收攬を試み、は
事實なり。加ふるに独逸人が同方面に於ける
古代賢哲の墓碑を始め、所謂遺跡保存の大義
を振り廻はして、間接に之を買収し置かんと
し、就中廟社佛閣の間に、瓦礫同様の取扱を
受けつゝあり、古物の搜索に又全力を傾けつ
、其口實を修繕と維持とに托して、巨額の
黄金を抛つゝ惜まざりしは、蓋又一種の人心
收攬を意味せしに外ならず。即ち手を有形に

MT

11233-011298

下して、之が應報は無形に要求すと云ふもの
たるべし。

而して鐵道政策に於ては既に山東省は勿論之
を延長して京漢鐵道に連絡せしめ、他方に於
ては津浦鐵道によりて、楊子江の航運に利せ
しめ、猶且つ湖江にては川漢鐵道によりて、
四川雲南の富源に垂誕せしは事實なり。加
みならず山東省内の寶庫とも見ろべき鑛山に
於ては、一昨々年清國政府の承諾の下に、華
德採鑛公司を起し、山東鑛政局と八ヶ條の章

程を作り、以来、青島の当局者は鋭意測量に
着手し、今や隠微の中に経営の歩を進め居る
が如し。

章程の内容

株礦公司の營業たる、獨清兩國民の合資
に成立せしものにして、商務上の聯合に
外ならずるを第一條に掲げ、礦脉の測量
を完成すべき期限、十ヶ月の預定を延期
して、向ふ二ヶ年と第二條に規定し、試
掘の區域及び是れが轉賣の際に於ける手

MT

11233

00300

續 例令は之を支那人が独逸商の外に賣
渡さしめざる様第三條に定め、第四條に
至りては礦政局の監督事項を明うかにし
預じり利益の分配に關せし雙方の確執を
防ぎしは第五條にして第六條は借地料及
地方に對する同公司の負担を示し、第七
條も營業上の進捗に連れ、附近の民田房
屋水井との間に生すべき損害の賠償及勞
働者の衛生機關として、病院の設立を指
令したるもの、而して第八條は以上の規

之四
九

MT

11233 00301

定外に屬する採礦手續を、光緒三十年二月の奏定に係る礦務暫行章程に遵照して辦理せしむべき協定なり。

之に加ふるに青島の当局者は前きに探險隊を山東省内の各方面に特派し、地理人情其他各種の問題を研究して、其施設の方針を確定したりと云ふ。

之を要するに独逸の蠶食的施設が殆んど間然すること能はざるまでに成功の歩を辿れるは事實なり。吾人は獨逸人に先天的特色の烟



11233 00302

眼が大陸経営の方面に曙光を放つのみならず、
利益の壟断と人心の收攬とを一舉兩得すべき
手段に於て、斯くも下も遠大の作戰計画と、
言ふべかりざる一種の陰妙味とを存し、以て
心に拒がんとして、手之を許さざるに同じき
政策の輩出に、千変萬化、若心一方ならざる
を見ては、拍手激賞を禁ずること能はず。而
して吾人は我同胞の大陸発展に、一臂の力を
鼓さんとする者なりと雖も、獨逸が近瀾なる
清國の氣附かざるに先ちて、我利的横行を振

舞へるを見ては、其隱憂大患の將來茲に存す
るなきやと、首肯せざるべからざるなり。

第十 獨逸經營の鐵路と楊子江航運

十年前我國が無事に英國と同盟の條約を締結
せしや、列國は何れも之を當然の結果なりと
して、一顧するものになく、寧ろ東洋平和の
ため祝せしことは讀者の既に熟知せらるゝ所
なり。而して日露の戦雲收まりて、平和の克
復に引續き時局の促すまゝ、更に佛國と提携の
約を形造り、進んで亦露國と東大陸經營の政

MT

11233 003:4

策に其分限を約束し又米國とも協商せしに
當り、独逸が極東事件に就て、何となく落付
かずして中心孤獨の感に堪へざりしは事實な
り、然れども、ガイゼルの流の敏なる、瞬間の猶
豫を喚へず、所謂敗を転じて勝となすの手匠
に出で、帝國と英佛露米間の同盟協約を奇貨
とし、狡々又狡々之を楯に抜目をく棄れて
以て何等か清國と協約上の案件を交換せし形
跡は、既に公然の秘密たるを疑けず、然れど
も、こけ確かに一種の推理と聯想より得たる

云々

MT

11233

00305

結論に過ぎずして、裸りに人の心事を忖度する
け、陋なり。故に吾人は訝きて以て直となす
を、肩にとせざるもの、只視界に入りし丈の事
實に正当の解釈を下すに止まるものなれども、
人をして然らざるにあらざるかと首肯せしむ
べき問題の次第に露出し来るを如何せん。
蓋一昨年吾人は独逸が新たに長江航運の発展
を計画し、最も速くに富める浅吃水の汽船九
隻の製造に着手せしを聞けり。吾人は特に目
に角立て、之を凝視する迄、神経の過敏なる

もゝにあらず。然れども由來独逸の海外に於
ける上下の施設を見るに、多くは其の前後に
外交上の懸引あるを常とするが故に、又同国
の極東政略に伴へる附帯事業の最大なる一と
見ざらべからず。たとひ單に之を独逸貿易の
東大陸發展に限ルりと説くも、吾人は確かに
我同胞の注目に値いするを信せんと欲す。看
よ独逸の國籍に属する船舶が、一昨年中上海
の税関より徴収されし納税高の合計を見るに
銀百五十万兩の巨額に達せり。又我同納税

六七

MT

11233

00307

高百十大萬兩に比すれば、實に三十四萬兩の
超過を市せらるにあらずや。殊に同国が以前長
江に浮べて、其航運に役事せしめたる船舶は、
五隻と噸教五千七百四十三噸に過ぎざりしも
今や加ふるに尙九隻を以て、一躍の下、英
國だも背後に瞳若たるを得がらむ。而して
噸教に至りては、未だ之を審にすら能はずと
雖も、其隻教は優に日英を相手として是れと
雌雄を決するも、差支なきまでに至らしめん
とするか如し。吾人は手を拱いて独逸の勢力

MT

11233

00308

が軋々又既に租鞭を長江の上下に着け豪然
中央支那の一帶に雄視せんとするを坐視すべ
きにあらず。形勢の勝を占めたる帝國の如き
而も懸軍萬里不便至極の拙逸に天恵の既得
権を譲るの要何處にかある。

而つみならず、獨逸が那邊まで進取の氣象に
富めるかには敬服せざるを得ず。極東の天地
今や日英佛清等の施設に凌駕して、アングロ
サクソン民族の海面独占と同じく、大膽にも
獨り江上王の位置を壟断せんと欲す而して

三八

MT

11233 00309

其貿易も又假りに昨年度の税関報告を論據と
して差支をしとすれば、吾人は我重にも之を
我当業者の面目に訴へ、聲の續か人限り反響
の出て来るまでは、之を絶叫するの止むべか
らざる者あるを信ずるなり。看よ彼が母國內
實業教育の普及と共に、工業の奨励及保護政
策の周到なる、愈々出でて愈々新たに、宇内
萬國をして其前途に捲舌を餘儀なくせしめつ
てあり。殊に同盟團體の輸出奨励金制度と、
造船業の発達を促せる近來の造詣と、



11233 00310

竿頭更に其進運を百歩ならしめしに相違なき
を信す。而かも夫那大陸を以て拳國一致、是
が各般の製造品を賣捌く唯一の得意先と見做
し来るに至りては、豈又我上下の一顧に價す
べき問題ならずと言はんや。剩すへ、廉價
の商品も多く製造して、廣く賣るてふ経済界
の原則を應用するの巧みなる、吾人は章を断
ちて義を取り、以て所謂天工を奪ふの技倆と
稱するに躊躇せず。今や長江の一帶に於ける
独逸が今日の怪當は、是迄の五隻に加ふるに

之九千



11233 00311

更に九隻を増加せんとせり。然れども達観一
眷其の背後に連絡する脉々の後援、商闘力
の供給の無盡蔵なる、既に斯の如し。吾人は
到底之を睥目に附して、他日の結果を樂天的
に觀察すべき餘裕なし、而して之を羽翼する
に則ち無遠慮極まるカイゼル流の外交政略
ありて、其の運用を縦横にす。想ふに津浦鐵
道の経営は説くまでもなく、山東省に於ける
獨逸の勢力に活動の事由を與ふべき通路の開
成にして、川漢及阜漢兩鐵道（英）米清と共營な



11233 00312

るも完成の曉には即ち獨逸が楊子江の航運
に於て最も有利なる地位に立てるものにして
て、且支那富源の開発に最も優勝なる地歩を
占めるものたるを覺悟すると共に、我國は諸
種の方面に於て最も打撃を受けるものたる
を知らざるべからず。

第十一 露國の極東政策

ムラヴィエフの一たび黑龙江畔に來るや
延いて割讓となり、又我北邊をも騷がしたる
ことは史家の皆よく知らるゝ所なり。由來露

七の末



11233 00313

國は、テロ大帝の遺志に基き、頻りに意を東方
経略に用い、殊に最近十年間に於ては、殆
んど極東政策に全力を注ぎ、浦鹽の開発、
— 多年の希望たる不凍港の獲得を、極東の一
角に於てせんと欲し、哈爾濱、大連及び旅順等
の発展に苦慮し、之が爲めには殆んど歐露を
空うするも尚ほ惜まざるの慨ありき。
然ルども此の主義たるや、常に我國の利害に
関して互に相容ルず。之を以て遂に三十七八
年の大戦となり、一戦の結果は一旦鋒鋒を治



11233 00314

めしと雖も、今日露國の極東に於ける経営より餘るにお累すれば行吾人の注意せざるべからざるものあり。而して露國は彼の大戦後、全く東方経営を放棄せしにあらず。否、寧ろ國論一致して極東に意を用ゆるに至りしか如し。即西北利亞鐵道複線工事及び黑龍江鐵道の完成を急ぐに決し、且つ浦塩自由港開鎖問題の如き皆我國に大なる影響を与ふるものなり。

蓋日露戦争の結果に於て、露國が味いたる経

驗は、従来の政策を一変して先づ黑龍鐵道の
敷設を決し、之に附随しては黑龍江を浚渫し
て砲艦を浮べ、一方に於ては東清線と遠く北
方に橢圓形を画きて、其領土内を貫き、烏蘇
利線に合して浦塩に達し、主として戰略上の
必要に供し、以て此の沿線の開發を促進せん
としたるが如し。而して之を統計に徴するに
軍に交通輸送力の現在に於てさへ、一昨年の
八ヶ月間に於て、本国より移民せし數四倍に
上りたるより推察せば、黑龍江鐵道成り、又

MT

11233.00316

西比利亞鐵道の複線となる境には、其の開發力は
意外の好果を奏すべきを想像するに足れり。
此の如くにして露國の根本經營は、日露戦争
後、多少変更せしと雖も、猶着々徐々に進行
しつゝあるを知らざるべからず。
而して露國は前述の鉄道經營に因りて極東を
半全に、且つ開發せんとし、是が爲には又
他方に於て、浦塩羌にニコリスク方面の防備
を堅固にせんとするが如し。蓋しこれは露國に
取つて喫緊の要事たるのみならず、露國は之

に因つて現存の領土を維持し、又烏蘇利地方
を防禦し、黒龍江地方并に西北利亞内地との
聯絡を保持することを得べし。且つこれは露國
に取りては當然のことにして、苟も領土を有
して、國防上の姿勢を整へ、之に因り富源を
開發して、土地の繁栄を期するもの、焉んぞ
相當の經常なからんや。黒龍鉄道の敷設亦然
り。是れ露國に於て直接自領を聯絡するの機
関を、僅かに他領を通過せり東清鉄道に因
り、一國の安危を托せざらばからずとせば、



11233 00318

望月日月戸上りかゝる至大の缺陷を有するも
つとせざるべからず。故に最近に於ける其の
敷設計画の断行の如き、蓋し至当の施設とい
ふべきなり。

斯の如く露國は銳意諸般の設備を整ふる以外
に於て、別に多数の常備兵を準備し、且又極
東の殖民教をも増加するの政策を取れり。是

れ其の將來に於て、兵員を之より徵募するの
便道を得んとするのみならず、物質を増殖し
て、鐵道の輸送力を助けしめんとするの根本



的企劃を抱持するものなり。其外尚韓祖海峡
を浚渫し、ニコライエウスノを防備し、水雷
艦艇を設くるが如きは、戦略上の便宜并に海
岸防衛の爲にする戦備の一端とすることを得
べし。但し其の極東海岸を再建するが如きは、
果して其の必要あるべきや否やは、別に考究
すべき問題なり。
今や日露西國は既に親善を極め、其の利害は
既に調和し、且其の交渉事件に關する意志は
既に一致せり。故に是より以上、更に政治的



11233 00320

交渉を爲すの必要ありや。蓋政守同盟防禦同
盟の如きは、總て其の政治上の必要ありて存
するの時を以て、之を締結すべきものに
特殊の目的ありて初めてこれ有るを見るべき
なり。吾人は日露西國當局者が、平生相縁を
する所の専ら交通貿易上の利益を進出るにあ
るを知ると雖も、未だ何等政治上の交渉を爲す
の必要に迫れるものあるを知らず。蓋し西國
の關係は、極めて親善なると同時に、又甚だ
無事なり。故に西國當局者復た政治上の交渉

に齟齬として、無益の勞を重めざるを須るず。
之を要するに、露國の遠大なる極東の経営は
長期に亘りて倦むことなきにあり。而して事
實は既往の歴史之を證す。而のみならず先年
の極東経営の失敗は、偶々以て露國に根本的
経営の確實なる方針を教つたるものと云ふべ
し。茲に於てか、吾人は時々に起れる露國の
行動よりは、更に其の根本経営に着眼し、且
つ其の我國に影響する所を、瞬時たりとも
視せざるを要するなり。



11233 · 00322

第十二 東露の現況

日露戦役後極東の露領は、諸種の方面に於て
一大頓挫を来せしことは、世人の既に認めし
所の事實なり。然れども浦塩港は流石開港場
なり。常に船舶の一往一來あるを以て不況の
状を呈せずと雖も、内地に入りては、戦前の光景は
氣の状況は實に甚だしくして、戦前の光景は
夢想だもすること能けざる所あり。殊にイル
クススクウ如き東部西比利亜の大都會と呼
ばるゝ所に於てすら、最も繁栄をみ所に貸家

七ノ本丸



11233 00323

札多く、カ街に至りては更に甚だしくして、
常に裁判所に揚示せらるゝ破産事件破る多く、
爲めに堂々たる製造會社に―て事業を休止す
るもの少なからず。而して斯く不景氣を来し
たる原因は一般不景氣の影響を受けたる外
軍隊の滿洲より本国に引上ぐに際し、通過
の市邑に於て非常の暴戾を加へ、且つ掠奪し
去りたるを以て、爲めに人民が困危に陥り
るが如し。
然れども露國政府は斯の如きに意を加へず、



11233 00324

着々と一して従来の計画を實行せんとし、先づ
西比利亞と東清鐵道との連絡を完全にし、以
て浦塩斯德より日本、清國及び瀋洲諸港へ
交通を計らんとするが如し。而して他方に於て
は軍略上國庫の費用を以て、黑龍鐵道を布設
するに決し、着手せんとするや忽ち之に要す
る經費の調達に窮するに至れり。茲に於てか
西歐及び米國の資本家は、之を機として同鐵道
に放資せんとすると同時に之を利用し、露國
内に於て其他の有利事業を営むの權を得んと

七六

MT

11233

00325

い、各自に代表者を彼得堡に派して運動せしめたることありき。

然れども一方交通者に於ては、第三議会に於て黑龍鉄道布設法案審議の際主張せられたる主義原則、即ち黑龍鉄道布設工事には露國の材料及び露國の工夫労働者を使役するを立法の精神基礎とせり。但西比利亞は人口稀少にして該鐵道線路一帯の地に労働者を得ること難く、隨つて工事に要する労働者の大部分は内地の歐羅より供給せらるべしと雖も、労働

MT

11233

00326

力不足の場合には例外として支那労働者の雇
入を許可することゝしきりき。而して此の鐵
道敷設の影響は甚だ大なるものゝ如し。即ち
唯だ此の黑龍鉄道敷設の噂位はりてより露
国内地にて無職業に苦める人々は、職を得ん
とて陸續同地方に入り込みたりに、未だ大規
模に工事着手の模範なき為め忽ち囊中無一物
と爲りて進退谷りたりより、当局者は各州知
事を經て黑龍江鐵道敷設工事の未だ着手せら
るず、工夫を要なきを輸送するに拘はらず、

今、樺尾龍江地方に流れる水の已まず。加ふるに政府の送り、移民も、亦生計に困めるもの少なからずして、共に困厄の状に陥れり。而して又、樺尾龍江鐵道の敷設に伴いて、一新設計の企画されつゝあるは、ヤクーツスクとゼヤ市とを聯絡^終する一事なり。而して此西地點間には實に一千零里(約二百五十里)を距つるものに、て、此の企画は経費比較的小額にして、同地方開発のために利する所莫大なるべく、且、つ将来にありてゼヤ、アルダン鑛區諸鑛の開発

MT

11233

00328

と一般ヤクソーソ州の發展の爲めに、多大
の効果を現るに至るべし。且又該線の敷設は
ヤクソーソ州の産物たり山塩、鑛物、毛皮
類の輸出と歐露工作品と輸入との爲めに便利
なる途を啓くのみならず、同地方に於ける諸
河即ちアルグン、バトリリ、チンブトンの流域に
好殖民地を開拓するに主便なるが如し。

而して航運業に關しては、東洋義勇艦隊と里
龍江貿易汽船会社との二を主ならむものとす。
蓋義勇艦隊は従来絶東に於ける定期航海に雇

大主

MT

11233 00329

外國船を使用せしむ、昨年來を廢し之に代ふ
るに五隻の汽船を新造して、左記時間内に各
港間を航海する豫定としたり。

一、浦塩斯德、敦賀間 三十九時間

二、浦塩斯德、長崎間 五十一時間

三、長崎、上海間 三十七時間

且同艦隊は右定期の汽船に因り、旅客輸送を
目的とする外、西比利亞産バク其他露國產の
粗製品を浦塩斯德より、外國に輸出し、及び
上海より浦塩斯德を経て露國に輸入せらるる、



11233 00330

諸種の貿易品を輸送する計画なるが如し。

又一昨年露歴七月八日、露國皇帝は交通省の

提出に係り、上下両院の協賛を経たる千九百

九年以後、黑龍江汽船定期航運設営に關する

法律を裁可し、同八月十四日法令全書第百二

十四号を以て之を公布せしめたり。此の法律

によれば交通大臣は國庫より補助を與へ、

千九百九年より向ふ十二年を超過せざる期限

を限り、黑龍江上に郵便旅客の定期航運を營

業し、出るを得るものに、之が費用として



は千九百九年及び同十年に於て、二十五萬畝
以下を支出して之を奨励せんとするに似たり。
又露國皇帝は一昨年七月上下兩院の協賛を経
たり。絶東水産保護法及び沿黑龍總督在管内
水産監督規則先に沿黑龍總督府管内國有財産
廳附属臨時水産監督官制を裁可し八月法令
全書第二十三号を以て之を公布せしめられた
り。之に因れば露領の漁業、山林及び農業
は秩序的漸進の好進を呈せしむるものに於て
將來我國に影響する所、又頗る大なるものあ



11233 00332

るを信ずるなり

第十三 黒龍江と清露移民

嘗て露紙ロシヤは、黒龍江沿岸清露移民と類して云へらく。

柳黒龍江とは、清語にて黒色なり龍の河と

稱する意義にして、同江は蜿蜒として露清

國境を流り、事實に二千八百露里、近年露

國政府は、同江に沿つて黒龍江鐵道敷設の

計畫を爲し、大いに世人の注目を惹くに至

なり。有名なる什爾喀河、アルガン河は何れ

ふよ

MT

11233 00333

も黒龍江上部の支流たり。而して右西河の合

流する附近に於ては、黒龍江の幅員一キロ

メートル、之より下りてアルベジ近傍に至

りては二キロメートル半あり。尚進んでぜ

や河を合せ烏蘇里河の合流する區域は沿

海州及び滿洲の境界にして、其の邊にあり

ては黒龍江は河水多量となり、河中の島

嶼を合せ、河幅十キロメートル以上に達し

て舟航の便少ならず。而して其の近傍に

は廣大なる沃野所々に點在して農耕に適せ



11233

00334

る所少なからず。之を烏蘇里方面に見るに、

浦塩斯德よりニコリヌスノに至るの間は、丘

陵起伏して平地甚少なりと雖も、ニコリヌ

スノより烏蘇里鐵道に沿うて北進するに役

い、眼界次第に開け平野遠く連りて、西は

滿洲の塚に至り、北は興凱湖畔に及ぶ。其

面積實に一千方哩にして、其地味頗る豊沃

なり。而して興凱湖の北方烏蘇里駅附近よ

り更に北進するに役い、土地又南却烏蘇里

の如く平坦ならずと雖も、而かも烏蘇里鐵道

の沿線には平野到處に開くを見る 即南
北烏蘇里のみにても、猶能く数百万の農民を
容るゝに足るを知らずなり。而して一方
黒龍江州の地勢を見るに、ヤブロノイ山脈
の餘波到る処に蔓延して、平野比較的にな
なきを、而かも其間には黒龍江の支流セヤ
及ブレヤクニ大河の貫流するありて、其沿
岸には諸所に平地を見るのみならず黒龍江
の流域には無慮一千万デシヤノ（一デシヤン
は我約十反）の沃野ありと云ふ。故に黒龍江



11233 00336

州亦少なくとも二百萬の農耕者を容るゝの
餘地あるは疑ふべからざる事實なり。云々

と 柳里龍江は全長四千キロメートルあり。

吃水三米突つ船舶は二百五十哩、又支那帆船

は八百哩を航行することを得べく、且支流に

至りては値所に帆船を浮ぶることを得べし。

今日まで里龍江航江の船舶は、悉く露國の國

旗を掲揚さるゝに限り、が、最近に至り

吉林省巡撫は、自國船舶より同江航行權問題に

関し、清國政府に對し提言する心あり、か

熱心なる前任黑龍將軍又大いに之に鑑み
たり。清國政府が今日まで廣闊なる黑龍江
右岸の自國領土に對し殖民政策上何事施す
所なく授意せらるゝ誤れるを指摘して其職を
辭せり而して同將軍は先づ是等邊疆の軍備
を堅め清國各地より速かに農民を移植する
の最も急務なることを論せり。之が爲め清國
政府は黑龍江省に三道台を置き以て清國農
民に對し同江沿岸地方の移住を奨励する事
とし是等移住農民に對しては初年地稅の免



11233 00338

課を行いかば俄かに黑龍江右岸に移住す
る清國農民の数は増加するに至り。然るに
黑龍江左岸の露領地方に至りては一昨年以
來移住民の數減少し來りしを以て露國官憲
は移民事業に対し多大の注意を拂ひ大いに
之が奨励の道を講ずると雖も常に其結果而
白かうざりが如し。即南亞西烏蘇里地方及
黑龍江右には斯の如く廣大の汝即あるに
拘はらず今日まで露國農民の此地方に移住
して農業を事とする者寥々として曉星も遠

ならず。而して一方に於て多数の支那人は、
益々黑龍江の北岸及び烏蘇里河の東岸に移住
し来りて、原野を開墾しつゝ耕作に従事する
が如し。加之近時烏蘇里方面には、多数の朝
鮮人も亦来りて土地を耕すを見る。故に露國
政府に於て殊に露國農民の此方面に移
住するを奨励せざんば、同地方に於ける支那
人の数は益々増加し、其経済的利益は終に
彼等の掌中に歸する虞なきにあらず。是れ露
國政府の大いに憂ふる所なり。故に露國政府

MT

11233 m340

は日露戦争の終りや、大いに此方向の殖民に
盡力し、歐部露國の農民を獎勵して此処に移
住せしむるの外、東部西北利亜師團の露兵に
して満洲除隊とされる者に対し、該地方に
移住せしめんとする計画を立て、種々の特典を
設けて以て是等除隊兵卒の移住に便利を與へ
たり。結果、兵卒の烏蘇里河の方面に移住せ
んとせし者、一時に九千人の多きに達したり
き。是に於てが當局者は申込に應じて各
人に一定の旅費手当等を給與したるも、彼等

兵卒は直ちに各自の移住地に赴かず、政府より給せられたる金員の懷中に存せり。間々、都會に止まりて或は賭博を事とし、或は酒色に耽りて終に囊底一物なきに至りて、又荒寥未開の地に移住するゝ意なく、厚顔にも政廳に訴ふるに自己の窮狀を以てし、更に政府の費用を以て各自の故郷に送還せられんことを願ひ出でたりと云ふ。斯くて満期除隊の兵卒も、以て黑龍江方面を開拓せんとの計畫は、全然失敗に歸したるなり。



11233 00342

之を要するに 露人の性質たるや遠く御土を
去りて異郷に永住するの觀念に至りしが如し。
然れども 清國人は到る如固着移住の風あり。
而して曩きに前黑龙江將軍の清國政府に授言
せし黑龙江移殖業にして、果して採用せらる
に至らんか、今日まで振はざりし黑龙江右
岸に於ける清國移民の事業は必ずや成功し、
延いて同地方經濟上の気象に資する也歟か
らうべく、依つて以て邦人も亦其地方に邁進
して、權利を獲得するの權を有するもの
夫

此將來大いに活動すべき地域たるを忘るべからざらなり。

第十四 露國の滿洲に於ける高的消長

一 昨々年我外務省は南滿洲に於ける商業に就き、我邦人の特に發展し得べき利権の多きを示し、以て我が同胞の活躍すべきを紹介せしは、讀者諸賢のよく知らるゝ所なるべし。然れども滿洲一帯なもと露の勢力圏内にあるも、以て經濟的根柢も亦深く移殖せらるゝが故に、之に抵觸することゝ又容認せざるべか



11233 00344

らず。蓋露國政府が東清鐵道敷設を決定せ
所以の者は、即ち同鐵道の敷設に依りて將來
極東に於ける露國の商業の爲に、廣瀾を満
洲及び蒙古地方を開發して經濟的勢力を扶植
せんとしたるが主なり。

而して東清鐵道の開通後滿洲に於ける露國の
商業は、大いに活氣を呈し來りて、有力なり
資本企業家は續々滿洲に來集せしを以て、同
地方に於ける清國人の市場は、瞬時にして露
國の生産品たる雜貨、煙草、石油、硝子、農類、金、銀類

金屬製器具類等の充満するに至り、加之
らず滿洲に於ける露國の製粉事業は、極め
短日月間に長足の進歩を爲し、且清國人自身
も又露國製粉の自國製粉に比して遙かに優良
なる事を自認し、清國人一般にも露國製粉を
需用するに至り、而して滿洲に於ける露國
製粉事業の發達及び専ら露國經營に係る金融
機關の力に頼りて、行はれたる同地方各種粒
穀輸出の盛況は、勢い滿洲農民の耕作法改良
の進歩を促せり。又極東に於ける露國金融機

MT

11233 00346

聞たり露清銀行は、貸付利子歩合甚だ低廉な
らざりと雖も、一面貸下の範圍を廣く、
且つ大膽に露國商人に對しては常に多大の信
用を置き、以て營業せむが故に、同銀行が滿
洲の商業界に與へたる利益は、鮮少なうざ
り。而して今其大略を挙ぐれば、

第一露清銀行本部は年々幾百萬留の利益を
得たりこと。

第二極東都邑に於て貿易に従事する露國商
人は、此の唯一機關の力によりて商取

ハシ

MT

11233 00347

引上至大の便宜を得、且手廣く營業する
ことを得たること。

第三就中注目する要すべきは、露國の資本は
滿洲蒙古及び一時韓國にも勢力を有せし
こと。

等なりとす。當時日露戦争以前滿洲に於ける
露國の商業と金融機關とが如何に好況にあり
たるかは、清國人が露國の紙幣を信用し、且
極めて高額の銀を以て之を交換せしに見る
明かなるべし。



11233 00348

然るに前題の狀態は、僅かに日露戦争以前迄
繼續せしものに、一朝戦争の終了を告ぐ
るや、滿洲に於ける露國商人の境遇は全く
一変するに至る。蓋彼等は戦時軍隊用供給
用として、貯へたる無數の貨物を負ひ上り、
るにも拘はらず、手許には少許の現金だも所
有せざる窮狀に陥りたるなり。其時に當り
て彼等商人とめ取引に依りて、年々幾百萬兩
の利益を獲得したる露清銀行及彼商人等の貨
物を一手に取扱ひ、

以て利益を得たる東清鐵
六十一



11233 00349

道は、満洲に於ける露國既得の高権を維持し、
又露國企業家の破滅を權護する目的の下に、
大に金融の道を閑き、以て彼等の爲めに一縷
の血路を閑かざるべからざるに、露清銀行は
彼等取引に來り、露國商人等に対し、其破産
を危み、彼等の爲めに金融の道を閑かざるの
みならず、突然一時一切の貸付をも中止し、
又東清鐵道は全然自家の債務を拒絶し、甚し
きは半々年以上に亘りて之が支拂を延期する
事さへあるを見たりき。

MT

11233 00350

事態斯の如くなり。を以て、西三年来、極東に於ける露國の商業は、非常の打撃を蒙りて、悲境に沈淪するに及んで、我が帝國の資本は南滿洲に漸次跋扈するに至り、是れ蓋當然の事にして、我國の資本の勢力を有するに至るは、即ち日清日露の平和に於て、又欠くべからざる楔縁なり。故に露國は南滿洲に於て商權を失いたりと雖も、北滿洲に於ては獨彼が獨占とせざるべからず。昨年一月、中外日報は、哈爾濱商業調査として左の如き一節を揚げたり。

哈爾濱商務會商捐處近來實地調查該埠商業
據云本埠商業界其最大勢力莫如俄人及歐
人至中下之商業則次中國人為多如以百分法
計之中國人約居大商中百分之十五中小商業
中百分之二十日人不過百分之二而已其他均
為俄人及歐人所占有由是以觀俄人及歐人直
居大商中百分之八十五中下商業中百分之三
十八矣可畏哉

と、
こは素より一都市に就ての見解なりと雖
も、
要するに北滿洲の大部分は、今獨逸國商



11233 00352

権の優位を占めるものとせざるべからず。然
れども満洲の將來は、我國は勿論獨米國資本
の將來に於ける勢力も亦輕視する能はずして
他日三國の高的混戰場たるを期せざるべから
ず。而して其最優位を占めるものは、兼りて
又諸種の利権を獲得するものとして、深く注
目せざるべからざるなり。

第十五 西藏と英國との關係

抑西藏は清英露三國の勢力交錯地に於て、
未幾多の紛争を重なり、ことは讀者の既に熟
知

九の五



11233 00353

する所の事実なり。然れども英國の西藏に於
いて領土的野心なきは何人も首肯する所に
て、唯其力を此方面に注ぐは、露國の此地に
手を伸ばすを恐るゝのみ。蓋露國が西藏に優
越の地位を占むれば必ず印度の背面を脅か
さるゝ、恐れあるが爲めに、即ち西藏に周
する英露協約ある所以なり。而して此協約に
於ては英露の西藏に於ける權利均等なりと雖
も、英人の経営は露人に比して最も速かに
て且熱心なり。是英國は印度を占有してより

MT

11233 00354

西藏の市場を以て陰然東亞殖民經營の範圍に
入ル居るが故に、若し西藏の保全せられざれば、
印度も又必ず唇亡びて齒寒きの虞あるは
なり。故に日露戦争の際露國の西藏を顧みろ
能はざるに象じ、英國は大兵を拉萨に入れ、
達賴に迫りて十一條の條約を締結したり。
而して此條約は駐藏大臣擅まに調印せざるよ
り、北京に談判して光緒三十二年之を續訂せ
り。藏印條約第六條是なり。然れども露國は
英人の獨り利を占むるを嫌ひ、且將來西藏に

於ける英國の勢力を制せんとし、遂に西藏に
於ける英露の協約ありしは前述の如し。
次に露國の西藏に於ける關係を論ぜんに、英
國の經營は西藏を以て殖民市場となし、以て
商業上の勢力を講るに過ぎずと雖も、露國は
西藏と疆土相連接するを以て、若し歐國を擴
張せんと欲せば、西藏又蒙古を經營せざるを
得ず。是を以て日露戦争終局の後、露は西藏
經營に於て以前よりも注意を加へたり。元來
露國は中央亞細亞に傳來的政策を有し、西藏

に升りても今少く其銚を戦ふと雖も、其野
心は決して死滅するものにあらず。況んや露
國は宗教の關係を以て藏人を籠絡せんとする
もや。清露天津條約第八條の云ふ所は、蓋宗
教の一方面より着手したるもの、是れ即ち露
人が久しく宗教を以て西藏を経営するの政策
を有せし所以なり。近來在滿洲の露人は銅佛
を以て護身とし、且又先年達賴喇嘛は、佛敎
保護者の徽號を露帝に送りたり。即ち將來露
國は遼東の賠償を西藏に求めんとするにあり

ざるべきか。

夫れ西藏と英露との関係は斯う如し。而して

次に注意すべきは達頼の西藏に於ける位置と

西藏の沿革なり。先づ沿革より之を論ぜんと

欲す。抑西藏は清國の西南部、東洋古民族の

長く棲居せり如にして、羊毛其他の産多く、

又金銅鉄諸鑛の無盡蔵なりと稱す。古より前

代西部に分ち、と雖も、其宗主権統治権は咸

く達頼之を掌握す。且つ西藏は佛教の一派た

る喇嘛宗の大本山にして、其教徒は蒙古及び



11233 00358

支那本部に渉りて數千萬の多きを算し、他方
一方にはネパール、ブーダン等又宗教上の關係
甚だ深きものあり。且西藏は政教一致の國に
して教主即ち君子たるもの、是を以て西藏が
窮山絕谷に孤處するに拘はらず、東洋の事を
論ずるもの、頗る哇喇喇と重んずる所以な
り。歴史に徴するに、西藏は中國に通ずるこ
と早く、秦漢の時には既に西南の邊夷たり。
而して元代には河州宣慰司を置き、明の景徳
年代に至りて遂に中國に歸屬し、雍正年代清

延特に駐藏大臣を任命して全藏を管轄せり。
 而かも一切の政權は仍ほ噍喇嘛と班禪額爾
 德尼の手に操縦せられ、駐藏大臣は唯其統監
 たるに過ぎざるのみ。
 次に噍喇嘛の位置を論ぜんに、噍喇は前藏
 に居り政兵教の總てを握りて、發帑施令^等々々
 噍の一身より出づ。且其位は各省總督より
 高く其權や駐藏大臣よりも重し。故に清廷禮
 遇の隆なる全國中之に比すべきなり。是れ清
 廷は噍喇の一身を愛するにあらず。蓋今日西



11233 00360

藏は恰も果印の如くに、西藏一たび失へば藩籬盡く撤して西南の半壁又不安の恐あり故に止むを得ず其の羈縻の術を弄して喧嘩の歡心を買ひ、以て西藏の危局を全せんとするなり。況んや喧嘩は黄教を崇信し、風に大勢に昧きが故に、一旦心を變せば西藏の命脈は遂に英露の何れにか割せらるゝに至るべきか。

今や英露二國は未曾有の親善關係にありて、西藏に對する兩國の競争を低減しつゝあり。

故に去る三月喇嘛の拉薩を棄て、印度に播遷
し、以て一時世界の耳目を引き、と雖も、西
藏の國情は依然として変ぜず。清國も列國も
又其心を動かさざるを以て、其帰結する所は
復た例に因りて例の如くなるべし。
之を要するに西藏に深甚の關係を有するもの
は、英露なりと雖も露は積極的地位に居り、
英は消極的地位に立てり。蓋英國は西藏も
中間に介して露國と相對峙せざるものと云ふべ
く、而して印度の安全を計るが爲りには西藏

MT

11233 00362

は無二の塙壁に――、英國の之を重要視する
亦故ありと云ふべし。

第十六英佛二國の南清に対する態度

十數年來歐米列國は、支那帝國に於て先を爭
ひて種々の特權及び商權の分取に役事せしこ
とに、諸士の既に知らるゝ所の如し。而して
露國は極東政策に就て我國の爲に一旦頓挫せ
しと雖も、必成を將來に期して徐ろに政事的
及び經濟的大業を繼續し、英國は殆んど已む
時なく其我利的干渉を慣用して、時々衝突

九五
↑

MT

11233 00363

を見らにも拘はらず、支那富源の大部を掩有
せんことを勉め、獨逸は皇帝の福音を宣揚し
つゝ、大海軍國兼大殖民國たらしめんとするの技倆
をあらけさんとし、米國は人道を口實の下
に高權を占取せんとするに當り、佛國も
豈乎とて黙視するものなりや。然り彼は
果して黙視せず他國の北清地方に熱狂せる間
に徐々南部支那に向つて鴟梟の慾を逞め
んとするに際し、英國の之に拮抗せんとする
あり。故を以て茲に少く言はざる能はず。

MT

11233

11364

但余が南清と云へるは雲南廣西廣東の三省
を指稱し、而して雲南と佛國とを基本として
之を論ぜんとす。

抑雲南省は清國の西南端に在り、西は英領印
度に境し、南は佛領東京に接し、東北は二面
は廣西四川兩省に連りて、古來清國十八省中
四川省と共に物産豊富を以て知られし所なり。
されば利を見るに明敏慧眼なる英佛兩國は
夙に雲南四川兩省の富源に注目し、着々と
之が設備計画を急ぐす。現に英國は西方より

九云

MT

11233 00366

佛國は南方より雲南四川及び雲南廣西地方に
向い鐵道敷設に着手し、以て富源の開発に役
事しつゝ、あるは蔽ふべからざる事實なり。殊
に吾人同胞が注目すべきは、英國の東方亞細
亞に於ける經營なり。現に英領印度のマンダ
ラ、ラングーン及びカルク等々に於ける都市
建設の計画を聞くに、其規模の壯麗雄偉なり
實に驚くべき者あり。而して諸紙に散見する
所の事實を綜合する時は、英國は同下敷設中
にある鐵道の完成を待ち、カルク等の地に

MT

11233 00366

第二のロンドンを開き、之を本據として東方
經營に全力を集注し、比較的競争の少ない西
部より清國内地に侵入して、縱横畫策以て東
洋貿易の大活動を企劃せんとしつゝ、あるは明
らかに知らるゝ所、是實に我が將來の對清政
策に重大なる關係を有するものに於て、決し
て輕々に看過し得べき所にあらざりなり。而
のみならず佛國が近來の行動も亦決して忽諸
に附すべからざりしあり。即ち世人の冷く
知れりか如く、佛は往年清佛戰爭の結果東京

を領有して、茲に東洋発展の根據地を定めた
りしが、其後去る明治二十七年六月暹佛條約
により、暹羅の領土たりし老界と稱する一地
方の割譲を受けたりしも、此の地たる地味不
良且物産乏しくして收支相償はざるも、佛國
政府は終始一貫以て其方針を渝へず。資財を
投下して其開発に努むるものは、蓋し深遠な
る計策の存するものとせざるべからず。
惟ふに佛國が茲に根據地を定めたる以來、荏苒
として久しく活動せざる者は、實に我國の侵



11233

11233

事を深く恐れ、一が爲めに、若し南清経営
に全力を注ぐも、根據地の守備を怠るが如き
あらば、必ず日本、其後を窺ふに至らん。事
茲に至らば、嘗に東洋の根據地を失ふのみならず
巨萬の資財を抛ちて建設したる事業も、
徒らに日本の勢力を添ふに終らん。故に暫
く時機を察して徐々に歩を進むるに若かずと
の考案に出でたるものに外ならず。故に感情
的に事物を處理して他を有みず、が如き佛國
人の性格に似ず。尚且收支相償はざり土地の割

るを

譲を受け、敢て漫りに動かずして慎重なる態
度を持つるものは、他日時運の再公を持ちた
るもろとせざるべからず。然るに去る四十年
締結せられたり日佛協約は、多年彼等が期待
したる時機を興へたるものに、て佛團は、こ
の協約によりて日本が侵入せざる保障を得た
るのみならず、日本は漫りに他國の領土を侵
略するが如き禍心を抱藏するものにありず。
日清日露西大戦役の如きも東洋の平和を維持
するが爲め、止むを得ざる勢に出でたるも

MT

11233 00370

のに、日本は商工業上の競争によりては、
 或は侵略的の方針を執ることありんか、
 を以て佛國に對するが如き愚慮は、毫も抱持
 するものにあらず。期する所は平和にあるこ
 とを認めたるは、彼等は今や安堵して多年の
 計畫たり、南清經營に着手し、其豫定線たる
 雲南に達する鐵道敷設に着手し、昨年雲南の
 省城まで鐵道を開通せしめん^{んとせり}。而して竣成
 後は更に転じて廣西市へも進出る豫定に
 此鐵道を利用して又雲南廣西の富を東京に吸

九七五

MT

11233 00376

収する大計畫をなせる模標なり。

之を要するに南清に対する英佛の活動は將來
頗る注目すべき事項にして、且つ此間に於て
能く其の舉措を誤らざれば、又我國力の發展
に至大なる利益を與ふものと云ふべし。殊
に我邦人の体質風土の關係習慣性格等あらゆ
る方面に就て考察するときは、北清よりも南
清に向ひ發展の進路を定むる方、最も得策に
して又有利なり。且南清に向ふとすれば、
に如上の富源を目的とするのみならず、延い

MT

11233 00322

て南洋諸島物産の豊富なり國に對して、比
較的勞力なくして成功の端緒を得安きは明ら
かなり。知らず二十世紀の活舞臺に於て、其輸
贏を決せんとする者、荏苒坐視以て對岸の火
災視すらも得べきや否や。

第十七 雲南鐵道に就て

全は前章に於て英佛二國の雲南方面に對する
施設の大略を論述せり。誠に西國が常に大局
より計算するは今に始まりにあらざると雖も
着々堅實に歩を進むるに至りては、莫之ぞ嘆

歎して箸取り落すの情に堪へざらなり。然りと雖も吾人同胞は常に先進國の当然なる行為として對岸の火災視すべきにあらず。寧ろ緊禪一番以て常に細心の注意を拂いて、應機臨變の處置を取るゝ覚悟なからざらなり。而して昨年の初期に於て列國の注視を引きもろは露國の黑龍江鉄道敷設なり」と雖も其の輿論の漸く薄うかんとするに至るや、然るに打電報は佛國の雲南鐵道經費につき、佛國議會が五千三百萬法支出の可決を報じたる



11233

111374

事ありしが西末清國と佛國とは雲南に就きて漸く深き關係を生ずるに至り。

蓋雲南鉄道は東京海防港より雲南有城に達す

るを目的とするものにて第一期線なる海

防老開きては既に數年前より運輸を開始せり。

而して第二期線なる清國境内に敷設すべき部

分は千九百三年より工事に着手しナム子

河の上流拉哈齋まで七十一キロメートルの

間は既に運輸を開始し九十四キロメートル

ルまで既に工事を終り軌副は一ノメートル

一〇一ト

MT

11233 00375

に、第一期線の全長實に四百六十五キロメ
ートルなり、而して此の敷設権は、佛國が日
露戦役の終りに干渉して、清國の爲めに遼東
半島を還附せしめたり報酬として得たりとの
なるを以て、此点より見れば雲南鐵道は深く
我邦人の心裏に印せらるべきものなり。而も
此の鐵道は作業も大いに進行し、千九百十年（本
年）に至るは雲南有城に達する見込殆んど確實
なりしが如くと雖も革命事件の爲めに、
一時工夫は四散し、工場は頽廢し、鐵道建設



11233 00376

會社は解散して、少なくとも之が爲めに談鉄
道の竣工期を遅延せしめたることは疑ふべか
らす。而して安鉄道の沿線には蒙自と云へる
あり。東京国境と雲南省域との中間にある貿
易市にして、通商上甚だ重要な位置を占め、
將來雲南省の發達と共に注目すべき一地点也。
るを以て今日より注意を拂い置くは又後商
にもあらざるべし。
一昨年中此の地を経て外國に輸出せられたる
阿片は、二十四萬キロにして、價格五百五十萬

法に及び、錫の輸出額は四千噸價格千二百萬
乃至千五百萬法なり」と云ふ。又雲南輸出品
の蒙自を通過するものは、二千萬法を超過す
べしと云ふ。而して輸入品の重なりものは綿
糸綿布日本製燐寸石油洋傘にして、一昨年の
輸入總額は二千三百萬法に達せり。而して最
近十年間に於て、海防より東京を経て蒙自と
の間に行はれたる通商額は、殆んど三倍以上
に達せしと云ふ。故に此の形勢を以て推測す
れば他日鐵道が雲南省域まで全通したる曉に



11233 00378

は 東京雲南間の通商は長足の進歩をなし、
海防蒙自雲南等の繁榮は今日より想像するに
難からず。然れども此鐵道の將來に就ては又
政治上の疑問繁ルリ。即ち曩に利権回收の條
下に於て論じたるが如く、支那の鐵道経営は
支那人にてし。と云ふ主義は 今や清國の輿
論なるが如く、雲南に於ては殊に之を主張す
るもの多し。随つて佛人の鐵道経営には反對
を唱へ 甚しきは障害を加ふるもの少なから
ず。是れ工事遷延の一大原因なりとす。而し

て佛領印度支那の前總督ラネッサン氏の如きは、雲南鐵道の第二期線も清國に賣却して、佛人の野心なきことを示し、且つ南清人と和合して以て佛領の安寧を謀るゝ利益なることを認めたるが如く、之が爲めには協高さへ爲さんとしたりることありと雖も、他の一方に於ては第二期線工事に就て、佛領印度支那政府の負担に属する經費五千万法は、殖民地の公債を募集して支出すべきこと、昨年の議會に於て通過したるを見れば、今日に於ては政



11233 111330

府が未だ従来の方針を變ぜざることとを認むべ
し。然れども工事の一步を進むる毎に雲南人
の排佛思想は、一倍の増加を來したるを以て、
直接間接の妨害を要くること従前の如き勢を
なしたるに於ては、將來如何なる變化を生ずるや得
て知るべからず。況んや東京安南地方の形勢
帝に不穩にして、守備兵の激増を要し政費多
端にして施政の一層困難なるに於てもや。
之を要するに雲南鐵路の経営は、佛の積極的
政策ならべく、而して全通の暎佛國の亨くる

二百五十八



11233 00380

利権は實に甚大にして他列國殊に英國は
大なる影響を受くるに至るべし。然れども方
今列國環視の中に於て左顧右眄して互に牽
制し合ふ時に當り特に英國の利害に關係を
及ぼすものに亘りては容易ならざる事業なり
べく因て以て我邦人も此の間の機微を窺ひ
つゝ之に備ふるの覚悟を要すべきを言を待
たざるなり。



11233 00382

第十八米國の清國に對する批判

今春米國は滿鐵中立の議を提出して、一時世

界の報章を賑はしたりは世人の皆知る所

なり。蓋北米合衆國は従来清國及び滿洲各地

の政治問題に干渉せしこと甚だ稀なりき。是

れ同國の政治家が他の半球の政治問題の混雜

に投ずるを忌むたりしに由るべしと雖も、抑

も亦東西半球の交渉未だ密通ならざるが爲

めなりべし。然れども國際交渉の疎より密に

進むは自然の理數にして、米國独り長く局外



に立つてき謂ふもなかりべし。特に過般我と
大平洋協定を成し遂げて、相共に其政治的方
針を明白にしたる以上、今後の日米兩國は、
此の方針に依りて極東の事に當らざるべから
ざるは亦止むを得ざる所なりべし。

又先年末國が粵漢及川漢鐵道借款問題の機會
に於て對清政策の調子を一變し、以て大々的
活動を開始したるに際しては、一時大いに疑
念を懷きし者ありしと雖も元來門戸開放は米
國の清國に對する根本主義なり。而して前大



11233 00384

統領ルーズヴェルト氏の時代には、米國は清
國の門戸開放を主義とせし、未だ大に之を
實際に於て行ふ能はざる境遇にありき。然れ
どもルーズヴェルト氏が主義として主張した
る所を、ソフト氏は實行に於て示さんとする
が如く、諸種の方面に於て發展し来りしをり
思ふに米國の勢力の清國に於ける大發展は、
又清國の發達を極めて健全に指導するものに
して、我國の如きも亦慎重の態度を以て歡迎
せざらばからず。先般大統領ソフト氏は議會

一〇天

MT

11233

00385

開院の年次教書に於て曰く

昨年九月締結せられたる日清協約を承認し

同協約は亦米國が滿洲の發展に参加するを

排斥するの意を有せざる旨又米國が西湖

鐵道借款に加入したるを満足なりとし且

つ米國政府は機会均等主義を保持して清

帝國の保全に細心の尊敬を拂ひ其の東洋

政策を維持すべし云々

と蓋我國の滿洲經營は門戸開放主義に於るが

る間には米國が決して反對の態度を取らぬの



11233

00386

にあらざるべきなり。

然るに今春の所謂米國の提議は何故に起り、

や。蓋し米國は滿洲にある一切の既成鐵道も

清國に賣渡し、且錦州より齊々哈爾を經て、

愛琿に鐵道を布設せんとしたるに依りなり。

而して是等の既成線及び前記錦愛線等、凡て

將來清國に取りて敷設を利益とする末成線に

對する必要の經費は、列強人民中より支辨せ

んとしたるなり。勿論此の計畫に最も關係あ

るは日露清の三國なり。而して米國は如上の

方法に因つて一切の紛争葛藤の因を絶ち、清
國を以て平和的に領内の發達を遂げしむるに
銳意熱心ならんと推察して、此の提議をなす
たる者なり。蓋數年前米國は列國に向つて、
各々清國に於て特種の特權を專占するを欲す
絶ち、清國の領土を擧げて一切列國の自由通
商に附せんことを献策せしことありしが、今
回米國政府の献策も又同趣意に出でたが如
しと雖も、滿洲は千九百五年以來日露間に特
殊の關係あることを忘るべからず。



11233 00388

然れども、之が爲めに世間往々日露兩國の關係を氣づかふ者あり。されど其實、兩國の滿洲政策は、よく其調和を保ちて相成らず。事に臨み互に相謀りて其忠誠を盡すも知れる者、誰れか世界の平和の爲に慶賀せざらんや。又世間往々米國の提議の失敗に歸したるを云ふも、あなきにあらずと雖も、吾人は決して失敗と認むる能はずなり。而して其の一作爲に依りて滿洲と其關係列國との情勢を確認するを得たものの成績は、極めて大なる者とせむる

能はず。且今日外人中には日露西國滿洲の事を
專にするの志あるが爲めに、他國國民の手に
手を著くのを拒むを云ふ者あり。然りと雖も
是れ大なる誤解なり。門戸開放主義に因り列
國民に高工業上均等の機会を享有せしむるこ
とは、日本帝國の根本主張にして露國政府亦
遂に其の志を同じくせり。故を以て米國は日
露兩國が將來自國と同主義の下に活動せらる
べからず。
之を要するに米國は近來長足の進歩を來した



る結果 勢い ~~力~~ を外に伸べさうべからざる域
にあり。是を以て後述のモンロー主義に安居
し、新大陸の主人公として居るに満足せず、
国内に溢る、餘力を、夫那大陸に放下せんと
して活動を始め、殊に満洲に重きを置くが如
し。吾人は米国の支那に於ける活動を嫉視せ
ざると共に、又自ら奮進して彼等が機先を制
せんとするの覺悟を有する者なり。

第十九 太平洋と日米

十数年来歐洲の諸列國競ふて其の海軍の改良

一〇九



11233

00351

進歩を之ル事とするに反し、獨り米國は其の
朽艦舊式に甘んじ、敢て其の進歩改良を念
頭に置かざるが如く、其の操縦の任に當るべ
き將校女員すら、艦上の操縦よりは寧ろ室内
の交際を以て其の職とせらるゝ如き觀ありし
めたりものか、一朝菲律賓問題に就き米西砲
を交ゆ々に至り、同位の艦隊を以て巧みに西
班牙に一撃を喫へしより、さうも準備を以て
度外視したる米國も、世上の奔波を障ふべく
もあらざりて、遂に海軍擴張業は同國に於け



11233 00392

る大問題となれり。如之のみならず、西三年
来米國は対清政策の施設上、其の最大必要を
感じたるもの、如く、殊に今春米の有力者
等が突飛なる日米開戦を決定して、之に應ず
る戦備を説きたるは、蔽ふべからざる事實なり。
抑各國が其国防計畫に於ては、隣國を標準と
する事普通なるを以て、米國の国防計畫が我
國の国防を以て標準となさんとするの傾向は
亦怪しむに足らざるものと謂はざるべからず
即ち我國と露國とは現時最も敦厚なり友誼を

交換せらに換けらず、露國の國防計畫が我國
及び清國を標準とするは元より其処にして
我國又或意味に於て之等隣國の國防も標準
として國防を計畫しつゝあるは是れ又公然
の事實にして一國存立の上にあるは当然
の措置なりと謂はざるべからず。此理に於て
吾人は又米國の國防に就て何等怪む所なき
みならず、米國海軍卿マイヤー氏の太平洋沿
岸用として、大戦闘艦、航空艇建造の新企圖を
以て、寧ろ祖國を思ふ忠實なり政治家として



之を是認すると共に此理は直ちに移して我
國にも及ばざらべからざりなり。而して我國
の政治家、軍事家、批評家等が米國の國防を
説くも、要するに我國の國防計画の参考たら
しめんが爲めの意志にして、戦争と國防とは
自ら別個の意味を有す。故に國防を説くは日
米兩國にとりて当然の事態にして、復藏なく
言はば我國今日の財力にして豊富且國防に
て米國を壓するに足るべくんは、太平洋は無
事平穩にして彼の突飛なる滿洲中立提議も起

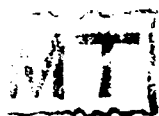
らざるべく、米國が対東洋の外交方針は斯の
如く辛辣とはなりず、依然として米國はモン
ロ―主義に安堵し、新大陸の主人公として親
しむべき正義の國として、一層の尊敬を買へ
るならん。此點より謂はば今日我國の不充
實は、却つて日米兩國の不利益を来したるも
のと云ふべし。
然れども孰々往時に溯りて稽ふれば、日米西
國は決して斯かる論議を口にすべきものにあ
らず。蓋し日本帝國は開國の初より、北米合



11233 00386

衆國と相親み五十有餘年を経たり今日と雖
も、常に相諭ることなり。即ち其親交の極め
て深く且久しきや、人皆因りて以て常となし、
復た其の然る所以を問ふものなく、他の其の
親疎を問ふものありと殆んど之に對ふる所以
を知らざる情ありき。即ち我國が北米合衆國民
に對するや、其意氣深く相許し且つ相感字す
るものありて、又多く言語の末に求むるも要
せざりしなり。

然るに昨年来北米合衆國に在りては、日米戰



争の避くべからざるを説くものあり。至親の
日米兩國に對して戦争の避くべからざるを云
ふ。其の言既に甚だ奇なり。言の奇なるもの
善く人の耳目を聳動す。然れども一たび人の
耳目を聳動する者ありし、久しからずして其
事實に非ざるを知らるゝを畏るゝ者あり。於
是乎、則日本に戦意あるを説いて米人を威嚇
し、米國に戦意あるを説いて以て日本國民を
驚かす。大凡奇言人を驚かす者の細工は常に
此の外に出でざるなり。吾人は日本國民の遂

必ずしも
独逸ヲ云フ

に其心を動かさざるを信ずると共に、米國々
民亦恐らくは其心を動かすことなかるべし。
然りと雖も第三者果して其の心を動かすこと
なきを得るか。夫れ第三者の過誤は日米兩國
の親交を傷くることなり。然りと雖も第三者
をして常に疑懼を懷かしむるは、決して兩國
及び清國の爲めに有利なるものにあらず。殊
に極東の事件に就ては絶えず不吉の因となり
ざるを得ず。
之を要するに極東に於ける列國の利害關係は

漸く複雑となり、従つて自己の利を優位なら
しめんとする裏面には、絶えず離間中傷を放
つ第三者あり。而して現時我が對清政策及び
米國との國交上に殊に其の然るを目睹せらる
ゝを悲しむ。然れども今や~~米國~~米國は武裝的平和
を以て太平洋艦隊を増設し、之を菲律賓及び
布哇に布設するに於ては、仮令米國の真意は
列國軍備の均衡上より来るものとすらも、均
衡は即ち權力の支障を構ふる保疊なるを以て
延いては對清政策に偉大の影響を及ぼすのみ



11233 00400

ならず、極東問題に一つの新局面を發生せしめ、
因つて以て極東の政局を紛雜ならしめる一因
とせざる能はず。憂國の士夫は爲にして可
なりんや。

第二十 日清米と極東

抑太平洋が近き將來に於て世界列國の競争場
となりべきは、總べて人の云ふ所にして、
往年地中海が歐洲列國の角逐場となり、今も
高列國勢力の消長に大關係を有せりが如く、
將來に於て太平洋に覇を稱するものか、即ち

世界に覇たるものなりとは衆人の異口同音に
叫ぶ所なり。而して太平洋に対して優先的の
地勢を有する者は勿論日米兩國にして、英國
は威海衛及び香港より、獨逸は膠州湾より
佛國は印度支那より、それそれ太平洋に足溜
りを有せざるにあらずと雖も、日米兩國が自
然の優勝的地位にあるには比すべくもあらず
特に米國が殆んど太平洋の東岸を獨占し、之
に如ふるに布哇島の占有とマニラを領する
も以下、且つ近く、後攻すべきハマ運河の



11233 111402

鍵を握り 世界第三の海軍力を擁し、無限の
 富を抱いて列國を睥睨せば、太平洋は殆んど
 米國の泉源なりと云ふも不可なき程の形勢に
 あり。世界熟れの國の海軍と雖も懸軍萬里布
 哇島に漂到して米國海軍と戦ふの愚を爲すも
 のありざるべし。加ふるに布哇は恰も地中海
 のマルタにして、ハナマはジブラルタルなり。
 而して英國は地中海勢力の圈外に國して、其
 の二要地を占有して、地中海に優先的好地位
 を有せり。佛國も凌ぎ、伊西等地中海岸の諸國

も眼中に置かざるの觀あり。然るに未國は既に太平洋に於て自然的な地位を占めたるが上に、ハナマと布哇とを掌裡に握り、更にマニラを領有する。其勢力が大平洋の地位を増進と共に進み、遂に覇を稱せずんば已まざるの概あるを見るべきなり。

然ルども我國は素より地中海に於ける佛國にあらず。又清國も伊西等の老大國に比すべきにあらず。何れも不測の未來を有するものなり。殊に清國は攝政王治以來漸く覺醒し

MT

11233

111414

て 大いに教育を起し政綱を振張り来りしを
以て、次の分にて支那國民の本能を發揮して、
殖産興業を發達せしめんには、其の富源は無
盡藏にして且つ人口は世界に冠絶せるが故に、
非常の武力を發揮し軍備の如きは世界各国
の企及すべからざるに至るべく、又其の貿易
は到る如に利害關係を及ぼすに至り、且つ又
其の平和の競争を保護すべき海軍力は、如何
に擴張すとも決して國家に害を與へざるのみ
ならず、益々國力増進するのみならず、以て、

恐らくは他國の企及する能はざる大海軍を現
出するに至るべく、單に武力を目的として無
理算級の軍備を擴張する世界各國の現勢とは、
實に比較すること能はざるものたるべし。
次ぎに清國民は能く富利の念に富み、貨殖の
道に通ぜりと共に、一方に於ては其の警察制
度の不完全及び一般の風習等より、各人皆自
衛の道に馴れて能く兵器を使用する習慣を有
す。而のみならず彼等は他の力を藉らずして、
自衛することも念頭に持し、又善く文明の利



11233 1114-6

器も利用するの素質を有す、是れ一は其の交通機関の不完全なりが爲めと、又土地の廣きが爲めに必然的に武力を利用することは、極めてよく行はれ居るが如し。而して是等の素質は實に多数の良陸兵を産出する自然力と云ふべし。故に君一清國にして一たび覺醒せば幾くならずして有力なる軍隊を出すことを得るのみならず、其の養ふべき費用人数等は、列國に對して遙かに良好なり條件の下にあり、斯の如く兵力の養素に對して経済的なる費用

を以て行くことを得るとせば、国家経済上の餘
裕を以て多方面の国利民福の積極的機関に應
用する餘裕は、又極りて大なりやんと云ふべ
し。故に是等の諸因を綜合して考ふる時は、
將來清國の普及力は實に恐るべき地盤の存す
るものとせざるべからず。

今や米國は東方より不測の勢力を以て日清兩
國に迫れるあり。又清國に対しては露英佛獨
深刻なる手既を以て、高工業上の利権を得ん
ことに汲々たり。故に若し清國が貧弱ならば

籌の

MT

11233

00408

我國は最も損害を受くべく又富強とならば
最良の得意場として、通商貿易の利を占むべ
く、且つ清國泰平ならば、極東禍乱の動機は其
の大半を消去す。乃ち我國の如きも平和の保
障を得て、最も平和的經營に其力を竭すを得
べし。故に清國の富強を希ふは必ずしも友誼
的感情のみならず、自國利害の打算上より然
るなり。殊にこの東洋の二大帝國が左提右挈
するに於ては、東洋の平和は必ずしも外間の
力を假らざりし自から之を保障することを得

べー。
らんや

經國の士夫ハ此ニ此ヲ鼓吹セザルテ可ナ

MT

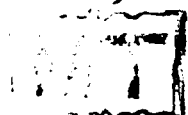
11233 00410

第二十一 結論

日露戦争の終結より、明識の一外交家は言いき。今後世界の危機は西に在っては、埃白国皇帝、東に在っては清国西太后が百歳の時にあらんかと。其の西は姑らく置き、其の東は当時列強が対清政策に深甚の計畫を進捗せしめんとて、激烈なる競争ありしが爲めなり。然れども西太后殂落の前後より、列國の対清政策は著しき変化を来したるも、所謂大官等が協力して國難を排除せんとしたりしかば、

今や清國は諸種の方面に於て漸進的發展の好兆を示し來ルリ。而して時々大官に移動ありと雖も、清國の政事上には大なる変化なく、依然として憲政準備の次第を遂行しつつ、一面に於ては所謂中央集權の實を擧げつつあるを以て、列國は益々清國の將來を尊重して、之を啓發誘導しつつあり。殊に經濟的狀態に就きては今や清國の各都市に於て大なる商業的信用を得つつあり。

然るに我邦人の中間に於ける信用と將來に就



きては寧ろ悲觀せざるを得ざるなり。蓋し清
國の東西南北を通過して日本人の經營せる事業
を見るに、泰西諸國人に比して不幸にも未だ
遜色なしと云ふ能はざるなり。勿論小村外相
の宣言に聞くと、韓の經營、滿の開拓、又只
我が大和民族の有餘を移して、之を植付くべ
き餘地なり。とあるに依れば、亦如何ともす
べきにあらずと雖も、これは單に國際關係より
打算したる言論にして、事實は滿韓に限局す
べきにあらず。列國と共に各地に勇進して經

政治的勢力を扶植すべく、殊に最も交通の便ある揚子江の沿岸には、挙つて邁進せざるべからざるなり。然るに此の方面に於ける邦人の現況は、兩三年来、銀塊相場の下落と世界一般の不景氣とにより、非常の打撃を受けしのみならず、列國の強大なる資本を有せる商人等々の壓迫とに依り、大いに意氣消沈せるか如し。然りと雖も、根本的に日本民族の將來を思はば、断然今日の風潮を排撃して、あらう方法をも講じ、以て大いに奮勵せざるべからる。

MT

11233 00414

ず。且つ日清戦争となり、又日露戦争となり、東亞唯一の獨立したる強國の民としてけ
寧ろ慚愧すべきものと云ふべし。

蓋し今日に於て日本が清國に於て為すべき事
業多しと雖も、其の最も欠乏する所は、
所謂調査と清國に於て事業を經營すべき人物
なりとす。即ちたとい無盡の財源ありと雖も
調査と人物とる欠乏あれば、其の財源を用ふ
る能はざるは明かなり。故に今日に於ては各種
の専門大家を以て清國に於ける各方面の調

査も専門的に為さしめ、一方に於ては清國に
於て活動し得る人物を養成するにあり。即ち
曾て獨逸のリヒトホーフエンが、山東省を調
査して獨逸の山東經營を見たるが如く、又我
が南滿洲鐵道會社の調査役等が、安奉線の沿
線に於ける土地賣買の習慣を調査して、安奉
線改修問題を決するや、直ちに購地局を設
けて安奉沿線の土地を買収に便せらるが如き、
皆な之れ有効なる調査にして、今後の高業其
他の事項に關しても、又斯の如きものなら



11233 00416

ざらべからず。且つ人物養成も今日の立場と
しては最も大切なるものなりべし。而して其
の人物養成も、各種専門的の學問をなせる人
物をして、清國に落着きて止まりしめ、以
て各其の専門的の知識を以て、清國の各種の
方面に於ける事項を精細に研究せしめ、是に
依りて以て對清經營を改むれば、今日の大勢
も挽回するは易々たるものなり。今例を上海
にとりて、上海は現今清國に於て最も多くの
貿易額を有し、而して我國の貿易額が英國に

次ける最高額ならに拘はらず、日本人の勢力
甚だ微弱なる爲め、商業上の地位従つて低く、
爲めにありゆる方面に於て打撃を蒙れるは事
實に於て、其の他各都市に於ても商業上に就
きては、一等も他國に輸せざるを得ず、
之を要するに列國は將來最も有利なる清國の
貿易に惹かせり。而して先づ自國の勢力を扶
植して、以て自國の製産品を擴めんとし、
之が爲めには片時も調査を怠らず。又各國政府
は貿易当業者を極力保護して、百年の大成を期

MT

11233 00418

せうが如し。然るに我邦人の対清事業の経営
は、未だ他列国の如きに比すべくもあらず。
て、事毎に懸軍萬里の他國に譲り、且つ前途
好望なる天峽の叛路をば、対岸の火災視しつ
、他國の爲すが俟に袖手傍觀せらるが如し。思
を極東の將來に駛する者、夫れ考一考せず
て可ならんや。



11233 00419

自明治廿八年八月

至同年九月

駐韓米獨公使青島に於て露路將デシノ
と會見風説一件

三十八年八月

三〇

駐韓米使青島に於て露將
シ、下省令に就て
ト 参 官

MT

11237 00001

inches; rather light build; good proportion; weighs 160 pounds or less; brown hair, parted left side; brown curly mustache, not ~~only~~^{very} heavy, rather light; blue eyes, ordinary size and deep but ^{lightly} freckled impressions below them; Grecian nose; thin lip^s; mouth well formed, has a habit of curling up lips a little when talking (face rather round but not fleshy, little pointed at chin, complexion a little sun-burnt). He speaks some English, not very well; looks about thirty to 35. Dessino supposed to have also left with him, but only going as far as Tsingtau there to wind up Cacilie affair; at least so reported.

Matsuoka.

MT

11837

00002

取 會 人 通 政
調 計 事 商 務

次 大
官 臣

[Handwritten signature]

No. 3 8 2 9

211 wds.

Shanghai, August 12 1905 8-15 p.

Received, " 13 " 5. a.

Saimudaitin,

Tokyo.

No. 344. The following telegram has been sent to
Chefoo:

Transmit the following telegram to our Consul
General at Tientsin: Frenchman named Marcel Ribot
August 12th noon left Shanghai for Tientsin via Tsing-
tau by the German steamer Univsberg. He claims
proceeding to Harbin with General Bessino's despatch
to Quarter-Master General there. I gave him my card
with which he is to come to see you and if conditions
satisfactory to let you take cop. of the despatch,
whether worth having it or not entirely in your dis-
cretion. He asks two or three ^{thousand} ~~hundred~~ Mexican dol-
lars consideration only. I cannot guarantee his good
faith or that the despatch genuine. Although Bessi-
no's signature on his passport appears as if genuine,
naturally have to treat the matter with reserve and
suspicion. Ribot's appearance five feet five or six

MT

11237

00003

大臣

次官

秘書

政務

通商

人事

會計

取調

No. 三八七七

(明治五)

桂 外務大臣

上海 癸卯年八月十五日 前一二一〇
本省 署 後一二二〇

杉 同事務代理

第三五〇号

左、通芝罘へ電報せり

其後所調の結果、云々、確力、青島、在る

より彼レ行動御注意アシ

MT

11237 00004



13

取 會 人 通
調 計 事 商

政 務

次 大
官 臣

96



No. 3989
25 wds.

Hongkong, Aug. 21 1905 12-35 p.m

Recd., " " " 3 "

Katsura,
Tokyo.

No. 186. Vernon reports that Dessino is now at
Tsingtau with the object of clearing several steamers
for Vladivostock or Nicolaevsk.

Noma.

15
4
2
L

MT

11237 00005

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

(暗85)

No. 四五四

桂外務大臣

瀨川領事

東京 大正九年九月二日 午後七時五分

第九九号

芝罘領事ヨリ左通り

来二二六号

駐韓獨逸公使ハ去ル二十四日青島へ着シ四週間豫定

以テ目下内地ニ滞在在中 尚ホ駐韓米国公使モ昨

朝バルクモアノ号ニテ當地へ来ソ不日青島へ赴クベシト

云フ西公使青島行ノ目的那邊ニ在ルヤ探偵中ナレトモ

尚不明ナリ青島ニ目下テシノモ滞在スル析米獨

西公使ノ内地行ハ多少ノ意味アルヤニ想像セラル

後

MT

11237 00006

東京 九月八日 前一二四〇番
東京 九月八日 九四〇番

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

四二

No.

第二三七号

桂外務大臣

牧田全權公使

左ノ通芝果領事ハ電訓セリ

貴地英領事ヨリ當地英公使ハ電報ミシハ本月四日頃止米

報ニ在韓米獨西公使カデシノト青島ニ會合シ日本勢力

抑壓法ヲ密議シタリトノコトヲ訛載シタル由ニテ英公使ハ日

下日本ト米獨トノ關係ニ顧ミ斯ル訛事ヲ日本新聞紙上ニ見

ルハ好マシサル旨好意の本官ノ注意ヲ喚起セリ就テハ貴臣

談日報ニ就テ一應御取調上相當ノ取締アレ

MT

11237

00007

大臣

次官

外務省

政務

通商

人事

會計

取調

4343

No.

桂外務大臣

小幡領事

第二二三號

駐韓獨逸公使ハ軍艦「ルツクス」ニテ九月

青島出發歸韓、途ニ就ケリ

芝罘發
東京着
三十八年九月十六日



以

三



11237

00008

大臣

次官

郵

政務

通商

人事

會計

取調

No.

四三九四

附設

桂外務大臣

小幡領事

東京 九月十七日 午後七時

十七日上海、向青島ヲ出ルニ付、九月



MT

11237

00009

大臣

電信課長

次官

主管

電受第九六

號

明治

廿六年九月十八日午後四時五十分

發

桂外務大臣

加藤

第七

妙選砲艦心ヲス膠州灣ヲ駐紮
ヲ送ニ使ヲ來セ今日入港セリ

MT

11237

00010

明治廿八年十一月

韓人本沂外二名より請願書捧呈一件

韓人李沂外ニ名ヨリ
呈一件 諸願書捧

MT

11238

00001

祇 二五

韓國前主事李沂外二名，別紙ノ通リ請
願書捧呈致候右、御取扱上自然御
考之必要可有之卜被存候、別紙
寫及御送付候也

明治三十八年十一月九月

文事祇書官伯爵廣橋賢光



外務省政務局長心得松井慶一郎殿

宮内省

MT

11238

00002

外臣 韓國前主事李 沂前注書羅頊永前主事吳
基鎬等誠惶誠恐頓首頓首謹百拜

上言于

大日本天皇陛下伏以交戰國之和約已成凱旋軍之禮式又舉
疎人遠民猶皆贊誦而況外臣等生在友邦唇齒輔
車勢必相須者乎懼忤之餘請以一言吁 閣以俟
陛下之採取焉夫日韓兩國俱處東洋其居則猶
隣里也其人則猶兄弟也而近世白人流涎東亞
其勢之來莫可沮遏雖以我韓之弱小其有所恃
而無恐者徒以 貴國在焉故甲午之倡我韓獨



立者貴國也甲辰之證我韓獨立者亦貴國也滿洲開伏之日天下稱為義戰一克于旅順再捷于奉天旗鼓所向勇氣百倍此所以獲全勝也本年八月媾和之始外臣等自以為戰勝則易怠功成則易驕其為我韓關係者甚大義不敢坐視故駕海東赴亦嘗以一書備陳於政府諸人而待命于茲已數月矣及見約書所公表者則其曰政事上軍事上經濟上卓絕利益等句語似與獨立之義多所違背然此或出於使敵人斷望之計則猶有可自解者而至若近日保護國之說騰

傳報低遂致我韓人民之怫鬱憤懣及德而為怨
翻思而作仇則外臣等獨以為此非

陛下之意何也謹按甲午八月一日 勅書曰朝鮮

本我所啓誘以伍亞歐列國其為自主國明矣而

清國屬邦視之陰誘陽嚇干涉內政朕據明治

十五年條約出兵備變更欲使朝鮮免禍亂於永

遠保治安於將來以維持東洋全局之平和云云

甲辰二月十日 勅書曰帝國之於韓國保全其置

重者非一日之故韓國存亡實係帝國安危而俄

國不拘盟約占據滿洲併此欲吞若滿洲歸俄

國頗有則韓國保全未由支持極東平和亦不可希
望故朕際此機要協時局云云蓋此兩勅同歸一
義昭如日星信如金石既已傳布於天下耳目
者也昔人亦謂匹夫猶不食言況萬乘乎故外臣
等則曰近日事有非

陛下之意者也歷觀古今德與力迭相消長德
勝力則治力勝德則亂此天地之常道而第念
陛下聖神文武臨御三十有八年致國於富強
蔚然為東洋之霸主者豈有他術哉直以其
未嘗失信義於天下故爾伏乞

陛下必以戰勝功成為戒又以東亞黃種為念而
使我韓獨立與之鼎足而居則非徒我韓
之幸亦貴國之幸也非徒貴國之幸亦
天下之幸也外臣等無任屏營祈懇之
至謹昧死以聞

光武九年十月 日

外臣 前主事李沂

外臣 前主事羅瑄永

外臣 前主事吳基鶴

等

兄弟

外臣韓王前主事李沂前注書羅瑛永
前主事吳基鎬等誠惶誠恐頓首
頓首謹言

大日本天皇陛下上言不伏以三交戰國
和約已成凱旋軍禮式又舉殊
人遠民皆贊誦之而況外臣
等生友邦之在唇齒輔車
執心不

相須ツモノアルヤ、懽忻ノ餘、請フ一言シテ
上陳シテ以テ、陛下ノ採取ヲ俟ツ焉夫
日韓両主、倭ノ東洋ニ處リ、其居ハ隣
里ノ如キ也、其人ハ猶ホ兄弟ノ如キ也、而シテ
近世白人、涎ヲ東亞ニ流シ、其勢ノ来ル
過ス可キナレ、我韓ノ弱小ヲ以テスト、難
ヒサ、時々所見テ、恐ル、ナキモノ、徒ニ
憂忌在ルヲ

MT

11238

00009

以テ、故、甲午、我、韓、相、立、偶、ル、者、貴、

玉也、甲辰、我、韓、相、立、偶、ル、者、貴、玉、

也、海、河、可、戰、日、天、下、稱、シ、我、戰、ル、也、

於、吹、克、々、再、奉、天、捷、々、旗、鼓、向、々、

常、氣、百、倍、此、金、後、々、獲、ル、所、以、ナリ、本、

年、八月、媾、和、始、外、臣、等、自、ラ、以、為、ラ、ク、戰、

勝、テ、則、々、急、リ、易、ク、切、成、ニ、則、々、驕、リ、易、シ、其、

MT

11238

00010

我韓ノ為メニ關係スル者甚大ニテ我敢テ
出祝スル能ハス故ニ海ヲ駕シテ東赴シ亦
嘗テ一書ヲ以テ備サシ政府諸人ニ陳シ
命ヲ乞フ待ツ已ニ數月矣約書ニ公表ス
所ヲ見レバ則チ其政事上軍事上
經濟上ノ寧絶ニ利益等ノ語句ハ獨
立ニ我ト身違背スル所多キニ似タリ然レ

此或敵人望新タムルノ計ニ出

テレ^レ別チ^レ自^レ解ス^レ者^レ而^レ近

日保^レ渡^レ國^レ祝^レ如^レ至^レ報^レ紙^レ騰^レ借

遂^レ我^レ邦^レ人民^レ悌^レ時^レ憤^レ懣^レ政^レ德

互^レ怨^レ思^レ翻^レ仇^レ斯^レ邪^レ外

臣等^レ獨^レ望^レ下^レ意^レ非^レス^レ何^レヤ^レ謹

テ^レ甲午^レ八月^レ一日^レ勅^レ書^レ按^レス^レ曰^レ朝鮮

MT

11238

20012

「本我」啓後シテ以テ亞路列國に伍セシメシ
所其自主ノ國タルヤ明ナリ而シテ清玉ハ属邦
ヲ以テ之ヲ視陰誘陽赫内政ニ干涉
朕明治十五年ノ條約ニ依リ兵ヲ出シ變ニ
備ヘ更ニ朝鮮ヲシテ禍乱ヲ永遠ニ免
治安ヲ將來ニ保テ以テ東洋全局ノ平和
ヲ維持セリト欲ス云々又甲辰二月十日ノ



11238

00013

勅書：曰ク帝國^{重キヲ}韓王保全ニ重ク置ク
モ一日ノ故ニ非ス韓王存込ニ實ニ帝
國ノ安危ニ係リ而シテ露王ハ盟約ニ拘
ラズ滿洲ニ占據シ之ヲ併吞セト欲ス若
シ滿洲ニシテ露王領有ニ歸セバ則チ
韓王ノ保全ハ支持スルニ由ナク極東ノ平
和亦希望スルカラス故ニ朕ハ此様ニ際シ

時局^{（愛）}之恨^ス云々蓋^シ此兩^{（一）}勅同^シク一^{（二）}我^{（三）}
帝^{（四）}之昭^{（五）}日^{（六）}星^{（七）}如^{（八）}信^{（九）}ハ金石^{（一〇）}如^{（一一）}
既^{（一二）}正^{（一三）}天下^{（一四）}百^{（一五）}目^{（一六）}信^{（一七）}布^{（一八）}モ^{（一九）}ナリ^{（二〇）}昔^{（二一）}人^{（二二）}
亦^{（二三）}謂^{（二四）}フ^{（二五）}匹^{（二六）}夫^{（二七）}從^{（二八）}者^{（二九）}言^{（三〇）}ヲ^{（三一）}食^{（三二）}マ^{（三三）}スト^{（三四）}況^{（三五）}ン^{（三六）}ヤ^{（三七）}萬^{（三八）}乘^{（三九）}
ヲ^{（四〇）}故^{（四一）}外^{（四二）}臣^{（四三）}等^{（四四）}則^{（四五）}々^{（四六）}回^{（四七）}ク^{（四八）}近^{（四九）}日^{（五〇）}ノ^{（五一）}事^{（五二）}陛下^{（五三）}
意^{（五四）}之^{（五五）}非^{（五六）}ル^{（五七）}モ^{（五八）}アル^{（五九）}ナリ^{（六〇）}古^{（六一）}今^{（六二）}ヲ^{（六三）}歴^{（六四）}觀^{（六五）}ス^{（六六）}ル^{（六七）}ニ^{（六八）}
德^{（六九）}ト^{（七〇）}カ^{（七一）}ト^{（七二）}迭^{（七三）}ニ^{（七四）}相^{（七五）}消^{（七六）}長^{（七七）}ハ^{（七八）}德^{（七九）}力^{（八〇）}ニ^{（八一）}勝^{（八二）}テ^{（八三）}ハ^{（八四）}別^{（八五）}

ナ治マリ力徳ニ勝テハ則チ乱ルハ是ニ天下
ノ常道ナリ念マニ陛下聖神文武修徳
三十有八年國ヲ富強ニ政ニ蔚然トシテ
東洋ノ覇主タルモノ豈他術アラシヤ是レ
其未タ曾テ信義ヲ天下ニ失ガルヲ以テノ故
ニ伏シテヒフ陛下必ス義徳ヲ印成ルヲ以
テ戒ル爲シ又東亞黃種ヲ以テ念ハサシヨ我

韓ノ相立ラシテ之レト鼎足ニ居ラシムハ

則ケ徒ニ我韓ノ幸ノミニ非ス亦貴王ノ幸

ナリ徒ニ貴王ノ幸ノミニ非ス亦天下ノ幸

ナリ外臣等屏營ニ任スルヲ祈懇ノ至リ謹

テ昧死以テ聞ス

光武九年十月

外臣

前主事李沂



11238

00017

外臣

前汪古羅璫允

外臣

前主事吳基鎬

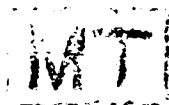
等

MTI

11233

對韓政策論

韓人崔翼幹著



11238

99919

對韓政策論

著者 韓人崔翼軫

第一章

緒言

試看今日之大勢、調理者竟是誰也、睡覺者有之、泥醉者有之、不知圖月中天之白空、剪殘燈半夜之紅、西歐列強、恩惡相忘、攜手同步、銳意勇進、東亞諸邦、昏夢相隨、自家撞着、猪頭不振、中有先覺者、零解區人之意向、不知東土之運命、長于狡猾、淺近之術、短於宏大、遠近之策、亞洲大勢、不可挽回、

嗚呼噫フ吾人不得不論自甲午以來對韓政
策之可否一次警告ス告于日本有志諸君子

第二章

甲午以來對韓方針

第一節

日清戰役

甲午之年日本之對清宣戰以扶植韓國之獨
立為第一義膺懲支那之頑憎為第二義

扶植韓國之獨立善且美矣何者若以韓
土兼并於支那則鼎足之勢未成大局之
權不均日本之被壓於支那者多矣然則
日本之扶植韓國非獨鞏固自家之國權

抑亦日本之天職歟

膺懲支那之頑愎失計之甚矣何者其所
勝敗姑捨勿論列強之輕侮支那自此日
盛時起種之困難問題支那瓜分之形隱
隱然成立開導東土滅亡之端者日本也
生招西人猜忌之機者亦日本也此非日本
之短見而何

第二節 戰後欲兼并韓國

甲午六月日軍之放肆於漢城也仍欲永久占
領因列強之對抗不得已退步其後并上齧

之駐韓國也、德、德、皇室、威、脅、政府、日、以、兼、并、
韓國、為、自、任、

噫、善、始、而、善、終、者、天、下、鮮、矣、扶、植、韓、國、扶、
義、舉、兵、何、等、美、事、非、但、我、韓、二、千、萬、同、
胞、歡、天、樂、從、抑、亦、亞、界、列、國、之、嘖、稱、美、
者、也、然、宣、言、之、墨、未、乾、殺、生、不、測、之、心、先、
欲、占、領、漢、城、此、非、以、暴、易、暴、而、何、非、但、欺、
騙、韓、清、兩、國、實、騙、過、亞、界、列、國、者、也、所、
以、失、韓、國、之、歡、心、逸、亞、界、之、同、情、公、々、然、并、
吞、韓、土、之、計、亦、遂、隱、々、然、脅、迫、微、弱、政、府、

以其上下使欲受羈於自家、坐韓人之排斥、日本之心漸大、一時政變、漢城日本之畫策、虛歸畫餅、露國之陰謀、遠占要路、此即日
本貪目前之小利、失百年之長策、釀無窮
之禍機、而何

第三節

使韓國到處開港

日本之對韓計畫、終未成立、故欲多開港、灣、樹立自家勢力、攘奪韓國商業、使韓
國永久不振、對我之陰毒、莫甚於此也、

現觀韓國壤地、褊小、物產與人迥異、商

秘昧懋遷三方又況埠頭要地并為日本
人之居留利失於內權棄於外此莫非威
脅政府賂遺奸輩而然也海關稅之收
額無多租界外之設棧滋蔓此果有益
於韓國乎

第四節

善使韓國之事犯

乙未政變以後國事犯多山命於日本日廷
極力看護至吸收韓國利益之時每利用
國事犯

韓國秉權當路者常憂捲土而重來

希寵而謀進者、動稱復離之三字、日廷以國事犯作為奇貨、因勢而寵絡相機而威脅則雖一國之重大富源、鐵道礦產漁業茶權、惟命是從、日廷頓忘明正之公理、惟行陰詎之毒術、悲夫

第三章

日露戰爭

第一節

日露戰爭之起因

露國之有志於東亞者有年矣、常欲乘機當英法聯合進攻北京時、居中調停、占西伯里黑龍江之地、固其地位、甲午之役、平先干涉

滿洲密約成立、遂其素願、北清之役、假占三省、
旅順、着其根據、支那形勢危於累卵、韓國
情形、迫於燒眉、故日本以保全支那領土、扶植
韓國獨立、為己任、舉國與師、問罪於莫強
之露國、

壯哉日本、以蕞爾小島、三案對、世界莫強之
敵、海陸連勝、黑鳩困於遼陽、孤軍圍於
旅順、東西之戰爭、從此蒿矢、黃白之優劣、
庶幾可判、謹之慎之、勿隨東亞聲名焉、

第二節

韓日議定書

所謂議定書、反於戰爭之意義、打破韓
國之獨立、還被日本之羈絆、抑日本有韓國
保護之權能、而韓國受日本之節制之義務乎、

俄國之陰謀、尚未外高顯著、而日本言稱防
禦、俄國野心、保全韓國獨立云々、然其言行
相反、戰態開端、先結如此議定書、籠絡
韓國為急先務、非但列強之不忍默視
而已、抑亦我韓同胞之排斥日本者也、

第三節

末松金子之游說與米

日露開仗之日、派送末松兼澄、金子聖太郎兩

人於歐米、說明戰爭之起因、與日本之學野心、
使不失歐米之同情矣、二子之渡西也、對人則
必稱鞏固韓國之獨立、保全支那領土而已、
我日本少學野心云々、

一言而蔽之、日本若學野心、固學派遣二子
之必要、何者、日本真以誠心誠意保全韓
清為己任、凡事必以正大為主、則雖與二子
之喋喋口舌、十日所視、是非判然矣、何憂歐
米之言論、然日本之主義、反於是、故派遣二
子、一以掩護自己主義、一以偵探列強意向、

矣。日本之有不測之心。判然起。自韓日議定書。日本政策。非賜過。普天下而何。

第四節 荒廢地問題

日本政府。依長森為名者之願。對韓廷請求。全國中。除官有民有。山林川澤。及荒廢地。所有權。

蓋嘗論之一國之中。除官有民有地。則外。要寸土矣。日本之所謂官有民有。以外。山林川澤。及荒廢地。云々者。何也。吾不知其可也。抑韓國領土以外。土地乎。若領土以外。土地。則此非對

韓請求者也。嗚呼噫。此亦日廷之詭術分
明矣。何者。想出如此曖昧問題。瞞過韓廷。
若得承認。則此論。官有民有之地。使欲強
占者也。此亦非獨瞞過韓廷。欲瞞過李界
耳目者。日本政府。真所謂掩耳偷鈴者也。

第四章

日本之罪惡

事是係守之支那。於韓國。招致貪瀝之露
國於韓國者。日本也。此非但日本之失策。實由
日本之罪惡也。欲貪不義之遼東。竟致三國
干涉。使三省之地。盡入於俄人之手者。日本也。

是亦非但日本之失策實因日本之罪惡也
大小事件激動風波者日本也幾度談判
外交失敗者亦日本也然不改前轍只守姑
息惟以韓國兼并為主義豈不可惜哉以
寵絡韓廷言之直士抗言咸脅而斥之奸
人付勢勸誘而涉之日祝韓國之滅亡時
諠半島之背恩此非日本之罪惡而何也今以
東洋大勢論之日本可謂不可有不可無者也
何者發起禍機滅亡東洋者日本也此所謂
不可有者也零解時勢策曰日本也此

所謂不可與者也。

第五章 吾人之所望於日本政府

自今以前既往勿論、從茲以往、棄其前日之主義、革其欺人之詐術、姑擯目前之小利、必取萬年之長策、萬事惟以公正為主、誠心交際、則誰不樂從、以對韓政策、最急務論之、棄其細小干涉、取其正大訓導、君子在野薦之而顯陞、小人在朝、告之而斥、是據先覺之位、忠告而善導之、以扶植獨立為己任、而無私欲、以維持平和為天職、而無貪心、則非

但我韓之心悅而樂從、拆東亞大局沛然
興起、翕然問道於日本矣、然則日本之王者
師無疑而永不失東土霸權也、豈不美哉、
豈不壯哉、此吾人之所望於日本政府者也、

然而揆此至易坦途、欲行危險捷徑、不顧自
家之實力、不思列強之注目、他人之團土、奪人
之富源、以若所為、求若所欲、此非緣木求魚而
何、嘗不憂清國之顧惜、一朝支那失勢、露國
踵至、露之凶悍、幾倍於清、而其談謀遠慮、足
可以顛覆大局、當此時也、日本之慮慮、顧何

如我故結連英國終至於炮火相對至於勝
敗終局不可預度此非吾人之所憂者然惟
所憂者在於露人之敗有誰踵至此日本之
所以設獎而城獎者也且又善於設獎而拙
於執獎今度戰爭將不知如何落着力爭者
勞而無功傍觀者安而收益言及於此能不
寒心當為諸子不取矣吁嗟諸子當此危急
存亡之秋尚不反省更待何時如若猶豫臨
無及矣

第六章

結論

防害我獨立、侵犯我主權、侮我皇室、辱我國
民者、清與露與、清自保守、露未時至、非清
非露、甚者日本、嗚呼、噫、我韓邦土富源有
限、而日本實多、與限、然則我韓生靈、棲息
於何地、營業於何處乎、與其坐視而滅亡、
寧寧抵死而固爭乎、日本之凌辱我學為輕、
侮我腐敗甚矣、然與為者政府也、腐敗者
政府也、我韓地方三千里、人口二千萬、處東亞之
咽喉、當大局之樞機、氣雖懦弱、使激之則可
用力、雖孱弱、使死之則又鬪、決非為與為腐

敗三人也。林聖敗於泚水，則兵卒不在於家，實也。普魯勝於法國，則器械不在於利鈍也。惡入於骨髓，有又爭之勢。惡感於心情，有必死之義。若其干戈相見之日，勝敗存亡不可以逆料。而此即山東洋滅黃種之一大機會也。試以近年波蘭言之，東匪一擄，日清失和，西勢東集，露占滿洲，英占威海，獨占膠洲，法窺雲南，圍匪一倡，在東動兵，竟至於日露破約，惹起東西未曾有之一大戰。如此紛紜之時，韓日又以烽火相對，則山東洋滅黃種之責，在於我韓。

乎在於日本乎請三思焉

亦必者亦洋大島

我昏及溺不思坐視

黃種之墜亡一歎矣

之於大人懷累故

能呈對韓以策編

一為弟乞

恕其狂妄而忍其

愚直焉當此其叩

所公

台安

韓國崔翼軫再拜

MT

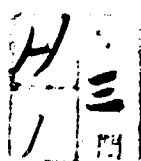
11238

00039

自明治廿八年十一月
至同年一月

日本に於て滿洲還附の代償として福建省
割讓要求風説一件

明治三十八年十一月



日本於元滿洲邊附代償
福建省割讓要求風說一付

ト
タ
タ

MT

11239

00001

本野心ヲ棄テス清國政府又其要求ヲ聽シ
トスレハ清國人民ハ見當リ次第日本人ヲ殺シ
其財産貨物ヲ燒棄シ以テ飽マテ反抗シテ
欧米諸國ヲシテ支那分割ノ口實ヲナカラシ
ムヘシ

本官ハ右檄文配布ノ禁止並ニ帝國ノ利益及臣
民ノ生命財産ニ嚴密ナル保護ヲ與ヘラレシユト
ヲ西江總督ニ要求セリ
在清公使ヘ電報濟

次官

取調

日中

桂 外務大臣
永瀧 總領事

上海發
東京著
三十八年十一月十日
后八五〇

第四二七號

岡部ヨリ左ノ通リ

十一月六日
發行
日
報
共
二
長
文

撒文ヲ配布ス其大要左ノ如シ

日本ハ奉天ヲ清國ニ還附スル代リニ福建省ノ

割讓ヲ要求スルニ付支那國民タルモノハ之ニ

反抗
セサルヘカラス
其手段
トシテ
先ツ
日本ノ

商品ヲ用ル、大阪商船ニ荷物ヲ積マス、傭

聘ノ日本人ヲ悉ク解備スヘシ
斯クシテ尚日

上
多
心
乙



11239

00003

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

三二九四 晴

上海發 三十八年十月十日 東京着

桂外務大臣 永瀧總領事

No. 第四二八號

往電第四二七號ニ関シ本官ヨリモ直ニ西江總

督ニ對シ萬一斯ル臆說暴論ニ據リ愚民煽

動セラレ清國ニ在ル我臣民ニ危害ヲ及ス如キ

コトアラハ是レ徒ラニ兩國間ノ交誼ヲ傷クルモ

ノナレハ嚴密ナル取締ヲ為シ且ツ本件主動者

ヲ逮捕處罰セラレタキ旨電報照會セリ

本電ハ右清公使ニ轉電濟



上々存心

MT

11239

00004

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

昭和九年三月
(昭九〇)

桂 外務大臣

内田 公使

北京發
本年十一月十一日午後五、五〇、
九

第三〇〇号

永瀧来電ニ因シ外務ニ對シ西江總督へ相寄、

電訓方ヲ申込タル、過日南方各地、於ケル福

建人日本ノ福建ニ因スル要求云々、付續、電

報ノ趣アリ又西江總督及上海道ヨリ請訓

ノ趣モアリタル、付日本ヨリ右様ノ請ボアリタ

ルコト全ク無之、ヨリ人心ヲ鎮ムコト、努ムベシ

ト、電訓ヲ既ニ發シ置キタリト那桐確答セリ

在上海總領事、電報セリ 上ノ
ス

五

MT

11239

00005

取締
貴国商民保護
途ヲ講
ズル
様
訓
令
置
ケ
リ
ト
在
清
国
公
使



11239

00006

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

支

No. 4946
暗91

桂外務大臣

永瀧總領事

大正十一年十月廿八日
午後六時五十分
東京

往電才四八号
電アリ

数日殊此事
南京各學校生徒等

モ集會ヲ催セシ
ナドアリシガ已ニ告示ヲ發シテ

説諭シタルヲ現在ハ群議氷釋シ平穩ニ歸セリ

尚外務部ノ電訓モアリ
ウウフウ官憲ニ命

ジ主謀者ヲ捕縛セシ
且ツ各地方官ニ嚴重ニ

上々ナリ

MT

11239

00007

日本人ノ家屋ヲ燒キ山凡テ日本人ヲ迫害スヘシ此ノ手段
ヲ採ルハ北京政府ハ無余儀日本ノ要求ヲ拒絶スヘシト云フニ
其文句ハ新思想アル者ノ起草ニ掛ルモノノ印刷物
ナリトノミトナリ其字ハ手ニ入リ次チ郵送スヘシ

計清談判ノ結果ニ時ハ多少戦地ニ遠キ長江一帶特ニ
湖北湖南人士ノ不滿ヲ買フニ立ヘノ之ニ策ニ好策
有スルモノ續出スヘキ事件ノ如キハ其端緒トモ見ルニ
在清公使スニ



11239

00008

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

No.

4950
暗201

桂外務大臣

水野領事

漢平年十月廿六日
六五〇六
二五〇六

第一六号

昨日当地に着タル確ナル日本人途中
其同ニテ

敷文ヲ見テ其大意ハ日本ガ將小村大臣ヲシテ開議シ

対清談判ニ滿州問題ト關聯シ福建ノ割讓ヲ

要求スルハ其力ナキ北京政府ハ之ヲ如何ニスル能ハル

列國之ニ倣ハ浙江江西ニ省モ亦餘波ヲ被ルベシ

今日於テ(一)日本貨物ヲ用ル(二)大阪商船會社

汽船ヲ荷物ト客ヲ積ム(三)日本人ノ解雇シ

五

MT

11239

00009

在上海永瀧總領事 桂外務大臣

其下

秘書官

第二七九号

首電第四二七號 才四二八號 實

帝玉カ福建省、割讓ヲ要求ス云々

ハ事實全然無根ナリ 帝玉、清玉

ニ對ス態度ハ長来帝玉政府カ累次

清玉政府ニ聲明ス通、其間ニ

疑ヲ容ルハキ餘カシ、據文中ニ云フ

處、如キハ荒唐無稽、妄誕ニアラサレハ

必ス帝王ニ惡意ヲ挿ル者、捏造ニ過
 キサレト論リ須サレ付、考査ニ總督及
 道台ニ對シ必要ノ交渉シ遂ケ之ル
 外ニ左ノ旨ヲ以テ新聞紙ヲ利用シ此
 類ノ風説ヲ隨時取消ス様取計
 心可也電報ニ本大臣訓令トシテ南京
 岡部中補、轉電セラル尚内田公使
 王心得ト轉電セラル

№.三三八

二十八年丁卯十二月廿二日

桂 大 出

立 公 海

永 港 總 領 事

貴 署 以 四 二 七 号 四 二 八 号 准 電 公 三 七 九
号 立 港 日 領 事 一 轉 電 七 号

MT

11232

33012

蕪湖地方不邦人排斥運動ニ関スル報告件

蕪湖地方ニ於テ我國ハ滿洲還付代償トシテ福建ノ分
割ヲ要求シタリ云云謠言ヲ放テ邦人ハ排斥危害。
加ントシタル檄文ヲ配付シタルモ、依テ直ニ右鎮壓
處介方ハ兩江總督ニ宛テ請求シ同總督ヨリ當
方ノ請求通り取計ニ置キ、省ノ回電ヲ付タル事實
ハ大要ハ已ニ拙電第四^{二七}号^{三〇}コ以テ及報告置候通
リニ有之入岡部南京分館主任ヨリ兩江總督ニ對
スル請求ニ就キニ當方未電同様 回答ヲナシタル由
ニ有之候、又本件ニ関シ大改商船會社支店ヨリ
同知スル所ニヨリ、同地ニ於ケル同社代理店ハ事情

近頃他人以之二代ルヨリ前代理店主ハ之ヲ恨
ミ其復讐言の手段トシ今回福建分割云云風説
ヲ利用シテ邦人排斥ノ手段ニ出タルモノナル由ニ有之候
而シテ本件ハ两江總督来電ニ云ル如ク福建分割
云云風説無根ニ属スルコト既ニ明白トナリタルヲ以テ同地
方ノ人心モ平穩ニ歸シ目下所再花ノ虞有之間
敷様被存候茲ニ右檄文全文ヲ及两江總督
ト間ニ往復シタル電文ヲ等為御参考差達候
條御査閲有之度此段申及報告候敬具
明治三十八年十一月十五日

在上海

總領事 永瀧久土



MT

11239

00014

臨時外務大臣伯爵桂太郎殿

送テ本件 如土過般當地露國機關新聞
Shima Gazette 其他露國則 各 種云
ニ播ラセハ 謠言 廿々王間接ニ之ニ 擬成セハ
形迹有之候 志々之申 添候

MT

11239

00015

現在有一樁很要緊的事情不得不告訴大家聽、這一件是甚麼事就是福建省割與日本的事情了福建省因何割與日本就是因為日本同俄國在奉天打仗是、的打了二年都是日本得勝現在已經議和、日本既然把奉天取了去那呢又肯歸還中國但中國政府是不肯失去奉天省的又歐美各國也是想把奉天一省開做通商碼頭的中國政府不得已所以把福建同日本換奉天列位同胞莫要把這件事情當做福建人的事福建的一省北邊是浙江西南是廣東西北就是江西如若日本得了福建以北邊去就可以侵入浙江、以西南去就可以侵入廣東、以西北去就可以侵入江西、試看日本近幾年以來在浙江省地方想築鐵路在廣東省地方派本

國的和尚傳佛教又出資本築潮汕鎮路浙江鎮路
并不僅想佔浙江还想由浙江通江西更由江西通湖南
所以現近幾個月日本人到湖南游歷的一天多一天可知
可知日本人志向很大是想把東南幾省一同歸入已
國的但他從前沒有根據的地方所以不行實行佔領現
在得了福建他在中國就有根據的地方了日本在中國
國既然有了根據的地方你想中國東南的幾省可危
不可危當乙未年的時候中國把臺灣割讓日本台灣
去福建很近這時有識見的人也就曉得日本想取福
建果然六七年中間日本在福建的勢力一天大一天現
在又將福建割去了如若福建再被日本人割去由福
建到浙江廣東江西由台灣到福建還要近得多從
前日本人得台灣現在就可取福建現在既然取福建

日後就可取浙江廣東江西可不是現在頂要緊的事
情呢況且現在的各國都是想瓜分中國的如若福建歸
了日本各國的人恐怕日本在中國的勢力一天大一天也就
欲出來爭地方了德人要取山東河南英人要取揚子江
附近法人要取廣西雲南俄人要取新疆蒙古如若中
國不答應他就要援日本得福建倒向中國力爭中國
政府素來是怕外國人的如若果然答應他可不是中國
的地方都歸外國中國的百姓個個是外國的順民列位
同胞你們都是中國人祖宗的墳墓也是在中國如若
一旦歸了外人何以對得起自己又何以對得起自己的祖
宗況且外國取了中國的地方是種種的殘虐百姓我們中
國的西南有個印度國被英國人取了去這地方的百姓
就苦的了不得大約天下最苦的事情沒有較亡國再苦

的外人得了中國地方租稅是格外的加重刑罰是格外的加酷一切百姓的財產要奪就奪一點兒不能自主真是苦不盡言呢況且各國佔了中國的地方勢力必不能平均就如日本想要浙江英國法國也想浙江英國要揚子江流域德國的人也要長江一帶的地方勢必兩國互相打仗他們打仗的地方是在中國境內的打仗的兵也是招募中國人的你想中國人到了這一天失身命的也不曉得多少失財產的更不曉得多少這次俄日在東三省開仗這地百姓吃的苦就是現在各省前車之鑑了暖天下的那一個不貪生怕死為何不想一個可以免死的法子甚麼叫做免死的法子就是抵抗外國人瓜分要抵抗外國人瓜分先要抵抗日本割福建但同日本人抵抗不是用空話的都大家同心合力第一不用日本貨不搭大坂船

第二凡工廠學堂所用的日本人一概辭退日本的人看見
中國民氣很強恐怕大與他不利就不敢再要福建了就
是中國政府也怕百姓鬧出大事來也不敢再把福建
送日本了如若這樣辦法再爭不來則是日本居心真欲
滅我國殺盡我百姓我國政府真欲將百姓的性命財產
作禮物以買自己一日之安樂以後我們百姓止有死裏求
生之一法看見日本人便殺看見日本產業便燒一日打起
仗來全國一心一拼命但使福建不歸日本這歐美各
國也無從藉口所以中國的存亡都在此舉列位同
胞快點兒出來想法了罷

致兩江總督周電 十一月十日午後五時半發

兩江總督周玉帥鑒據南京國部申報有人於蕪湖並商務日報同於十一月六日刊發檄文以東三省戰後事宜縱逞臆說煽動民心有欲加危害敝國民人者本總領事深恐愚民無知被其煽惑轉破壞中日兩國交誼甚屬可慮即請貴大臣電飭蕪湖官憲嚴辦一切並將該案主謀立即緝捕從嚴懲治不勝感盼之至永瀧

兩江總督周復永瀧總領事電 十一月十一日午後五時接

日本總領事永瀧大人寒電悉昨岡部未園與今電同
此事前數日謠傳甚盛南京學生紛、聚議經剴切
開導並電達外務部旋奉到復電割函換達並無此
說當即傳布曉諭並刊發官報羣疑盡釋日來安
靖如常現准來電當轉飭蕪湖嚴禁並查拿造謠
生事之人照例懲辦並通飭各地方官一律查禁妥為保
護南洋周冊

機密信第二一號

長沙近情報告

約由國府公山官以格衛ハに格ヲ訪問致知際按察
使代理張鶴齡ミ談ニ授ル、上海在住、福建學生林某元
者長沙學生、電報リ發シ日本政府ハ今回東三省ト福建
省トリ交換セント欲ス、意向ハ以際抵制策リ講ズキ
中米々由テ學生百一兩點トシテ講義中ト事々有
之矣、山官元某ハ露戰争リ開帳スル際日本ガ聲明
シテ、司開戰、清主權、保全ヲ主眼トシ、今回ハ
終ルニ日英同盟、如キニホク之ニ目的トスル、明カニテ日本政府
方針、開戰當時より今日に至ルテは、少クも変更アリ見多
分、福建ハ林某ガ在、交換リ欲ルハ故、如斯ク強言リ
語ケルニ非ヤト云、話致四重キヲ知、其後張鶴齡並ニ其

MTI

11239

00023

他方而就其利如多然也當時高學堂山室學生多
初立時德學堂學生多學名乃為集會乃准大演
況今其利也湖南大學堂學生一就上日本教習
教習學名ト議決ヲ為サト大運動ヲ試シ其
海邊學生張鶴齡電報乃湖南二程日本政
府也其三省福建ト交換ト多意思アリト
其由也乃交換ト題ハ事案ナトト因セ来リ多
鶴齡右電報上海より来リ乃ト返電ト云ト曰
電報乃若學堂之煙隱見セムトト為學生
ヲ振テ消滅スルト漢語多也今日知右語言
前ニ云ハるハ信用ト云ハる者、好ク有之者
其或備學堂總辦兼兵備處總辦也
湖南學生百事令、氣風ナ有ル者、
湖次大郎

一 學生會、浸染するところ、種々命令明瞭、決て、湖
 南革命派、滋養生、世洋、一、上海、革命派、ト、氣
 脈、通じ、た、由、一、何、中、か、事、ヲ、掌、手、ケ、ト、ス、氏、若、ク、有、事、ハ、
 為、メ、武、備、學、堂、ニ、在、リ、備、新、軍、連、絡、セ、ト、強、シ、運
 動、ス、高、人、其、間、ヲ、巨、剛、ニ、置、ク、以、テ、強、シ、革、命、派、嫉、視、
 シ、受、タ、稱、シ、在、ル、目、下、孫、逸、仙、派、革、命、派、之、屋、ヲ、
 主、導、者、ト、信、置、ク、之、ハ、官、立、高、等、學、堂、及、チ、私、立、一、
 德、學、堂、ニ、在、リ、有、ト、認、ル、右、氣、派、運、ニ、端、方、着、任、後、學
 生、ハ、優、遇、ス、遠、キ、為、メ、學、生、臨、校、臨、ニ、至、リ、其、
 氣、派、運、ヲ、浸、染、セ、シ、近、キ、ハ、地、郷、伴、ハ、頑、固、派、之、
 一、連、中、ハ、大、ニ、學、生、ヲ、嫌、忌、ス、至、リ、其、派、併、ニ、學、生、百、
 革命、黨、思、ハ、シ、漫、延、シ、タ、ル、ハ、未、ダ、知、ラ、カ、者、ノ、如、ク、有、之、
 差、シ、知、伴、一、等、ニ、シ、テ、尤、分、知、悉、ス、ル、ニ、至、ス、大、事、件、發、生

なるに難計なり現今、模範の革命黨多、破裂する
 多し、然るに有之は、何等の以て実を執る大動乱
 為起さるる危険あり、當地学生も、廣く伏在する者
 、如く外、見上る革命黨、尚、當地の官に、目下、敢て
 憂慮する者、僅、東省、連、少、之、發生する、官、教師、教養
 事件、之、四、地、が、湖南省、永、少、府、管、轄、地、に、接、壤、
 地、を、以、て、其、余、波、に、湖南省、及、之、に、其、防、備、に、與、
 し、永、少、の、軍、隊、に、派、遣、し、請、求、する、由、を、省、に、出、
 方、及、郵、告、を、具、

在長沙

副領事井原真澄



明治三十四年十月十八日

臨時、要、任、外、務、省、長、官、伯、爵、桂、太、郎、殿

大正十一年十一月二十一日

大正十一年十一月二十一日

日本が滿州附ト同時ニ福建省割譲ヲ要求スベシトノ凡説ニ関スル件

先般來当地方ニ於テ日本が滿州ヲ附スルト同時ニ福建省割譲ヲ要求スベシトノ凡説盛ニ流布セシレ当地紳士及學生等ハ大集合シテ抗議スル等民心動搖形勢ヲ呈シ居リシガハ官ニ於テ早急公然打消シ等ノ手段ヲ執ルニ於テ却テ邪推深キ支那人ヲシテ餘計ナル疑念ヲ増長セシムル掛念有之矣付暫ク形勢ヲ傍觀スルト同時ニ右凡説ハ出所ニ付探査シ遂ゲタルニ山東武備學堂學生ヨリ当地武備學堂學生ハ右凡説ヲ事實ナシト電報シ來

リ連カニ豫防の手段ヲ講スルヲ勧告シ来リタルモノ
ナルコトヲ後見致ス而シテ当地武備學堂學生ハ
右ノ電報ヲ輕信シテ地方紳士間ニ奔走シ盛ニ運
動スル所アリ遂ニ紳士學生、大集合シ催スニ至
リタル趣ニ有之矣又陳宝琛ハ斯ル流説ノ爲メ民心
動乱ノ漫延スルヲ深ク憂ヘトシ厦門、出張前外
務部ニテ電シテ事實、真相ヲ確メタルニ同部ヨリハ
決シテ斯ル事ナシトノ簡明ナル返電ニ接シ又返電
ヲ他ノ紳士學生等ニ宛テシタル結果昨今ハ漸
ク人氣平靜ニ傾キツアル模様、有之矣
右所奏々々マデ及報告ヲ致具

明治三十八年十一月七日

在福州

領事 中村

魏

臨時外務大臣伯爵桂太郎殿

追テ本信写一通在清公使（毛慶長）致置
美奈為念申添弄也



11239

00029

激るモノモナク人心に甚多平
静を要す。各官負命
令に探査如斯言に救
立に筆辨る苦才安に如
此輩に及んぬ。党、停り人心中煽惑
天下和平、命を攪乱せしむる実
に痛恨を存し、清国佳士良
民に謹しむ。女中、而して識者、
笑ふ多し。たふ
に即ち復習此淫俗に對て、秋実
田、ハ是レ今々使う、清国政府、極政
反對、静平、大命を煽動し、其間
、種々、陰謀を企謀し、成せしむる

僅得下口一事概由彼之與海、
 喚起之、亦少之趣、有之、轉之、不
 取敢在長沙、井、卒、別領事、之、委、按、
 其注意、之、使、之、置、之、要、之、書、信、
 以、之、詳、細、之、忘、之、年、之、以、官、之、於、之、必
 然、之、要、之、措、生、之、系、之、た、了、ト、存、其
 在、及、其、報、之、其、
 明治三十八年十月十号

在、
 領事 水野幸吉

外務大臣の書掛本郎成

MT

11232 30034

進三本信ノ趣、由田中氏及
氏、檢領事ノ報告被置付
取



11233

00035

明治三十九年一月六日

公信第394號

蕪湖商務日報ニ關スル件

本件ニ關シ別紙通り岡部南京分館主任ヨリ
報告有之候ニ就テ御參考供貴覽候敬
具

明治三十八年十二月二十七日

在上海

總領事 永瀧久吉



外務大臣伯爵桂太郎殿

公信第四九号

蕪湖商務日報ニ関スル件

客月六日蕪湖商務日報ニ添付シタル櫟文ノ件ニ就テ
曩キニ公信第四三、四四兩号並ニ電報ヲ以テ御報告
致置候處、今月十二日貴官ヨリ御轉電相成候外、務
大臣ノ訓令ニ基キ小官ヨリハ別紙寫第一号漢文信
ノ如ク、蕪湖道台臺ニ向テ割閣換廬ノ事實全ク
無根タルトシ、說ニ尚ホ日露戦争日英同盟等其大
主眼ハ清國獨立ノ扶翼ニ外ナラシム布行シテ速クニ
該報主筆ニ命ジテ其訛傳タルハ聲明シテ人心疑
惑ニ釋カシメ、請求致候處、全道台臺ヨリハ寫第一
二号ノ如ク該道ハ斯ル訛傳ニハ訪知シタルト同時ニ

縣局等ニ督飭シ嗣テ南洋大臣、電諭ニ接シテ更ニ
出示曉諭シテ謠言傳播ヲ禁止シタルコト並ニ日清兩
國邦交、睦誼ハ斯ル匪徒、鼓惑ニ任ス可キニアラス
南洋大臣電諭ヲ奉シテ辦理スル、同時ニ商務日報
ニ更正ヲ命シ衆疑ヲ解リ可キ旨並ニ右更正、同報
相添回答致来、候ニ付テ右鎮未及御報否候
敬具

明治三十八年十二月二十日

在南京分館主任領事官補岡部三郎

在上海

總領事永瀧久左殿



11239

00038

致蕪湖閩道童

敬啓者十月初十号蕪湖商務日報附單云割閩
換奉一節全屬荒誕無稽毫無影響足以搖惑
人心已蒙西江總督周轉飭嚴禁并訪知造謠
之人究辦業經貴道電復給閱立案敕國政府
誼篤邦交頗尊重貴國威權獨立未嘗稍予侵
欺之見前者日俄戰爭近日英同盟皆足徵保全
貴國三宗旨幸邀貴道明察即祈速飭蕪湖商
務局責令該局主筆趕緊將誤刊報單撤銷
聲明更正俾釋衆疑并希將改正報單分寄各
贈局荷專泐祇頌勤安

第廿号

蕪湖關道童來函

敬復者昨准函開割閩換奉一節全屬荒誕無稽
毫無影響等因查此案前經本監督訪有相
傳訛言即經督飭縣局查禁嗣奉南洋商督
憲電諭亦即電復出示曉諭在案貴國與敝國
睦誼克敦義聲^昭著凡屬敝國官民無不同深
景仰豈^稍任匪徒鼓惑仇視除遵商督憲
電諭辦理外茲檢報館登載聲明更正俾釋
衆疑日報一紙送呈即祈貴領事察閱可也泐復
祇頌升安

十月二十六日

蕪湖報館緊要廣告

按九月十六日福建日報登有福建割換東三省之風說下註「錄香港中國日報」本館於十月初一日接閱福建報即料此事必係謠傳故未宣布嗣聞初三日湖南來電亦有割閩換遼之謠本館深恐內地人民誤信無稽之語致碍邦交當即函致上海湖南詢問謠傳起於何處初四日接到滬信知福建已得京電此事毫無影響遂於初五日本報緊要新聞內誌有以訛傳訛一則十一日本埠訪事報事稱昨日下午尚有湖南人散布割閩換遼之傳單已於今晨乘輪赴滬誠恐愚民誤信致啓交涉之端故本報復於十二日本埠新聞之首登載事屬謠傳一則次日蕪湖縣訪聞其事立即出示禁止佈散

謠言十四日本館又將縣示照登此固閱報諸君所
共見今因日本領事函開本報於十月初十日（即西
十月六號）登有割閩換遼檄文囑即更正查本報
不特并未登有此項檄文且三次聲明謠傳失實
以靖民心況上海同文滬報南方中外新聞各報
館及江甯南洋官報南洋日日報館均有本館
交換之報日本駐滬總領事駐甯領事不妨就
近調查今因沈邑尊諭查詢故特登報布告

自明治三十九年二月
至同四十年八月

韓國皇族義和宮及同國人李埈鎔並に
亡命者歸國一件

義和堂李坡鎔并韓國亡命者
歸國之問し統監府に提出

10/10

MT

11241 00001

夫人



拂拭新秋鏡

機要室 了 / 歸

2

何

宣統三年二月十六日接

別紙

卷之六

送

10

ふく

我知在事懷德無斜
五之命者伊子、實足件

MT

11241

00002

19

MT

11241

日耕物白：作^己武^己帝^己王^己，保^己障^己

ス、名トナリ、帝女、実カ亦優、太

保良ノ
張ノ
夫ナリシメ
心
今日ノ
秋

高僧金華寺李俊銘

玉也ノ以共斜廷
 々々々々々々々々々々
 々々々々々々々々々々

其他種之、以度、甚、如、卯
へ、今、中、種、人、如、此、通、下、伯
三十名有之、其多、ハ、帝、也、故、存、
扶助、下、種、其、元、等、依、多、種、口、
清、牛、居、以、交、結、等、之、日、種、而、上、

MT

11241 00006

美保院に今日、夕暮に就き
け上永々 帝女内々川△

MT

11241 00007

其江口今中於

卷之四

留ヲ至リ、又安、者、及失、既、王

如
多
板
案
子
件
連
累
者
中
其
罪

杖前主筆中元一人トシテ認メテシテ

ル推来録並、先年、名考諸

陰謀一件、其休シテ古々中セハ其世

男、乃チ、過被相被ハ功不シ公

代京地、其任政所被ハ功不シ公

言、紳廷、其之能也之有者、

鼎科ヲ新進スハ中、名儒トモ其見

○金九植並、命考諸事件、其係シテ在獄中ナリシ陸軍將校數名モ其ノ特赦セラルル物有
其ノ中、其ノ一、乃チ、王妃殺害事件、其係シテ朝鮮南陽府金九植並、命考諸事件、其係シテ在獄中ナリシ陸軍將校數名モ其ノ特赦セラルル物有
其ノ中、其ノ一、乃チ、王妃殺害事件、其係シテ朝鮮南陽府金九植並、命考諸事件、其係シテ在獄中ナリシ陸軍將校數名モ其ノ特赦セラルル物有

抄

ノ下ニ付、書進、撰録、於テ御

本宮ニ奉進、以テ付ト。帝ヲ奉リ上

ニ進、其本宮事、御ニ奉付、撰

録、御ニ奉進、以テ付ト。帝ヲ奉リ上

ニ進、其本宮事、御ニ奉付、撰

録、御ニ奉進、以テ付ト。帝ヲ奉リ上

MT

11241 00010

いふに
時を待て

将又訪渭を中へ何事果

然ナキ事、テハ事ニ此ナリ也、又ハ主候事ナ

其係り之方者、川ニかりて

ノモあり、若シ一時ニ全部切られん

コトハ、（おまじやうさん治カ）不備者ナリ、（モカ）ハ、（モカ）

數回、今夕防子と云ふこと可我七
年、東國鼎峙、暫主号々者
方、其存否未だ下詳也
一、其存否未だ下詳也
一、其存否未だ下詳也
一、其存否未だ下詳也

在官當時，官職（頁分）

內務大臣

軍部大臣

內務大臣

法部大臣

參領 昂少佐大隊長

左 上

右 上

氏 名

朴 泳 孝

趙 義 淵

俞 吉 濬

張 傳

李 斗 璜

李 範 來

李 軫 鎬

MT

11241

00013

趙義剛 隊長

農商工部主事

故學使權承鎮弟

警務官 警視

隊長

軍部秘書官

地方官

趙義聞

具然壽

權東鎮

李生完

鄭蘭教

申應熙

李涼遠

MT

11241

00014

內部恆弁

不明

外部主事

軍部局長

大隈君家人

隊長

三

劉世南

尹致旼

陸鍾元

柳赫魯

黃鐵

韓錫琮

崔敬鵬

MT

11241 00015

外部外交局長、法部刑事局長

隊長

書生

高永根、幕下

警務官、可警視

前吉瀨事件、亡命者

生上

趙重應

鄭鎮弘

李弘林

金俊龍

李承九

吳世昌

千章郁

MT

11241

00016

五松山記

新國之命

韓國亡命者吳昌

權東鎮同于

10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532

[illegible]

其後

新報

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

施政雜誌

[illegible]

府ヲ設立スル。至リタルヲ以テ韓國民トシテ一日モ有過
スル場合ニアラストシ李祥憲ト協議ノ結果遂ニ歸國
ス。至リ而シテ權秉鎮ハ亡兄權榮鎮ガ先ニ歸國
シタル際當時警務使タリシ李根澤ノ爲メ安駟
壽等ト共ニ捕縛サレ死刑ニ処セラレタガ爲メ李ヲ免
ムコト殊ニ甚シク時機ヲ得テ李ニ報スル処アラントハ同人
ガ常ニ知令對シ口外ニツ、アリシ処ナリ。故ニ過日李ノ
邸宅ニ乱入シ同人ヲ負傷セシメタルハ前記二名ノ爲
爲。アラザルナキ乎云々ト

右聞込ノ供考ニ供ス

甲秘第三三號

韓國人歸國ノ件

韓國人朴魯銳ハ歸國ス一シトテ去ル二十五日午後
六時新橋發濠車ニ出發シタリ（山口縣電報局）
右及申報供也

明治三十九年二月二十八日

敬告視聽安樂兼道

加藤外務大臣 殿

通報先（内相外相）
（警保局長）

機密 第四八二號

MT

11241 00019

490

乙卯第一八號

韓國亡命者吳世昌

韓國亡命者吳世昌，自位更不，韓亡，

流如，今，乃，難，事，二，月，下，日，

瑞，詩，在，註，述，又，知，南，日，

書，

又，廣，之，無，一，德，善，之，時，

之，遊，國，然，之，事，之，時，

之，要，然，之，事，之，時，

結果，外，之，事，之，時，

主權者、徳國ノ振興ニ基因セリトナシ此際此國
ノ亡滅ヲ救フ途ニ新智識アル英材ヲ擧ケテ國政
ノ樞機ニ任シ進ニテ刷新ヲ行フ外ナシト謀議シ
之レガ參謀トシテ李祥憲具衝、諒リ内外相呼
應シテ活動スル計畫ナリト云フ
右聞込ノ從御參考、供ス

權東鎮ノ手簡寫

採啓寒冷ノ節尊ニ保重仰切弟今般努々理
裝歸國未克奉別而登程惟云目下持身於



11241 00021

表勸記旭惠諒若何時安不備禮敬具

二月一日

韓國京城南署草洞

二九終戶權宿武方

安東武夫

(表名ナリ)

MT

11241

00022

秘

明治二十二年八月

三

秘送第一

義和宮外之命者歸國と云ふ件

去月廿六日附機密第三十一號より

振ノ次第モ有之本官亦月九日

見ノ機密と云ふ先リ義和宮歸國ノ事

義和宮と云ふ事新許リ得嗣ノ事

之命者ノ赦免歸國ノ事

之命者ノ赦免歸國ノ事

便ニ交渉ナル所アリタルニ付

若シテ措置改良ノ様トナシ

タルヲ以テ甚多ナル文書ニ

果則甲號ノ事ノ可、宮内大臣

内務省

次

人

了

機密 受第668

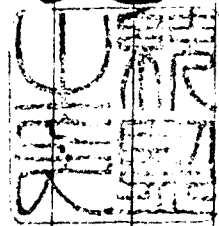
MT

11241 00023

美外學之山間也即舍在東度此為所
本添甲冬中進修教員

明治三十九年二月廿八

鏡監侯爵伊波博文



外務大臣侯爵西園寺公望 叙

寫

密照者日韓兩國國際上掃除障
碍敦睦親誼相互間交涉妥決故
在逃亡命者處罰案件左用仰佈
照亮辦理是祈煩頌
台祉

肉丙爽頓

四月十五日

再

首犯重律

李峻銘

朴泳孝

俞吉清

張傳

趙義淵

李斗璜

李幹鎬

李範來

趙義南

光 在 年

MT

1124100026

權東鎮

具然壽

鄭蘭教

李圭完

申應熙

右十四名罪犯因赦斷不考貸以分
滯留者任他自由行勒許令還國
安業為可



敬復者本月十七日

俯函奉悉一是該函錄乙

覽 奏明矣依聞大臣等函十四名外使

之自由安業甚為妥善事

肅分故茲庸佈覆以此

照亮為荷煩頌

香社

李載堯頌

三月二十日



丙

放釋

典

與

九儿八子毛

在官當時官職

地方官

內部協辦

尹致昊，弟

外部主事

軍部局長

大院君家人

隊長

同

外部交局長法部刑事局長

隊長

書生

氏

名

李

淙

遠

劉

世

榮

尹

致

昨

陸

鐘

元

柳

赫

魯

黃

錫

鐵

韓

敬

珞

崔

散

鵬

趙

重

應

鄭

鎮

弘

李

弘

林

MT

11241

00029

高永根 / 幕下

警務官 即 警視

俞吉瀆事件 / 亡命者

同上

金俊龍

李義九

吳世昌

千章郁

丁

敬免、得ザルモノ

在官當時、官職

内 部 大 臣

軍 部 大 臣

内 部 大 臣

法 部 大 臣

恭 領 即少佐 大隊長

全

全

趙 義 淵、弟 隊長

農 商 工 部 主 事

故 警 務 使 權 深 鎮、弟

警 務 官 即 警 視

氏

朴 泳 孝 名

趙 義 淵

俞 吉 渚

張 博

李 斗 璜

李 乾 來

李 軫 鎬

趙 義 淵

具 然 壽

權 東 鎮

李 圭 定

隊長

軍部秘書官

鄭蘭教

申應熙

李峻銘

MT

11241 00032

參考書



11241 00033

家引
從天
先出
活神開事局
先出
先出
先出
先出
先出
先出

李際遠

當歸

劉世南

已歸不在

尹致時

當歸

柳赫魯

當歸

趙重應

當歸不

鄭鎮弘

在外未及決不

蓋當歸

陸鍾允

不歸

韓錫珪

當歸不

李承九

在外未及決不

蓋當歸

黃錢

已歸不在

崔敬賜

已歸不在

金俊龍

當歸

李弘林

不歸

留學

帛李承九之子也

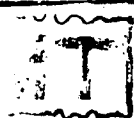
李章郁

當歸

以上十四人

崔廷德

金俊龍同闕系者



御參考件
個人事情

劉世南

黃鐵

崔敬鵬

以上三人已歸國不在

李深遠

柳赫魯

以上二人方在三療二病中待病快食歸

陸鍾允

以上一人待本國政府特赦公報發表

外務部海局
長

後可歸云

李承九 鄭鎮弘

以上二人方在遠處地方 待其通後可決

李弘林

以上一人原系李承九之子一時避

危渡來常在留學之中故待其畢業

歸云

趙重應

官立

以上一人方在東京外國語學校教

師之任韓語科故 不可不暫待他

神田
三河所
不目五
先開食

適當之代任者後可得歸國解任蓋遲不過
一箇月以上也

鄭鎮弘

以上一人亦方在於山口縣高等商業
學校教師之位官立韓語科不可不待他
適當之代任者後可得解任歸國也

文書

九

第九百廿九號

三三

一九四九年九月九日

主任

王

王

古賀

古賀整警保局長

古賀整警保局長

機密

15

韓國之市名劉世南黃鐵所

歸國方

MT

11241

00039

暴取端方 貴省 及以昭會主

韓國之帝若 内 申劉世南及黃鉄

・今因義和堂ノ帰國・陳・因國

政府ノ承諾ヲ得 **黒** 劉世南・

四月一日全殿下ニ同行 **黒** 東条ヲ

黄鉄・大坂ヨリ一行ニ加ハリ

左三日馬関ニ到着シ今地ニ



梨

機密 受第690 師

10

MT

11241 00042

明治

年

月

日
起算
日發遣

部

主任



105

純正

大臣

内閣

第三
陸軍

廿二日
統制
一
閣

西
部
征
伐
、
十
四
日
、
討
、
帰
國
、

MT

11241

00044

能ハク田井
又迄カニ太リ少
心探ルリ
能ハク田井
又迄カニ太リ少
心探ルリ



文書課長

明治三十九年三月廿六日
同 四月十六日
日發遣

政務局長

主任

明治三十九年四月十六日達齊

別紙

急電

内務大臣宛

西園寺大臣

機密

機密送第 6 號

韓國亡命者ニ関スル件

可リナシ、却テ内リ呼ム
ニテ、其ノハ

曩に為者、取錦方當者、及所
照会主、韓國之名者、内劉世南

及黃鉄、兩人帰國、倣く就く、本日

其の附城家、一五 ~~不~~ 平、う 次

山彦政務局長より古賀警保局

長、申進、次第有之、示 今

圓本兩人外、左國之名者、倣く

其に別代、直在、神河、藤原

此より申越、有、平、同、委、細

右、テ、以、承、古、料、在、主、書

事、指、下、古、料、在、主、書

其、在、主、書、地、官、中、對、し

夫、以、必、要、割、金、う、甚、な、う、し、按、書

其、来、り、取、計、在、主、書、此、如

申書也

別錄中卷古六八等
寫附
房書部全
部寫
攝付
上

MT

11241 00050

大臣 一二〇

次官

政務

於 野田 敬 謹 上

鶴 原

京 城 廣 義 九 年 十 月 十 七 日 后 共 二 三 〇

通商

第 二 十 号

人事

貴 電 第 三 十 号 之 関 之 懲 戒 免 官 處 分

會計

任 官 資 格 等 之 関 係 外 帰 國 之 妨 ナ シ 既

取調

數 年 リ 経 且 又 時 勢 大 変 化 シ タ ル 今 日 殊

更 之 右 手 處 分 免 除 ヲ 請 求 セ ン ハ 却 テ 本 人 等

為 ノ 不 利 ナ ル 故 之 右 之 趣 彼 等 之 請 示 ア リ

タ シ



MT

11241 00051

同 明
治

年

Figure 1

發 題
續

主任

10

京城

鵠

泉吉

珍友

第三平

信史記

貴電二一號收

部

道人
 永
 禱
 之
 知
 位
 考
 五
 人
 一
 得
 上

電送第九三號

古時

電送時
時
明
日

11241 00052

識、新、語、新、り、右、過、電、
11241 00054

MT

11241

00054

小、家、自

上京スル國か書記官ヨリ直接本人共へ
諭示セシムヘシ



11241 00055

萬事皆成

政務 通商 人事 會計 取調

大臣 次官

No. 一七九七 暗

京城發 元年四月二十日 四三〇

珍田外務次官

鶴原

第三三號

貴電第三八號 閣下

亡命者、帰國ヲ許サレタルハ即ケ罪人ナシ
コトヲ免サレ韓國邦土ニ安全ニ生活シ得
ル意味ニテ今日帰國スルトモ更ニ捕縛等
ノ危険アルコトナシ委細ハ統監ニ隨行シテ

均

光田

食

市印

神田
克田
田方

使便

趙重德

外務省
官廳
長

機密

之件

MT

11241

00057

MT 11241 00058

發行所

00059

100 100
100 100

14 15

發售



主任

電送第九七四號

明正二年四月二日
午五時三十分發

以

安城

德人魚書

吟友

第四卷

爆烈事件、関係者

初知甘肅
唐元山佳
廷德

OM

1
2
3
4
5

好運來 1999 年 10 月 1 日

MT

11241

00060

ハ後叙^ニ一^ノ所^ニ於^テ信^ニ付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ
ノ^ハ印^ニシ^テモ^ハ此^ノナ^リシ^テ信^ニ付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ
今^ハ名^ニ付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ
付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ
明^ニ付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ
タリ^ハ印^ニシ^テモ^ハ此^ノナ^リシ^テ信^ニ付^ル所^ニ而^モ其^ノ下^ニ等^ニ

No.

二〇
二一
二二
二三
二四
二五

二〇
二一
二二
二三
二四
二五

京城
本府
世
廿
五
月
廿
五
日
三
四
〇

珍田次官

鶴原

第二六號

貴電第四五號
山佳廷德件
統監

ト即協議シ乞フ



MT

11241 00062

10

MT

11241 00063

明治

苑

心

月

廿七

日

軍信

信

主任

國分統監秘書官

倉知方官

韓國奉天崔進德歸西國府

國不無事及目下上車中付々命事所必不
印送附印注意事等乃念申添以

文章等件

取

明治九年四月十七日

梓府除を爆裂障事件、

関係者ニテ

本邦ニ逃レ来リ居ルニ在テ

徳リ統秘一

鶴原忠雄君ニ来信附属内下両号ノ向レモ

託入セウシ居ル者ニ有テ居テ請ヒヨリハ是

止他、亡命者同様ニ取柄ニ来レモノニ付キ別ニ何

等、手續ナキ要セバシテ直ニ帰ルハ取ルヘモ差支ナキ

ヤリテモハズ

都立大学

鶴原長官(電報ヲ以テ及ビ)

會處交右、需地
 電有之在間、統監
 此處及果金多也
 沖田平太族也

受第 915

王少田外務次官

甲秘第 九 六 号

部 人 自 由

面

日本外務省

東京

印

東京

MT

11241 00066

974

外務次官 珍田 檢

中 第一三號
二 命 韓人 鄭 氏
昨 子 氏 時 氏 氏
右 通 教 氏

管 政 務 司

1

MT

11241 00067

西曆一千九百零九年五月二十二日

警務部

甲秘第一。六號

亡命韓人歸國 件

歸國許可。係以韓國亡命者千章
郁二昨廿日午後六時半新橋發歸
韓途。就テリ

右及申報候也

明治三十九年五月二十二日

警視總監 安樂兼道

林外務大臣

殿

通報先
（内閣外務省）
大正九年五月二十二日

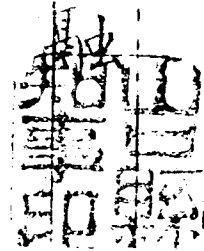
MT

11241 00068

保秘第二〇六九号

明治三十九年五月二十六日

山口縣知事 渡邊



外務大臣子爵林 董殿

亡命韓國人ニ関スル件

敬告視廳通知：依ル亡命韓國人千章郎ハ

本月二十三日午前十一時三十九分着列車ニテ来

関同市西細江町川井旅館ニ少憩後ニ午後

三時五十五分分連路船ニ搭シ渡門ニ夫ヨリ

大分縣中津ニ至リ二十四日再ヒ来関川即旅

館ニ止宿二十五日午後十時分路船ニ乗岐元ニ

10

テ歸國ノ途ニ就ケリ同人在關中ハ別ニ來訪
者ナク終始旅館ニアリテ外出セズ行動更ニ異
状ナシ
右及申報矣也

通報先
(内相、外相、総監並、大阪、兵庫、福岡、大分ノ各府縣長官)

昭和三十一年十二月十一日

菅 政務局

乙被第九

李 培

既如

便 懇請

問 合

接

免 角

未 松

外 良策

無

語

此

第

居

り

7

管

笑

10

大

子

MT

11241 00071

明治三十二年三月十四日接電

三月十四日

秘芻一四四號ノ四

韓國義親王殿下、既報通り去ル九日

要目付

東京より大磯へ伊藤統監ヲ訪問シ即日

箱根塔澤旅館洗心樓に赴ケル御滞在

中ナリシカ去ニ十一日午前九時三十二分國府津

驛より伊藤統監、出發シ見送ニ今日午

後三時大分國府津驛、茂列車にて歸京

セリシタリ

右及報告候也

伊藤

MT

11241 00072

明治四十年三月十三日

神奈川縣知事

岡布公 奉

外務省子爵林 呈

殿
内外各三相院共



11241 00073



明倫彙編 家範典 卷一百一十八 八日接環

臺
政務司

3

124

10

790

MT

11241

00074

第749號

明治四十年三月廿日發受

官 政務局

7

金

100

要目付了

義親

午

問

出

本

接

頃

MT

11241 00075

10

後十時三十分
立志
型十八日午
十一時三十分

MT

11241 00076

取調

No.

一〇三五 山口美
一一二〇 車来石



11241 00077

民國十年三月廿三日接獲

主管政務司

3

甲秘第三五號

義和宮殿下

義和宮殿下

義和宮殿下

義和宮殿下

英

外務大臣子爵林董

殿

呈

呈

右及申... 呈

通... 呈

機密 受第772號

MT

11241

00078

明治四十年三月廿五日接受

官 政務局

兵發機第八號

義和宮殿下御歸國之件

韓國義和宮殿下御歸國之件

神戶駅着列車

午後五時下り列車

岡山驛一電話通車

等事故

右方申報

明治四十年三月廿三日

兵庫縣知事 服部



MT

11241 00079

笑

外務省子爵林 正殿

（内相外相官大）
神奈川 岡田 山

機密 受第 791 號

明治四十年三月廿五日接覽

陸務局

祕符一四四號、

韓國義親王殿下、去月二十一日午後三時

三十分新橋農列車より縣下奥事所通過

歸國、途、就カレシ

布及報告候也

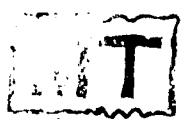
明治四十年三月二十三日

神奈川縣知事 岡布 公事

外務大臣子爵林董殿

外務省に相成共、辭別致事

機密 受第790號



寫

兵衛秘力七二号、三

韓人帰国ノ件

既報

(三月七日兵衛秘力七二号、左幸り)

韓国人安永

中、目下東都、滞在中、朴永孝ニ會見

、為ノ上事セシカ、本月十二日午後六時十分神戶

駅着汽車、之ヲ歸來シ、市内柳生所、蜀水旅

館、投宿、翌朝朴永孝為亭宅、告別、為

往訪、同日午前七時二十分神戸駅発下リ

別車、之ヲ韓國京城、向ケ歸郷、途ニ就キタリ

滞在中別ニ異状、行動ヲ認メス

右及申報素也

明治四十年四月十五日

兵庫縣知事服部一三

MT

11241 00081

内務大臣原敬

(内務、逓送、市奉行、三才、
大坂、山口、長崎)

MT

11241 00082

明治四十年五月一日接電

警政務司



秘第一四四號六

等々

韓國義和宮と關係ヲ有スント云ノ米國
婦人「マクガボン」ナルモノ本月三日東京ヨリ
横濱山下町オリエタルホテルニ來リ多ク趣キ
ヲ以テ警視廳ヨリ注意方照會アリレ婦
人「爾來精密偵査ヲ遂グル」ト右オリエタル
ホテルニ客月中ヨリ滞在シ居ン英國人トテ
「マクガボン」ト稱スン夫妻アルヲ以テ或ハ右
ト該當セザルヤト注意視察ヲ遂ケタルニ

MT

11241 00083

同人等ハ英國人ニ相違ナク且ツ相當身分
ヲ有スル者ナルニ依リ更ニ精密取調スルニ
爰ニ山手町百番地ニ米國醜業婦自稱
「ミス・ダレ」二十四五年ノモノアリ本名ヲ「マツ
クガヒー」(Megahen)ト云ニ往年義
和宮米國ニ留學中召抱ヘラレタルモノニテ
先般本邦ニ渡来シ東京ホテルニ滞在シ
居タルヲ都合上本月三日現住所ニ轉宿セ
シモノニテ敬言視廳照會ノ婦人ニ必適人本



11241 00084

人ハ今尚ホ現住所ニ於テ醜業ヲナシツ、
アリ尚ホ同人ハ實際懷妊シ居ラザル由ヲ
雇人ニ漏セシ由ニテ不日韓國ニ赴ク旨
語り居ルト云フ

右取報告候也

明治四十年四月三十日

神奈川縣知事周布公平

外務大臣子爵林董 殿

(内相、外相、總監)

MT

11241 00085

梨

明治四十年四月廿一日後受

春 藤 樹

乙秘第五二〇號

萬朝記事ニ就テ

昨日、萬朝報京城電報欄ニ李根澤ト朴泳孝

ト題シ李根澤ハ部下、鄭某ナル者、三万五千圓

ヲ携帶シテ朴泳孝迎ヘ、爲ノ差遣シタリトノ記事

ニ付朴泳孝ノ配下ナル金弘祚ノ云フ處ニ據レ

ハ昨年ノ夏澳ノ某新聞ニモ李根澤ヨリ朴ニ金

貨ヲ送付セシメタリ云々トノ記事アリシモ單ニ一

ノ風説ニ止マリシガ今回ノ記事モ恐ラク之ニ類

スルナラン開ハ朴ト李トハ左程深キ關係アルモノニ

梨

藤 樹

MTI

11241

00086

アラガハナリ候し今後、事ハ豫知スルヲ得スト

右及内報候也

明治四十年五月二十一日

警視總監安樂兼道

村外務大臣殿

内製光
内相外務大臣
安庫山福四

追々韓国自強會復鄭雲復(元李塔鎔通井)去八十四日博覽會

見物ト稱し京城ヲ遊ヒタル趣ナレバ萬朝報ノ通信ハ右ヲ指セハモノカ

便察中



11241 00087



明治四十年六月十日接電

王管政務司

Handwritten signature/initials.

Handwritten signature/initials.

乙號第五三號

六月九日

Small circular stamp.

Handwritten signature/initials.

本泳亭内駐在

本泳亭六十年前八時客自地出奔昨日午

后三時在京宿所宛郡合了金山一采下人

電報到著中

機密 受第1469號

MT

11241 00088

与ラ言所せんカ故院監有陛下上奏
 セラレタル結果昨夜特赦、御勅巻七
 ラレ亡ノ原前、後遇ヲ賜フコトナリ
 タルヲ以テ不日ノ京スヘシ



11241 00089

大臣 第 二 三 九 号

天官

政務

通商

人事

會計

取調

(暗)

珍田外務次官 鶴原経務長官

明治四十年六月十日 第三五五
号 第六五〇



第 四 号
外務省馬界より各縣次官に
送る。八日岸山、上陸封書、
統監に送り。統監告知せし
て、帰日せんと欲し、且
統監に法に付、統監、岸山
理事、友に訓令にて、人
に保護せしめ、且、今
後、以、勤に付、毛、朴、
意思、確、カ、メ、
シ、タ、ル、金、龍、統、監、
指導、一、任、ス、ル



紙 内 下、
重



11241 00090

新立 07

明治四十年六月十一日發

王管 政務司

生

10/6

新立

MT

11241 00091

聞ハアレ元ヨ信爲保ニ一得ニ爲キ金弘神ヲ説
依ル朴ノ歸國ニ付テ復應ニ言ニテ公然差許ニヤ
以テ其運動方法ヲ錯ニシテ爲メ大石ノ金山幸ニモナリカト而
シテ朴ト同時ニ朴ト同行ニシテ渡韓ニ中村太郎ト者ハ
別紙ニテ經歷ヲ有テ所請ニ歸國人物ニカ彼渡
韓ニ就テ是亦世ニ就應ニ付テ從テ知テ者ナリト今
彼知人ノ語ニ應ニ由村ハ新事ヲ爲テ東亞同
文會ノ義ニ同會幹事ニテ趙重應歸國ノ聞ニ幹
旋ニ付テ朴ハ今回ヨ法大臣ニ應ニ付テ是等ノ
緣故ニ付テ中村ハ韓國ニ渡航ニ赴キ應ニ訪ニセ



かん

今者歸國事ヲ計リ、一、自國ヲ視察シ、何カ事業ヲ
見出サントノ目的ヲ有スル旨語リタル事ヤ、今、固、廣行
セシモノナラント

因ニ記ス、毎日新聞記者ニシテ、東亞青年會ノ幹事
ナル石川安次郎曰ク、自今、會ニ於テ、外洋ニ於テ、創、普濟ニ面
會、除、兩人ヨリ一日モ速ニ歸國ニ得ル、様、盡、力
ヲ依頼スルタル、伊藤侯ニ面接シテ、此事ヲ談話セリ、右
ノ結果、向、朴、先、立、千、歸國ニシテ、事ニ運、一、ほリ
シモ、朴、其、完用一派ノ反對者多ク、今日直ニ歸
國スルモ、何事ニ為シ、我ハサ、其、内、朴、ヲシテ、内閣ヲ組

MT

11241 00093

織せん事、爲す目的十六暫らく其機、来り待
つべし。談示あり。位十六朴ハ尙ホ當分歸國スル至
ラザルベし云々



11241 00094

中村 太一郎
明治元年 月生

本籍 長野縣東筑摩郡山形村三十八番地平民

住所 豐多摩郡千駄ヶ谷村字原宿百八番地

党派 國家社會黨

職業 無

財產 無

前科 無

配偶 年古

経

家元ト豪農ヲ以テ聞ル明治十年ニ父ノ死ニ依リ家督ニ就ケルカ長ズルニ及ビ投機事業ニ志シ所有地ノ一部ヲ賣却シテ資本トシ明治十年一月出京友人上條新作ト共ニ本邦義勇會ニ加入シテ其活動ニ試ミタルガ忽チニ失敗シ其後二年間ニ三度ニ帰郷所有地ノ典賣ニ其資ヲ充テシモ損耗多シテ家産頗ニ頽シタリ茲ニ於テ親戚協賛上代ニ其資ヲ充テシモ損耗多シテ家産爾來家事ヲ顧ミテ專ラ政治上ノ運動ニ志シ其活動ニ試ミタルガ忽チニ失敗シ其後二年間ニ三度ニ帰郷所有地ノ典賣ニ其資ヲ充テシモ損耗多シテ家産



歴

廿年十月信濃國民會の組織を尽力して組成後其評議員トナル翌年七月地價
 調査同盟會評議員選舉を今年十月東京筑摩郡總代トシテ非地價修正一件付帝
 國議會に請願書提出第六年國民協會遊説員和田彦次郎、爲、尽力を今年十月内地
 雜居尚早派團體、日本協會に加盟其地を委員選舉を松本、日本協會員
 集會所及内地雜居尚早請願事務所に設置を今年三月各地、政治新聞、登
 刊、企、信濃、名、第一、新、發行、を今年八月茅土議會解散トナル折井庄司の候
 補者、選舉に金力以テ投票買収運動を勉、しが失敗を其年三月十日松本、米穀取引
 所設置認可、得、今年五月廿二日土地神道公會所、株主總會の開、紛議、結
 果一派者、暴行、加、一、場、争鬭、演出、對手者、抜刀、創傷、被、
 終、政、打、創傷、被害、人、爲、勾、串、セ、し、が、公判、未、今年八月十五日正當防衛
 リトテ無罪ヲ言渡セル、廿八年九月以後東京、在任社會主義の鼓吹スル傍普通選
 舉、目的、の、達、シ、が、爲、運動セリ、廿七年九月同志數輩ト東亞青年會
 編輯、進歩、發達、指導、の、目的、の、組織、シ、会頭、故、長、岡、子、爵、副、会頭、
 鎌田榮哲、高田早苗、頂、キ、本人、及、石川安太郎外三名幹事、廿八年山根吾一、石
 塚三五郎等ト國家社會黨の組織ス

明治四十年六月十三日午後

警政務

し秘第五九〇號 六月十二日

閣下

朴泳孝、送金者、件

本日發行時事新報其他數種新聞紙上
朴泳孝、歸韓、聞、李根澤、密使、神
戶、派、朴、送金、之、記、又、去、月、廿、日、北、辰
行、萬、朝、報、京、城、電、報、欄、に、李、根、澤、ト、朴、泳
孝、ト、題、シ、李、根、澤、ト、部、下、ノ、鄭、某、ト、者、三
萬、五、千、圓、ヲ、携、帶、シ、ト、朴、泳、孝、迎、テ、爲、ノ、差
遣、シ、タ、リ、ト、記、事、ア、リ、ト、云、フ、記、事、ハ、其、際、内
報、ノ、如、ク、鄭、雲、復、ヲ、指、シ、ス、モ、ニ、ア、ニ、テ、ル、カ、果、シ、テ、鄭

MT

11241 00097

雲復ナリトセハ来朝後李垓鎔ニハ會見シタル

モ朴ニ面接シタル形跡ナク朴モ近頃多額ノ金

貨ヲ入手シタル模様ヲ認メス然ルニ本年二

月中韓國平壤典洞居金聖洙(朴在韓中ノ知人ニシテ

東ナリト云フ)ハ李喜侃ナル者ヲ本邦ニ派シ金一

千圓ヲ朴ニ贈与シ(朴ハ其内ヨリ三百五十圓ヲ李ニ金与シテ)其後四月ニ至リ再

ビ金聖洙ヨリ出金シタルモノナリトテ右李喜

侃ヨリ五百圓ト二百圓ヲ再度ニ送金シ来リ

ニ事實アリ李根澤ヨリ密使ヲ派シ送金シタ

リトハ本件ヲ指スニアラサルカト云フ

右御參考迄内報ス

MT

11241-00098

明治四十年六月十三日

管政務

生

乙秘第五九號 六月十三日

朴泳孝：就テ

昨十二日朴泳孝其執事金弘祚宛書面到着セリ其文意ハ

今回釜山：来ルハ歸國特赦運動ニ為ナリ

リ多分近日特赦ノ恩典ニ浴スルモ思ハル

又自分ハ今回ハ是非歸韓差許サル迄ハ

日本：歸ラサル決心ナリ何レ迄ハ特赦ノ

命：接スルコト、信スル其節ハ直ニ電報ス

ルト同時：送金スルニ付日本別拂準備ヲ

MT

11241 00099

機受第1520號

賴
△
△
△



11241 00100

明治四十年六月十三日 發受

警政務局

高秘第四〇〇號

韓國人ニ関スル件

客月廿四日高秘第三七八號既報亡命韓國人
景友成ハ在月三十日東京ヨリ歸崎セリ間ク所ニ依
レハ本人ハ目下東京市赤阪區青山南町五丁目五番
地金山某方ニ居住中朴泳孝ヲ訪ヒ歸國ヲ許シ
タル事實ニ確メ其ノ發程期日ヲ尋ネタルニ歸國ヲ
許サレタルハ事實ナルモ出發期日ハ未定ナハ確定次
第豫報スヘシトコトナルニ依リ歸崎セリト云フ

右報告候也

明治四十年六月十日

長崎縣知事荒川義太郎

受第ハ九三八號

MT

11241 00101

10

外務大臣子爵林董殿

(通報先
神戶外務總監及
兵庫外務分
局)



11241 00192

文書課長

240

明治四十年六月

廿一

日

明治四十年六月十三日

別紙

密

機密送第

16

號

生

林

野

明治四十年六月十三日發送

伊前統

伊前統

伊前

MT

11241 00103

10

「秘藏文」四七部一部分

添付

朱拓弘内

及別紙

機密 受第1529號

山理

號外

明治四十年六月十四日

警務署

警務署

望

MT

11241 00105



機密 受第 55 號

乙秘房六の八號

官政房六の八號

乙秘房六の八號

六月十七日

李煥銘ノ行動

Handwritten signature or initials.

10

李煥銘ハ昨日午後五時過函振ヨリ入京、芝区分芝館ニ振
留午後六時、伊藤統監ニ宛テ意味ノ電報ヲ發シ、
三ノ

自分ヲ朴永孝同様擧國トシテ其意見如何

尚立本ノ手前也、其意見如何、芝区分芝館長ニ面

談、之ノ電報ヲ其ノ手前ニ送リ、其ノ手前ニ旅舎ヲ

立テ出、リト云フ

昨日ノ電報御覽ニ、其ノ手前ニ送、リ何寺即返、

MTI

11241

06106

ナクハ朴永孝ノ例ニ慣ヒ歸國スベシ

而シテ本人ハ旅舎ニ在リ別ニ異ニハ行動セズ已ニ歸國ニ得
テハモトト自認スルモノ、如ク至テ喜色ヲ現ハシ居トリ



11241 00107

登

立針

伊藤俊五

第一〇八号

朴泳春が特款サレシヨ見本

横鏡明^{共代}之作者等ハ保フ

止

147P
野矢

電送第1626號
明治40年6月17日 5時10分

人

1044

MT

11241 00198

10

其轍、効ハトスルモノナリ
此處從縁等々判止ルコト
ハ可能トヘト思フスルニ付
合と稱ス



機受第/536號

明治四十年六月十七日 受 管 政務司

乙 秘 第 六 〇 一 號 六 月 十 五 日

林 泳 第 一 號

昨 十 四 日 林 泳 第 一 號 第 一 號 第 一 號

書 函 及 電 報 第 一 號 第 一 號 第 一 號

第 一 號 第 一 號 第 一 號

予 特 許 第 一 號 第 一 號 第 一 號

時 通 第 一 號 第 一 號 第 一 號

以 予 特 許 第 一 號 第 一 號 第 一 號

第 一 號 第 一 號 第 一 號

林 泳 第 一 號 第 一 號 第 一 號

Handwritten signature or mark at the bottom right.

MT

11241

00110

七出發差支一十餘准備

電

本分...

國記...

林錫林...

若...

蘭...

時半新橋...



管政務局

六月十九日

金弘道

朴泳孝ヨリ在京金松祚死ニ歸葬ス
準備ヨリ爲ス一日自然ニ死ニ趣キ既發
スル短アリ五分ノ時ニ至リ女族和順仁同
伴亦日午後三時當地辰辰歸葬ニ在リ

機密 受第1518號

MT

11241 00112

10

大臣

次官

○ 政務

通商

人事

會計

取調

新出

No.

二四〇一
(晴)

才五〇号
續電才一〇、八号亡原者三昇スル件
此等より自然、身行、任セ制肘ス
要ナカレハ帰思シタル場左
臨機、取計フヘシ

林外務大臣

伊藤親王

京博義平年六月十日番二一〇
東京義平
二四〇一〇

明治三十二年六月十日

MT

11241 00113

機要 15/4 錦

明治四十年六月十九日

憲官 政務局

乙 祕 第 廿 二 號

生

2

伊藤 統 監

電報 到 署

皇 帝 御 覽

MT

11241

00114

明治四十年六月廿五日接受

主官 政務局



乙秘授書四八號



10

1636

前又昨夜知照之

...

MT

11241

00115

某々等停車場前居住ハ李煥鎔ヲ訪問シテ一泊シタル由ナル
カ全人ハ来ル廿六日若クハ廿九日頃ニ歸國スル筈ナリト云フ

MT

11241

00116

古 鐘

伊 弟 木 位 五

古 八

先

和 二 七 号

木 位 存 卜 共 亡 令 卜 亡 本 亡 夕

ル 妻 子 兄 中 名 撫 木 君 人

此 附 寄

電送第七三〇號 明治三十四年六月廿六日 午後三時發

1170

明治三十四年

MT

11241 06117

夕 影 雀

宵 夜： 接し不日 仰止、 念、
就、 申 作 夜 下 夕 夕

人 差 大 部

機密 受第 10 號

明治四十年六月廿六日接受 王管政務局

機密統制第一二號

朴泳孝歸國願未報告

明治四十年六月八日朴泳孝突然釜
山ヨリ書ヲ本官ニ寄セテ其ノ豫告セスシテ
歸來セルヲ謝シ且庇護ヲ乞フノ意ヲ通
ス依ニ直ニ同地ノ松井理事官ニ電訓
シテ能ク之ヲ保護セシメ更ニ本官ヨリ指
示アル迄ハ同地ニ滞在シ可成韓人ト
應接ヲ避ケ流説傳播ヲ防カシメ又今面
朴ノ歸國ハ皇帝ヨリ何等内命アリシニ因

上

印

MT

11241 00119

ルカ或ハ韓國人間ニ往復ノ結果ナルカ抑
亦自己ノ任意ニ出テランカ並ニ其ノ出發前
日本政府ニ對シ何等お合セヲ為シランヤ否
ヤラ確メシム

朴歸國ノ念切ナルモノアリレハ昨冬本官歸
朝中之ヲ漏シテシカ當時未タ其機密
ヲ得サリレモ遠般韓國、政變ヲ見テ時
機到レリト爲シ陸密且倉卒歸國、途
ニ上リシモノ、如シ彼ノ言ニ徴スレハ其動機
ハ皇帝ノ内命ニモアラス又在韓國友人、

勸誘ニ出テタルニモアラス唯家事ヲ顧
慮スルノ餘此ニ出テシノミ云シテ今日
本ニ居ルノ必要モナク又前日ノ経過ヲ以
テモ強チ處刑ノ厄ニ逢フコトモナカラシ
カト思惟シ韓土内ニ到リテ具狀セハ裁決
速カナンヘキヲ察シテ迄六月六日午前八
時韓人安泳中及日本人二名ヲ伴ヒ
新橋ヨリ乗車出發長府ニ下車シ七
日夜聯絡船臺岐丸ニ搭シ八日朝釜
山ニ上陸シ草梁驛末國宣教師アリ

ビング方ニ授セリ

本官ハ六月八日接受ノ朴ノ書翰ハ之ヲ宮
内府大臣ニ廻送シ皇帝ノ内覽ニ供セシ
且釜山歸着ノ旨ヲモ奏聞セシメタルニ翌九
日同大臣ハ陛下ノ旨ヲ奉レテ朴泳孝之
遽爾還渡殊甚訝惑然既無乙秋乙未年秋
之罪犯則將ト考察之處分云々書翰
ニ接センヲ以テ直ニ之ヲ傳ハ公然赦免ノ詔
勅下ルマテハ其ノ地ニ滞在スヘト注意ス是
日又法部大臣趙重應朴ト親善ナルヲ

以テ之ニ密旨ヲ銜マシメ朴ヲ往訪セシム又
其ノ同行者及アービング其ノ他出入者ノ
舉動ヲ注視セシメタルニ怪ムヘキモノアルヲ認
メス且朴カ今後ノ進退ハ一ニ本官ノ指
導ニ待ツノ意志明白ナルヲ確メ其ノ歸國
ノ真意ハ政治上ノ動機ニ在ラスシテ寧ロ
憐憫スヘキノ情狀アルヲ信シ本官ハ十一
日皇帝ニ謁見セシ際審ニ彼カ歸來ノ
顛末ヲ稟奏シ且特赦ノ典ヲ施サレンコトヲ
求メシニ皇帝直ニ之ヲ宥レラン恰モ此ノ夜

趙重應歸京朴、待罪書ヲ携来ニ依
テ十二日本官ハ宮内府大臣ヲ經テ之ヲ
皇帝ニ捧呈セシメ且特赦ノ詔勅ヲ促セ
ニ昂夜左、詔勅ヲ發セラレ

詔曰往在乙未夏間以朴泳孝嚴嚴
正罪之意詔下矣後乃知事點昧無
須下白自歸脫空而久在海外殊
深軫念錦陵尉朴泳孝特爲叙用
以示朝家優待儀賓之意
後故アリテ變吏
トモ主意變ス
ト本官ハ直ニ之ヲ朴ニ傳達シ隨意入京ス

レト論セシ。彼大ニ感激ノ色アリシト云フ
然レトモ彼ハ先ニ捧呈シタシ待罪書ニ對
スル批旨ハ彼ノ待罪地即チ金山ニ特
使ヲ派シ陛下ヨリ直接批答ヲ拜ス
ル舊例ヲ固執シ今一應本官ニ其ノ取
計ヒ方ヲ請フ依ニ本官ハ吏ニ宮内府
大臣ニ通告スル所アリシニ十七日ニ至リ宮
内府ハ東萊府尹ニ訓令シテ朴ノ上奏
ニ對スル批旨ヲ直接傳達セシム是ニ於テ彼
ハ十九日午前十一時發列車ニ草梁驛

ニ搭し日本警部一名巡查一名ニ護衛
せうして直行昂夜京城ニ下り日存人
旅館ニ投宿ス
右及報告候也

明治三十年六月二十日

銃監伊藤博



外務大臣子爵林董殿

MT

11241

66136

明治四十年七月一日接電

高秘第四二九號

亡命韓國人ノ歸國

本月十日高秘第四〇〇號既報當市惠美須町三十三番地ハ居住セル亡命韓國人景友成齡五十七年ハ歸國ノ途ニ就クト稱シ今廿二日午前九時二十分發列車ニテ門司ニ向ケ出發セリ

右報告候也

明治四十年六月廿七日

長崎縣知事荒川義太郎

外務大臣子爵林董殿

11421

MT

11241

00127

(直報先

內同、外同
福岡、各縣
監

紅
庫
(

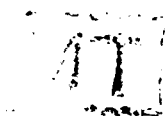


11241 06128

明治四十年七月九日

主官 政務

1672



11241

00129

重

登

主針

伊東俊並

才西号

本後鏡下ヨリミヤ山

止本リ常トリ結テトノ巾也

全々梅にタリト称に此夜出

伊東

明治二十二年四月十二日
伊東俊並
印

人

MT

11241 00130

其後仰々として、我々の生るべき世
 程、其の如きは、其の如きは、其の如きは
 其の如きは、其の如きは、其の如きは
 其の如きは、其の如きは、其の如きは



トハアレドモ女官ヲ李恒録ニ対シ書面ヲ
以テ帰ルニ任シタルユトナシ乍併阮ニ書
シタルハ其儀ニ以テ書キテ呈交ナシ



11241 00132

大臣

次官

○ 政務

通商

人事

會計

取調

生野重

No. 二八六二

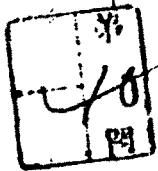
暗

第六〇号

林外務大臣 伊藤親監

京博元年七月十二日 第六二〇
東京新聞

貴電第一四〇号、昇、李煥鑑、事
既、本官、車、訪、夫、帰、玉、可
セ、可、本官、力、依、然、セ、依、
本官、此、事、久、属、皇、帝、上、奏、セ、
モ、初、許、得、サ、ル、故、如、何、ト、モ、ス、ル、得、
又、五、三、朴、泳、孝、頼、微、フ、テ、崔、山、之、帰、
来、ス、レ、ハ、其、上、ニ、テ、為、力、ス、ヘ、シ、ト、儀、タ、ル、コ



MT

11241 00133

機密受第1798號

營務處

重刊

10

10

MT

11241 00134

機密 1804

號外

明治四十年七月十五日接受

七月十三日

4

平田村

平田村

MT

11241 00135

18/5

韓

左

乙

和

第

八

三

號

外務省

總務課

庶務課

秘書課

文書課

印刷課

庶務課

庶務課

庶務課

庶務課

庶務課

生

生

MT

11241

00136

機密 受第1880號

明治四十年七月十六日接獲

主官 政務司

4

等

明治四十年七月十六日

乙 秘 庫

鄭 井 閣 教

亡 命 韓 人

新 橋 殿

於 是 日 午 後 三 時

MT

11241

00137

乙秘第 八四六 號

七月十五日

外官 政務



韓人、歸韓、就、

韓國人朴容求、本日午後一時、在右判明

韓人十名、本日午後一時、在右判明

新槁、本日午後一時、在右判明

MT

11241 00138

乙秘第847號

七月十五日

韓人、歸韓、就、

本日午後三時半韓人朴容志外氏名別明也

廿九韓人十三名生登七夕、音氏教七、然、

川、力、其後、到、其、依、朴、容

求、共、去、金、其、他、業、

夕、為、午後七時、十五分、午後十

時、四名、午後十一時、新、就、

之、金、山、向、金、程、

145

同 明
治

年

月月

日發遣

生

142

次友

長子 伯常 伯常 伯常

卷之七

五五

李北缺 權屯默 南 倚 和 書

笑

升平當此中興之際

五五二

MT

11241

00140

タリト、
フ
フ
ト
チ

MT

11241

00141

機受第1853號
密

乙
秘
第
八
六
二
號

過
般

野
子

MT

11241 00142

第 185 號

兵發和第一七八号

韓國人 韓國人 歸國 就

分神戶 朴客九 昨十六日 午後十時三十

(警視廳電報) 取着汽車 新橋ヨリ来神

二ノ歸國 途ニ就キタリ 同十時四十分 設下リ 列車

右及 報候也

明治四十年七月十七日

兵庫縣知事 服部



外務大臣子爵 木

董殿

以外部警視廳 (神奈川京都大阪山口各府縣知事) 通報

MT

11241 00144

明治四十年七月廿二日發

警政務局

兵發秘第1人1部

野

韓

國

中

樞

院

顧

問

李

址

昨

十

八

日

午

后

權

重

顯

外

四

名

一

行

昨

十

八

日

午

后

五

時

四

十

六

分

鐘

子

聚

着

汽

車

三

京

都

一

到

着

大

警

視

車

全

地

萬

電

梯

三

枝

宿

シ

本

日

午

前

六

時

五

分

鐘

子

聚

着

汽

車

歸

國

途

就

キ

リ

一

國

縣

電

通

報

一

列

車

狀

ナ

レ

シ

本

日

午

前

六

時

五

分

鐘

子

聚

大

及

申

報

候

也

明治四十年七月十八日

兵庫縣知事服部一



外務省子爵林董殿

阪神外報館
山口（古）縣長（文）通張
（神戸）京柳之次郎
岡山
広島

MT

11241 00146

明治四十年七月廿六日接電

王管政務局

乙秘第九。七號

七月二十五日

等

韓國亡命者、會合

（印）

韓國亡命者趙義烈、及趙義烈、

外四名、韓皇密使事件、聞、去二十二日

午後六時ヨリ趙義烈方、會合、品議、

為シタリ其内容密カナリサルモ彼等昵近者

語ル処ニ依リ

各自歸國ニ関シ外務省ニ及陽ニ件及大

赦ノ命ヲ待テ歸國スルト。其以前、歸國

スルト何レカ良策ナリヤ等ノ品議ニシテ崔

第1964號

MT

11241 00147

延徳ノ如キハ大赦ノ如何、拘ハラス外務省ノ
意向ヲ聞キ此際歸國スル意志ヲ洩ラシ
タリト

又山窪延徳ハ昨夜芝濱館ニ栗原亮一、平野
善太郎、柴田凌雲其他数名ヲ招キ送別
ノ宴ヲ開キ其席上ニ於テ

韓國留學生救濟會ノ件ニ付キ協議ヲ為
シ来ル二十九、三十日ノ兩日神田錦輝館ニ於
テ苦學學生ノ為メ慈善音樂會ヲ開催ス
ルニトシ遠見シ其方法ニ付テハ信大然軒

10



明治四十年七月廿六日

警務政務司

乙秘第九〇八號

要目付了

韓國王

韓國王命書

本月二十日

同人

初旬

本人

同日

Signature

MT

11241 00150

吉濱主任に居る中、如何に今更に難儀に成るかと大
頃、いふに、歸籍如斯に難く、悲慘に何
歸國の際、一回相尋ねて、我々も下熟りな
り

金應元

本人の行動先は、いふに、唯々越後地方に
出入り居り

趙義剛

本月二十日、上海新聞見人言、留學生の同族は、
刻歸宅未訪、何に才も無、李花氏、出我

MT

11241

00151

本月二十一日在宅外出也昨日二十四日午後一時三十分
趙義剛方に至り夫より他に赴き夕方に未だ訪
者なし

李斗齋

富山縣より歸京セリ

明治四十年七月廿六日 庚申

主官 政務局

10

保秘第八九二一號
明治四十年七月廿一日

山口縣知事渡邊

山口縣知事印

外務大臣子爵林正殿

契

韓國人歸國、關件

韓國中征院顧問李址鎔、閔泳績、權重頭、外四名
一行、昨二十日午後二時十分（三時十分）延着、着列
車、下關、到着、山陽、亦、休息、同十時、發
關、達、船、對馬、凡、歸、韓、者、係、山、理、事、
廳、電、報、通、知、置、
右、及、內、報、候、也

MT

11241

00154

内報先（四）外相總長神戶兵庫市郊
大坂、山崎、廣島、府府、水戸、信州、



11241 00155

明治四十年七月卅一日

帝政務局

乙 秘第 九二七號 七月三十日

147

韓國亡命者吉行

10 PM

二十八日午後一時、趙義淵方、赴李斗璜
歸宅、不在中朝、趙義淵、訪

趙義淵

二十八日午前中他出、李斗璜、時、歸宿

當日午後、命吉、訪、深更迄、談、

李斗璜、滋加貝縣、趙、電氣、接、

俄、上京、爲、請、事、整理、要、昨

機密 受第 2019 號

MT

11241

00156

今一旦袁根立戾。從來世話ヲ受ケタ人
々。暇乞ヲ爲シ大坂邊ニテ各亡命者ヲ待合
歸國ノ豫定ナリト云フ

趙義聞

十八日午前十時ヨリ兄趙義瀾方ニ赴キ午
後十時歸宿セリ

李範未

十八日亡命者總代トシテ外務省ニ到リ午
當金ヲ受取り歸途趙義瀾方ニ立寄
一同ニ分配セリト云フ

英

10
24

機密 第2111號

明治四十年八月九日接受

警政司

乙 秘 第九六六號

八月廿六日

韓國亡命者之就

要目付

14/7

當地在任韓國亡命者之就
歸國之元差問十中自地知者之自亡命
者一同昨日四時至其官署談話未十
二日午後三時三十分至其官署談話未
二十日午後三時三十分至其官署談話未

MT

11241 00165

10
14

2015

昭和八年八月一日發

臺灣政務局

第九三三號

韓國...

要目付了

Handwritten signature/initials

韓國之...

記事...

吾...

快談...

金...

事...

MT

11241 00159

者ハ永井日本ノ古語ニ爲リ居ル者ナレ此際
當ニ異心ニ懷キ秘密會議ヲ開ケル要アラシ
・十八日魚ノ吾々對ニ日本政府ヨリ下賜サレ
キ年當金ヨリ自今ニ於テ外務省ニ出頭
受領シ上各々ノ所屬ニ分ルベシ今ハ趙義
洵方ニ待合方ニ是キ不尤之其折歸國ニ関
スル種々ノ談話ハアリタリ即チ統監官ヨリ向時
歸韓スルニ屢々ハナシテ通加ニ交シ居テ外務
省ノ方ニハ林氏相所ニ歸京スルニ多岐今
尤ク待合方ニ如前ニ注意スルニ各々務ムル明



伊集院信之

中八三

124 印 (Seal)

夫

第 2172 號 川
明治 月 / 日 時 分 發

科 少 元 命 下 為 中 今 為 中 邦 為 大
ル 毛 ノ 越 我 州 以 下 七 八 衣 子 休 等
功 七 公 切 大 毛 貯 財 十 千 為 子 柏 費 並

MT

11241 00162

大臣

次官

○ 政務

通商

人事

會計

取調

生野

No

3244

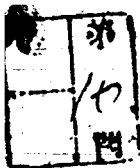
事務課 昭和二十一年一月一日 官務課長 署名

林外務省長

宇野浩二監

第二二號

生野事務課長 昭和二十一年一月一日 官務課長 署名
意見、通了取付し異存なし



事務課長 署名

MTI

11241 00164

明治四十年八月十一日 受 警務司

乙秘第九六七號

八月九日

學

韓國亡命者 行動

要

俞吉濬

10 門

七日午前中外務省ヨリ召喚ヲ受テ出頭山座
政務局長ヨリ公然歸國差支ヘナキ旨田藤
統監ヨリ通知アリト書ニ傳達セラル歸途
趙義淵方ニ立寄リ歸宿

趙義淵

李韓錫

七日午前中俞吉濬ト共ニ外務省ヨリ召喚

MT

11241

00166

機密 受第2118 警

リ受ケ前記、如ク傳達リ受ケ歸宿一同十二
日午後三時半新橋發金山ニ一泊翌日
京城ニ入ル決シ李斗璜ハ玄根ヨリ一行ニ
加ル等

趙義聞

六日趙義潤方、宿泊翌夜歸宿

李範來

六日廿共、趙義潤ヲ訪問

張博

七日終日在宿趙義潤、來訪ニ接ス

以テ

明治四十年八月十日 接受

字

警政務局

警秘收第 一四二 號

（印）

（署名）

目下滋賀縣彦根町ニ滞在在中ノ亡命韓人李斗璜ヨリ其留守宅ナル管下富山市西公文名町一息鎮白皮斗璜ノ妻妾居住ノ寓所へ本月二日在ノ意味ノ通牒アリタリ

一 今圃ノ同志ト共ニ一旦飯国スルコトナルヤモ知シス若シ帰国ニ決定セバ富山へハ還ラヌ彦根ヨリ直ニニ奔達スルニ希達ノ日時ニ就テハ左志各準備ヲ整ヘサル一カラサルニヨリ未ダ確定セズ飯国ノ目的ハ罪ヲ洗フテ一身ヲ潔クスルニアリ云々

右及報告候也

明治四十年八月六日

MT

11241 00168

秘

第 10 号

富山縣知事川上親晴

内務大臣原敬殿

通牒先
(警視總監、滋賀縣知事)

MT

11241

00169

明治四十年八月十五日發受

警政廳

兵發秘第二八號

要旨

新

亡命韓人之歸國ニ就テ

韓國亡命者趙義淵、金吉濬、一行八
名ハ本日午前七時十七分神戸駅着汽車ニ
テ新橋ヨリ着神（警視テヨリ通報ニ接ス）全廿七
分發下ノ關直通列車ニテ歸韓ノ途ニ就キ
タリ

一行ハ下ノ關ニテ伊藤統監ニ會見シ歸國スル由
ニテ當地ハ通過ノミニテ別ニ往訪者等ナシ

右及報候也

明治四十年八月十三日

兵庫縣知事服部一



機密 受領ノ人ノ號

MT

11241 00170

外務大臣 榎林董

殿

(内相、外相、総理、神奈川、京都、大坂、岡山、山口、滋賀、各府縣長友、二通、穀)

MT

11241 00171

白明治三十九年五月

五
同
金
同

明倫三十三年九月
清湖廣總督臣
關防
首刊

庚子年

抄本

滿洲問題
開會時刻
及
協議會

開會時刻

場所

列席者

明治三十九年五月廿二日午後二時四十五分

東京永田町內閣總理大臣官邸

統監 侯爵伊藤 博文

樞密院議長侯爵山縣 有朋

元帥 侯爵大山 巖

內閣總理大臣侯爵西園寺公望

樞密顧問官伯爵松方 正義

伯爵井上 馨

陸軍大臣 寺內 正毅

MT

海軍大臣 齊藤 實

太政大臣法學博士 阪谷 芳郎

外務大臣子爵林 董

陸軍大將伯爵桂 太郎

海軍大將男爵山本權兵衛

參謀總長子爵児玉源太郎

伊藤統監 本日「余」要求、依り総理大臣ヨリ諸公

、御會合、促サレタハ、以テ余ハ先ツ愚見ヲ陳述

致スヘシ顧シハ本年二月余、韓國、赴任スル前、當リ

時、外務大臣加藤高明君ヨリ滿洲問題、關シ各國

MT

ヨリ種々、照會ヲ受テ之ニ對スル回答ヲ爲ス、必
 要アリト虽モ軍衙ト外務省ト、交渉容易、解決セ
 サルヲ以テ回答遷延セハ事情ヲ庠キタルカ故ニ大
 磯ニ山縣大山西侯加藤外務大臣及當時、參謀次長
 児玉大將、御會合ヲ乞ヒ殆ト一日ヲ費シ協議ヲ尽
 シタル結果一ヶ條ヲ除ク、外懸案、問題ヲ悉ク解
 決シ之ヲ決行スルコトナレリ爾來余ハ任地ニ在
 リテ外務省ト各國間、往復電報ニテ事情ヲ承知シ
 タル、ミナルカ三月末頃、至リ米國政府ハ滿洲向
 題ニ関シ我政府ニ嚴重ナル照會ヲ寄セ來リ英國ニ

於テモ議院ノ問題ニ上ル等ノコトアリ余ハ甚ク憂
慮セリ如何トナレハ是レ独リ日本ノ外交問題ナ
シハナリ日本ノ滿洲ニ於ケル行動ニ對シ列國ノ物
議ヲ招キ海外ノ諸新聞ヨリ取難攻撃ヲ蒙レハ目下
韓國上下ノ人心ハ未ダ全ク日本ニ服セス動モスレ
ハ陰ニ歎ク露國ニ通シテ日本ノ政略ニ反對セシト
スルモノナキニアラサレハ如斯取難ハ忽チ韓人ヲ
シテ種々ナク空想ヲ抱カシムルヲ以テ余ハ職責上
之ヲ等閑ニ附スルヲ得スト思惟セリ會々余ハ東京

駐劄、英國大使ヨリ機密ナル私書ニ接シタリ本書
ハ全大使ヨリ京城駐在英國總領事代理ニ送附シ親
シク謁、統監ニ求メテ手交セヨト命ニ總領事代理
ハ大使ノ命ヲ遵奉シテ全ニ傳達シタルモノナルカ
故ニ德義上之ヲ世上ニ公ニスルヲ得サレトモ諸公
、為メニ其要領ヲ譯述スルハ左ノ如シ
是レ或ハ拙者ノ誤見ナハヤモ因ラレサルモ目下
英米、貿易社會ニ殆ト公言セラレ居ルハ滿洲ニ
於テハ日本、軍官憲ハ軍事的動作ニ依リ外國貿
易、拘束、加ヘ滿洲、門戸ハ晝ニ露西亞、掌中

、在リ之時、比シ一層閉鎖セラレタルコトナリ
而モ其閉鎖主義ハ專ラ歐米人に對シテ行ハレ日
本人に對シテハ開放主義ヲ實施シツ、アリト云
フ故、昨今米國ヨリ日本政府に對シ電信命令、
テ嚴重ナル照會ヲ爲シ英國政府モ亦全様ノ舉、
出テタリ愚見、依レハ現時日本政府ノ取ル政畧
ハ即チ露國ト戦争ヲ爲シタル際日本ニ全情ヲ寄
セ軍費ヲ供給シタル國々ヲ全ク阻隔スル日本、
自殺的政畧ト評スル、外ナシ抑、諸外國、日本
人ニ全情ヲ寄セ軍費ヲ供給シタルハ日本カ門戸

開放主義ヲ代表シ此主義、為メニ戦フヲ明知シ
タルカ故ナリ然レニ日本、軍事的方面ニ於テ唱
道セラル、説ヲ聞クニ露國ハ早晚復讐ヲ企ツヘ
キヲ以テ今日ヨリ之ニ對スル設備ヲ満洲ニ於テ
為ス、必要アリト此説或ハ可ナラン乍倭今日ノ
僥ニテ進マハ日本ハ與國ノ全情ヲ失ヒ將來開戦
ノ場合ニ於テ非常ナル損害ヲ蒙ルニ至ルヘシ日
本、政治家ニ於テ斯ノ如キ明白ナル利害關係ノ
見エサル道理ナシ否日本ニハ此政策ハ狂氣ニミ
タル政策ナリト其眼ニ映スル政治家モ固ヨリ多

多アルヘシ若シ然ラストスレハ如上ノ説ハ或ハ
拙者ノ誤見ナルヤモ因ラレス云々
ト是レ「マクドナルド」大使カ三月卅一日付ヲ以テ余
ニ寄セタル私書ノ大要ナリ余ハ本書ヲ接受シテ我
國前途、為ニ益ニ憂慮セリ加之他方ニ於テ歐電ハ
頻リニ日本ハ再々露國ト戦フノ準備ヲ為セリ日本
人ハ「ボートマス」條約ヲ以テ講和條約ト認メス休戦
條約ト目シツ、アリト報シタルヲ以テ當時北京、
露清談判ハ斯ノ如キ報道ヲ口實トシテ遷延日ヲ曠
フシ容易ニ結了セズ隨テ露國ハ滿洲撤兵ヲ進捗セ

ス極東、形勢容易ナラサル。至ルヘキヲ察セタリ
然ルニ、英大使ノ書ヲ見ルニ、及シテ復讎説ハ日本ヨ
リ傳ハリタルヲ知り、日本ノ為メニ此報道ヲ頗ル痛
惜セリ。其後山縣侯爵ヨリ、書簡ニ接シ之ヲ披見ス
ルハ、滿洲問題、就テハ實行上ニ關スル軍官憲ト外
務省トノ意見充分ニ協合セス為メニ、外國ニ向テ返
答ニ遷延シ、外國ノ疑惑ヲ招ク、虞アリトアリ尚侯
ハ、此書ヲ以テ、西園寺首相、滿洲旅行ヲ報セラル
リ、此報ニ接シ、余ハ大政総攬ノ局ニ當レル西園寺侯
カ親シク滿洲ノ實地ヲ視察セラル、ハ邦家ノ為メ

至極結構ナルコト、思ヘリ今時、支那方面ヨリ来
ル報道ヲ見ル、袁世凱ハ日本ニ對シテ、不満、念ヲ
抱キ日本、滿洲ニ於ケル行動ヲ以テ北京條約、違
反トナシ内田公使伊集院總領事萩原書記官等ト會
見シタル際ニモ毎ニ之ヲ明言セリ此等、報告ハ迄
メテ諸公、御一覽ヲ望ミタルモノト信ス若シ今日、
終ニ放任セハ當ニ北清、ミナラス二十一省、人心
ハ終ニ日本ニ反抗スルニ至ルヘシ愚見、依レハ日
本ハ清國ニ對シテ指導者勸告者、位地ニ立タサル
ヘカラス清國目下、狀況ヲ見ルニ一般人心ハ決シ

テ平穩無事ナリト称スルヲ得ス清人中ニハ國權恢
復ノ意見ヲ抱クモ、多ク其勢力決シテ侮ルヘカラ
ス外國人ハ此意見ヲ目シテ排外思想ト為スモノ、
如シ孰シニモモヨ其波及スル所ハ即チ全一、結果
ヲ生スル、至ルヘシ孰シ、方面ヨリ觀察スルモ日
本、取リテハ清國ニ騷亂起ラサルニ如クハナシ隨
テ可成清人、不満ヲ買ハサル様努ムルハ日本、取
リテ最モ適當ナル方策ナリト信ス然ル、清國政治
家中最モ日本ニ全情ヲ寄セ居ル袁世凱々々斯ノ如
キ言ヲ敢テスル、至リテハ日本、為メニ甚シ取ラ

サル所ナリ余カ軍事ニ容喙スルハ或ハ冗辭ナリト
、謗リヲ免レサルヘキモ趣旨ヲ明瞭ナラシムル為
メ、敢テ卑見ヲ披瀝スヘシ曩ニ北清團匪、乱アル
キ之ヲ鎮壓スル為メ大兵ヲ迅速ニ派遣シ得ルノ
位地ニ在リタルハ露西亞ト日本ノ兩國ナリト至
モ日露戦争以後、今日ニ於テハ露軍ハ遠ク北滿洲
ニ退キタルヲ以テ有事、日ニ於テ咄嗟、向ニ大兵
ヲ清國ニ出シ得ルモノハ單ニ我日本ノミナリ數年
ヲ出テスニテ若シ清國ニ變乱ヲ生シ各國出兵スル
カ如キコトアラハ露西亞ハ必ズ南滿洲ヲ通過シテ

兵ヲ北清ニ出サント要求スヘシ然ルニ是レ日本ノ
到底承諾スルヲ得サル所ナリトスレハ日本ハ今日
飽マテ清國ノ平和維持ニ努力セサルヘカラス随テ
滿洲ニ於テモ清國人ノ満足スル方針ヲ取ラサルヘ
カラスト思考ス西園寺侯モ親シク滿洲ヲ視察セラ
レタルカ故ニ定メシ種々御意見モアラシ余ハ自ラ
見ハ所ニ隨ヒ外務省ノ吏員ニ命ミテ諸公ノ机上ニ
在ル案ヲ本會議ニ提供セシメタリ故ニ本業ハ決シ
テ外務省案ニ非ス余一個ノ私案ナリ其外務官吏ニ
命ミテ調製セシメタルハ本業調製ノ際參考ニ資ス

へキ書類ハ多ク外務省ニ在ルカ故ナリ詳細ナル事
項ハ本案中ニ掲載セラルモ尚二三ノ説明ヲ為スヘシ
現ニ滿洲ニハ軍政官ナルモノアリ之ニ関スル規定
ヲ見ルニ清國人ノ不滿ヲ唱フルハ当然ナルニ撤
兵、今日露西亞ヨリ讓受ケタルモノヲ保持スルハ
当然ニシテ何人モ異議ヲ持ツ謂フレ然ルニ實際ノ
事實ハ此範圍外ニ出ヅ、アリ軍政署ノ綱領ナル
モノヲ見ルニ之ヲ実行スルハ清國人ノ活動スル餘
地更ニナシ否領事ト雖モ活動スルコトヲ得ス軍事
当局者ハ固ヨリ相当ノ御考慮アルヘシト雖モ自公

MT

ノ見ル所、依レハ軍政署ナルモノヲ廢スルニ非サ
レハ不可ナリ、斷然之ヲ廢シタル上ハ、該地方ノ行政
ハ之ヲ清國官憲ニ一任セサルヘカラス、如何トナレ
ハ、該地方ニ行政ヲ布キ人民ヲ保護スルハ清國ノ責
任ナレハナリ、若シ清國ニシテ行政及人民保護ノ實
ヲ舉グハ能ハサルハ日本ヨリ之ヲ援助スルモ可ナ
リ、今日ノ如ク日本ニ於テ軍政ヲ布キ居ル以上ハ清
國ニ於テ行政保護ノ責任ヲ取り能ハサルハ、當然ナ
リ、然ラハ此責任ハ日本之ヲ取ラサルヘカラス、如何
トナレハ、既ニ權力ヲ有スル以上ハ之ニ伴フ義務ノ

履行ハ到底免レサル所ナレハナリ尚又事情ヲ明ニ
スル爲メ余ハ進テ直言セシト欲スルモナリ此
事々ハ或ハ軍事当局ノ意ニ協ハス其感情ヲ害スル
カ如キ虞ナキニアラサレハ豫メ寛恕ヲ乞フ余カ種
々ナル方面ヨリ聞知シテ蓋シ事實ナラント推測ス
ル所ニ依レハ軍事当局者ハ撤兵期間ハ十八ヶ月ナ
ルヲ以テ明年四月迄ハ戦時中ト全様ノ軍事的措置
ヲ取ルモ可ナリトノ解釈ナル由此解釈ニ基キ或ハ
種々ナル事業ニ著手シ或ハ租税ヲ徵收セラハカ
如シ然レニ現在撤兵シテ單ニ鐵道守備隊ノミヲ留

五月一日ヨリ既ニ安東縣ヲ開放シ六月一日ニ至
 シハ更ニ又奉天ヲ開放セントスルノ今日ニ於テ斯
 ノ如キ鮮親ヲ取ラレハ余ノ了解ニ若ム所ナリ余
 ハ滿洲今日ノ現状ト軍事的動作トハ到底撞著シテ
 符合セサルモノナリト信ス加之外國ノ非難ニ依リ
 ハ日本ヨリ大連ニ入ル貨物ハ無税ナルニ反シ上海
 芝罘等ヲ經テ大連ニ輸入セラル、モノハ清國沿岸
 貿易税率ニ準シ課税セラル、力故ニ事實上日本品
 ト外國品トノ間ニ取扱ノ差違ヲ生スト云フ而シテ
 外務省ハ此點ニ付テモ答辯ニ苦ムノ位地ニ在リ愚

見、倣し、縦令近キ將來ニ於テ戦争ナシトスルモ
財政上、見地ヨリ觀察シテ日本ハ少クモ英米人、
人心ヲ満足セシメ其全情ヲ得サハヘカラス然ラサ
レハ結局何人モ其ニ因却スヘキカ故ニ余ハ諸公御
會合、本席ニ於テ審議ヲ尽サシ其轍ヲ改ムハコト
ニ廟議ヲ一決セラレコトヲ切望ス微衷帝國ノ前
途ヲ思フノ餘リ敢テ苦言ヲ吐キタルハ幸ニ諸公ノ
寛容ヲ乞フ所ナリ
此外韓國ニ関スル問題モ種々アレトモ自ラ別問題
ナルヲ以テ混同ヲ避クル為メ更ニテ御協議致スヘ

伊藤統監、演説後列席諸公各意見ヲ述ヘラシタルカ
大體論ニ関シテハ毫モ異議ナシト、コトミテ結局西
園寺總理大臣ヨリ提出セラシタル左、決議案即チ

大體、論ハ全會一致ノコト

右、意ニ基キ將來、經綸ヲ進ムルコト

關東總督、機密ヲ平時組織ニ改ムルコト

軍政署、順次ニ廢スルコト但シ領事、在ル處ハ直

ニ之ヲ廢スルコト

一致ニ其他ハ逐條審議ニ入ラヌシテ散會セリ

(附記) 兎玉参謀總長ヨリ決議文第四項中、直ニハ
文字通り實行スルモ差支ナキヤト、質問ニ対
シ林外務大臣ヨリ事情ノ許ス限り可成速ニ
意味ニ解釋スヘキ旨答辯アリタリ

滿沙、於此各處通商上門戶、
主義、保持之、常、風、中
外、宣明之、變、之、
還付、
常、英、東、亞、之、
義、
破裂、
對、滿沙、
通商、利益、

以鑑、恆也。毫、地、意、ア、モ、ニ、ア、ラ、サ、ル、コ、ト
ヲ、爲、明、也、リ、故、列、王、モ、亦、亦、和、克、後、曉
ニ、日、中、ハ、心、事、得、ハ、又、ハ、速、ニ、候、主、義、我、ラ、実
跡、ニ、満、涉、ハ、門、戸、ヲ、初、メ、ノ、道、高、ニ、吊、放、ス
ヘ、キ、コ、ト、ヲ、始、待、シ、殊、ニ、恆、来、ハ、地、方、ニ、於、テ、最、モ
多、ク、高、業、上、ハ、和、善、罪、係、ヲ、有、シ、タ、ン、英、米
二、王、ハ、又、最、モ、多、ク、ニ、テ、始、待、セ、リ、就、ハ、ニ、事、
實、満、涉、ニ、於、テ、我、以、動、ハ、性、ニ、シ、テ、破
等、ノ、豫、知、ニ、及、シ、帝、王、モ、多、ク、年、ヲ、主、張
ト、果、然、ノ、爲、明、ト、テ、没、却、シ、テ、満、涉、

Handwritten Chinese text in vertical columns, likely a calligraphic document or letter. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a formal or literary composition.

MT

11242

00023

在之平... 他... 好... 派... 以... 衆... 望... 惟... 十



結の末、西洋の如く、極東の
事、第一層に、欧米諸國の眼、
映る。其の如く、彼等、之に、
對し、其の、極東に於て、
尋ふ、其の、法、必、明、悉、
之、之、涉、
越、越、之、
早、晚、
一、大、
帝、
平、美、
之、利、益、
之、手、
之、義、
如、國、

事變の時、わが海軍は、陸援隊に急いで
必へ大兵を派遣して援を乞ふ。然るに、
リニエールや露軍は、寧ろ満洲より退き、
北方に偏在する。以て我が海軍は、寧ろ下
せしむるに、即ち戦軍前、北陸に後備
大兵を、こゝに常駐せしめ、援隊に待たし
め、北陸に別々、常駐せしむる。宜しき法に
對し、指導者たる、北陸に主として、陸援
隊を、豫防せしむる。又、北陸に主として、
海軍を、北陸に有せしむる。為すに、我々

MT

MT

Handwritten text in Chinese characters, appearing to be a list or ledger. The text is arranged in vertical columns, with some characters being bold or underlined. The handwriting is somewhat stylized and difficult to read in some places.

MT

11242

00030

四 大 德 亦 人 之 德 也 德 者 本 也 財 者 末 也 財 者 德 之 末 也

財 以 德 為 本 德 以 財 為 末 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 必 出 之 財

五 夫 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

六 夫 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也 德 者 財 之 本 也 財 者 德 之 末 也

MT

11242

00032

七、
...
...

...
...

...
...

...
...

...

...
...

...
...

...
...

...
...

MT

11242

00032

土奉天城内その他要所ノ人車鐵道中
實際不用ナルモノ速ニ之ヲ撤去シ又
場合ニヨリ人車ノ下流シ日清合同煙
草計費ヲ立シムルコト
六軍政官ノ決ム人ヨリ徴收セル私車
稅ハ之ヲ廢止スルコト

軍政概論ニ對スル實行方法

一 清國地方官及各省領事ト交渉

事務并ニ軍人軍属以外、日本臣

民ニ對スル裁判事務ハ總テ領事

官に屬スルモノト（但シ實施ノ日ハ

調査、上決定スルコト）

二 領事官又ハ領事館出張員ナキ地方ニ

於テハ交渉案件ニシテ軍事上

ニ係リ且急速要否ヲ要スルモノハ現ニ

内地駐在スル軍部、および清國地

才友ト交渉シテ地方官權、領事館
又、領事館出張員へ通知スルコト

三、國東總督府又、軍政友、表シタル
日本臣民、對スル諸規則ハ一區總
領事ニ托テ之ヲ引継キ處テ必要
性トシテ改廢スルコト

四、地方衛生事務、停車場、地内
領事ニ之ヲ管理シ他、地方、領事
ニ於テ清金、地方友ト共同シ又、清金、地
方友ヲシテ相者、方法、主、之、室、以

セシムルコト（日本人、極微事務等、假令停
車協外、任スルモノト雖、領事一ニ托テ
之ヲ管理スヘキハ勿論ニシテ、古備隊衛生
部ハ是等ニ付、領事ニ必要ノ幫助ヲ
與フルコト）

五、領事ニ糧秣買入等ニ付、古備隊、諸
必要民ト、官ニ主テ守備隊、便宜ヲ
圖ルヘキコト

六、軍ニ以テ、施設ニ係ル、電報、派
兵、空地、就キ、手交分ヲ定ムルコト

病院高島陳列場煉瓦製造所等
ノ如キニ至ルニ、快車ニ一任スル

コト

七、舊口ノ最モ重要ノ場所ニシテ恒来

清和地力有、駐在スルモノナク軍政

有、依然民政ヲモ目リテ施設中ノモ

亦少カズ要スルニ他、軍政署所

在地ト大ニ趣ヲ異ニスルヲ以テ軍政署

ノ所清和地力有、ハルニ付テハ大要

モ、条件ヲ提シテ清和地力有、同意

得る以上之ヲ実施スルコト

(イ) 以清治、河東（日清談判會議議決）

四師）遵軍隊衛生上必要ナ

ル檢疫及防疫規則ヲ日本政府ト

協議、上決定スルコト

(ロ) 軍政府施設ヲ承認スルコト

警察及衛生事務清國地方官ハ

渡スル日本領事ニおキテ行届、

駐アリト認めんとキ、清國地方官ニ其

請求ニ応じ必ス違者、重罰ヲ執ル

MT

ヘキコト并ニ整ニ察及衛生事務執行
ニ付テハ日本警察官吏及醫師、庶
ヘンヘキコト

(二) 海軍事務ニ道甚ノ着實ニ移ス
ニ于テ收入ニ依テ正金銀行ニ預入

レシムルコト

(三) 常ニ海軍事務ニ本道甚ノ着實ニ
移スニ于テ收入ニ正金銀行ニ預入
ニ情ニ地方官日本領事ト協議
、上地方公共ノ費用ニ充ツルコト

尤も右、条件ト継之ヲ悦来、歴史
ニ散スルニ清室、同意ヲ得ンコト頗
困難ナリモ、アリ就ニ交渉ノ結
果多少ノ譲歩、必要ヲ感ヘラレ
テ軍政廢止ニ唯一ノ交換問題ナ
ルカ故ニ也、國スル協議權ニ上ニ事
以テ大任ニ任セラル、俟建國スルコト
ハ、安んずルニ他ト事情ヲ具シシ諸般
、新証計アリ殊ニ大ナル防衛工事
ニシテ其財源ニシヤンク税及利権等ナリ

路中右ジャウ好五月か子修築ノ夜
 入ル定軍以テ展スル領事
 子海キ支那人ヲ徴収スルコトハ
 不可能トせん然ラハ清土地方友ヲシテ
 工事ヲ為サシメシカト云フニ元来亦古
 各工事ノ為メ我信車場お城(新
 市街、念ムル係之復スル為メナリテ
 是亦セシタルヲ免カレスルハ名工事
 官軍と軍政ヲ繼續スルカ又ハ鐵道
 監部ニシテ撥スコト(工事完成上ニ

MT

今後一二月、要（スト、コトナリ）
停車場、地内、新市街、設計
等、材料、満洲、鐵道、經營、
一部、店ス（キ）以テ、右、經營、緒、
然、ミ、アラサレ、ミ、重、資本、ノ、輕、ミ、
白、偏、軍、政、ノ、展、ス、ミ、勢、ニ、收、入、ノ、減、
ス、ミ、以、テ、現、在、ノ、福、計、モ、裁、分、中、止、
ス、ミ、已、ム、ヲ、得、サ、ン、コ、ト、アル、ノ、但、ミ、是、非、共、
迷、誤、ノ、必、要、アル、モノ、ミ、至、極、費、ヲ、節、省、
ミ、此、庫、ヲ、支、出、ス、求、ム、コ、ト

MT

怪才師

也。我必管居當地。

おき、何れも居留氏役取らんモノアリテ

社税増設土木衛生教育等、事

務、管中子中、安東各、モ一五、以標

ノモノ、没ケラレタニ、役員其人、得ス

おき、表多、カリシ為メ之、廢シ、本等一切

事務、再ニ軍政署、おキ之、以

店、レカ、領事館、おキ、以、續キ、本等

事務、全部、自ラ、以、フ、スト、本等、実

不、可、能、ナ、ニ、依リ、新、一、機、界、ヲ、作リ

MT

通者人、物、選、領事、兵、精、下
、方、等、事、務、管、忠、守、も、し、ん、必、要、
、然、ら、い、此、等、準、備、成、り、ん、上、軍
、以、て、撤、え、ん、コト

九、千、也、各、軍、政、署、一、万、三、千、四、百

六、等、手、順、付、き、決、り、撤、廢、ス、ル、コト

十、外、務、省、呂、國、(、着、道、江、子、) 撤、廢、ス、ル、コト

民、屯、遼、陽、奉、天、領、事、館、を、撤、廢、ス、ル、コト

民、屯、房、店、を、撤、廢、ス、ル、コト

軍、政、及、り、事、務、を、健、カ、シ、ム、コト

MT

十六軍政務處前安東縣知事
七年以來、権限「大任を、主裁

授ルコト

(1) 清と地方官と、交渉事務及立

場日本臣民に対する警察及裁判

事務、等々軍事、昇格等、外

務、領事、おき之に担任スルコト

(4) 外交領事、交渉、領事

、おき之に當ルコト

(5) 地方衛生事務、領事、主裁

MT

及清心地方友協同シテ之ニ任ルコト

(二) 軍政上、設備整頓ニシテ永久ニ亘

ルモノハ豫メ決断ト協議スルコト

その他、事項ハ必要ニ應ジ定ムルコト

十六 右、細目ニ付テハ實地調査、上多

ク重要更ニ要スルコトアルヘク又此以外

ニ要スル要スルコトモ勿論アルヘシ如キ

ハ派員協議、上適宜ニ交合スルコト

ト

MT

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

藏書：彙二件

MT

11242

00048

陽九旅次新

大興實業公司八軍政要區之分

蘇軾詩集卷之六

卷之七

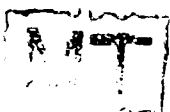
市
政
局

卷之六

福祿壽喜

況、レテ現、奉天、如、ル、城、内、ト、傳、を、指、向、
ニ、盜、賊、出、沒、日、々、人、之、レ、カ、禍、罹、ル、を、ア、リ、
ニ、夜、間、全、ク、通、リ、者、ナ、キ、且、様、リ、依、テ、奉、
天、將、軍、ハ、袁、世、凱、下、ニ、テ、新、式、兵、装、ヲ、
奉、天、ハ、社、賊、附、近、ノ、決、争、ヲ、維、持、ス、ル、ト、
ヲ、希、望、シ、其、他、地、方、ニ、モ、追、テ、北、洋、陳、軍、ヲ、
介、テ、奉、天、ヲ、

四、大、連、ヲ、テ、沿、岸、貨、物、校、驗、補、修、



帝國主義...大連...於...清國規則...遵
據...沿岸貿易稅...賦課...其結果曰一
種類商品...上海其他...清國地方ヨリ
来...曰稅ヲ賦課セ...帝國諸國ヨ
来...課稅セ...美國政府...之ヲ以テ
實際上商品ノ生産地ニ依リ其待遇ニ
平等ヲ設ケルモノトナシ且大連ニ於テ清國
沿岸貿易稅ヲ賦課スルハ大連ヲ清國領

石へかゝるやうに

1

二

武

10

五

7

日本以對：於其東部大東洋其他
其有地之強買セリ「抗議」提出セリ

(七) 施順：財產有之外國人居住

其スル件

開戦前より施順：財產有之者：今

後此地：後悔シ之：居住セントシ帝

者より而シ之：實滿和条約：依り帝國政

府：實滿和条約：依り帝國政

産権之ヲ尊重スルヲ以テ茲國
政府ニ帝ニ政府ニ於テ在系純ニ
人ノ旅順ニ復歸シ之ニ居住スル
トテ請求セリ

(ハ)營口道台赴任ニ關スル件

營口道台日清條約參議院ニ於テ
撤去以前ト在該條約確定後在清日
帝ニ建議ニ可成速ニ其

赴任ヲ許スルナリ居テ故ニ清國政府ハ
該案ヲ批准交換後例モナリ帝ニ政府
ニ對シ右交渉ヲ開始スルナリ

(九)新民廳奉天間輕便鐵道改築

ニ係ル件

新民廳奉天間軍用鐵道ニ日清條約
談判ノ際我ニ於テ之ヲ清國ニ賣却ス
ルコトヲ約シタルモナリ然レ右ノ輕便鐵道ハ

本邦内地に於て入用アリしる帝國主義の軌
道車輛ヲ本邦へ送還し之に代るは狹軌
鐵道ヲ築造スル事トシタリ清國政府之
ヲ以テ軍用狹道を却る約束ニ違反スル
事トシ之に對し抗議ヲ提出セリ（目下本國
道既ニ土工ヲ終り軌條ヲ敷設中ニ在リ居
ルト云）

(十) 木材廠ニ築スル件

陸軍木材廠。此等木材。係由上條、森

林、伐截。且其清玉人民。自其截伐。運至

本村。對。十本。以五市。廉價。買上

一本。義捐。于救用。之。近來清

國友民。苦。之。廢

之。代。每。之。完。徵。稅。

以。村。之。基。十。兩。合

日本。公司。協。定。成。立。セ。サ。ル。先。令。帝

MT

國庫空乏に於て自ら森林ヲ伐截し或は不当ノ
代價ニ以て民有木材ヲ買収スルハ中ハ甚シ
不法ナルトナシ之ヲ對シ抗議ヲナセルト同時
奉天將軍ハ本年地方ニ下シ去年四月
撤兵ニ終ヒタル木材運下ヲ禁セリ 若又袁
世凱ヨリハ清國木材商ニ於て既ニ五十万兩
ノ支出ニ日本商人ト合同会社ヲ組織ス
ル事ヲ以テタル旨來リ 日本商人ハ清國

希望する旨を小京政社に申出、以て社
より我方の照会に答へり

(五)人車鉄道に罪を許す

軍政署は奉天遼陽其他各處に於て人
車鉄道に敷設せらるる軌道中奉天城内
の對しては内地將軍の痛ク反對の情
勢に對して其撤去を請求せり

(六)奉天省官吏の租稅徵收に罪を許す

通江子、於其支那、
此、於其支那、
美、
尚此外、
問題、

(十三) 遠河、
橋、
案、
件、

昨冬、
改築、
水、
馬、
前、
項、
鐵、
道、
橋、
案、
件、
水、
馬、
前、
項、
鐵、
道、
橋、
案、
件、

帆船平均四十餘尺、帆船下
海、係非常、困難、居、終
、領事團、問題、領事團、
、遼河、上下、二萬、千
隻、多、上、此、等、帆船、
、對、海、係、改造、被、道、橋、
、方、却、係、貴、少、ハ、ト、
、公、然、我、軍、以、有、係、
、求、

白明治廿九年十月
至同 年 月

プトナム、ウアールなる者我對韓政策を攻撃
する著書出版に關し在上海本達總領事
より報告一件

102

二七八

二〇五三

りハ幸

次ハ

ア

プトナム、ウエール、新著書、閑スル件

マンチエ、エント、マスコヴァイト (Manchu and

Mancourts) ノ著述以来東洋ノ事情ニ精

通セル年少記者トシテ頗ニ名聲ヲ博スルニ至リタ

ルプトナム、ウエール (Putnam Wells) 本名、

シンプソン (Simpson) 先般滿韓地方視察ノ

結果近日 The Present Position in Far

Eastern Politics ナル著書ヲ出版スル計画ニ

テ不取致本月三二日以後ノハース、ヤイナ、テリリー

ニス、紙上ニ韓王ニ関スル部分ヲ公致居ル處其論

調極メテ我々不利ナルモノアリ先ツ日韓協約ヲ以テ

我強迫ニ出テタルモノト云為シ次テ我對韓政策ヲ

以テ韓人ニ壓迫ヲ加ヘ外人ヲ遠ケ一ニ日本人ノ利
益増進ヲ因ルニアルモノト論定レ進テ財政整理ノ
不手際ニシテ新旧白銅貨ノ引換更ニ進捗セザルコ
ト外交顧問ノ軍ニ統監府ノ對外人雜務ニ從事シ
居ルニ過キサルト、郵便管理法不完全ニシテ外人ハ
重要ナル書類ヲ郵便ニ付セザルト、鑛業條例ハ
外人ノ企業ヲ妨グルノ規定ヲ有スルト等ヲ論議
シ其觀察極メテ偏頗ニシテ徹頭徹尾我々ノ
對韓政策ヲ抗擊スルニアルモノ、如クニ有之現ニ之
ヲ掲載セルコトナリニウスレモ別紙第四頁切抜
ノ如ク著書ノ觀察淺薄ニ失スルナキヤヲ批評シ
尚其ノ主筆「ベル」本日態々本官ヲ來訪シ「デー
リー」ニウスレト「ポスト」ニウスレト「從來ノ關係上

不得止本論ヲ掲載スルニ至リタルモ「デーリー」ニウスレ
ハ決シテ「アシタ」ジヤパニス、パーバーレニ変シタルモノニアラ
サルニ付誤解ナカラムコトヲ乞フ旨懇々并解ヲ試シ
タル程ニ有之苟モ日韓從來ノ關係并ニ我對韓経
営方針ノ公正ナルヲ熟知スルノ識者ハ元ヨリ本論
ヲ一笑ニ付スベキモ多数讀者中ニ「コトナム」ウエー
ルノ盛名ニ惑ビ感ハ之ヲ以テ事實ト推斷スルモノ甚
ナカラサルベク他日一卷ノ著書トシテ出版シ廣ク政
米ニ發賣セラル、ニ付テハ林玉ノ爲メ多少不利益ト
被考リテ余不取敢別紙切抜ハ矣考迄ニ及送附
レ官ハ閱讀有之方々仍ホ小官ノ熟知スル某米主
人ハ右ヲ以テ偏頗ノ觀察ナリトシ之ニ對スル并駁書
ヲ月新聞ニ授書スヘキ旨申居ル

右シンプソンニ是迄本邦ニ對シ願ル厚意ヲ有レ居
リタルニ拘ハラズ今固突然右ノ如キ著書ノ發刊ヲ試
ミントスルハ其眞意ヲ解スルニ苦シ候一其日人ノ性行ニ
ヲヲ熟ニ探聞スル所ニヨレハ日露戰事^中ノ如キ表面我
ニ厚意ヲ表シ裏面ニハ「ヤイナ」ガゼットニ主筆
オシメテシノー將軍等ト往復シ報酬ヲ得居リ
タル趣ニ有之又「ノースヤイナ」デリー、ニラス主筆、ベル
ス官ニ談ル所ニヨレハ「シンプソン」ハ別ニ定見ヲ有セサ
ル人物ニテ時々感觸ニ應ジ得意ノ能文ヲ弄スルニ
過キスト申居ル是等ハ今後日人ニ對スルニ於テ大ニ
注意スベキ矣ト思考致シ

右及報告ヲ教具

明治三十九年十一月三十日

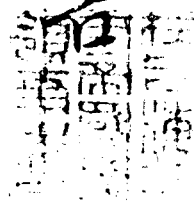
在上海

張領事

永瀧

久

吉



外務大臣子爵林董殿

同明

明治
二十
八年
二月
二十
日
發行

東京
伊藤氏
氏

林大
臣

下
小
山
氏
著
者

大
夫
氏

本
分
自

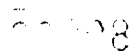
MT

11244

00008

MT

定年 係 向 防 居 訓



白明治
至同
年
月

至同年月

満洲における日清文書
関する対米問題

一、
大
平
議
一
五

四〇

上海中外日報記事：閩事

一月二十日發刊上海中外日報、振徐兩欽使隨行員某、滿列事情、閩事、演說等事、記掲載し、り全之、既、上海總領事、報告、有之、事ト存、然、右演說中、「奉天、外交、至難ナリト謂フベシ、交渉局アリト星氏日本領事」ハ之ヲ顧ミズレテ遂ニ「將軍」ニ照會ス、偶々交渉局ニ照會セシ、ラ以ラスレバ、吾レハ他領事ト異ナリ、總領事ナリト答ヘ又事冗ニシテ、即、西復ニ進ミ、日ヲ告レバ、吾レハ元ナル將軍ヲ、甚レ將軍」ハ、奉天一省ヲ管轄スル、

MT

11 45 00001

ナルモ五レハ月ノ上ニ黒ニ者ノ事ヲシ再管ス何
事ノ結果ナルヲ以テ辭トナスヲ得ト各フニ
有之ミ處有之各年十一月ノ交奉天將軍ハ
現交渉局結弁ル驛巡道名ヲ以テ外交官ト
ナレ本官ト交渉ハ一切同道名依リ之ヲ行ハント
致ミ事有之ミ處當時本官ハ將軍カ在リ方
法ヲ以テ必要ノ場合ニ責任ヲ逃避シ居ルハ固
然ラ遷延スル手段ニ供スルヲアラハシテ慮リ
付交渉局居ルハ驛巡道ナルモノハ將軍ハ一
分課ミテ獨立ノ責任官廳ニ派ル理由ノ下ニ
些末ナル事件ヲ除クノ外直接將軍トノ間ニ
ミ交渉スベキヲ主張致ミ處將軍ハ自己
ノ結果忙ナルヲシテ致ミ付居ル結果忙ナル故

ヲ以テ直接交渉スルヲ得バト謂フ。將軍、
奉天一省ヲ管轄スルニ比シテ本官ノ管轄スル区
域ハ吉、黑二省ヲ兼ヌルヲ以テ紛々忙ナルヲ至シ
甚シキ旨ヲ奉ヘタル事有之。各國領事モ亦
將軍カ其責任ヲ他ニ譲ルコトアリシヲ憂慮
シテ本官ノ措置ニ賛同シ同一歩調ヲ維持致
ス。右ノ結果將軍モ遂ニ直接交渉ノ事ニ同
意シ現今ニ於テ唯輕微ナル事件ニ限リ便宜
交渉局ニ交渉致居ヌ。右ノ爲念及具報置
ス。敬具

明治四十年二月二日

在奉天

總領事ヲ萩原守



外務大臣子爵林
董
毅

MT

11245

00004

二十一年十月廿二日接受

臺灣政府

生

機密第一九二號

交涉、對手者、閱之爭議、件

本件、閱之別紙、通、所部代理公
使、及具申置候、問、所查閱、相成度
此段申進候、敬具

明治四十年十月十一日

在奉天

總領事萩原守一

外務大臣伯爵林董收

月
名

2764

MT

11245

00005

与
北
往
松
卷
第
一
二
号
寫

交渉ノ對手者、關スル爭議ノ件

本件ニ關シ昨年来趙將軍トノ間ニ屢々
往復論議ヲ重ニ先方ニ於テハ總領事ハ
道台タル交渉總局總辦トノ間ニ一切ノ
交渉ヲナスベキモノトシテ條約及各地ニ於テ各
國領事ニ對スル慣例等ヲ援キテ頑強ニ
之ヲ主張シ本官ハ總領事ハ其地方ニ於テ
交渉ノ全責任ヲ有スルモノナル以上ハ交渉ノ
對手者タルベキモノハ其地方統轄上全部ノ
権能ト職責トヲ有スルモノタルヲサレバ
主張シ交渉總局ナルモノハ單ニ將軍聽ノ

別紙様参往中
四〇三〇、四一〇

一事、局ニ過ダス地方ノ最上長官ニ非ハルヲ以
テ普通此細ノ事件ハ便宜上之ト交渉
スルコト差支ナキモ重要ナル案件ハ直接將
軍ト交渉スルモナラハエトシテ論シ數回往復
論議ノ結果（別紙本年機密往來四〇号
信大臣宛参照）遂ニ趙將軍ハ我ニ出シ重
大ナル事件ハ將軍ト總領事ト、向ニ交
渉スルヤキ旨ヲ回答致来ル来此方針ニ依
リテ取扱来リ候處尙ホ替換看在當時
、就職照會ニ對シテモ同様ノ前例ヲ守リ
度旨照復致置候處先頃新官制
實施ト共ニ交渉總局ヲ廢シ交渉使司
ヲ設置シタルニ就テハ右設置通知ト共ニ回

後一切、交渉案件ハ該司トノ間ニ辦理
候様致度旨督撫ヨリ照會致趣候ニ付
之ニ對シ本官ハ便宜上ハ免ニ用正式、
照會交渉ハ督撫トノ間ニナスハ次第ニ
趙將軍時代ヨリ、往復文書等ニテ承知
相成度旨及回答置候處今更ニ別
紙写甲号ノ通り必要ノ場合ニハ督撫自
ラ總領事ト面談又ハ書信ニテ商議スル
不可ナキモ正式、照會ハ矢張り交渉司トノ
間ニ往復セラレタレト申越候ニ付本官ハ之ニ對
シ別紙写乙号ノ通り便宜上當館ト交渉
司トノ間ニ交渉ヲナスハ本官、否ツル處ナル
ミナラス交渉使、岡大均ノ地位ト名望トニ對

之欣幸ヤスル所ナルモ只對外ノ要義・於テ
當該全部ノ責任ヲ有スルモノト交渉スルヲ正
式トシ已ニ趙將軍時代ヨリ此要義ニ據リテ
相兼認シ此ヲ慣例トシテ取扱来居ルニ係ハ
ラス督撫ガ自己ノ便宜ヲ理由トシテ俄カニ
此慣例ヲ破ラントスルハ本官ノ同意ニ能ハサ
ル所ニシテ強テ之ヲ主張セラルニ於ケハ北京政
府ハ御上申ノ上我公使トノ間ニ商定ヒラル、
より外致方ナシト思考スル旨本日回答致置
候間多分_ニ之ヲ北京政府ハ移スコト、思料
致候尤モ前記ノ如ク一切ノ交渉ハ交渉司
ヲシテ辦理セシムベシト主張ヒサカウ實際ニ於
テハ重要ノ案件ハ矢張り先方ヨリ總督巡

撫連名ヲ以テ正式照會照覆ヲ致越事
實ニ於テハ我ノ主張ヲ容免居ル形有之候
得其免ニ角別紙写甲号先方ノ書面ヲ交
ケタル迄之ヲ放任シ置リハ主義ニ於テ然ル
ハカラカト認メ候ニ付乙号寫ノ如ク回答致
置候次第ニ有之候

本件ニ関シテハ當地駐在各國領事ハ大
体ニ於テ本官ニ習同シ略同様ノ方針ヲ
以テ取扱束候處今因岸天交渉司設置
ニ関スル督撫ノ照會ニ對シテハ主義トシテハ督
撫ハ交渉スルキヲ條件トシテ便宜上交渉
司ト交渉スルキ上ヨリ回答シ凡テ交渉司トノ
間ニ交渉致居候趣ニ有之候下併各國領

事ハ當地清國官憲トノ交渉ニ關シ著シキ
密切ナル利害關係ヲ有セザルニ及シ帝國總領
事ト清國官衙トノ關係ハ實ニ切實多大
ニシテ到底比較ニ得ハキニ非ズ各國領事
於テハ淺リ之ヲ論争スルノ必要有之間敷モ
我帝國總領事ハ直接督撫ヲ交渉ノ
相手トスルト交渉司ヲ相手トスルトノ得失ハ差
ハ實ニ容易ナラザルモノアリ現ニ交渉司トノ間ニ
屢々論議ヲ重ヌル遷延決セザルユトモ直接之
ヲ督撫トノ間ニ交渉シ一令ヲ發セシメテ即時ニ
之ヲ解決シタル實例モサテカラズ普通ノ例ト
シテ上官ノ下ニ在ルモノハ自己ノ地位ヲ保ツ必要
上諸事ニ小心ニシテ些細ノ事迄モ理論ヲ試

ミントス免カルベラサル所ニシテ當地ノ如キ
交渉案件繁多ニ地ニ在リテ重要事件
ヲモ交渉司ヲ相手トシテ交渉スルニ至ラバ
諸事遷延遲滞シ帝國ノ不利トナルモノ
實ニ側ルベカラサルモノ有之假ニ日本官ハ飽迄
モ之ヲ争ヒ智恵ヲ以テ交渉ノ相手ト致候
概希望致候又他ノ開港場ニ於ケル慣例
、如キハ滿洲ニ適用スルノ限リニ非ズ滿洲
於テハ全然特別ノ關係ヲ作り以テ我國權
利益ノ發展ニ資スル決心ヲ以テ多ク常規
ヲ逸スルモ稍主張シ得ル理由ノ存スル範圍
内ニ於テハ飽迄モ之ヲ主張シテ我利益ニ解決
シ度考ニ有之候

就右卿參考上若清國政府より本
件に關し何等交渉致越假處有之候に
本官所思貫徹致候様可照御取計
相成度此版及具申候敬具

明治四十年十月十日

在奉天

總領事萩原守一

在北京

臨時代理公使阿部守右郎殿

甲子

廷覆者昨准

貴總領事七七來文閱悉種切查設官
分職各有專司現既奉我國

大皇帝諭旨設立奉天交涉司使則一切外交事件

自應由該司辦理至於貴我邦交親密本

與貴總領事又素敦友誼如有事件或面譚

或函商均無不可若正式照會仍請

貴總領事與該司往來定為公便事此奉覆

即頌

等祺

奉天巡撫唐紹儀

大日本駐奉總領事官萩原守一所

乙字

敬復者頃准

來文內開現已設立奉天交涉司使則一切外交
事件自應由該司辦理駐本館大員與貴總領事
又素敦交誼如有事件或面譯或函商均無不
可若正式照會仍請與該司往來等因准此查
此事前經屢次照會聲明為彼此便且起見本
總領事館與交涉司往來交涉既獨本總領事
並不拒絕又視交涉司使陶官位名望為最所
欣重惟對外要義本應與在該處持有全部
責任者互相交涉方為正式在奉天前督趙在任
以來照此等義彼此承認久為慣例貴總領事
撫到任時亦經照西復在案則以貴總領事

圖自己便宜之故遽擬更改例案係本館奉
得雖同意如必欲固執不應與本館領事正或
照會祇得請

貴處稟商生員國政府與駐京我國公使商定可
也專此奉復敬頌

勸祺

小秋 余 寄一

十月十一日

徐制軍閣下
唐中丞閣下

MT

11245

00016

機密 二〇二號

交渉、對手者問題、関し卑見具
申、件

當地駐在領事、交渉、對手者ヲ督撫トスベキヤ
又ハ交渉司トスベキヤ、論争シ、関シテハ今年機密
中四〇号信ヲ以テ萩原前任総領事ヨリ報告相
成居又本件未決、結果自然其解決ヲ北京、校
スコト、可相成事情、立至リテ為ノ我主張固持
必要ナル次第、近頃更ニ萩原総領事ヨリ阿部
代理公使ハ具申、相成居テ本件、関スル本
官、卑見、別紙寫、通り阿部代理公使ハ関陳
致置テ、関ハ一関相成度此段中進テ敬具

外務省
止
24

11

11245

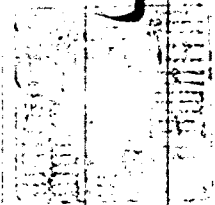
00017

明治四十年十一月十三日

在奉天

統領事 加藤本四郎

外務大臣伯爵林董殿



北往機密第一二二號
附屬

北往機密第一二四號

交涉ノ對手者問題ニ関シ卑見

具申ノ件

當地駐在各國領事官ノ交涉ノ對手トスベキ
清國官憲ニ関スル問題ハ昨年當館開館以
來前任萩原總領事ト趙將軍及現任督撫
ト間ニ屢ニ復論議ヲ重ネ清國側ニ於テハ
交渉司ヲ以テ對手者トスベキ旨ヲ主張シ萩
原總領事ハ督撫ヲ以テ對手者トスベキ旨ヲ
主張シ未ダ解決ニ至ラザル結果遂ニ本問題
ヲ北京ニ移シテ解決ヲ請フニ至ルハキ次第ニ
萩原總領事ヨリ北往機密第一二二號信

ヲ以テ詳細具申相成居候通りニ有之萩
原総領事ノ主張ハ滿洲ニ於ケル我態度トシ
テ最モ機宜ニ適シ又必要ノ主張トシテ本官ニ
於テモ勿論甚同感トスル所ニ有之候只本官
ノ頭ニ疑ヒナキ能ハサル所ハ本件ノ如キ至トシテ
形式上ニ関スル問題ヲ強テ論争スルガ為メ著シ
ク清國上下官吏ノ感情ヲ害スルコトノ果シテ得
策ナルハキヤ否ヤニ有之由未清國官民が往々
ニシテ實質ヨリモ形式ヲ顧念スルコトハ知レ渡リタ
ル事實ナルニ加ヘテ殊ニ近時對外硬態ノ勃發
セル今日ニ當リ強テ此等ノ風潮ニ逆ヒ徒ラニ形
式上ノ問題ノ為メ彼等ヲ屈セシメント試ムル果
シテ策ノ得タルモノナルヤ否ヤ頗ル疑問ニ有之候

帝國ノ政策上及利権上ニ於テ争フモノニ處ハ一
歩ヲリトモ譲ル處ナリ頑強ニ論争スルハ勿論ニ
有之候得共實利トハ強シキ關係ナク寧
ロ形式大ノ問題ニ過キサル事件ハ可成先方ノ希
望ヲ容レ彼等ハ後ラニ形式ヲ貴ブノ弱點ヲ利
用シテ其好感情ヲ誘起シ他ノ方面ニ於テ實利
ヲ獲得スルニ便ヤラシムルコト却ツテ策ノ得々モノ
ニアラスヤトモ思考被致候本件ニ就テハ督撫ニ
於テモ重大ナル案件ハ督撫自ラ直接交渉ノ任
ニ當ルハキ旨ヲ承認致シ且實際ニ於テハ已ニ我
要求ヲ容レ之ヲ實行致居候ニ付本官ハ此際
先方希望ノ如ク形式上ニ於テハ一切ノ交渉ハ交
渉司トノ間ニ往復交渉シ重要ノ案件ニ關シ

テハ何時タリトモ督撫ト直接交接スルコトニ先
方ノ要求ヲ認容スルヲ今日ノ機宜ニ適シタルモノ
カト相考候本問題ニ就テハ各國領事等ハ大
体ニ於テ清國側ノ希望ヲ容レ已ミ之ヲ實行
致店只日本總領事ノミ強テ之ヲ固執スルモノ
トシテ清國官吏側ノ力ニ其ミテ惡感情ヲ抱
キ店ヤニ相感シ候ニ付我利益ヲ損セザル範圍
内ニ於ケル兩國官民間ノ感情融和ノ一策ト
シテ卑見具陳致候閣下ニ於テ若シ左卑見
ニ御同意セラルハニ於テハ本件ノ解決ハ次ノ順序
ニ由リ度キ希望ニ有之候
一清國外務部ヨリ閣下宛公文ヲ以テ東三省
總督部下ニ該ケセラル交渉使ナル官職カ特

別モノニシテ其地位ハ他省ニ於ケル海關道ヨリ上
級ニ在リ專ラ外國人ニ關係アル事項ニ付交
渉事宜ヲ管理スルモノナルヲ以テ該官職ヲ總
領事ノ交渉ノ對手者トシテ認メラレ度キ旨
ヲ照會セシムルコト

一右照會ニ對シ交渉使ノ資格ヲ承認スル共ニ
重要ナル事件ニ關シ總領事ガ暫稱ト直接
交渉スル現状ヲ變更セラルハキコトヲ聲明スルノ照
覆ヲナスコト

右ハ當地ニ於テハ秋原前總領事ガ極力主張シ
タルコトヲ本官ニ於テ急ニ變更スルノ形ヲ避ケ國
下ト外務部トノ往復ニヨリテ事件ヲ結了スルノ
順序トシ度キ趣意ニ有立候間右御意ニ上

卑見可然御考量相成度此政中進候致具

明治四十年十一月十三日

在奉天

總領事加藤本四郎

臨時代理公使阿部守左郎殿

自明治十一年三月

回

家

後

又

至

一

月

廿

二

日

庚

子

至

同

年

一

月

廿

二

日

庚

子

年

一

月

廿

二

日露戰事役後之滿洲問題
政務局取調摘要

MT

11248

111111

機密



滿洲、界外諸問題概要

界外線延長問題

昨年新氏屯奉天省鐵道ヲ清國ニ

賣却シタル當年清國側ニ於テハ或ハ

奉天新氏屯管區鐵道ニ運賃ヲ低

下シ或ハ遼河、北岸ニ於テハ管區信

車場、増築シ怡和致南滿鐵道ト

競争ヲ試ミントスルカ歟キ横標アリタ

ル変化次ニ玉清國ハ又ニ界外線

MT

11248

00001-1

ヲ新設セリ法庫門及東北に延長
セントスルヤノ状況アリシヲ以テ政府
昨年八月臨時法務使に訓令を發シ、
十二月、日清協約附屬令議決、規
定ニ基キ清國政府に對シ新設延長
長計畫ニシテ果シテ事實ナルニ於テハ
帝國政府に對シ之ヲ承認スルハ
サレ方、通先セシメテ之ヲ清國政府
に對シ承認スルハ新設延長に
對シ承認規定ニ違反セザル方、
分俄に規定ニ違反セザル方、

MT

11248 00002

シキリ且本年十一月ニ至リテ英國
 シンジケートト主事、清負契約ヲ締結
 シタルヲ以テ政府、法國政府、對シテ
 非遠、責メ、美、清、政府、於テ以上
 強ニ延長ヲ實行スルカ如キ、京都
 我利是ヲ保護スル為メ、自ラ通告
 ト認ムルモノ、如ク概ルヘキ旨ヲ通告シ、
 時、小村大使ヲシテ、美國政府、交渉セ
 レタル、英外務大臣、我主張、示留ナ
 、認メ、工事、諸員者、支持スヘキナ

省立情英園公使訓令を右、次第ナ
ルヲ以テ工事、請負者等、爲自、利
益、爲、權、運動スル所ナキヲ保セザル
モ、結局本件、實行ニ至ルコトナキモ
ト見テ、支ナカレシ

鴨緑江森林問題

二十八年十二月、北京協約、於テ、清國
國政府、鴨緑江右岸、森林採伐、
爲、日清合資材木會社、設立スルコトヲ
決定セルヲ以テ、一昨年、北京ニ於テ、我

MT

11248 00004

駐清公使、清國政府、意、本件、
界、高、識、重、示、事、の、次、著、ナル、案、第
高、結果、波、我、西、國、以、付、主、見、に、お
遠、大、作、伐、木、に、域、一、點、止、マ、ン、に、至、レ
リ、即、チ、帝、國、以、付、當、初、主、張、ヲ
讓、鴨、綠、江、本、流、に、着、キ、帽、兒、山、以、
奥、又、左、支、流、に、渾、江、に、着、リ、テ、通、化、
以、奥、に、以、テ、伐、木、に、域、ト、ナ、ス、コ、ト、ヲ、提、議、シ、タ
ル、モ、清、國、以、付、渾、江、に、着、ク、之、ヲ、徐、去、
ス、ル、に、シ、テ、鴨、綠、江、本、流、に、着、テ、モ、帽、兒、山、

予、冀中軍、旧区に沿、幅六十海里
以、其域、ミナ、許サシコトヲ主張セリ在
六十海里以内、地方、既、良森林ヲ伐
採、其盡セ、前所大部分ヲ占ムル、依
以、府、是、非、者、者、者、伐木区域ヲ擴
張セシムル、必要、ト認メ、属、次、次、次、
重、ヨルモ、清國、ノ、頼、トシテ、担、セ、タ、政府、ハ
清國、以、府、ノ、爲、シ、本、件、ノ、首、者、スル
マテ、木材、廠、ノ、事業、ヲ、継、續、スル、外、ナ、キ
コトヲ、新、明、シ、同、廠、ノ、引、續、キ、自、ノ、事業



11248 00006

ヲ施行シツアリ

間島問題

間島、清邦何ニ属スヤ、久シク西
國方、懸案ナリシカ、昨春十月拂
國山村、以地主住拂氏、生原財
産ヲ保護スル為市—國官廳、内地
派駐ヲ請求シ、事ラシテ、山村境界
問題、近ニ審査上確定スルコトニ不
和、拂國山村、実行—
近ニ拂氏保護、目的ヲ以テ陸軍

MT

11248

000072

中江府康平次市、シテ陸奥村名及
実吾村十名、市同シ昨年八月二
十日、以テ此地ニ寄生セシ龍井村、
岩村源兵衛、市役セシメテ、爾年清
國政府ニ呈滿江カ清韓、雲、境
界、
クハニ 於ナキ所ナルヲ以テ、直ニ、
セシメ 撤田セシメ、トテ求メ、我方ニ之ヲ反駁シ、
島、市所、清國ノ云フカ、ハ 然ルニ、
モ、ニ アラサハ、シ 以テ、ハ 境界、
ハ 現狀ヲ維持ス、外ナキ、
ハ 互ニ、
ハ 現狀ヲ維持ス、外ナキ、

若し何時に清と側、協定ヲ
支那政府に協定ナシモ、
リオン、協定ト調査、上我方針ヲ
決定シ清と交渉、以テ本問題、研
究ニ順序トナリ居レリ

安奉鐵道沿線礦山採掘權問題

戦時中、本年即チシテ清國人ト協定契
約、結。安奉鐵道沿線附近
に於テ、礦業權、協定シタルヲ以テ
以テ地方に諸種礦物、產出アルヲ以テ

易去、於、或、之、後、已、或、分、權
 利、之、後、及、將、事、以、清、人、合、同、
 上、演、業、之、望、マ、ント、ス、ン、モ、ノ、等、一、律、
 之、網、羅、ス、ル、目、的、ヲ、以、テ、昨、夏、奉、天
 總、領、事、ヲ、以、テ、地、權、接、對、シ、交、涉
 之、事、始、セ、シ、メ、安、奉、鉄、道、沿、線、に、於、テ、
 瀕、山、探、掘、ノ、日、清、合、同、事、業、ト、
 シ、合、同、方、法、ト、大、体、直、轄、省、に、於、テ、
 鐵、炭、坑、ノ、自、身、義、人、ト、清、國、人、ト、合、同
 事、業、ノ、例、に、按、ン、コ、ト、シ、テ、方、議、ヲ、進、シ

一時、強ト於此、近キルル形勢アリ
シモ、偶々清國側ヲ南滿洲決断シテ
跳ニ於ケル、渡山ヲモ候、協定中ニ
ハ、政府ヲ主張シタル為ニ、我方既得、
接順煙台兩炭坑ヲモ含ムニ、即
底之ニ應ジ、在リ、以テ我方ヲモ含ム、都
明ニ言フ、本年本件、光榮案、所
尤ニ大任、高議ニ據リ、此ニ付、本即
人、既、箇、渡山付大任、在、協定案
道、今、向、契約、為ニ、アリ



11248

00011

東洋列強鹽問題

趙爾巽カ奉天將軍ナリシ時代、於
テ滿洲ニ於テ鹽ノ販賣ニ界シテ
相シテ存立スル所ナリシ鹽票、有
スル鹽スラ、本邦人、販賣シ得ル之ヲ
沒收シ、僅ナリシカ、徐世昌、任
官トナルニ至リテ、之ヲ還付シ、
然ルニ解決、未ダ、將來、東
州ニ産鹽、販賣、付テ、對接、我
ニ交渉スル所アリ、是ニ清國ニ條約上

鹽、輸入、禁止、度、以、清、國、側、に、見、
る、果、東、海、に、外、國、に、見、依、る、に、於、て、内、海、
產、鹽、に、奉、天、省、に、入、り、得、る、去、し、た、に、之、
に、内、國、に、見、依、る、に、於、て、清、王、最、初、に、主、
張、り、外、海、に、鹽、國、管、理、權、に、清、王、與、へ、
上、海、内、產、鹽、に、海、外、輸、出、を、禁、せ、さ、し、た、試、み、
を、其、國、に、我、の、同、意、を、法、ハ、サ、ル、所、ナ、ル、カ、故、
に、少、内、に、於、て、我、統、治、權、を、完、全、に、保、持、
シ、つ、て、全、產、鹽、に、滿、洲、内、地、に、輸、入、セ、ン、ト、
セ、い、清、王、に、シ、テ、お、當、り、代、償、を、得、セ、レ、ム、ハ、
ユ、ト、シ、テ、何、等、カ、償、法、を、協、定、セ、サ、ル、ハ、カ、ウ、サ、

ハ、條理、正ニ於テ一キ所ナリ是ヲ以テ改付
ニ於テハ考慮、未嘗東州産鹽二十
萬石清石ヲ限、毎年東三省ニ輸入シ
得んコト、之每一清石、付岸天浪四圓
五拾兩、稅ヲ納シ之内ハ國ニ奉天
法領事ヲ經テ昇東都督府ニ拂
度スコト、スルコト、由漢ヲ昇係官廳百
ニ渡メ此類者ヲ以テ法督巡撫ニ申
入レタルモ對換ニ之ニ應テス寧ニ一定
ノ量ヲ限リ生産地ニ於テ一石三元ノ割

ニテ買收スルコト、案、提心キ然ニ、我
 鹽ヲ賣ル、於テハ、位、年、果、東、外、産、鹽
 一石、五圓、五拾、少、ニ、買、上、テ、ツ、アル、コト
 其、一、石、三圓、取、相、ム、ル、ト、キ、果、東、少
 ヲリ、鹽、供、於、ヲ、得、ル、能、ハ、サ、ン、國、産、鹽
 過、ム、ヘ、シ、ト、コト、ナ、ル、ヲ、以、テ、本、問、題、ノ、解、決
 法、ニ、付、タ、同、下、留、考、亮、中、ヲ、但、ニ、滿
 洲、於、テ、清、國、官、憲、ノ、前、陳、ル、ル、存
 件、ニ、果、ス、ル、文、涉、不、始、ハ、本、部、テ
 塩、橋、ノ、及、販、賣、ニ、果、ス、ル、理、論、上、ノ、主

張ノ教育実力
州產鹽ノ事實、於テ滿洲内地產
ト同標、取扱ヒタルト加フルニ目下果東
少、産鹽ノ為ガ額、止マルヲ以テ事件
ニ對ス、解決ノ必要ナシ

熊岳撤漁業問題

昨年五月中滿洲熊岳城附近海
域ニ於テ、内地漁船、際シ大連水產
組合、一校團ヲ界東ガ漁業團ヨリ
漁船保護、汽船ヲ送り漁民ヲ保

MT

11248

00016

原料ヲ徴せし爲に紛援ヲ起し清國
官憲ヲ在り動止方該取し來
りし以て以て都府村令に在り
動止方該取し來りて於て
中、果ては善後案分、決之將身
紛議、此れ爲に我強領事ト、總
對巡撫ト、官、高議ヲ進め、清國
側、於て果ては少主位清國人、對シ
滿洲沿海、於て漁業ヲ爲ス、權ヲ認
めんコト、ナリ之ト、日、清國官憲、定

MT

11248

50017

公證材料、ハムルト并ニ彼共
偽造材料、假放、目的トセル私圖、
設、ハムルト等、内、譲渡、リ、
陸、西、村、等、ハ、事、得、ヘ、ク、
本、即、人、ハ、對、シ、モ、
モ、シ、メ、ン、コ、ト、ラ、
清、王、官、憲、ト、交、涉、
年、キ、ツ、ア、リ、

電信問題

芝罘旅順、青島、威海衛、并、
道、江、沿、海、信、諸、局、經、
滿、洲、鐵、路、
北、京、局、

議、陳清士側に於て奉天省內ノ電
信專電ノ界に種々在り、提記
シタル、依り種々、題々之ヲ後日、
協定、陳ハコト、ナシカシ、又、千九
百十七月、頃清土政府ノ要ヲ派
出シ親シ、協定方、提議シ、我
方、於テモ亦之ニ應シ、一旦交渉ヲ開始シ、
ルモ彼我意見隔絶、為談判不調
トナレリ、漢ノ外、四十一年二月、清土
會社協定、而、英「ドレーディング」ニ記載

「僕」は清電任條約案ヲ駐法公使ニ
内示ヤリ「内案」清公政府ノ内意ニ左
ナカレモ「得」ハ「重要」點ニ「是」
果「振」順百電任「清」公并「方法」并
「滿」洲「於」テ電任取「扱」付「ロヤ」チ
「支」拂「ヲ」要求セ「ル」コト「滿」洲「道」治
「清」電任局中「行」車「變」地「外」ニ「アル」モ
「撤」退「ヲ」要求セルコト「是」ナリ「爾」來
「日」案「ヲ」呈「送」トシ「駐」法「公」使「ト」ドレ「ー」ビ「ン」
「グ」ノ「旨」ニ「文」涉「ヲ」進「メ」タ「ル」結果「甚」果

旅順間、海底電線之合界トナシ
其果、於之我電信局、官報及和文
電報、ミラ、取扱フコト、ロヤルテ、
メチザ類、止ムルコト、決意付、
外、電信局中、鐵山領、天津、
營口等、市場、在ルモ、之ヲ、
スルコト、協議果、整、
方針、在、里斯本、於之、
便合儀、公席、
至、細目、協定セシムルコト、決シタリ

日清邦交問題

北東山海界、帝王邦交、
各國、標清、
輸送、
外法道、
應、
物、
新、
海、
宣、

MT

11248 00022

海軍子官并、釜口山海界一考料
全、支拂、ツニアラサレ輸送之役、手旨
越道當る、我界係部便局、
通告、ニ耳、更、ニ月、ニ百、ニ玉、ニ清、ニ玉
月、ニ玉、ニ越、ニ依、ニ輸、ニ送、ニ玉、ニ部、ニ便、ニ物
ニ法、ニ同、ニ部、ニ便、ニ局、ニ手、ニ証、ニサ、ニル、ニカ、ニサ、ニル、ニ旨
通告、ニ耳、ニ南、ニ年、ニ日、ニ清、ニ向、ニ横、ニ上、ニ文
海、ニス、ニル、ニリ、ニカ、ニテ、ニ結、ニ束、ニ規、ニ計、ニ日、ニ清
部、ニ便、ニ協、ニ約、ニ改、ニ正、ニス、ニコ、ニト、ニ之、ニ其、ニ近、ニ北、ニ京
帝、ニ天、ニ官、ニ奉、ニ天、ニ溝、ニ船、ニ子、ニ官、ニ令、ニ々、ニ清、ニ國、ニ局、ニ

往送スルコト、シテ北京、恒春通リ
我邦便ルニ於テ直接通送ヲ為シ得ル
コト、ナリタリ而シテ右邦便協約改正案
ニ付テ北京ニ於テ清國政府ト交渉
中、交渉前記、暫定規定、及滿
足ニ施シセラルルヲ以テ清國政府
ニ於テモ右件ヲ速決スルノ必要ナキヲ
以テ目下暫定規定ニ依リ邦便通送ヲ
實行シツ、アリ

MT

11248 00024

滿州：關外諸問題概要

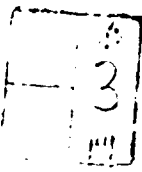
關外線延長問題

昨年新民屯奉天間鐵道ヲ清國ニ賣却シタル
以來清國側ニ於テハ奉天新民屯營口鉄

道ノ運賃ヲ低下シ或ハ遼河北岸ニ於ケル營

口停車場ヲ増築シ恰モ我南滿鐵道ト競

爭ヲ試ミントスルカ如キ模様アリタル也近頃



至リ清國ハ更ニ關外線ヲ新民屯ヨリ法軍門
父モ以北ニ延長セリト云ヤ、風説アリシヲ以テ政府ハ
昨年八月駐清公使ニ訓令シ、二十八年十二月、
日清協約附屬會議錄規定ニ基キ清國
政府ニ對シ新民線ノ延長計畫ミシテ果シテ
事實タルニ於テハ帝國政府ハ斷シテ之ヲ承認
スル能サル旨ヲ通告セシマリ、然レニ清國政府ハ我
等耳明ニ對シ新民線ノ延長ハ右會議錄規定

定ニ違反セサル旨ヲ回答シ来リ且昨年十一月ニ
至リ竊カニ英國シンジケートト工事請負契
約ヲ締結シタルヲ以テ政府ハ清國政府ニ對シテ
之ヲ非違ヲ責メ若シ清國政府ニ於テ此上
強テ延長ヲ實行スルカハキ不都合アラハ我我
利益ヲ保護スル爲メ自ラ適當ト認ムル手段
ヲ執ルヘキ旨ヲ通告シ同時ニ小村大使ヲシテ
英國政府ニ交渉セシメタルニ英外務大臣ハ

我主張ノ公當ナルヲ認メ工事請負者ヲ支
持スヘカラス旨在清英國公使ニ訓令セリ右
次第ナルヲ以テ工事請負者等ハ尚自己ノ
利益ヲ爲種々運動スル処ナキヲ保セサルモ結局
本件ハ實行ニ至ルトナキモノト見テ差支ナカル
ヘシ

鴨綠江森林問題

三十八年十二月ノ北京協約ニ於テ日清兩國政

府ハ鴨綠江右岸ノ森林採伐ノ爲日清合
同材木會社ヲ設立スルコトヲ約シタルヲ以テ一昨年
來北京ニ於テ我々駐清公使ヨリ清國政府ニ
對シ本件ニ關シ商議ヲ重ニ來リテ次第ナ
ル交渉結果彼我兩國政府ノ意見ノ相
違ハ大体伐木區域ノ一點ニ止ルニ至リ即チ
帝國政府ハ當初ノ主張ヲ譲リ鴨綠江本
流ニ在リテハ帽兒山以奥又モ支流タル渾江ニ

アリテハ通化以奥ヲ以テ伐木区域トナスヘキコトヲ提議
シタルモ清國政府ハ渾江悉ク之ヲ除去スルノミ
ナラス鴨綠江本流ニ在リテモ帽兒山ヨリ以奥大
中軍ニ同区ニ沿ヒ幅六十清里以内ノ区域ニ
テ許サントシテ主張ス右六十清里以内ノ地方
ハ既ニ良木林ヲ採代シ終ル箇所大部分
ヲトロムニ依リ以テ是非其相當ニ伐木区域
ヲ擴張セシムルハ要ト認メ屢次交渉ヲ重ヌルコト

清國ハ願ヒシテ志セズ依テ政府ハ清國政府ニ
對シ本件ノ落着ル迄木材廠ノ事業ヲ
繼續スル外ナキコトヲ聲明シ同廠ハ引續キ
自ラ事業ヲ施行シタリ

問 島 問題

問 嶋ノ清韓何レニ屬スルヤハ久シク兩國間ノ懸
案ナリシカ一昨年十一月韓國政府ハ全地ニ在
住韓民ノ生命財產ヲ保護スル爲帝國

官憲、同地派駐ヲ請求シ來リシヲ以テ、政
府ハ境界問題ハ追テ審査シ、確定スルコトニ
不取敢韓國政府、實行シタル例ヲ追ヒ韓民
保護ノ目的ヲ以テ陸軍中佐齋藤季次郎
ヲシテ隨員數名及憲兵數十名ヲ帶同シ昨
年八月二十日ヲ以テ同地ニ前往セシ、龍井村ニ統
監府派出所ヲ開設セシメタリ、尔來清國政
府ハ豆滿江カ清韓兩國ノ境界タルハ疑

ナキ処ナルヲ直ニ派出所ヲ撤回セシト
シホ、我方ハ之ヲ反駁シ間島ノ所屬ハ清
國ノ云フカメク明白ナルモノニアサルヲ以テ追テ境
界以論決定ニ至ル迄ハ互ニ現状ヲ維持スル、
外ナキ旨ヲ答ヘ同時ニ清國側ノ論拠ヲ徴
シ居タル処過般右論拠ナルモノヲ提出シ来
リタルニ依リ篤ト調査シ我方針ヲ決定シ清
國ト交渉以テ本問題ヲ解決スル順序トナリ

居し

安奉鐵道沿線鑛山採掘權問題

戰時中本邦人ニシテ清國人ト隨意契約シ

結ヒ安東縣奉天間鐵道沿線附近ニ於テ

鑛業權ヲ設ル之ニタルモ不尠同地方ニ諸種

鑛物ノ產出スルヲ以テ過去ニ於テ或ル手段ニ依

リ已ニ幾分ノ權利ヲ獲得スルモ及ビ將來日清

人合同ノ上鑛業ヲ經營スルモノ等ハ一律

ニ之ヲ網羅スル目的ヲ以テ昨夏奉天總領
事ヲシテ同地督撫ニ對シ交渉ヲ開始セシメ
安奉鐵道沿線ニ於ケル鞍山採掘ハ日
清人合同ノ事業トシ合同方法ハ大体直隸
省ニ於ケル臨城山ヲ坑（白耳義人ト法國人トノ
合同事業）ノ例ニ拠ルコトニシテ商議ヲ進メ一
時ハ殆ト終結ニ近ツキタル如キ形勢アリシモ偶
々清國側ヨリ南滿州鐵道沿線ニ於ケル鐵

山ヲモ談協商中ニ加ヘ度旨ヲ主張シタル所ノ
右ハ我方既得ノ撫順煙台兩炭坑ヲモ含
ムニ至リ到底之ニ志シ難キヲ以テ我方ヨリモ
方ヲ聲明シ禹來本件ハ尚懸念ホシ屬セ
リ尤モ大體ノ商議ハ禮ヲ居ルニ付本邦人既
ニ箇々鑛山ニ付大體右協定案ニ遵テ
合同ノ契約ヲ行シタリ

關東州製塩問題

趙再興カ奉天將軍タリシ時代ニ於テ滿州
ニ於ケル塩、販賣ニ関シテ極メテ嚴密ナル取
締ヲ有シ塩票ヲ有スル塩ヲ本邦人ノ取扱ニ
係ルモノ之ヲ沒收シタル程ナリカ徐世昌代リ
テ總督トナルニ至リテ之ヲ還附シタルヲ以テ當
時ノ懸案ハ解決ヲ告ケタルモ將來閩東州ニ
於テ塩ノ趣分ニ付テハ督撫ヨリ我ニ交渉スル
ヲ蓋シ清國ハ條約上ニ塩ノ輸出入ヲ禁止スル居ル

ヲ以テ清國側ヨリ見テ關東州ヲ外國ト見做スニ於
テ今州產塩ハ奉天省ニ入ルヲ得ス去レバテ之ヲ
内國ト見做スニ於テハ清國ノ最初ノ主張ハ州
内ノ塩田管理權ヲ清國ニ與ヘ且州内ノ產塩
ノ海外輸出ヲ杜絶セサルヘカラス此ノ如キハ固ヨリ我
同意スル能ハサル処ナカ故ニ州内ニ於テハ我統治
權ヲ完全ニ保持シテ之ニ產塩ヲ滿州内地ニ
輸入セントセハ清國ヲシテ相當ノ代償ヲ得セシムルコ

トシテ何等ノ便法ヲ協定セサルヘカラスルハ条理
ニシテ然ル可キ如ナリ是ヲ以テ政府ニ於テハ右ノ
末關東州ニ在リ塩二十万石ヲ限リ毎年東
ニ者ニ輸入シ得ルコトニ每一清石ニ付金銀
四圓五十錢ノ税ヲ納メシムルニ由テ二圓ハ奉天
總領事ヲ經テ關東都督府ニ払戻スト
ルコトノ内議ヲ關係官廳間ニ經テ此趣
旨ヲ以テ總督迄撫ニ申入シタルモ督撫ハ之ニ

たゞス寧口一定ノ量ヲ限リ生産地ニ於テ一石
三元ノ割ニテ買収スルノ案ヲ提出セリ然ルニ我
塩専賣局ニ於テハ從來關東州產塩ヲ一
石一圓五十錢ニテ買上ツアルニテ一石ニ四
ニ取極ムルハ關東州ヨリ塩ノ供給ヲ得ル能ハ
サル困難ニ遭遇スヘシトノコトナルヲ以テ本問題
ノ解決法ニ付テハ目下尚考究中ナリ但シ滿
州ニ於テハ清國官憲ハ前陳ノ如ク本件ニ関

元交渉開始以來却て塩ノ輸入又販賣ニ
関ス理論上主張ヲ嚴密ニ實行スルコトナリ関
東州產塩ハ事實ニ於テ滿州内地產ト同様
ニ取扱ヒ居ルト加ヘ目下關東州ノ產塩ハ
尚少額ニ止ラレテ才件ハ急速ニ解決必要
ナシ

熊岳城漁業問題

昨年五月中滿州熊岳城附近海面ニ於テ

同地漁期ニ際シ大連水産組合、一技團ナル
関東州漁業團ヨリ漁船保護設汽船ヲ
送り漁民ヨリ保護料ヲ徴セシ為ノ紛擾ヲ
起シ清國官憲ヨリ右行動差止方請求
シ来リシヲ以テ政府ハ都督府ニ命シ右行動
ヲ差止メシムルカモ後有テ天ニ訴テ本件ニ関ス
善後処分ヲ決シ将来ノ紛議ヲ避クニ為我總
領事ト總督迎撫トノ間ニ商議ヲ進メ終ニ

清國何_ニ於_テ 關東州在_ニ 清國人_ニ 對_シ 滿州
沿海_ニ 於_テ 漁業_ヲ あ_ラ 權_ヲ 認_ム こと_ハ ナ_リ 之
ト今時_ニ 清國官憲_ノ 定_ム 之_ル 釐_米 料_ヲ 納_ム ル
こと_ハ 乃_ニ 彼我_共 _ニ 保護料_ヲ 徵_收 _ス 目的_ハ セ_ル 私
國体_ノ 設_立 _ラ 認_ム サ_ル こと_ハ 等_ニ 内_ニ 議_經 _ケ タ_リ
右_ハ 本件_ハ 畧_ス 我目的_ヲ 達_ス こと_ハ 次_ニ 示_ス 所_{ナリ}
ト 貴政府_ハ 尚_モ 出_立 得_ハ こと_ハ 關東州在_ニ 留_本
邦人_ニ 對_シ _テ モ 右_ハ 漁業權_ヲ 附_與 セ_シ こと_ハ トラ

欲に右目的ヲ以テ今一たび清國官憲ト交渉ヲ
開キマシム

電信問題

芝罘旅順間海底電線并ニ滿州鐵道
沿線電信諸問題ハ北京會議、際清
國僑ニ於テ在天津省内、電信等ニ關シ種々難
問題ヲ提起シタルニ依リ複雑ヲ避ケテ是後
日、協定ニ讓ル事トナシ急遽ニ十九年六月

頃清國政府より委負し派遣し親しく協
定の方を提議し來り我方に於てモ亦是に心
を一旦交渉を開始するモ彼我意見隔絶
の爲に談判不調となり續て昨四十年二月に至り
清國電報總務局負つドレージンにハモ起
草し懸る日清条約案を駐清公使に内示
せり同案ハ清國政府の内意に甚きナルモノト
認めへりこゝに要點ハ此之四不協順間電

信日清合弁ノ方法并ニ滿州ニ於テ電信
取扱フ「ロヤルチー」ノ支払ヲ要求セルコト南滿
鐵道沿線電信局中停車場敷地外ニア
ルモノニ撤退ヲ要求セルコト是レナリ尔来同要求
ヲ基礎トシ駐清公使ト「ドレージ」ノ間ニ之ヲ
渉ヲ進メ結果之ヲ不遂順間ノ海底ニ電
線ハ之ヲ合弁トナシ之ヲ不ニ於テ我電信局
ハ官報及和文電報ノミナラ取扱フ「ロヤルチー」

ハ極メテ少額ニ止ムルヲ鐵道附屬地以外ノ電
信局中鐵山嶺奉天遼陽營口等市
場ニ在ルモノ之ヲ繼續スルヲ協議畧整ヒ兩
國政府ハ右方針ニ基キ里斯本ニ於テ
國郵便會議ニ出席スル兩國代表者
細目ヲ協定セラルルヲ決ス

曰清郵便問題

今様清國鐵道ニ拠リ郵便物ノ輸送ヲ有
シ又山海関營口間ハ關外鐵道當局ト
我當該郵便局間ニ一志ノ約束アリテ我郵
便局負ラシテ郵便物ノ輸送ヲ有サシメ來リ
ラシテ昨年新奉鐵道賣却以來モ亦在
天滿帮子間ニ今様輸送ヲ有シ來リシ処同
年十月六日ニ至リ突然奉天滿帮子間ニ
營口山海関間一筆料金ヲ支払ミアラサレハ

輸送し難キ旨鐵道当局より我關係郵便
局に通告し來り更に本月二十一日に至り清國ヨ
リ同國鐵道に依り輸送セル郵便物ハ凡そ同國
郵便局の手を経セル方通告し來り亦來
日清間：種々交渉セル処アリシカモ結果現行
日清郵便協約ヲ改訂スルトシ至迄北京奉
天間（奉天溝幫子間ヲ含ム）ハ清國局ニ托送スル
トシ煙台口北京間ハ從來通り我郵便局ニ

茲ニ直接遞送ヲ爲シ得ルトナリタリ而シテ右
郵便協約改正案ニ付テ北京ニ於テハ清國
政府ト交渉中ノ如前記ノ暫定規定ハ之
後満足ニ施行セラルルヲ清國政府ニ於テ
本件ノ解決ヲ急カス帝國政府ニ於テモ亦
強ク本件ヲ速決スル必要ナキ以テ目下暫
定規定ニ依リ郵便遞送ヲ實行シタリ

秘

換順炭坑件

MT

11248 00051

三

河
口

25

右對

河
南

河北

元 炭 鐵 煤 田 所 在 地 點 福 所 下 東 二 永

陵アリ祖室ノ墓域ニ属スルヲ以テ古來嚴ニ之ヲ封禁シテ開
堀ヲ許サルハマトナカリシモノナリ

(四)河南煤田ノ開掘着手ハ 光緒二十六年義和團ノ変乱ニ
乘リ露國兵ヲ滿洲ニ送リ盛ニ侵襲ヲ企テ鐵道ヲ敷設
スルニ至リ其沿線附近ニ於テ石炭ノ必要ヲ覺スルハ後來
清人ノ採掘ニ着手セリ及至開掘ノ煤田ヲ各所ニ探求シ
砂河子、煙台、瓦房店等ニ着手ヲ試ミ以テ撫順ノ開掘ヲ
為サントスルモ古來封禁ノ事情アルニ依リ其着手極困難
ナリレカ而テ之ニ對スル手段ヲ盡シ遙ニ王承恩、翁壽
ノ名義ヲ以テ各銀五百萬兩ヲ國家ニ報效シ河南ノ開掘
權ヲ得テ其封禁ヲ打開シ楊柏堡河東ハ翁壽ノ名下ニ
其河西ハ王承恩ノ名下ニ歸ステ着手ヲ見ルニ至リシト
是レ光緒二十七年九月ナリ

(一) 後村深河守、敏子、親重、親賢、王、子、女、心、下、河、

龍、蝦、岡、一、城、。、開、キ、ト、シ、親、重、子、女、心、下、河、

好、望、ニ、モ、非、ズ、後、村、深、河、守、子、女、心、下、河、

(二) 後、村、深、河、守、子、女、心、下、河、

地、ニ、シ、テ、總、テ、而、壽、ノ、親、重、子、女、心、下、河、

初、以、親、重、子、女、心、下、河、

テ、餘、リ、好、望、ニ、モ、非、ズ、後、村、深、河、守、子、女、心、下、河、

カ、リ、シ、テ、總、テ、而、壽、ノ、親、重、子、女、心、下、河、

會、ニ、モ、非、ズ、後、村、深、河、守、子、女、心、下、河、

ニ、シ、テ、總、テ、而、壽、ノ、親、重、子、女、心、下、河、

(ホ) 王、子、女、心、下、河、

創、業、継、承、(一) 親、重、子、女、心、下、河、

後、村、深、河、守、子、女、心、下、河、



ノ出炭ヲ見ル能ハス失禮ニ多クシテ前進ノ望ミカクシ等ノ事、
情ノ為メ紀國タル獨智ニ探採權地ノ境界紛争ヲ起スベ
計畧ヲ畫出シテ一六部議ヲ提起シタリ此紛争ハ元緒
二十七等年ニヨリ四五等年ニ及リタル後和解行ハレ楊柏堡河ヲ
以テ依然畧トナスニ決スルニノ如シ

(ハ)華興利公司ノ設置、河安ノ銅業名王承亮ハ前項ノ訴訟
其他事ニ業上ノ失禮ニ為メ當初資金欠乏シ漸ク不如意ト
ナリタリ茲ニ於テカ路清銀行ハ此機ヲ利用シテ出資六萬
兩ヲ為シ一種ノ株式會社組織ニシテ路清銀行ノ出資ハ其實
金ニ約セテ五萬兩ヲ三次に分テ納付スル由一此ニ始メテ其
實ニ於テハ金然チ路清合同ノ經營事業トナリ開辦當時ヨ
リ使用シタル事業與利權總公司ヤ各ノ下ニ甚河安ノ事業
ヲ繼續シタリ是今ノ所謂千金寨炭坑ナリ

帝日本軍憲ハ聲明シ置キタルニ何等應ス否ナキノミナラス同
三月七日ヨリ該公司ノ作業ハ禁止セラレ日本入小山田淑助ナル
者之ヲ占據シテ巡ニ作業シ居ルニ就テハ日清協約第四條ニ於
テ「現ニ占有セル清國ニ於テ各財產ハ撤兵ノ時ニ於テ悉ク清國
官民ニ引渡スヘシ」トノ規定ニ基キ速ニ右炭坑ヲ該日本人ヨリ
華興利公司ニ交還スル標取計ハし度旨公司ノ願出ニ基キ照
會アリ茲ニ於テ帝國政府ハ八月末ヲ以テ右清林石使ニ訓令ス
ルニ該炭坑ハ明治三十七年以來全ク露國人ノ經營ニ屬シ專
ラ東清鐵道ノ利便ノ爲メ採掘セラレ居タルモノニシテ従テ日露
議和条約第六條ニ所謂鐵道ノ利益ヲ爲メニ侵奪セラルル炭
坑トシテ當然帝國政府ノ有ニ歸シタルモノナル趣ヲ清國官憲
ニ照覆スヘキヲ以テ且ツ該炭坑ニ關スル清國人ノ權利ハ結局
全然之ヲ無視スルヲ能ハサルヤモ難計ニ付其節ニハ別ニ方法ヲ

設ケ其要求ヲ協定セシムル必要モアルハ石ハ清國政府ト
ノ交渉ノ成行ニ依リ更ニ註議ヲ遂クルトシ清國政府ニ對
シテハ兎ニ角一應前記ノ趣旨ニ依リ回答スルキ様附言セリ
越テ同年十月ニ至リ奉天將軍モ亦同文ヲ以テ千山台（撫順）
炭坑ノ採掘停止ヲ奉天秋厚總領事ニ申込ミ來シリ曰ク
千山台炭坑ハ本ト官有ナリシモ清國王承充等ノ計劃ニ依
リ華興利煤礦公司ノ名義ノ下ニ往年將軍廢ノ許可ヲ
得テ營業務ヲ開始シタルモノナルカ右公司ニ對シテハ露清銀行
ノ持株有リト雖モ事實ニ露清共同事業ニハ非ス殊ニ該持株
ヲ組入ルハ本ト北京外務部ノ允准ヲ經サルモノナリ從テ清
露間ノ契約ニ依リ兩國ノ合辦ニ屬スル他ノ礦山ト同視スルカ
ス然ルニ右炭坑ハ目下日本ノ占有採掘ニ歸シ居ルニ付滿洲
ニ關スル日清協約ニ依リ還付ヲ要スルキハ右ナリ殊ニ往年王義

聞知ヤし所ニ據ル王承業其極端ニ露清銀行カ已ニ全然
之ヲ同人ヨリ諒シ又ハ居テ露清銀行ハ露清銀行後右炭坑
カ日本政府ニ譲渡シタルヲ知リ其譲渡方ニ付テ露國
外務省ニ過リタル露清銀行ハ大蔵省ニ相談シ上賄僅
クシテ九十九萬圓ニ減額シ露清銀行ニ譲渡スルニ決シ最
早ヤ此様ニ決メタルニ露大蔵省ヨリ外務省ニ通知シ
タル文書外務省ヨリ存任ス

越テ来リタル日清銀行ハ露國外務省ハ露清銀行野大使
ニ云文ヲ致シテ曰ク貴國外務省ハ露清銀行野大使
清銀行ノ所有ニ係リ然レバ露清銀行ノ露清銀行理事
ポナロフニ譲リタル所ニ係リ然レバ露清銀行ハ日本政府ノ財產トシテ
滿鉄ニ移轉セラレタルモノナランカ明ニ露清銀行ニ微スルニ華
興利公司ノ代表者王承業ハ露清銀行ノ下炭坑ヲ要領ラ日

支線ハ同會社ノ私的施設ニ屬スルモノナルカ政同ノ之カ下渡ヲ
受度有我外國人私有財産整理委員長ニ對シ申請シ其
リハ依テ該委員會ニ於テハ種々審議ヲ遂ケタル末同十一月
ヲ以テ右申請ノ目的タル炭坑ハ東清鐵道ノ利益並ノ為メ採
掘セラレタルハ事一ツヘカラサル事實ニシテ又同礦ニ近長セラレタル
鐵路ハ東清鐵道ノ枝線タルハ亦一点ノ疑ナシ政ニ該鑛山及
鐵路ハポーワマス条約第六条第一項並ニ滿洲ニ附スル日清
条約第一條ニ基キ東清兩國政府ノ合意ヲ以テ日本帝國
政府ニ讓渡セラレタルモノニシテ此事事實タル已ニ確定不動ノモ
ノニ屬スルカ故ニ帝國政府ハ到底下度ノ請出ニ應ズン能ハレ
命該申請人ニ通達ニ及ヘリ、
然ル處本年三月中旬ニ至リ在露本野ニ使ヨリ撫順煤礦
公司ノ件ニ關シ其株主タル退隱陸軍大佐ロビノフ及「ハバロ

ラスク市一等商標圖台（元清國人ニシテ露國ニ帰化せし者）
兩人ヨリ該炭坑處分方ニ付一切ノ權利ヲ委任セラレタルコン
セイエ、デタ、アクチユエル、ラクロウモフナル者我田野通訳官ニ
對シ大要左ノ如キ談話ヲナシタル趣報告ニ接セリ、

撫順の煤礦公司ノ採掘ニ係ル炭坑ノ其初メ露清兩國人ニ
ヨリテ組織セラレタル株式會社撫順煤礦公司ナルモノカ光
緒二十七年（中國政府ヨリ借款ヲ得テ採掘シ居タルモ
ノニシテ後石煤公司總テルビ）及紀鳳台兩名ノ買収スル
所トナリ而シテ此西カニ右炭坑ヲ露清一九〇三年三月
露國極東森林會社ノ手先タリシ陸軍省ノ謀中佐「マ
ドリイド」ニ譲リ渡シ同中佐ノ更ニ同年七月ノ中「ヲ前記
森林會社」ニ譲リ渡シタルモノナルカ同會社ハ日露戰事後
即チ露國席一九〇六年七月ノ之ヲ米國人「スミス」ナル者ニ賣渡

已ニ三年間ノ期間ニ滿リタルニ拘ラス本森林會社及同會
社ノ議決人ハ其モ事案ニ着キヤサルノミナラス前記兩
名ノ何等ノ通知ナクシテ同會社ハ該炭坑ヲ本人ヲスミ
議決シタルモノナルカ故ニ一方前記三年間ノ期間滿リテ待
チ他方親屬タル目下露國政府ヲ對シ我政府ニ對スル賠償要
求事ノ停シ後着テ待テ該森林會社ニ對シ訴訟ヲ提起
セシム 計畫アリ而シテ此ノ點ニ對シ該炭坑ニ
關スル權利カ何レニ歸スルニ拘ラス右炭坑ハ決シテ露國政府カ
日本政府ニ讓リ得ルモノニ決ス又日本政府ハ隨意ニ處理し得
ルモノニ決スレテ全クポーツマス條約規定以外ノ炭坑アリト
見解ヨリ日本政府ニ對スル交渉方ヲ露國政府昨午九月ヲ
以テ露國外務省ハ發出居リ云々

露國政府ハ此モフカ以上ノ事情ヲ田野通談言ハ物語ルニ至リシ

萬一「スミス」等カ河等カノ手段ヲ以テ役令一日タリトモ炭坑採掘ニ
從事スルコトアラシニハ或ハ前頭ノ有權期間更ニ三年間延長セ
ラレシヲ恐レシニ出テタルモノニシテ之ヲ防クニハ日本人ニ依頼スルノ外
ナシト思考シタルニ依ルモノナリ、之ニ對シテ同通訳官ハ抑談炭坑ハ平
和条約ニ基キ帝國政府カ露國政府ヨリ讓受ケタルモノニ付日
本政府ノ許可ナクシテハ何人モ其採掘ニ從事スルヲ能ハス
又日本政府ハ未人「スミス」ニ之ヲ許可スルヲモナカルニキ命ヲ下シ
置キタル趣ナリ

(三) 稅率ニ關スル問題

抑モ北京會議錄ニ依リ奉天省內鐵道附屬鑛山ハ已開未
開ニ拘ラス平詳細ノ章程ヲ取極ムニキコトナリ、居リ又東
清鐵道續約第四條ニ依リ「鐵道會社ハ其採掘石炭斤數
ニ應ジ納金ヲナス」又右納金額ハ地方ノ稅額ニ超過スル

ナキヲトナリ居ルヲ以テ撫順炭坑ニ開シテモ亦右取極ノ必要
アルノミナラス過般北京ニ於テ憲報儀ミテ我在清公使ニ對シ
右ニ開シ開議ノ次第アリタル處在露本野大使ノ報告ニ依リハ
露國ニ於テ撫順炭坑回復ノ為メ隱密ニ種々ノ計畫ヲナスモ
ノアル趣ナルヲ以テ帝國政府ハ此際撫順炭坑（想台モ併セテ）
ニ關スル納稅額ヲ定メ開接ニ清國政府ニ對シ右炭坑ニ關スル
我權利ヲ確定シ他日露國側ヨリ何等ノ問題ヲ提起シ来ルモ
清國側ヨリ故障、来ルヘキ途ハ之ヲ杜絶シ置ク方得策ナリ
ト認メタリ然ル處前記ノ如ク我納付スヘキ金額ハ他人カ同地方ニ
於テ採掘スル石炭ニ對シ納付スル稅額以内ナルヘキヲトナリ居レ
ヲ以テ帝國政府ハ本年四月下旬ヨリ在奉天加藤總領事
ニ電訓シ同地方ニ於テ納付セル稅額ヲ調査セシメタル處清國
稅局ハ目下煙台、石炭、牛心台等ノ石炭ニ對シ出井稅ト

MT

11248 00071

レテ山元賣價而分五ノ坑ヲ課シ年々又本溪湖炭ノ賣價賣
價一噸五六圓ナルヲ納税ニ關シテハ三圓内外ノ見積リ其高價ハ
清國稅務吏ノ中心ニ趣テ右外礦ニ納メシテ一礦區(三十
礦界ニシテ一礦界ノ十畝ナリ)ニ對シ執照下附ニ際シ三十二年ニ
一期トシテ一百兩ヲ納税セシメ而毎年一礦區ニ付二十兩ノ納税ヲ徵ス
ル規定ナル旨置テ右ノ以テ目下南滿鐵道會社ヲシテ右稅
額等ニ關シ更ニ精査ニ役事ヲシメ居ル

尚ニ撫順炭礦ノ稅額ニ關シテハ本年四月下旬在牛莊領事
事務代理ヨリ清國海關稅章ニ依テ湖北安徽廣西及四川
炭輸出稅額及一礦區ノ稅額等ノ三ノ支分ノ規定
セルニ就テハ撫順炭礦ノ稅額等ノ三ノ支分ノ規定
ヲ入環略シテ三ノ支分ノ稅額等ノ三ノ支分ノ規定
難不其ノ以テハ右ノ稅額等ノ三ノ支分ノ規定

用スル様其助ノ文端方在請、殊ニ使ヘニミ、アリタルヲ以テ
五月下旬同ニ使ハニ文ヲ以テ、茲ニ稅務部ノ照會ニ及ヒタルニ
六月下旬ニ至リ、官部ハ其文面ニ照復シテ附ニ、釐金ノ稅額
ハ之ヲ以テ他ニ引換シテ例ニナスヲ得、且ツ鹽ノ稅額、酒ノ稅額、糖ノ稅額
ニ還セラルルナリ、糖ニハ更ニ別案ニシテ整理スルナリ、釐金ニ待
シタルカ同ニ便ニ於テ、釐金ノ問題ニ付テハ、釐金ノ手請スル、釐金
ノト爲シ此点ニ就テハ何等ノ論及ヲナスハ、釐金ノ稅率ニ關シ
テハ依然當面ノ主張ニ維持シテ其ニ入當ニ維持シ、釐金ノ稅率ニ關シモ
最モ接触到、釐金ノ稅率ニ關シテ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金
ヲ權ニ取リ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金
ヲ權ニ取リ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金ノ稅率ニ關シ、釐金



問島問題要領



11248 00074

間嶋問題要領

史ヲ按スルニ間嶋即豆満江左岸地方カ曾テ高麗ノ領
域タリシコト竝ニ六鎮時代ニ於テ該地方ノ土民ハ凡テ韓(國)
ノ現王朝(李朝)ニ内附シ居タルニトハ疑ヲ容セス
然ルニ愛親觀覽羅氏教化地方ニ起リ清朝ノ基ヲ開クヤ
西曆千五百九十八年以來其太祖太宗ハ該地方ヲ征服シ
其民ヲ俘虜トシ杜リテ悉ク之ヲ軍旅ニ編入シ之ヲ率テ
南征ニ一方ニ於テ清韓ノ其ニ該地ニ移住スルヲ禁シタル
為該地方ハ竟ニ無クシ境トナセリ

然レトモ當時臣服ノ目的共ニ其後ハ在リタルカ故ニ豆満
江ヲ以テ兩國ノ境界トシテ之ヲ分ケテ付テハ由他ノ考證ヲ要
ス之ヲ文献ニ徵スルニ要ス(大正六年)ノ清韓和
約中ニ兩國各別疆土守テ云々ノ語ハ斯ノ封疆ヲ明

示其後越境、兵匪ニ付諸韓西國間ニ交渉セシ事件多

ク、其境里、何シニヤリシヤハ、是亦文書ナシ、明記セス

後康熙帝、時ニ命、命、受、諸韓國境北方ヲ實測

シ、凡、併、入、ヤ、ル、シ、モ、ハ、南、文、皇、中、ニ、清、國、ハ、明、朝、ヲ、亡、ス、ニ、先、テ

朝、野、ト、戰、シ、テ、征、服、シ、其、際、兵、馬、ト、朝、野、ト、國、境、間、ニ、無、ク

地、帯、ヲ、置、ク、マ、リ、ニ、議、定、セ、リ、ト、明、記、シ、而、シ、テ、彼、レ、ヲ、作、制、衣、シ、タ、ル、地

圖、ニ、豆、滿、江、左、岸、黑、山、ノ、賦、ノ、以、テ、西、國、國、境、ト、ナ、セ、リ、然、ル、ニ、康、燕

帝、ハ、其、五、十、年、(一、七、五、二、一、年)、ノ、上、諭、ニ、於、テ、三、然、之、ヲ、否、認、シ、豆

滿、江、ヲ、以、テ、西、國、國、境、ト、斷、定、セ、リ

豆、滿、江、ヲ、以、テ、西、國、國、境、ト、斷、定、セ、リ、ト、明、記、セ、リ、一、八、五、八、年、ノ、上、諭、ヲ

以、テ、嘆、息、ト、ス、上、諭、ニ、曰、ク

朕、前、ニ、特、ニ、熊、耳、善、畫、ノ、人、ヲ、遣、シ、東、北、一、帶、ノ、山、川、地、里、ヲ

以、テ、度、ス、タ、一、度、數、ニ、推、算、シ、詳、ニ、繪、圖、ヲ、加、ヘ、テ、之、ヲ

性烏拉

視るに同じ(四) 此の如く、
拉多、東北、
係、
鳳、
界、
海、
三、
性、
烏、
拉、

MT

11243

00077

負給上ノ餘重、世々ハ氣腹ノ興也、斯ノ語ニ誤謬多
シ故ニ朝野賦感ニテ過惠多ク又章論誦人ハ至リ將伴
侯升尚書權、故シテハ世々ハ興ニ稱稱ス公穆ヲ稱
テ曰リ夫ノ西江ヲ境トスル女ヨリ已ニ定ナリ而シテ西江ノ源ハ白
頭山頂ノ澤ニホトリ出リ流シテハ上國ニ至リ其南ハ即チ崑
崙地ナリ又度嶺ヲスル所也、之ニ接シテ流シテ導キテ山巔
ニ至リ碑ヲ澤畔ニ立テ以テ界ト爲シ又山嶺邊域ヲ画キニ本ヲ
作為シハ皇帝ニ進ムハ本國ニ至リ以テ表契ト爲セリ、東ノ
方爲山ノ下ニ至リ我クテテ界ヲ越ヘテ本ヲ斫リ其山ヲ
一踏ニ入テ數下界ニ來候ニ及リテ爲テ界トセシニ公怒
辭囑所也、此方之ヲ爲メニ不問ニ置ナリ

斯ノ朝辭因ニ三ノ事ヲ宣然ナリ、一ハテ夫ノ界ノ事ヲ謝シ西國ノ
境界ハ茲ニ決定シ、二ハテ我クテ界ヲ越ヘテ本ヲ斫リ其山ヲ

々豆満江ノ上流ト云々
江ニ注キ居ル
因トナリ

康熙五十三年
年副都統街
ニ置キ驛站
流以南ニ之
ハ朝鮮國
所謂間
遊クルカ
リ康熙五
治報
スラ猶
奸民ノ

セハ要否度ヲ叙シ易カラント云ヘリ

爾來百六十七年間境界問題ハモリ起ラザリシカレテヨリ約三十年
前韓國北邊飢饉ノ為メ韓民ハ越ヘ間島ニ移住スルモノ少
ナカラス清國政府ハ始メ之ヲ知ラザリシガ光緒七年自ラ該地方
ノ開墾ニ着手セントスルニ至リ圖ラヌモノ多數ノ韓人移住セルヲ
發見シ既往ノ事ハ之ヲ知ラザルモ既ニ中國ニ種スレハ即チ中國
ノ民タリ須ク我政教ニ導キ我冠服ニ易ヘシムシトテ此等越
墾ノ韓民ヲ悉ク清國ノ制度ニ服セシメントセリ朝鮮國王ハ之
ヲ聞キテ大ニ憂慮シ彼等ヲ清國人トシテ取扱フコトノ代リニ皆
韓國ハ刷還セシメトテ請ヒ清國ハ之ヲ容シテ刷還ニ着手セリ
然ルニ韓國人自ラハ刷還ヲ好マス密ニ人ヲ漁シテ長白山ニ至リ定界
碑ヲ實査シ茲ニエ門豆滿別物論ヲ提唱シ鐘城府使ハ北
徑略使魚允中ノ内意ヲ承ケ教化知縣ニ照會シテ同論ヲ主張

セリ是は近時間島問題ノ濫觴ナリ清國ハ固ヨリ之ニ同意セス其
極光緒十一年ノ勘界トナリタハモ西國委員各自説ヲ固持シ安
協ニ至ラス然レトモ韓國委員李重夏ハ土門豆滿別物説ノ到
底支持シ得ヘカウサルヲ覺リタルモノノサリ其秘密復命書ニ於
テ之ヲ言明シ翌年朝鮮國王ノ北洋大臣ニ與ヘタル回答ニモ土
門豆滿ヲ以テ一江ノ轉音トスルハ疆界略已ニ之ニ定マリ覆勘
ヲ煩スコトナシ惟談處ノ水源數ヶアリ云々ノ言アリ所謂間島
問題ハ茲ニ放棄セウシ翌十三年ノ勘界ニ於テハ單ニ豆滿江ノ
上流紅土石ニ水ニ付キテ爭論ヲ爲シタルニ過キス同年八月朝鮮
國王ノ咨入中「圖們江界址ハ已ニ前勘ヲ經タリ而シテ未タ明カラ
サルハ水源相背リカ爲メニテ唯水源ヲ考究スニ舊界ヲ申明スル
ノ一（中略）紅土水石ニ水ノ合流點以下ハ幸ニ既ニ勘定シ而シテ
其合流點以上紅土石ニ水源仍ホ未タ協議セス」云々ト茲ニ

至テ問題ノ範圍ハ極メテ狹小ニ限定セラレタリ

再後勘界問題ハ暫ク中絶シタルカ是ヨリ先キ清國政府ハ局子街ニ
招墾局ヲ設置シテ向島地方ニ行政ヲ施クト同時ニ極力清人ノ
移住ヲ墾ヲ奨励シ所在韓民ニ對シテハ易服薙髮ヲ強制シ
之ヲ肯セサルモノハ其耕地ヲ沒收セリ當時朝鮮國ハ弱小如何トモス
ル能ハサリシカ光緒二十年二十一年清國ハ我邦ト戰テ大敗シ同二十
六年義和團事變起リテ向島地方ハ一時露國ノ占領スル所
トナリタルヨリ朝鮮モ清國ヲ恐ルルモ昔日ノ如クナラス問島ノ韓民
亦保護ヲ乞フコト屢々ナリシカ故ニ二十八年(明治三十五年)李範允
ヲ視察員トシテ同地ニ派遣シ翌年管理ニ任命シ向島ニ於ケル
韓民保護ヲ為メ差遣スルモノナルコトヲ在京城清國公使ニ照會
セリ清國公使ハ直ニ之ニ抗議シ李範允ノ撤回ヲ求メタルモ韓國
政府之ニ應セズ李子モ亦自ラ官ヲ設ケ兵ヲ練リ之ニ活動ヲ試

清國政府ハ在京城公使ヲシテ累次李ノ撤回ヲ求
メシメ其旨終ニ明治三十七年六月ニ至リ清韓西國文界官
ハ善後章程(各照トシテ後ニ附記セリ)ヲ議定シ李ヲ召還
スルコトナレリ

是ヨリ先キ駐韓公使ハ五月中日韓國政府ニ對シ間島地方
勘界ノ要ハ日露文野中事實上不可能ナルノミナラス清
國ノ韓國ニ對スル主權ハ如何ニシテ見ルモ清國ハ到底容易
ニ韓國ノ主張ヲ容レザルコトヲ以テ卒口事件ハ日露戦局
收メテ待テ帝國政府ニ對シ如何ニ決メテ之ヲ解決スルノ便宜ナ
ルヲ旨ニ勅令ヲ發シ韓政府ニ對シ如何ニ應答スルコトヲ以テ帝國政府ハ
七月四日ヨリ韓政府ニ對シ如何ニ應答スルコトヲ以テ韓政府ハ
府ハ照會スルコトヲ以テ且其旨ヲ發シ韓政府ニ對シ如何ニ應答スルコトヲ以テ
及兵韓ニ對シ如何ニ應答スルコトヲ以テ且其旨ヲ發シ韓政府ニ對シ如何ニ應答スルコトヲ以テ

MT

11248 00085

官憲へ嚴訓セムトシ又海セルメタル清國政府ニ於テモ我カ意
見ニ同意ヲ表シ在朝清國ハ使並ニ吉林將軍ニ對シ夫々電
訓スル所アリタリ然ルニ明治三十九年十月ニ至リ韓國政府ハ
同地在住韓民保護ノ爲メ帝國官憲ノ派駐ヲ請求シ来リシ
ヲ以テ政府ハ境界問題ハ暫ク之ヲ他日ノ查敷ニ譲リ不取敢韓
國政府ノ嘗テ實行シタル例ヲ逐々陸軍中佐(現今大佐)齋
藤季治郎ヲシテ隨員數名憲兵數十名ヲ帶同シ昨年
八月二十日ヲ以テ同地ニ出張セシメ龍井村ニ統監府派出所ヲ開設
シテ韓民ノ保護ニ任セシメ右ノ趣ヲ清國政府へ聲明セリ然ル
ニ清國政府ハ同ニ曾強硬ナル抗議ヲ提出シ且滿江カ清韓
ノ國境タルハ一懸ノ疑ナキヲ以テ之ヲ基礎トシテ特ニ員ヲ派シ境
界ノ劃定ニ後ツヘク統監府派出所ハ直ニ之カ撤退ヲ要求
スル旨申出テタルヲ以テ十月中旬我ヨリ之ニ對シ派出所ノ設置

ハ軍ニ韓國政府ノ後來取りまリタハ例ニ倣ヒタルモノナルコト及
豆滿江岸地方即チ韓國人ノ所謂向島地方ハ其所属タシク
清韓兩國ノ懸案トナリ居タルモノナルコト並ニ韓國政府ノ主張
ニ據ル清韓ノ國境ハ長白山脈中白頭山ハ水嶺上定界
碑(康熙五十年清韓兩國委員ノ立會建議シタルモノ)附近ニ發
源スル土門江ニシテ豆滿江國境説ハ帝國政府ノ首肯スル能ハ
サル處ナルコト答テタル清國政府ハ同年十二月二十七日及本
年一月四日ヲ以テ再ヒ我カ論據ヲ敷敷シタルモノ依テ帝國政
府ハ五月十日之ニ對スル反駁ノ公文ヲ外務部ニ致シタル處七月
二日ニ至リ清國政府ハ更ニ詳細我カ主張ヲ論難シタル長文
ノ照會ヲ寄セ彼ノ土門江國境ハ豆滿江皆同一江流ニシテ清韓
ノ國境ヲ成スモノナルヲ以テ先緒十三日會勘ノ際未決定ナ
リシ石ハ紅土ノ二水ニ合ヒ調査者ハ越テ照覆セリ(右ニ對シテ

「帝國政府ハ不日回答ヲ發スル筈」

今本問題ニ關スル日清兩國政府主張ノ要點ヲ對照列舉スル

ハ之略左ノ如シ

(一) 定界碑 (康熙五十二年設立) ノ價值

帝國政府ノ主張

清國政府ノ主張

穆克登碑文ニ特ニ分界ノ文字

該碑ニ元來分界ノ文字ナシ定界

ヲ明記セスト勿之ヲ建碑ノ緣由其

碑ナリト斷スルヲ得ス

他諸般ノ証憑ニ徴スルニ定碑ヲ定界

石タルコトハ毫モ疑ヲ容ルヘカラス

(二) 碑文ノ鮮親 (土門江ノ實係)

帝國政府ノ主張

清國政府ノ主張

清韓ノ國境ハ白頭山上ノ碑ニ起

源ニ海入ルノ大川ヲ取リテ接壤西

點トシテ其東西ニ殺原ニ二水通

リ天然ノ限界ト為スル宇内一般

依リ之ヲ確定スベキモノニシテ西ハ勿論
鴨綠江タリト雖東リ決シテ豆滿
江ニ非ス實際ノ踏査ニ依ルニ碑文
ニ適合スル一水別ニ存ス是レ即チ
韓國ノ所謂土門江ナリ之ニ及ビ該碑
ヨリ距離遠隔ナル豆滿江ニ標準
ヲ求メトスルトキハ碑ト江源トノ間ニ
仍境界不明ノ地ヲ殘シ該碑ハ
殆ニト定界ノ意義ヲ失フべし

(三) 光緒十二年及十三年勘界ノ効力

帝國政府ノ主張

碑文ニ掲グ土門江カ豆滿江ト別水
タルトハ已ニ光緒十二年會勘ノ時ニ

例タリ紋ノ古今圖典ニ載スル如
ノ圖門土門豆滿ノ三江ハ即后
一ニ流ヲ指スモノニシテ康熙五十
年九月ノ上諭光緒八年八月
附朝鮮國王ノ公文並ニ同十二年
李重夏ノ會勘圖等ハ之ヲ論
シテ余リアリカスニ豆滿江ハ東ニ
在リ鴨綠江ハ西ニ在リ事實正
ニ碑文中ノ語ト符合セリ

清國政府ノ主張

光緒八年八月廿三日附韓國王ヨリ
禮部宛ノ公文中ニハ「西國ノ境素

當り韓國委員ノ主張シタル處ナリ
而モ兩國強弱ノ勢異リシヨリ韓
國側ハ常ニ清國ノ壓迫ヲ感シ光
緒十三年會勘ノ際ニ韓國委員
ハ紅土石ニ水合流以下ノ地ニ付テハ
豆嶺ニヨリ國境ヲ定ムコト同意
シタルカ如シト雖當時右ニ水合流以上
ノ地ニ付相爭フテ決セザリシカ爲境界
線全体ニ關シテハモ確定ノ成約ヲ
見ルニ至ラス畢竟十三年ノ會勘ナル
モノハ結局全部無効ニ切シナリ

ト天然ノ境界タル土門ハアリ古來
ト咸鏡平安トニハ屬ス云々ノ語
アリ是レ韓國カ久シク豆嶺ハヨ
國界ト認メタル有力ナル証憑タル
ノイナラヌ光緒十三年總理衙門ノ奏
文ニハ「兩國會勘ニ於テ決定ニ至
ラザリシ者ハ只茂山以上二百余清里
ノ圖門江水源地アルノ地トアリ又十三
年五月十八日附ヨリテ韓國勘界
委員李重夏カ清國委員秦
燾ニ送リタル照會文甲ニモ「紅土石
乙合流地點」等ハ悉皆踏査ヲ經
タリ、未決定ナルハ只右合流以上ノ西

光緒十四年以後兩國間史ニ復動
ヲ行フノ文涉アリシモ未タ之カ實

帝國政府ノ主張

(四) 光緒十一年以降同三十年ニ至ル文涉史並ニ善後章程ニ
對スル見解

江水源地ノ一ノ説アリ而シテ清國
委員ハ石乙水説ヲ固持シ韓國
委員ハ紅土水説ヲ主張シ彼此
之ニ依テ確執シタルニ過キス此事實
ハ韓國側ニ於テモ夙ニ承認セル如
クハ光緒十三年八月韓國王ヨ
リ北洋大臣ニ宛テタル咨文ニ徴シ
テ明カナリ

清國政府ノ主張

善後章程草案三條ニ徴シテ明カ
ナル如ク李範允ハ清國側ニテ之

行見ル及ハ其内光緒二十九年ニ
至リ韓國ハ李範允ヲ豆滿江北地方
ノ管理ニ任シ之ヲ清國ニ知照シタ
ルヨリ覆勘誤ノ再燃ヲ見タリ兩國近
年ノ交渉ヲ関スルニ白頭山碑ヲ
起點トスル東方一帯ノ境界ハ全
線仍ホ未確定ノ儘タムト明カニシ
テ光緒三十年ノ清韓善後章程
第一條ハ兩國界址カ白頭山上碑記
ノ証ス（キモノ）ト云フト同時ニ豆滿
江カ兩國ノ確定境界ト認メテ非
サルコトヲ示セリ
尚又同年六月二十二日駐韓許公使

ヲ承認セス故ニ設官ノ証トナスニ
足ラス此後再度踏査ノ議起リ
タルハ則年調査未決ノ問題ノ
一ニ係リ斯レテ碑石ヲ以テ起點
トセハ東方一帯カ境界未決定
ナリト謂フ能ハス、且善後章程
ニ境界已ニ明カナルモノハ豆滿江下
流地方ニシテ其上流地方ニ至テハ
尙兩國政府委員ヲ派シテ會
勘シ俟タサハ可ラス而カモ國境
ヲ越スヘカラス云々トアルヲ以テ毫モ
豆滿江ヲ以テ境界ト為ス可カラ
サルノ意義アルコトナレバ又許公使

カ韓國政府ニ發シタル照會文中ニ載スル清國外務部ノ電訓ニ駐京日使面稱、圖們江間島中韓文界、兩國互爭トアルハ即ケ右東方境界全線未確定ノ事態ヲ指シタルモノナリ

(五) 歴史より事實ニ關スル争點

帝國政府ノ主張

之ヲ歴史ニ徴スルニ豆滿江北ハ韓國發祥ノ地ニシテ膏テ同地方一帶ハ韓國ニ内附シタリシコトアリ、現ニ韓國人ノ遺跡豊富ニシテ其居住ハ遙ニ清國民ヨリモ早ク且其數

ノ公文中ニアル間島ノ名稱ハ原語ヲ引述シタルノハ境界問題ト關係ナシ

清國政府ノ主張

史ヲ按スルニ遠クハ元以前ヨリ近ク清朝ノ初ニ至ル迄間島地方ハ常に支那歷代ノ政權ニ服シタリ、清國初メテ興テヨリ豆滿江北ハ先ツ盡ク其版圖

本清國人ニ比シテ甚ク多シ、康熙
 年間仍ホ老爺嶺以南ニ清國卡
 倫(音所ノト)ノ設備ナリ此地方ハ
 實際清國統治ノ外ニ在リ又建
 碑後清國人カ豆滿江北沿岸ニ
 結合額田スルハ韓國ヨリ之ニ
 抗議シ清國之ヲ容シテ設舍田ヲ
 毀撤スル例アリ又江北地方ニハ
 光緒九年頃尚清國ノ地名ナリ
 シ事實アリ

(六) 結論

帝國政府ノ主張

ニ入リ、穆克登查邊ノ後清
 國ハ官兵ヲ派遣シ豆滿江北岸
 ニ此社ヲ設ケタリ、彼ノ江邊ニ
 居住ヲ禁シタルハ清國自ラ己
 禁ヲ重ニシタルモノニシテ韓國ノ
 權利ニ非ス、特ニ光緒九年前
 後ニ江北ノ地尚ホ支那ノ地名ナ
 シト云フニ至テハ最モ事實ニ相違
 セリ光緒八年韓國國王ヨリ禮部
 ニ照會セシ咨文中ニモ現ニ理
 春敦化等ノ地名アリ

清國政府ノ主張

前記ノ事實タルニ拘ラス清國政
府ニ於テ尚之ニ滿スセハトキハ
兩國ヨリ各負テ治シ實際ノ地理
ニ依リ碑東ニ發源スル水流ヲ尋
テ會同調査セシメ其結果ヲ俟テ
更ニ本問題ヲ商議スルコトニ定ムル
モ亦異議ナシ

清韓界務ニ付テハ清國政府
ハ光緒十三年勘界成案ニ據
照シ圖門江上流利開未タ査定
ヲ經サル石乙紅土ノ二源ヲ實地
踏査スルコトヲ續行シテ本件ヲ議
了セムコトヲ欲ス

(參照)

會議中韓邊界善後章程

重テ舊好ヲ修メカ爲メ清曆光緒三十年五月二日韓曆
光武八年六月十五日清國境界光霽峪ノ防經歴張
兆麒ノ官署ニ會シ信ヲ講ニ睦ヲ修メ邊界善後章
程ヲ公議シ各ノ官以名ヲ書シ署名調印シ以テ信守
ヲ昭ニス茲ニ已ニ議定シタル善後章程ヲ左ニ列記ス
第一條 兩國ノ境界トシテ白山ノ碑記アリ 証トス(シ)仍ホ
西政府ヨリ員ヲ派シテ會同踏査ス(シ)未タ踏査セザル
以前ハ旧ニ循ヒ間隔ノ圖們江一帯ノ水ヲ以テ各ノ畚所
ヲ守ル(ハ)均シク兵馬ヲ持シタル兵士ヲ以テ境界ヲ潛越
シ事件ヲ起サシム(ハ)カラス

第二條 視察李範允ハ既ニ屢ニ事件ヲ起セリ約
定マルノ後韓國境界ニ會セハ文武各官ハ嚴重ニ
邊境ニ於テ騷擾スルコトヲ禁止シ若シ再々清國
境界ヲ侵犯スルコトアルトキハ唯韓國官吏等カ故
ナク約ヲ歟リ故意ニ事件ヲ起シクルコト、シテ論スルコ
トヲ承認ス

第三條 視察李範允ハ北嶺島ヲ管理シタルカ清國
政府ハ未タ認許ノ文書ヲ給ヤス清國境界官吏モ
之ヲ允認セス韓國境界官モ亦之ヲ強ヒテ行ハス

第四條 李昇、吳金克烈、姜休、成文錫等ハ既ニ
清國境界ニ入籍ノ叛民ナリ云法ニ依リ清國官吏
ハ索還シ例ニ照ラシテ懲戒スルノ權アリ在會ノ韓
國官吏ハ速ニ拿捕シテ清國官吏ニ引渡しテ官束

し以て邊界ヲ安ニス

第六條 在會ノ韓國官吏ハ李範允ヲ撤去シ李昇
昊等ヲ拿捕引渡スコトハ必ス韓國政府ニ稟報
シタル後之ヲ實行ス但シ今回會議約定ヲ徑允
ノ後若シ李範允李昇昊等ヲ撤退シ又ハ拿捕
引渡ヲ徑允シ前侵犯ノコトアルトキハ亦在會韓國
官吏ハ故ヲ知レテ約ヲ敗リ故意ニ事ヲ起シタルコト
ヲ論スルコトヲ承認ス

第六條 沿江ノ橋樑ハ片ノ為ニ決ルニ利ス今橋ヲ撤
シ船ヲ設ケ他意ヲキヲホス

第七條 西界ノ片ノ往來ハ其自由ニ任カス軍人カ事ニ因
テ兵馬ヲ帶ヒス常服ニテ往來スルトキハ平民ト同様
タルシ但兵馬ヲ持テ境界ヲ過キテ復照云文ヲキトキハ



若自之ヲ格殺スルモ好ナシ

第ハ條 古間島即先露峽假江ノ地ハ從來鏡城韓民ノ祖種ヲ許可セリ今仍ホ舊ニ循テ辦理スヘシ

第九條 西界ノ兵民不幸ニシテ殺傷ノ憂アハトキハ西界ノ文武官ハム文ヲ以テ照會シ迅速ニ實際眞心ノ究犯ヲ拿捕シムニ審理シ其場ニ於テ之ヲ死刑ニ處スヘキ良民ヲ誣告シ欺瞞延シ空文ノ往復シ枉轍ナラシムベカラス

第十條 清國ハ從來米穀ヲ外國ニ輸出スルコトヲ許サハコト清韓條約第六款ニ記載セハカ現在西國ノ和好ニ依リ便宜融通シ民ノ運販ニ任カセ以テ韓民ノ食料ヲ救済スヘシ然レハ凶作ニシテ邊境安カラサルトキハ米穀ノ輸出ヲ禁スル新草モ援リシテ照作スヘシ

第十一條 西界ノ防兵ハ後來ノ位置ニ依リ各自舊ノ如
リ駐在スヘシ沿江ヲ上下スル巡哨ハ定約後和睦無事
ナルトキハ酌量撤收スヘシ

第十二條 清韓西界ノ文法ハ紛繁ニシテ暫リ二仲論
シ難シ但シ已ニ條約ニ記載スルモノハ均ニク條約ニ遵テ辦
理スヘキ條約未タ備ハラセモノアレハ均ニク云云法ヲ援照シ
テ辦理スヘシ

大韓國咸鏡北道文界官兼教習官 崔南降 金炳若

大韓國鑲衛滿洲副都統 陸軍少領 金命撫

大清國補用知府延吉廳同知 撫民府陳作彥

大清國候補知府延吉廳同知 撫民府胡殿甲

寺内陸相の事務大要兼佐中三於之
調査書

MT

11248 00101

目次

- ① 大連税関規則改正ノ件
- ② 南北滿洲ニ於ケル税率不均衡ノ件
- ③ 日清郵便條約
- ④ 北滿税関ニ關スル露清協定中ノ注意事項
- ⑤ 清韓通商條約
- ⑥ 安奉線及南滿鐵道沿線鑛山ニ關スル件
- ⑦ 租借地境界畫定ノ件
- ⑧ 熊岳城海面漁業問題ノ件
- ⑨ 新奉及吉長鐵道借款ノ件
- ⑩ 安奉線及南滿鐵道沿線鑛山ニ關スル件
- ⑪ 大石橋瑛呂線ニ關スル件
- ⑫ 新奉鐵道ヲ奉天域ニ延長スル件

③ 新法鐵道ノ件

④ 南滿洲ニ於テ清國政府ト交渉ニ係ル鐵道問題ニ關スル陸軍省意見

⑤ 遼東半島中ニ地帶内ニ於ケル清國駐兵ノ件

⑥ 撫順炭輸出税ノ件

⑦ 中亞地帶ニ於ケル清國駐兵ノ租借地境界劃定ノ熊岳城海面漁業
關東州製塩ノ滿洲輸入

大連税関規則改正ノ件

大連税関ハ昨年七月一日ヨリ関関シタル處田税関
ニ関スル協定ハ一季間之ヲ施行シ不便ノ虞アレバ之
ヲ改正スルヲ得ルコトナレルヲ以テ過般来田東都督
府尋テ之ヲ改正ヲ要スル莫ク関ニ調査ヲ遂ケタルニ現
行規則實際上格別ノ不便ナキコトヲ認メタルヲ以テ
差事リ之カ改正ヲ請求セサルコトニ決シ在清公使ト
協議ノ上清國ニ對シテ當分何尋ノ知照ヲモ為サ
ルコトトセリ

南北滿洲：於此稅率不均衡ノ件
大連税關：當今及安東ノ税關ト同シテ清
玉環港場：於此適用スル普通通海關稅率
適用スル所ニ及北滿税關：於此千八百八
十一年露清協定ニ締結セラルタル陸路貿易
章程ニ基礎トシ普通通海路稅ノ三分二、
古爲ル輸入稅ノ課スル所ナキ章程ノ定メ
ル多數ノ物品：對シテ七稅ノ取扱ヲ片
ニシテ以下北滿税關ノ適用スル稅率ニ

南滿洲：此に著しき徑道あり依り帝王政
府、本年三月以來屢、清國政府に對し
て北滿洲稅關に於て南滿洲に異なり取扱
うたる不都合なるを論じたるに清國政府は自
國に亦滿洲に於て今日尙舊時締結の
陸路章程を適用する不都合を認る目
下露國政府と交渉中なるを答へたる
供今日に至る

日清郵便條約

北清事變以後帝國郵便向ハ各回國標北京山海關間ニ於テ軍事郵便ノ名義ニ清國鐵道ニ據ル普通郵便物ノ輸送ヲ爲シ又三十八年二月以來山海關營口間ニ於テ國外鐵道當局ト我當該郵便局間ノ申合ニ依リ孰郵便局員リテ郵便物ノ運送ヲ爲サシメ昨年新奉鐵道賣却以來ハ奉天溝帮子間ニモ亦同標輸送ヲ爲シ來リニ處同年十月ニ至リ清國鐵道當局ヨリ奉天溝帮子間並ニ營口山海關間ニ一等料金ヲ支拂

ハニ非サレハ我郵便物ヲ輸送シ難キ旨我國係
郵便局ニ通告シ尋テ清國政府ニ同國郵便局
ノ年ヲ經サル可カラサル旨通告シ来リ尔来日清間
ニ種々交渉スル所アリシカ結局現行日清郵便
協約ノ改正ヲナスヘキエト、シ夫レ迄ノ間一時ノ便法
トシテ北京奉天間（奉天満帮子間ヲ含ム）ニ清
國局、批准シ營業ハ北京間ハ從來通り我郵便
局、於テ直接運送ヲ為シ得ルコト、ナリ其後
本年一月ニ至リ帝國政府ヲ改正案ヲ先方ニ提
出し五月同政府ヲ右ニ対スル對案ヲ送附シ来



リシカ在改正案ノ主眼トスル處ハ日本ノ通常及小邑
郵便物ヲシテ清國郵便局ヲ經由スルコトナク北京
營口間及溝帮子奉天間其他在滿洲清國鉄
道ニ依リ該鉄道沿線ノ日本郵便局ノ間ニ递送ス
ルヲ得セシム旨ノ規定(第二條)ニテ而シテ清國郵便
亦重キヲ此矣、又キ外國郵便物カ清國郵便局
ヲ經由スルコトナクシテ清國鉄道ニ據リ輸送サルハ
コト絶對的ニ許サル旨ヲ主張シツツアノテ又方ノ
主張ハ容易ニ一致シ難キヲ以テ目下外務省及
逓信省ニ於テ清國對案ニ関シ夫々調査中ナ

北浦税関ニ定ムル税務中ノ

第三卷 沿革事項

等

此税関ニ於テ
依テ陸路貨
物ニ對シテハ
即チ特等ナル
税率ニ均霑
スル貨物ハ海
關ニ為スル
トスル

釧路港地ヲ出テ南滿ニ為スル貨物ニ對シテハ關稅

トレテ海關稅ノ二分ニ通過稅トレテ海關稅ノ

二分ノ一即チ附加セラル關稅ノ二分ノ一ヲ稱ス

釧路港地ヲ出テ支那本國ニ出スルモノニ對シテハ

前記關稅ニ加ホ海關稅三分ノ一ヲ附加シテ海

關稅ト曰類ト為ス通過稅ニホ海關稅ノ二

分ノ一ヲ稱ス

第三十七條二項

經及修築費、要る貨物（經及建設
 營業修築費、材料、外）に要する

第五十九章 二項

格、官、手、荷、物、金、銀、外、貨、幣、ヲ、除、キ、其、他

前次五十九案一項所報貨物應改重稅列

祀石上に
一、貨物：し、内地、入、序、後、價、二、分

五、通級ノ拂

卯六十一宗

米及支那絹織ハ瑞出禁制品ノ一ナリ

少倉部伏：食トシハ田中ニシテ及リテ授出ノ見

清韓通商條約

第五條

一 清國人ニシテ韓國ニ在ル者若シ法ヲ犯スモトアレハ清國領事官ハ清國律例ニ照シテ審辦シ韓國人ニシテ

清國ニ在ル者若シ法ヲ犯スモトアレハ韓國領事官ハ

韓國律例ニ照シテ審辦ス(清國ニ在ル)韓國人ノ生命

財產ニシテ清國人ノ為ニ損害サル時ハ清國官憲ハ

清國律例ニ照シテ審辦シ韓國ニ在ル清國人

ノ生命財産ニシテ韓國人ノ為ニ損害サル、時ニ韓
國官憲ハ韓國律例ニ照シテ兩國人ヲ審辦ス
若シ訟訴事件アルハ該案ハ被告所屬國ノ官
憲ヲ其國ノ律例ニ照ラシテ審理判決セシメ原
告所屬國^ニ及^テ派^シテ傍聽ヲ許ス裁判官ハ禮
ヲ以テ傍聽委員ヲ選ス（シ傍聽委員ニシテ先
ニ證人ヲ呼出シ審問^トキ^ハ必要^ナアレハ其便ヲ聽ク又
裁判官ノ判決ニシテ不公平ト思惟サル詳細

ニ辨駁スルコトヲ得

(二) 西國人民ニシテ本國ノ律禁(西國律)ヲ犯シ

他ノ一國ニ逃走シ其國ノ本舖旅館及船上ニル

モノアリテ該地方官ヨリ領事官ニ照會シ而後

莫ク漲シテ協同法ヲ設ケ逮捕シ本國官憲ノ

手ニ依リ懲辦スルコトヲ得ルモ西國人ヲ隱匿

庇護スルコトヲ得ル

(三) 西國ノ人民ニシテ本國ノ律禁ヲ犯シ他ノ一國ニ

逃走したるモノアルト云々其國ノ官憲ハ他ノ國中
ノ精求アリタル上之ヲ搜索シテ引渡シ本國
ニ之ヲ懲辦シ他ノ國ハ犯人ヲ隱匿庇護ス
ルヲ得ル

(四) 將來兩國政府其條例ハ七審案ノ方法ヲ
改良整頓シ同下服シ難シト思惟セラル、矣
ヲ除キタル曉ニ即チ兩國官憲カ他ノ一國
ニ存シ本國人民ヲ審理スルノ權利ヲ返却

スヘシ

第五條 兩國陸路境界地ニ於テ、往來主

市ヲ實施スルカ、今因定約シタル後、適テ陸

路通商章程總ツ訂締スヘシ、即チ邊民

ニシテ已ニ境界ヲ越ヘテ開墾ニ從事セル者ニ

其業ニ及ビシ其生命財產ニ保護ヲ與フルモ

以後若シ潛ニ回境リ越スル者、彼我均シノ

之ヲ禁止シ、事端ヲ生スルヲ免カレシム、
開市^港シ何

處ニ據定スルヤニ至リテハ陸路通高章程綿
轉ノ時會同商定スルニ

沙收

長

安奉線及柳溝鐵道沿線礦山

二箇スル件

五五
三三
二二
一

安奉沿線ニ本溪湖ニ於ケル大倉組關係ノ炭坑
及
其
他
本
邦
人
ニ
テ
戰
後
中
地
主
ト
隨
意
契
約
シ
テ
多
少
ノ
鑛
業
權
ヲ
設
定
シ
タ
ル
者
數
人
有
之
處
此
等
ノ
者
ノ
清
國
ニ
納
付
ス
ル
キ
租
稅
其
他
ノ
事
項
ヲ
取
極
メ
且
シ
過
去
ニ
於
テ
或
ル
手
續
ヲ
據
リ
已
ニ
幾
分
ノ
權
利
ヲ
獲
タ
ル
ノ
及
將
來
清
人
合
同
ノ
上
鑛
業
ヲ
營
ム

トスル者等ノ權利ヲ確定スルノ必要アルヲ以テ昨
年在奉天總領事ヲシテ奉天督撫ニ交渉ヲ開
始セシメ高級ノ末安奉派線ノ鑛山ノ採掘ニ
凡テ日清人合同ノ事業トシ共合同方法ニ大体直
隸省ニ於ケル臨城炭坑(白耳義人ト清國人トノ
合同事業)ノ例ニ依ルヲトシテ協定略成ス
トセシガ奉天督撫ニ交渉ノ末期ニ至リ漸ク滿鉄
道派線ニ於ケル鑛山ヲモ該協高中ニ加ヘタキ旨
ヲ提議シ来リタルモ在極順・煙台等ニモ同様
ニ安奉派線ノ鑛山問題ト性質ヲ異ニスルヲ

以テ之ニ應ルヲ拒絶シ其結果本件ノ交渉ニ之
ヲ中絶スルニ至レリ然ルニ北京議定書ニ依ル奉天
省內鉄道附屬鑛山ニ已開未開、拓ラズ公平
詳細ノ章程ヲ取極ムベキトナリ居リ又東清
鉄道續約第四條ニ依ルモ鉄道會社ニ其採掘
石炭斤數ニ應シ納金ヲナスルヲ又右納金額ニ地
方ノ税額ニ超過スルモノトナリ居ルヲ以テ率滿鉄
道沿線ノ鑛山（撫順烟臺ヲ含ム）ニ關シテモ何等カ
ノ取極ヲナスコトヲ要ス次第ナルノミナラス過般北京
ニ於テ唐紹儀ヲ駐清公使ニ對シ右ニ關シ開談

次第モ、タルカ、其事情タルヲ以テ其内右ニ関シ
何等カノ手段ヲ取ルノ必要アリ然レモ近頃ニ至リ在
露本野大使ヨリ報告スル處ニ依レバ露國ニ於テ
撫順炭坑回復ノ為ノ隱密ニ種々ノ計畫ヲナス者
凡カルキヲ以テ若シ帝國政府ニ於テ清國トノ間ニ
奉滿泥線ノ問題ヲ解決シ置カザルキハ撫順問題
等ニ関シテ清露兩國ヨリ腹背敵ヲ受ル有様ト
ナルベキヲ以テ此際唐ノ和談ヲ機トシ奉滿泥線ノ
礦山問題ヲ協定シ同時ニ撫順煙台炭坑、
國庫納稅額ヲ規定ノ間接ニ清國政府ニ對シ

右炭坑、因た我權利ヲ確定シ他日露國側ニ
ノ何等ノ問題ヲ提起シ来ルモ清國側ヲ故障
ノ来ルモキ途ハ之ヲ杜絶シ置ル方得策ナリト認メ
右二國ニ調査ヲ進メタル前記ノ如ク我納付スベ
キ金額ハ東清鐵道續約ニ依リ他人ガ旧地方ニ
於テ納付スル税額以内ナルヲキトナレルヲ以テ帝國政
府ハ本年四月在奉天總領事ヲシテ旧地方ニ於
テ納付セラル税額ヲ調査セシメ先處清國稅局
ニ目下煙台、本溪湖、牛心台等ノ不炭ニ對シ出井
稅トシタル山元賣價百分ノ五ノ稅ヲ課シ居ル又

本溪湖炭ノ實際賣價一噸五六月十ヲ納税
ニ関シテハ三内内外ト見積リ其ノ高低ニ清國税
局吏ノ手心ニ依ル趣並右ノ外礦正税トシテハ一礦正
（四十礦界ニシテ一礦界ハ十畝ナリ）ニ對シ執照下附
ノ際二十年ヲ一期トシテ一百兩ヲ納税セシメ尙ホ毎
年一礦正ニ付五十兩ノ税ヲ徴スル規定ナル旨四卷
了シテ以テ目下布滿鐵道會社ヲシテ此税額ノ
相当ナルヤ否ヤヲ調査セシメ居ル次第ナリ就テハ
右ニ關スル布滿鐵道會社ノ調査終了シタル中
ニ連年ニ因テ鐵道泥綿ノ礦山ニ關スル章程及

撫順煙台之関税額等、付帝國政府意見
ヲ定メ速カニ清國トノ間ニ交渉ヲ開始シ之ト同
時、安奉泥線礦山ニ関スル既定ノ協定ニ基キ
ヲ復次ニ布滿安奉ノ全線ニ亘リテ鑛山章程
ヲ議定スル方針ヲ取ル事ナリ

次

七五

後

作

金

和修地境界劃定ノ件

關東州和修地、境界、露法、河境界、議
定者ヲ以テ嚴密ニ之ヲ規定セシメ露法河境界、實
際ニ和修地、境界、劃定、金州復
州ノ境界、其行政ヲ施行シ居リタルモノ
如ク、和修地、境界、劃定、事實、上
金州復州ノ境界、行政ヲ執行シ来レリ
然レ、一、四、年、末、以、来、度、境界、劃定、者
才、八、條、ト、極、境界、劃定、金州復州ヲサシユトシテ

求シ来ん處、新く移るゝ會勘ニ至レ何等
ノ異議ヲ申出ツテ理由ナシト雖今勘ノ
結果前記ノ事實明瞭トテ法王政府ハ
議定書ニ依リ行政區域ノ更正ヲサセテ
テ求ムルニ至ルハ明カニシテ帝王政府ハ
本法王政府ノ請求ヲ容ルニ躊躇シ以テ
今日ニ至リ

案ニ依リ地境界碑ヲ會勘ニ議定
書中ハ條々明定スル所ナリ以テ我ニ於テ之ヲ
拒否スルハ不當、理由ナリ又今勘ノ結果

實際、行政区域の議定者：是れを事實
と見ざるは、特に之を理由に之を決定
す。従て行政区域、更なる一を亦明
白に理するに於て、露治時代、於て
此事實上、行政区域の踏襲せるもの難
境界議定者、調停、後同とす。此は事
實上、露王の事實、於て滿洲全部の
占領し居るもの、此は露王の露
王の實例、之を引照して、清王政府に抗辯
するに足るものと認め、此は、石中分る理由

シ以テ尺寸、地ヲ掌ニ徒ラシテ、法王ノ威情
ヲ害スルハ、正玉國交ノ大局ニ照ラシ甚ク而
白カラスト、認ムルヲ以テ、此際斷然法王ノ對
シ境界ノ人々勸テ承諾シ、旧時ノ正當
ナル境界外ノ屬スル地域ニ之ヲ法王ニ還付
スルハ、必要トス。尤モ右還付ノ地域、於テ正
玉臣民ガ善意ニ取ルシムル權利利益
ニ與シテ、法王政府ヲシテ之ヲ承認セシムルカ
又、之ヲ買収セシムル等ノ方法ヲ取ルハ、必要
ナリト認ム

熊岳城海面漢業問題之

熊岳城附近海面、於今漢業問題、實
於去年 月中旬、在奉天帝國總領
事、卜總督巡撫、之間、商議、關於
清國側、於今關東州外、於今同
漢民、漢業權、認、同時、我
於今同、漢民、於今清國官憲所
定、鑑於料、納、於今果、彼我

共ニ漢船ヨリ保獲料ヲ徴收スルヲ目的
トセシ私團體ノ設立ヲ認メザルコト等ニ
付キ畧ボ協定纏リタル処清國側ニ於テ
本邦人カ右漢民中ニ含まレザルコトヲ主
張シタル爲メ本件ハ遂ニ解決ヲ見ルニ
至ラズ然レト本年ノ入り漢季ニ切迫シタ
ルニ付總領事ヨリ重テ督撫ニ高議シ結
局租界地居住清國人ノ漢船カ得タ
ル鑑札發給ヲ受ケタル場合ニ限り本邦人
出演ヲ默認シ又鑑札料金額ハ民度ヲ



酌量し低率に規定せんコトに協定成り
タニ処四月二十六日、英清國官憲より
申出テタニ鑑札料ナルモノヲ見ニ其金
額甚ク高キニ失スルノミナラズ船網、漁台
モ亦頗ル繁雜ヲ極メタニモノナカ故ニ當
業者、於テハ章程所定ノ手續ヲ履ミ
且前陳、如キ多額ノ負擔ヲ以テセバ出
漁ノ利ヲ見ンコト難シト認メ去リトテ更ニ
交渉ヲ重スルニ於テハ漁期ヲ逸スル虞
アリシヲ以テ新熊公海面ノミナリ於テ漁業

ト

タ

ハ

う行フコト、ナレ右ノ方は、依り出漢に
処五月下旬、荒天に際し、奥款四散し
タレ、依り本年、出漢に茲、其終る告
タレ、至し、然に、元來漢業、方は
公海に限る、自由、清國領海にモ使用
スレ、漢業經營上便利に、勿論、
ミナ、本年、鉛材料、對し清國側、
於て、本年、率、山東省等、漢税、
参酌し、規定せん、とし、一時試験的、
実施せん、過キサレ、其率、高キ、失、

コト判明スル、於テハ次ノ漢期ニ當リ之ヲ
改正スルモ若シカラン趣ヲ辨明シ右料金
額ニ関シテハ先方ニ於テモ妥協ノ希望アリ
ニ就テ見受ケラレ、以テ此際實際、計
算ニ基キ本年所定ノ鑑札料、高率
ニ過リ、事實ヲ示シ其地銭ノ希望、
諸君ヲ調査シ之ヲ清國側ニ提示シ情
國ト、間ノ妥協ヲ遂ケ以テ領海ヲ使用ス
ルコト得策ナリト認メ、以テ去ル六
月南東都督府ニ對シ同府ニ於テ適當

ト認め、鑑料額及我漁民ノ負擔ニ
堪エ得ベキ同料金ノ最高額等ノ取調
方ヲ命ジタリ然レニ都督府ニ於テ又
本年ノ經驗ニ依リ公海漁業ノ實行
ニ得ベキコトヲ認め、至リタルヲ以テ寧ニ鑑
料ヲ拂ヒテ清國領海ヲ使用スルコトヲ
止メ專ラ公海ニ於テ自由ニ漁業ヲナスヲ
得策ナリトスルノ説アリ、因テ外務省及
都督府ニ於テ夫レヲ調査中ナリ

次作

卷一

大正
三年
三月
反

新奉及吉長鐵道借款件

昨年四月十五日訂結、新奉及吉長鐵道
：關る協約、概に新奉鐵道、內遼河
以東：屬る部分、改築：要る費用、南
滿鐵道會社間：其、一半、借款契
約ヲ訂立し且技師長及會計主任ハ
我方より之ヲ入ルコトナリ居ル処其後清國
側：於テハ遼河以東、鐵道ハ關外線、
一部ヲ成し且極メテ短離、モナラシ其

會計ヲ分離シ獨立ノ會計役ヲ置キテ
常務ヲ分担セシムルカハ事實●不可能
ナリトナシ之ヲ改メシムルヲ求メタリトモ斯ノ如ク
タルキハ全然協約ノ規定ヲ無効ニ歸セシムル
ノ意思ハアルヲ示テ之ヲ拒ミ別ニ實際ノ便
法ニ付協議ヲ遂ケタルニ先方ヨリハ更ニ帳
簿上可成遼河以東ノ分ヲ仕訳スルト
シ三月月着ハ今月毎ニ我方ノ検査ヲ
受ケ又枝師長ニ關外鐵道枝師タル曲
尾枝師ヲ以テ之ニ充テ度旨ヲ申出テタル

処右ハ實際ノ事情ニ適合スル便利ノ方
法ト認メラル、以テ帝國政府ハ之ニ承
諾ヲ與ヘ會計主任ハ別ニ之ヲ入リス南滿
洲鐵道會社理事ヲシテ毎三ヶ月若ハ六
ヶ月毎ニ帳簿ヲ検査セシムコトトシ又技
師長ニ曲尾技師ノ湖北ニ傭聘セラシ
ムルヲ老田技師ヲ以テ之ニ充ツル計画
ヲ立テ次項吉長鐵道借款契約ノ談
話ト共ニ本件ヲ協定スル積リナリ
吉長鐵道布設費用モ亦清國ニ依テ

廿一半ヲ南滿鐵道會社ヨリ借入ルヘキコトナ
リ彼我双方、技師ハ過般來共同ニ線路
ノ踏査ヲナシ併テ布設費用、豫算ヲ
作製シツ、アリニ線路ニ付テハ北中南之
線、内清國技師ハ北線ヲ主張シ我技
師ハ南線ヲ利益ナリトナシ又豫算ニ關
シテ清國技師ノ見積ハ三線共我技
師ノ見積ヨリモ少額ナルヲ以テ西技師、
尚、線路及豫算ヲ一致決定ス能ハス双
方、軋然意見ヲ共向ニ上申スルコトナリ今

目ニ至リ本件借款契約締結ヲナスニハ
先ツ線路及豫算ヲ決定スルハ要スルコト
勿論ナラシメ今回南滿鐵道ノ監督
ノ通信省ニ屬スルコトナリタルヲ機トシ同省
技術家ラシラ之ニ關スル意見ヲ定メテ可
成速ニ借款契約談判ヲ開始スルコト
適當ナリ

六、安奉線及南滿鐵道沿線礦

山、關、件

安奉沿線ニ本溪湖ニ於ケル大倉組關係
ノ炭坑アリ其他本邦人ニシテ戰役中地主ト
隨意契約ヲ訂結シテ多少ノ鑛業權ヲ設定シタル
者數人有之此等ノ者、清國ニ納付スヘキ租
稅其他ノ事項ヲ取極メ且ツ過去ニ於テ或ル手
段ニ拠リ已ニ幾分權利ヲ獲得タルモノ及將來日
清合同上鑛業ヲ經營スントスル者等ノ權利ヲ
確定スル必要アリ以テ昨年在奉天總領事ヲ



11248 00141

シテ奉天督撫ニ交渉ヲ開始セシメ商議ノ未安
奉 治線ノ鑛山ノ探堀ハ凡テ日清人合同
ノ事業トシテ其ノ合同方法ハ大体直隸省
ニ於ケル臨城炭坑（白耳義）ト清國人ト合
同事業ノ例ニ拠ルニトナリ協定畧ホ成
ラセトセシカ奉天督撫ハ交渉ノ末期ニ至リ南
滿鐵道沿線ニ於ケル鑛山ヲモ談協商中ニ
加ヘタキ旨ヲ提議シ来リタルモ右ハ事撫順煙
台等ニモ關係シ安奉沿線ノ鑛山問題ト
性質ヲ異ニスルヲ以テ之ニ應ズルヲ拒絕シ本件

交渉ハ之ヲ中絶スルニ至レリ

然ルニ北京議定書ニ依ルハ奉天省内鐵道

附屬鑛山ハ已開未開ニ拘ラズ公平詳細ノ

章程ヲ取極ムヘキコトナリ居リ又東清鐵道統

約第四條ニ依ルモ鐵道會社ハ其ノ採掘石炭

斤數ニ應ジ納金ヲナスヘク又右納金額ハ地方

ノ稅額ニ超過スルナキコトナリ居ルヲ以テ南滿鉄

道沿線ノ鑛山撫順烟臺ヲ含ムニ關シテモ何

等ノ取極ヲナスコトヲ要ス次第ナルノミナラス過

般北京ニ於テ唐紹儀ヲ駐清公使ニ對シ右

ニ関シ開談ノ次第モアリタルカメキ事情ナラテ其ノ
内右ニ関シ何等カノ手段ヲ取ルノ必要アリ然レ
ニ近頃ニ至リ在露本野大使ヨリ報告スル所ニ
依テ露國ニ於テ撫順炭坑回復ノ為隱密
ニ種々計畫ヲナス者アルカメキラ以テ若シ帝國
政府ニ於テ清國トノ間ニ南滿沿線ノ礦山問
題ヲ解決シ置カサルトキハ撫順問題等ニ関シテ
ハ清露兩國ヨリ腹背敵ヲ受ス有様トスヘキラ
以テ此ノ際唐ノ開談ヲ機トシ南滿沿線ノ礦
山問題ヲ協定シ同時ニ撫順烟其炭坑ニ

關稅納稅額ヲモ定メ間接ニ清國政府ニ對シ
右方抗ニ關スル我權利ヲ確定シ他日露國
側ヨリ何等ノ問題ヲ提起シ來ルモ清國側
ヨリ故障ノ來ルヘキ途ハ之ヲ杜絶シ置ク方得
策ナリト認メ右ニ關スル調査ヲ進メ前記
カク我納付スヘキ金額ハ東清鐵道續約ニ依
リ他人カ同地方ニ於テ納付スル稅額以內ナルヘキ
コトナシルヲ以テ帝國政府ハ本年四月在奉天
總領事ヲシテ同地方ニ於テ納付セラルル稅額
ヲ調査セシメタル処清國稅局ハ目下烟臺

本溪湖、牛心溝等ノ石炭ニ對シ出井税ト
シテ山元賣價百分五ノ税ヲ課シ居リ又本
溪湖炭ノ實際賣價ハ一噸五六圓ナルヲ納
税ニ與テハ之田内外ト見積リ其ノ高低ハ
清國税局吏ノ手心ニヨル趣並右ノ外鑛區
税トシテ一鑛區四十鑛畝ニシテ一鑛畝十畝
ナリニ對シ執照下附ノ際三十ヶ年ヲ一期トシ
テ壹百兩ヲ納税セシメ尚毎年一鑛區ニ付
五十兩ノ税ヲ徵ス規定有旨回答アリシヲ以
テ目下南滿鐵道會社ヲシテ此ノ税額ヲ

調査
セシマ
原
次第ナリ



11248 00147

大石橋營口線ノ件

案

大石橋營口線ノ件

大

石

本満鉄道ハ其營口枝線ヲ現在ノ終点タル

牛家化ヨリ更ニ營口ニ延長スルノ計畫ヲ立テ

本年三月末地所ノ購買ニ着手シ遂ニ購買ノ

目的ヲ達シタル處在牛莊領事ヨリ右地所購

入ノ際賣主ガ右延長線ノ急速布設セラルハヲ

豫想シ購買ニ應ジタル事實等ヲ指示シ右延

長線ノ急設ヲ促シ来リタル比昨年末以來新



法鉄道問題ノ件ニ付清國政府ト交渉ノ次
第アルヲ以テ此際若シ右延長線ノ敷設ニ着
手スルハ之ニ同意シテモ亦清國政府トノ間ニ事
端ヲ醸スルトナルノ慮アルヲ以テ敷^暫ラノ之ノ敷
設ヲ延期シ以テ今日ニ至レリ

又右營口枝線ハ東清鉄道續約第三條ニ據
リ敷設セラレ單ニ二十年ノ期限(營口枝線敷
地買取ハ光緒二十四年八月ノ頃ニシテ今日ニ於
テ既ニ滿九年ヲ経過ヤリ)ヲ有スルモノニシテ
其撤回ノ期ハ業ニ已ニ到達シタルモノナルヲ以テ

清國政府ハ從來既ニ撤回方ヲ請求シ来レル處
帝國政府ハ未ダ之ニ関シ明確ナル回答ヲ與ヘズ
シテ是又今日ニ至レリ

案アルニ大石橋營口枝線ハ條約ノ規定ニ依レ
ハ之ヲ撤回セザルカラザルヲ明カサント雖滿州ニ
於ケル大貿易港タル營口ヲシテ滿州内地トノ間、
鐵道上ノ聯絡ナカラシムルカキハ固ヨリ實行スベ
カラザル所ナルヲ以テ帝國政府ニ於テハ清國政府
ニ對シ右枝線ハ條約上撤去スベキモノナルヲ自
認スト同時、滿州ニ於ケル營口ノ地位、在營口

各田商人ノ希望等ヲ説明シ其概去ノ到底實
行スベカラザルコトヲ明ニシ以テ枝線ノ存続ヲ承諾
セシムルヲ適當トス延長線敷設工事ノ如キハ固ニ
此等事ニ屬シ枝線存続ノ根本問題確定
スル中ハ自ラ實行ノ途アルニ加フルニ右工事タル約
三月ノ時日アレバ直ニ之ヲ完了スルヲ得ル趣ニ
テ一日ヲ^争ヒ之ヲ取急カノ必要ナシト認メラル、ヲ
以テ右延長工事ハ目下ノ處暫ク之ヲ見令セ置キ
追テ枝線存続ノ根本問題解決ノ上之ヲ實
行スルヲ得策ナリト認ム

沙古川

古山

辰

辰

新奉鉄道ヲ奉天城ニ延長スノ件

昨年七月初旬清國側ヲ新奉鉄道獨立停車場ヲ奉天城小西辺門ノ附近ニ設ケ同鉄道ヲ
シテ我滿鉄線ヲ横断シテ奉天城ニ達セシムル
希望ヲ南滿鉄道會社ニ表示シ先UPシテ處當
時同會社ヲ都督府並ニ外務省ニ上申シ詮
議ノ結果清國側ノ提議ハ之ヲ拒絶スルトナリ
同時ニ滿鉄停車場内ニ幾分ノ清國巡捕ヲ

入ルヲ承諾シ以テ従前ノ通滿鉄停車場ニ
於テ新奉和滿兩鉄道ノ連絡ヲ行フトナシ
タリ然レモ清國側ニ於テ尙当初ノ希望ヲ新念セ
ザルモノ、乃チ駐清公使等ニ對シ屢々我々同意ヲ
得タキ希望ヲ述べタル趣ナリ

案ズルニ新奉鉄道ヲ奉天城ニ延長スルハ清國
側ノ希望トシテ左モアルコトニ屬シ我々於テ特ニ
重大ナル差支アレバ格別單ニ、奉滿鉄道ヲ横斷
スル理由ヲ以テ無下ニ其希望ノ貫徹ヲ妨害スル
ハ甚ダ面白カラサル處ナリトス依テ此際和滿鉄道

ヲレテ今一應横断新在ノ新案ヲ政究セシメ場合
・依リテハ新満鉄道停車場ヲ山西辺門マデノ
間ハ新満鉄道新案而鉄道ノ若同線ヲ設ケ候ノ
希望ヲ達セシムトシ同時ニ我モ亦其新ヲ享
クルガ如キ方法ヲ案出セシムルヲ適當ナリト認ム

六
之

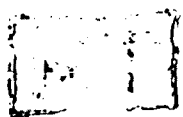
次
休
一

會

新法鐵道ノ件

客歲十一月法國政府ハ英國^{ホルリシグ}
商會ト間ニ新法鐵道敷設工事結
負契約ヲ締結シテ先是帝國政府ハ法
國政府ニ於テ關外線ヲ新民屯以北ニ延長
スル計劃^{アヤノ}風説ヲ聞キ屢次同政府ニ
對シテ該計劃ノ北京會議錄ノ規定ニ
違反スルモノナルコトヲ指摘シタル處同政府ハ右
警告告ニ拘ラズ遂ニ同契約ヲ締結ヲス至

リシモノナリ帝國政府ハ本年一月ニ至リ始テ該
契約ノ締結ヲ知リ直ニ清國政府ニ對シテ抗
議ヲ提出シ尚ホ一面小村大使ヲ經テ英國
政府ニ交渉シタルニ英國政府ハ我主張ノ
正當スルヲ認メ工事諸員者ヲ支持スヘク
カ旨在清同國公使ニ訓令セリ尔来日
清西政府間ニ數次往復ヲ重ネ来リシ
カ帝國政府ハ最近ニ至リ在清代理公
使ヲシテ六月廿六日附テ以テ帝國政府ノ回答
ヲ同政府ニ致シ帝國政府ハ絶對ニ新法



鐵道ノ敷設ヲ承認スルヲ得スト雖モ清國
政府ミレテ法庫門ト南滿鐵道ト一点ヲ
連結スルコトヲ欲スルニ於テハ右ニ對シ帝國政
府ニ於テ何等ノ異議ヲ存セザルヲ聲
明セシメタルニ清國政府ハ右ニ對シ未タ何
等ノ回答ヲナサス

五 九月七

南滿洲に於て清國政府ト交渉ニ係ル鐵道問題ニ関シ陸軍ニ於テハ大体尤ノ方針ニ由リ處理セラレ可然ト思考ス

一 我南滿洲鐵道ノ利益ヲ減殺スル一切ノ施設ハ極力之ニ反對セサルヲ得ス故ニ法庫門鐵道、如キ之ニ同意スルヲ得ス然レトモ我南滿洲鐵道ヨリ枝分スル鐵道ヲ敷設スルコトニ清國政府カ同意スルニ於テハ總テ方向ニ分歧敷設スルコトニ同意シテ可ナリ要ハ南滿洲ノ幹線タル南滿洲鐵道ナシテ

利益關係ヲ失ハシメサルニヤリ

一、新奉鐵道ヲ奉天城迄延長スルノ義ハ我

南滿洲鐵道會社ニ於テ之ヲ敷設シ共同

使用シ新奉鐵道ヨリ相當ノ使用料ヲ

徵集スルコトセハ同意シテ可ナリ

一、安奉鐵道ノ改築ハ成ルヘク速ニ南滿洲

鐵道會社ヲシテ着手セシムコトヲ希望ス

大正

大正

遼東半島中之地帯内、於此

法馬駐兵ノ件

極大移住條約ヲ五條ニ依リ法馬兵ハ

豫メ協議シテ決ズル中ニ地内ニ入ルコトハ

サルコトナシトシテ支那東都督府ノ調査ニ依

リ同地帯内ニ駐屯スル法馬兵ノ現數ハ復

州ニ百人蓋平ニ百人岫巖四百人ニシテ復

州ニ駐兵一師次辛巳年十一月ニ始ルハ一師ニ

不修約締結後ハ、我弟認シ經ス又蓋

平（明治三十四年；始元）及岫巖、駐兵（明
治九年；始元）モ亦我官憲、承認ヲ得
ルニナラズ、關東州が帝王、租借ニ由リタリ
後、吾之が増員又ハ組織、変更ヲ行ヒ
来々嘗テ我承認ヲ得ル、其ハ、出テカニモ
ナリ、依テ都督府ヲ於テ左ノ如キ條約違
反、駐兵ニ之ヲ承認スル中ニ地帯全般
ニ及リ、彼、撥兵ヲ促ス（ナリモ、ナリト見テ、ナリト）
昨年四月中、我顧問ニ對シ奉天將軍
ハ復州蓋平兩地、駐兵ニ共ニ光緒廿七

年二月（明治三十四年）増瑛將軍より露
玉「ユミサル」ニ高議ヲ授ケルモノニシテ（當時）
駐兵數ハ復州百二十名、蓋平百四十名、日
本ハ租借權ヲ獲ルニ後、之ヲ駐兵、交
代ヲ行ヒタル事實見エ事ト、露王時代
ノ取極メ係ルモノナルヲ以テ更メテ承認ノ手續
ヲ遂サリシモノナリトシ岫巖ノ駐兵（百六十之
名）亦其目的ノ單ニ地方保安ニ在リ
カハ法あるニ交誼ノ願ミ駐兵繼續シ
許可セシユトシ法ト思フ今後新ニ増

此件ヲモ
今日ニ至リ

11248 00163

其時代、アリ岬巖ノ駐兵ヲヨリテ事遠ク
明治九年、好ク露島が遼東半島ヲ和
信シ中立地ヲ設定シタル後モ之ニ對シ異
議ヲ挟シタル、事實上ハ條約ヲ行爲
シ以テ強大ニ和信條約ヲ五條ノ事アリ
トシ撤兵ヲ要求スルハ我主張ノ根據、
於テ若弱ナルコトヲ免セス加フルニ中立地ノ廣
衰人ニ鑑ミルトキハ之ニカシク安ノ爲ニ僅
セハる名ノ駐兵ヲ辞スカルキハ毫モ不都合
ナキ次オナリト認ム依テ日清兩國々交ノ

大局、照らし、些々見手續上ノ缺点ハ之ヲ
宥め、或ハ天將軍 要領、兵数ヲ限交
トシ駐兵、继续シ承認シ以テ存件ヲ
解決スルヲ適當ト認ム

長上、此ノ如キハ、今ハ更ニハ成
信、之ヲ更ニハ、今ハ更ニハ成
ニ成、之ヲ更ニハ、今ハ更ニハ成

煤礦炭輸土税ノ件

煤礦炭輸土税ノ件ノ關シ、本年四月
下旬在牛莊條子、務代理ヲ清水海關
稅務司依ハ湖北、安徽、廣西及兩平
炭ノ輸土税ノ限ハ一噸ニ付一匁トシ、其他
ハ若干之ヲ三匁ト規定セリ。就テハ煤礦炭
關平炭ト具境區及鐵路ヲ以テセリ。拘
現時ニハ三匁ニ輸土税ヲ課セリ。存

邦商人、困難甚かりしヲ以テ、
事ニテ改

メテ同年、突曰、様一帳一便ノ較年ヲ商

甲スニ、様其節ハ、交渉方在清、
公使ハ

此申、アリト、
以テ、青下、白曰、公使ハ公人

ヲ以テ、太ノ趣、外務部ハ照会ニ及ビ、
六月

下旬ニ至リ、曰、部ハ、
我ハ、
~~新ニ、~~
照復、
同年

此等ノ、税額ハ、
之ヲ以テ、他ニ引換ニテ、例ト

ナリ、得、
且、
~~此、~~
炭、
坑、
が、
清、
水、
ニ、
交、
還、
セ、
ラ

一十件ニ就テハ更ニ別ニ案トシテ
 辨理スル事

四卷ニ據リ
 知ルニテハ
 録送シテ
 山ノ外ニ
 附録ス

其ノ三ニテハ
 信ヲ
 海ニ
 要ナ
 事

特ニ
 海ノ
 事
 録
 上
 行
 事

其ノ二ニテハ
 然一
 席
 水
 也
 初
 主
 張
 ヲ
 維
 持
 ス

其ノ一ニテハ
 然一
 席
 水
 也
 初
 主
 張
 ヲ
 維
 持
 ス

漢書地理志卷之六

六

七

八

中立地帯ニ於ケル清國駐兵

遼東半島中立地帯内ニ於ケル清國駐兵ニ於

テ未タ之ヲ承認シタルニトヤギハ事實ナリト雖

右ノ内復州蓋平ノ駐兵ハ清國官憲ニ於テ當

初露國ノ承認ヲ經タルモノナリト主張シ而シテ

我ニ於テ之ヲ否認ス（キ）証據ヲ有セサルモノナ

リ復州駐兵ノ初期ハ未タ明確ナラスト雖今

概リ之ヲ明治三十八年十一月ニ起リタリトスルモ右ハ

恰モッホーツマス條約締結セラレ滿洲ニ開スル

日清條約未ク調印セラレサル時期ニ係リ中立

地帯ノ地位頗ル曖昧ナル時代ニ屬スルモノナ

リ岫巖ノ駐兵ニ至リテ事遠ク明治九年ニ始ニ

リ露國カ遼島半島ヲ租借ニ中立地ヲ設

定シタル後モ之ニ對シ異議ヲ挟ミタル事實ナ

キモノナリ右ノ如キ次第ナルヲ以テ清國官憲ニ於

テ未ク我々右等駐兵ノ承諾ヲ得タルコトナレ

トルモ直々ニ之ヲ以テ旅大租借條約第五條ノ
違反トナシ其駐兵ノ撤退ヲ要求スルカ如キハ決シ
テ各當ナル措置トシテ得ス加フルニ中立地ノ廣
桑ト該地方ノ實際^精ニ鑑ミルトキハ地方ノ治安
ヲ新ル爲メ僅々七八百名ノ兵ヲ駐ルカ如キハ何
等ノ不都合ヲモ認ムル能ハサル所ナリトス依テ此
際些々タル手續上ノ缺點ハ之ヲ宥恕シ従来ノ
駐兵ハ之ヲ承認シ之ト同時に今後完成地ノ

変更兵數ノ増加是兵種ノ変更ヲナス場合ニ
必ス我カ承諾ヲ求メシムルコト、ナスリ適
当トス

租借地境界劃定

租借地境界碑ノ會勘ニ境界議定書第

八條ニ明定セル所ニシテ我ニ於テ之ヲ拒否スヘキ

理由ナキコト云々
我ニ於テ尚且
得リス而シテ之カ實行ヲ快

諾セサル所以ノモノハ會勘ノ結果、實際ノ行政

區域カ議定書ニ違反スル事實明瞭トナルヲ恐

ル、ニ外ナラス然レトモ實際ノ行政區域ニレテ議定書
ノ規定ニ背反スルノ事實アルニ於テ右ノ規定

ニ從ヒ行政區域ノ更正ヲナスヘキコトモ亦止ムヲ

得サル所ナリト思考ス尤我ニ於テハ露國時代

ニ於ケル事實上ノ行政區域ヲ踏襲せんモノナ

リトノ弁解ヲナス能ハサルニアラサルカ如シト雖境

界議定書調印ノ後間モナリ北清事変起

リ露國ノ事實ニ於テ滿洲全部ヲ占領シ

居るは次第ナルヲ以テ此際ニ於ケル露國ノ實
例ハ之ヲ引照シテ清國政府ニ抗辯スニ是ラ
ス此ノ如キ不十分ナル理由ヲ以テ尺寸ノ地ヲ争ヒ
徒ラニ清國ノ感情ヲ害スルカ如キハ兩國國交
ノ大局ニ照ラシ甚タ不得策ト認めルヲ以テ此際
断然境界ノ會勘ヲ承諾シ同時ニ正当ナル
境界以外ノ地域ハ之ヲ清國ニ還付スルコト、
シテト同時ニ右ノ地域内ニ於テ帝國臣民カ

善意、取得シタル權利利益、清國政府ヲ
シテ之ヲ承認セシムルカ又ハ之ヲ買収セシムル方法ヲ
取ルヲ適當ナリトス

熊岳城海面漁業

熊岳城海面ノ漁業ニ関シテハ本年ノ初メ奉天
ニ於テ彼此双方間ニ假協定ヲ了シタルモ鉅札
料金ノ非常ニ高額ナル為メ關東州漁民ニ該
協定ヲ利用スルコトヲ断念シ清國ニ關係ナリ

公海ニ於テ漁業ヲ禁ムノ方針ヲ取ルニ至レリ
然ルニ都督府ニ於テモ亦本年ノ経験ニ鑑ミ公
海漁業ノ實行ニ得ヘキコトヲ知悉シ鑑札料
ヲ賦付シ清國領海ヲ使用スルヲモ寧リ公
公海ニ於テ自由ニ漁業ヲナスヲ得策ト認ム
ルニ至リタルヲ以テ本件ニ関シテハ此際公海漁
業ノ方針ヲ取ルコトニ確定シ清國官憲ニ
対シ鑑札料ノ低減方ヲ交渉スルカメキコト

ハ之ヲ見令ニセ進テ適當ノ時
於盛京並隸
山東諸省ト平安、黃海兩道、通テ清韓通
漁條約ヲ締結シ根本的ニ本件ヲ解決ス
コト、ナリ適當ト認ム

關東州製塩ノ滿洲輸入

關東州製塩ヲ滿洲ニ輸入スルノ件ハ久シク奉天
ニ於テ彼我ノ交渉ヲ重クス問題ナル處

從來交渉ノ經過ニ依リテ清國側カ例

東州ノ海外輸出品ノ對シ若干ノ輸出税ヲ徵
收セムコトヲ期シ居ルコト明ナルヲ以テ此矣。國
ニ双方ノ協議ハ容易ニ經タルコトヲサレハ一加フル
ニ清國ニ於テ買上リヘキ東州鹽ノ價額ハ數
量ニ付テモ此際我ノ満足スヘキ協定ヲ遂グルル望
ムヤリ以テ本件ニ關テ清國トノ交渉ハ當分
スリ見今セ置ヤ我ヲ違フ之ヲ解決ヲ促サシ
ヲ得策トス。從テ東州製鹽者ニ對シテハ

滿洲へノ輸入ニ多大ノ望ヲ懷カス
諸般ノ計畫ヲ進行セシムコト、ナスリ通
当トス

自明治四十年六月

至同 年同

葡國外務大臣に対し津田陸軍少佐の日清
西國開戦談の実否取調一件

葡國外務大臣ニ對シ津野田陸軍少佐が
十三日清西國ハ開戰スル形勢ニ在リトノ
談判ニ付取調一件

大和

沙

名號

般為傑者

聖日村丁

美國外幣之所在本邦

美國大使館電報要旨 在傅國大使館

附武安田田出伏其天開方原之至要要政日

別紙寫し通し報告に來りしは、おのゝ参考也。

覺之悟之
然之覺後
返此心也

丙子年

事有貴者而必

外甥 伯青 林董 啟

警政務局

三

44



佛庶第九條

明治四十一年五月十四日

佛國大使館附町田經宇

參謀本部次長曾爵福島安正殿

津野田少佐取調報告

本月十二日、御電命に依り早速津野田少佐を取調候処
同少佐は先月末葡國旅行の際福垣公使ノ紹介状ヲ以テ
葡國外務省ニ於テ約三十分間対話セシメアルモ其談話事
項ハ別紙顛末書ノ通りニテ來電ニ所謂日清兩國ハ開
戦スルキ形勢アリ云云日本政府ハ右開戦ニ際シ葡國政
府ノ態度ヲ確ム可キ旨訓令セリ云々等ノ如キハ一言ヲ述ヘ

タルコトナレト断言致居ル又苟モ常識ヲ有スルモノカ如此有
害無益ナル造言飛語ヲ放ツヘキ道理モ無ク泰然ニテ右ハ
多分リスル又府ヲ同少佐ト同席セシタイムス新聞記者カ
或ハ該地ニ在ル支那公使館飛出タル捏造説ナレト存居ル
別紙本人ノ対談顛末書ヲ附シ此段及報告候也

葡萄牙外務大臣ニ面謁シタル顚末

馬德里ニ於テ受ケタル稲垣公使ノ教示ニ從ヒ四月三十日午後
七時十分リスボンニ府「ブラガンザ」ホテルニ止宿セラル、葡
國外務大臣ニ面謁セリ（此ホテルハ小官ノ口地帯在岡投宿シ
タル所ニシテ曰大臣ハ三年前ヨリ止宿セラルト云フ）

大臣曰ク貴下來光ノ事ハ過般稲垣公使ヨリ公然ノ照會アリ
タリ我葡國ハ數百年來日本ト親善ナル關係ヲ有シ後來
ニ亦タ此ノ如クナルヘシト確信スルカ故ニ貴下ニ對シテハ出
來得ニト便宜ヲ告フヘシ我軍隊視察ノ事ハ既ニ陸
軍大臣ニ於テ夫レノ取計アルヲ以テ多分連絡ヲ取ラ
シテサラム曰大臣モ予ト同意見ヲ有シ至極仕合ナリ若
シ此上何カ不足ヲ感セラルハコトアラハ盡慮ナク申出

ろしヨ

小官曰く御好意深く鳴謝ス

大臣曰く日露戦争中予ハ非常ナル趣味ヲ以テ其経過ヲ

攻究セリ者下ハ何レニアリシカ

小官曰く最初ハ旅順ニ在リシ而シテ其陥落後北進シテ奉天ノ會

戦ニ参加セリ

大臣曰く然ラハ乃木軍中ニアリシカ

小官曰く然リ戦争中ハ始終同軍參謀ノ職ニアリシ

大臣曰く「スラツセル」ノ宣告ニ就テハ如何ニ考ヘラルカ

小官曰く我々ハ其当時銃砲ノ向テ相見ハ能ク敵軍ノヒ奥價ヲ知

ルカ故ニ如何ニモ氣毒ニ耐ヘス不韋ナル犠牲ト思考ス

大臣曰く予モ亦タ然ク思考ス

書下ハ幾ヶ月間満州ニ在シヤ

小官曰、約一年ハヶ月間ハ地ニ在シ

大臣曰、日露全戦役間日本ハ幾何ノ金額ヲ消費セシヤ

小官曰、予ハ其精細ヲ知ラス然レモ約五十億法ヲ消費セシト

聞

大臣曰、此ノ如ク巨額ナリレカニ實ニ驚クヘシ果シテ然ラハ吾國現

今ノ財政困難ナリト傳フンモ無理ナラヌ事ナリ

日本軍全部ノ死傷數ハ凡ソ幾何ナリシガ

小官曰、我死傷患者病死者等ヲ合算スル時ハ約三十五万ニ

達ス

大臣曰、此ノ如ク多大ナリシカ

最後ノ時機ニ於ケル日本軍ノ全兵力ハ幾何ナリシカ

小官曰、約六十万ナリシ但シ此戦負ヲ加フ

大臣曰、貴下ハ底九事件ヲ知ラルカ

ハ官曰ク然リ新聞紙上於テ之ヲ承知セリ

大臣曰ク予ハ今回新ニ外務大臣トナルヤ駐日葡國公使ニ訊

令シテ出来得ん丈ケ日本ニ對シ好意ヲ以テ行動スヘク注意

セリ後々該船舶ハマカカレ領海以外ニ於テ捕獲セラルン

ヲ判明セシテ以テ其ノ關係ヲ斷リニ立リシモ我政府ハ全ク

從來ノ意志ノ變更セタリレハアラス

該事件ノ爲メ其後支那政府ト吾國トノ間ニ少シク紛

派ヲ生シ今尚ホ全然解決スルニ至ラス

貴國政府カ該事件ノ爲メ清國政府ニ最後ノ通牒ヲ發

シタルトキハ若シ清國政府ニシテ之ニ應セサルニ於テハ兵力

ニ訴フルノ決心アリシカ

ハ官曰ク予ハ軍人ニシテ何等本件ニ關係ナリ且ツ一昨年三月

以來日本内地ニアラサルヲ以テ之ヲ察知スルニ由ナシ

大臣曰り公然知ラストスニ個人トシテハ如何ニ考ヘラルカ

小官曰り我國財政ノ現況上戦争ニ出ラヘシトハ思考セサリシ

大臣曰り近來清國ハ外人ニ對シ頗ル強硬ナル態度ヲ取リツ、

ア儿カ知シ貴國ニ對シテモ然ルカ

小官曰り在清國友人ノ信書ニ依レハ我々ニ對シテモ同様ナルカ知シ

大臣曰り聞ラ知シ依レハ清國商人ハ辰丸事件ノ復讐トシテ貴

國ニ二億法ノ損害ヲ與ヘントシ日本製衣ノ商品ヲ排斥

シツアリ

過般軍艦和泉ヲマカオ近海及廣東ニ派シタルハ之ニ

對スル示威軍動ニハ非ラサリシカ

小官曰り予ハ全ク此事ヲ知ラズ

大臣曰り辰丸事件ハ既ニ落着シタルモ滿洲問題ハ尙未解

決セサルカ知シ法庫門新氏此鉄道南滿洲ノ郵便電

信等、關する諸問題如何

小官曰く予ノ内地ニ在リハ戦争中ニシテ其當時ハ何等カ種ノ問題發展セサリレテ以テ今日之ヲ推知スルニ由ナシ然トモ是等ノ諸問題ハ將來尙ホ幾多ノ面倒ヲ惹起スルナラン

大臣曰く日本ハ將來之カ爲メ再ヒ支那ト戦争スルコトアルヘキカ

小官曰く遠キ將來ニ於テハ之ヲ知ラズ然レモ近キ未來ニ於テハ我國財政其他ノ關係上此事アルヘシトハ思考セス

大臣曰く貴下ハ舟ヲ出タセラルベシト聞ク何故此ヲモ旅行ヲ急カルカ今少シクワリスボンニ滞在シ來月七日ノ宣撫式ニ列セラルヘカ如何

小官曰く一昨日陸軍大學校教官ニ補セられた月中ニ帰朝スルキ

電令に接せり故に今回遺憾ながら永く当地に滞在する
こと能はる

大臣曰く日本へ帰途に何れノ道ヲ取らる、豫定ナルカ

の官曰く一足り巴里に降り更に旅装ヲ整へ西伯利亞鉄道ヲ

經由るに豫定ナリ

此夜米國公使ヨリ晚餐ノ招待ヲ受ケアリシヲ以テ衣服ヲ変ふる
為メ午後七時三十五分大臣に向テ暇ヲ乞へり告別ニ際シ大臣手
ヲ握ラ曰ク

我々ハ今一オテル内ニ宿泊シアリ故に尚ホ會合ノ機ヲ得ん
ナラム次回ニ實戰者タル貴下ノ眼孔ニ映スル我葡萄
牙軍ノ狀以テ腹藏ナリ聞クヲ得ハ幸ナリ

午後七時五十分米國公使館ニ赴くおメフオテルヲ出レトスル
ヤ同宿中ナリシ倫敦タイムス通信員

ナ者名刺ヲ通シ會談ヲ求メタリ然レ氏當時時間ノ餘裕ナ
カリシヲ以テ之ヲ謝絶セシカ後々米國公使館ノ晚餐後同館
ニ於テ再會シ小官ニ向テ左ノ同答ヲ爲セリ

通信員曰ク貴下ハ何故當國ニ來ラレシヤ

小官曰ク軍隊視察ノ爲メナリ

通信員曰ク當國ノ軍隊ヲ視察シテ何ノ價值アルカ

小官曰ク價值ノ有無ハ予之ヲ知ラス唯々日本政府ノ命ニ依ラ
来リ

通信員曰ク貴下ハ過刻外務大臣ト會見シテ長時間ノ談
話ヲ成サレタリ何事ヲ談セラレタムヤ予ハ同盟國ノ通信員ナ
ルカ故ニ飽達日本ニ好意ヲ表ス

或ハ支那問題ノ爲メ當地ニ來ラレシニハアラスヤ

小官曰ク否全ク然ラス 外務大臣ハ儀式的ノ面謁ヲ成シタ

ルモノニシテ予ハ軍人ナルカ故ニ何等政治談ヲ談シタルコト
ナシ唯日露戦争其他ニ付テ雜誌ヲ為セリ

通信員曰ク貴下ハ多ク日本ニ帰ラルヘシト仰ク何故至急帰
朝セラルヤ

小官曰ク何故カハ知ラズ唯過般陸軍大學校教官ニ補セラル大
月中ニ着京セヨトノ電命ニ接シタルカ故ナリ

通信員曰ク他ニハ何等ノ任務モ有セラルサルヤ
小官曰ク否今ノ何等ノ任務モ目的モ有スルコトナシ

以上ノ外葡萄牙外務大臣又ハ全國官吏ニ向テ何等政治上又ハ
外交上ノ談話ヲナシタルナシ

右ノ通り批答テ相違無ク候也

明治四十二年九月十三日

陸軍少兵少津野田具重